

(2) 2021 年度第 2 クォーター 掲載目次

専任教員

【所属】

人文学部	キリスト教学科	115
人文学部	人類文化学科	116
人文学部	心理人間学科	120
人文学部	日本文化学科	121
外国語学部	英米学科	124
外国語学部	スペイン・ラテンアメリカ学科	131
外国語学部	フランス学科	134
外国語学部	ドイツ学科	136
外国語学部	アジア学科	138
経済学部	経済学科	141
経営学部	経営学科	147
法学部	法律学科	154
総合政策学部	総合政策学科	157
理工学部	ソフトウェア工学科	163
理工学部	データサイエンス学科	164
理工学部	電気情報工学科	166
理工学部	機械システム工学科	167
国際教養学部	国際教養学科	169
法務研究科	法務専攻(専門職学位課程)	174
教職センター		176
外国語教育センター		178
体育教育センター		184

非常勤教員

【所属】

人文学部	人類文化学科	184
人文学部	心理人間学科	187
人文学部	日本文化学科	189
外国語学部	英米学科	191
外国語学部	スペイン・ラテンアメリカ学科	192
外国語学部	フランス学科	193
経済学部	経済学科	194
経営学部	経営学科	196
法学部	法律学科	198
総合政策学部	総合政策学科	200
人間文化研究科	キリスト教思想専攻(博士前期課程)	200
共通教育	仏語	201
共通教育	中国語	202
共通教育	日本語	203
共通教育	共通	205
共通教育	韓国朝鮮語	215
教職センター		215
外国語教育センター		217

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ラテン語VI<全>
授業コード	11J14-001
教員名	岡崎 隆哲
教員コード	103614
登録人数	5
回答数	1
回答率	20.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

すでに一年間のラテン語授業をとおして一通り学んだ文法の知識をもとに、ラテン語の読み物、文献をかたんなレベルから段階的に講読して行くとともに、基礎文法の復習も並行的に進めて行くというシラバスで示していた当初の予定のとおり、授業を行うことになった。

毎回のReadingテキストの予習だけでなく、毎回の授業ごとに課した文法変化表の暗唱、数回に一回行った基礎的な単語についての小テストとなど盛りだくさんの課題にもかかわらず、受講者は全員がほぼ欠席なしでまじめに取り組んでくれたと感じる。成績評価にもその結果が示されていたと言える。ただ、受講者の中には日本語がnativeでない学生もいて、全員のレベルが一定であるとは言えず、ついていくことにやや難を感じていた学生もいたように察せられる。

次クォーター以降、基本的に同じ形式で進めて行く予定だが、理解しておくべき文法内容も増え、講読内容のレベルも上がることになるので、ついていきづらそうな受講者にたいしての配慮も考えなければならないと思われる。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	宗教史II
授業コード	21C58-001
教員名	MCMULLEN, Matthew
教員コード	103838
登録人数	7
回答数	4
回答率	57.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

The course switched from online to in person with one student online. I changed the schedule accordingly, but the material and assignments for online and in person classes differ drastically and it was difficult to switch. Presentations worked better online, but reading the text in class worked better in person.

I communicated the changes in the schedule as clearly as possible. However, some students either did not pay attention or just ignored my instructions. It would be easier for instructors if we could stick with a single format for the quarter.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	司牧神学
授業コード	21C63-001
教員名	寒野 康太
教員コード	104315
登録人数	6
回答数	3
回答率	50.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

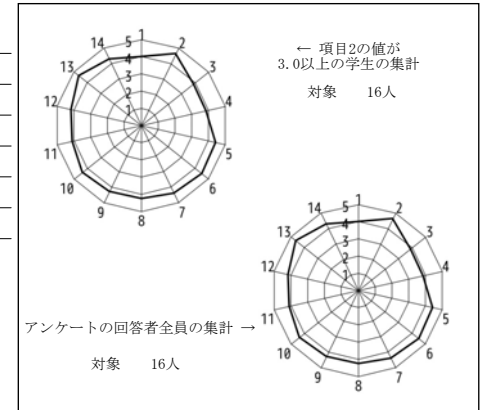
少人数の開講ではあったが、神学部の必須科目でもあり、また、キリスト教学科としては、実際のキリスト教を信仰している人びとの実践の問題に関して、目をむける良い機会となったのではないと思う。1の目標は、学生自身もキリスト教信仰の現代日本社会における実践に関し、信仰の有無と関わりなく、科学的興味をもち、分析に取り組んでいたの、それなりに達成できたのではないと思う。

少人数開講の場合、実際に対話しながら授業を進めることの利点があり、アクティブ・ラーニングの実践として各自が意見を発表できる場をもうけた。この発表での議論は期待していたより、活発な議論のやりとりがあり、自分なりの分析を開陳することの大切さを自覚し取り組もうという姿勢が看取された。よって、2の点に関しては、できるだけ、キリスト教の知識を整理しつつ、人文学の一般的な「テキストを読み、疑問を提示し、そこから分析、議論の過程をへて、結論をまとめる」という過程を自覚して取り組むことができる様に、一層、努力していきたい。

司牧神学自体は、スキルを身につけるとい性格を考えがちであるが、この点に関して、私は疑念を有している。むしろ、これから自分の実践する司牧を神学的に反省する機会となる為、神学的枠組みを提供するという思弁的性格を有するものなのではないかと考えるからである。司牧神学は、実践神学と関連しており、歴史、組織神学、そしてポール・リクルの物語論的自己同一とのかわりにも言及した。3としては、できるだけ授業の理解度を深めてもらえる様に、説明の丁寧さに一層努力を傾注していきたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ギリシヤ語II<全>
授業コード	11K06-001
教員名	坂下 浩司
教員コード	100471
登録人数	28
回答数	16
回答率	57.1%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

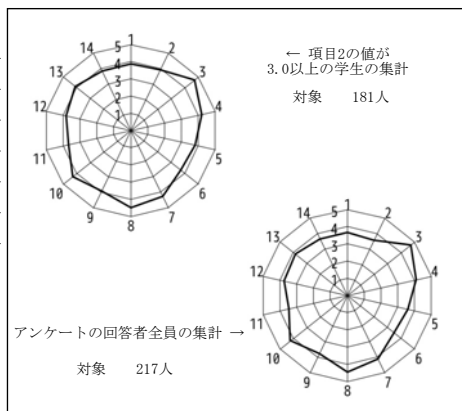


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ・開講当初に設定していた目標と到達の程度：「古典ギリシヤ語の初級文法のさらに進んだ知識が身につけている」についてであるが、アンケートの項目番号（6）の数値が「4.50」であることから、そして、自由記述に「繰り返し音読をすることによって自分で文を読めるようになってきた」とか「学生が理解できるように分かりやすく丁寧に教えていた」とあることから、ほぼ達成されたと思われる。もう一つの「古代ギリシヤに関係したアクティヴィティーをこなせている」については、新型コロナとの関係であまりこなせず、自由記述で「DVDを見れるのが良い」とある通り、アレクサンドロス大王の伝記についてDVDで勉強できたにとどまった。例年であれば、古代ギリシヤのコインのレプリカや実物を手にとってもらい計測したりスケッチをしてもらっているのだが、ものを触れることは避けたいので、コロナ渦の収束するのをまちたい。
- ・次クォーター・学期以降に向けての改善点：ギリシヤ語の発音にとって大変重要な「語頭母音の氣息音」が、マスクとアクリル板のせいで、学生にも教員にも聞き取りにくく、なかには氣息記号を軽く扱いきれいに書かない人も見られた。よくないことであるので、コロナ下でも氣息音と氣息記号の大切さが伝わるような工夫をしたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	哲学A1
授業コード	12A01-001
教員名	谷口 佳津宏
教員コード	016550
登録人数	414
回答数	217
回答率	52.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

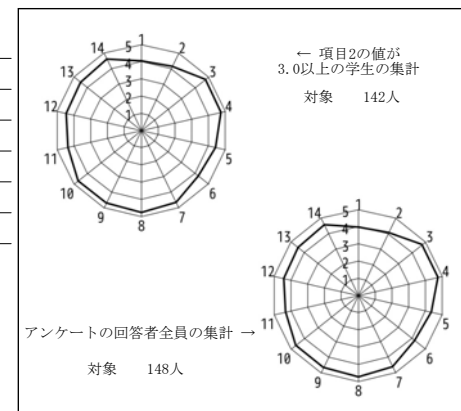


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定した授業目標は「1. デカルト哲学の基本内容を知っている。2. 哲学書のある程度読みこなすことができる。3. 日常生活における哲学の意義を知っている。4. デカルトと現代科学の関わりについて説明することができる。」であったが、試験の結果からみれば、全受験者数341名中、合格者数は206名であったので約6割の者が授業目標に到達できたと考えられる。今回は受講者数も例年とくらべ多かったせいか、自由記述も例年より多く寄せられた。「ほとんどの哲学の授業では、色々な哲学者をあげて哲学の歴史や全体像を学習することが多いが、この授業では主にデカルト1人に焦点を置くことで、そのあまり触れることがない深い部分にまで学びを広げることができた。時には小テストを交えて、学生の理解を確認する意図も見られた。」というような評価がある一方で、「全てにおいて改善すべきと感じた。具体的に言うとまず、オンライン授業に対応出来ていない雰囲気のある講義で、講義中教員の顔が映し出され話すだけというもので他の講義と比べてもそこになんの努力や意識も感じられず最低の講義だった。また、講義中終始一人語りなのだが、その中で「～ということなんだと思います」のように個人的な感想で語られ何を根拠にしているのかわからない、根拠の無いような話がかなり多く見られた。」といった全否定的な意見もあり、対応の難しさを痛感している。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	イスラムとの出会い1
授業コード	13B03-001
教員名	石原 美奈子
教員コード	100080
登録人数	422
回答数	148
回答率	35.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

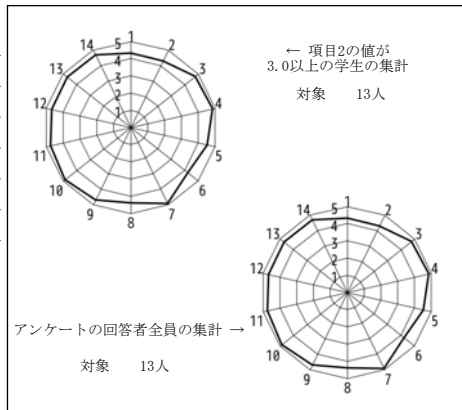


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①イスラームについて基礎的な知識の修得、近現代史に於けるイスラーム復興主義の展開の歴史的背景について理解を深めることを目標として、講義を行ってきた。講義は、すべてオンラインで、パワーポイントを使って行った。パワーポイントの資料は、すべて事前に資料DLサーバにアップロードしておき、毎回の習熟度をはかるために、webclassに小テストを出し、その合計点を成績評価に用いた。
- ②評価の数値は相対的に高かったが、履修者数400人以上いたにもかかわらず、回答者が150人以下であったこと、講義をリアルタイムで受けなくても資料をみれば小テストが受けられるので、授業を受けるモチベーションを上げられなかったこと、講義が歴史中心だったため人類学的な視点が十分に提示できなかったこと、などが反省点である。
- ③Q3でも同じ科目を開講するので、それに向けて、(i)現代の時事的な情報をもう少し大目に盛り込みたい、(ii)「女性とイスラーム」や「交易とイスラーム」などのトピックをテーマに取り上げて授業への関心を高めたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	考古学入門
授業コード	22C02-001
教員名	上峯 篤史
教員コード	104108
登録人数	42
回答数	13
回答率	31.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

この授業の目的は、考古学の研究方法の習得と、それを通じて人文科学研究活動の魅力を感じることにある。担当教員自身の印象および独自にWebclassにて実施した受講生アンケートの結果に照らしても、この目的は概ね達成できたと見なされる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

受講生からは、石器づくりの実演や考古遺物の回覧観察が好評であった。これらは考古学の学問的魅力と直結しているもので、学習効果も高いと考えている。

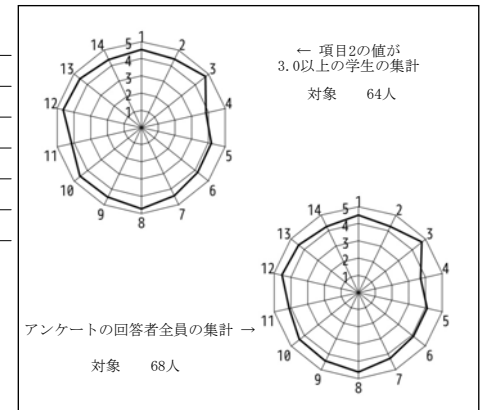
「学生による授業評価」の数値データによると、設問8（授業中の音声）のスコアが低く、1名の学生からの著しい低評価の影響が現れている。これはオンラインで受講した学生からの申告で、独自にWebclassにて実施した受講生アンケート（授業最終回に実施）ではじめて認識した。類似の申し出が他になかったことや、録画データも資料DLサーバで提供していることからある程度の対処はできていたと考えているが、今後は早期の申告をうながすような体制づくりを講じたい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など。

授業形式にもよるが、実演や考古遺物の回覧は今後も継続したい。今後もハイブリッド形式での授業実施が考えられるため、オンライン受講生にも配慮した授業方法を模索したい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本史概論
授業コード	22C03-001
教員名	青山 幹哉
教員コード	019323
登録人数	122
回答数	68
回答率	55.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

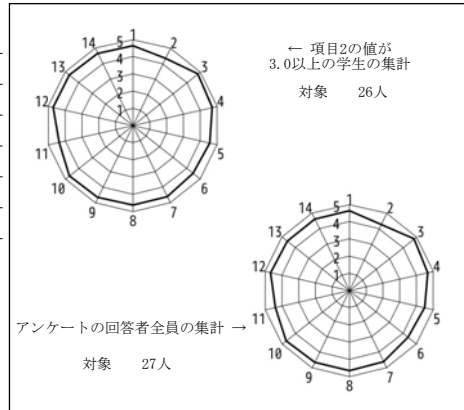
①開講当初に設定していた目標は、(1)日本列島社会の歴史の流れが把握できる (2)日本史に関する基礎的知識を獲得できる (3)複眼的な思考力を養うことができる、の3点であった。設問6の平均値は4.09であり、最終の成績評価においてB以上であった者は、受験者の67.3%であったので、目標はある程度達成できたものと判断する。

②この科目は教職資格関連科目であり、シラバスでも教職免許取得希望者の受講を想定した授業を行うことを強調しておいたのだが、学期当初は170名以上の登録者があつた上(結果として122名が受講)、オンライン授業を余儀なくされたため、授業運営において試行錯誤を繰り返すことになった。そのためか、設問4では平均値が4を割る結果となった。ただ、自由記述欄では「教授の話が大変面白かった」「考えながら講義を受けることができる」「生徒と意見を交わす場が設けられていたため、オンラインでも主体的に参加することができた」など、利点をあげる意見が多かったので、いささかほっとしている。

③次回に向けての改善点としては、教授内容の精選が必要であろう。本科目は通史を教授することが大前提であるので、時代別に、学生の参加が期待でき、かつ時代の特徴を示すようなテーマを1~2つ選び、より効率的な学習方法を模索していきたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	文化史A
授業コード	22C41-001
教員名	渡部 森哉
教員コード	101237
登録人数	89
回答数	27
回答率	30.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

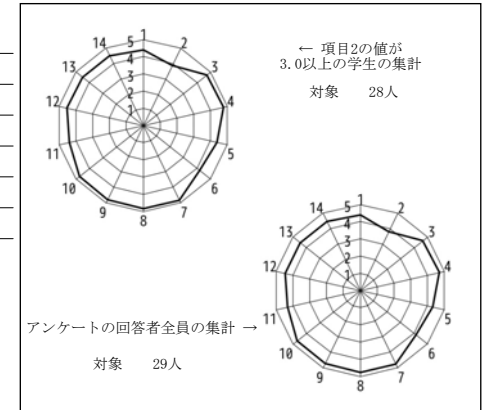


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①シラバスに記載通りに授業を行った。オンラインでの授業となりやりにくい部分もあったが、概ね好意的な評価が得られた。
登録者89名のうち、27名から回答が得られた。授業評価アンケートについては授業の最終回でアナウンスしたが、回答率を上げるために複数回アナウンスした方がよかったかもしれない。
- ②数値は特に低い項目はなかった。自由記述欄には4名が回答を記入しており、いずれも好意的な内容であった。テーマが面白いこと、資料が多いこと、授業担当者の経験が含まれていることについて好意的な意見があった。「人間の身体文化の各テーマについて、ゆっくり丁寧に解説され、じっくり考えることができました」という記述もあったが、オンラインでの授業であり、今年度から100分授業が導入されたため、時間に余裕があったためである。対面授業においてもできるだけ丁寧に説明するように心がけたい。
- ③レポートの内容なども踏まえ、授業構成を変更して、できるだけ受講生の興味を引き出すようにしたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地域の文化と歴史(環太平洋)
授業コード	22C44-001
教員名	吉田 竹也
教員コード	019158
登録人数	61
回答数	29
回答率	47.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

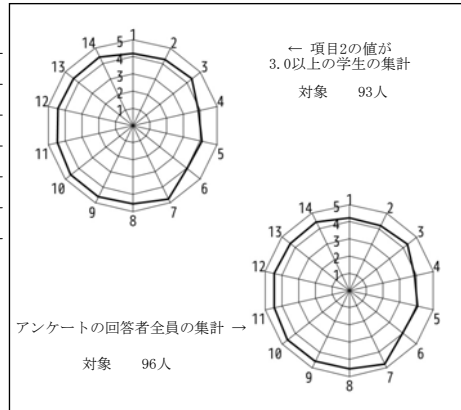


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- この授業は、奄美・沖縄地域の諸特徴を、地理学、歴史学、考古学、文化人類学、島嶼学、観光人類学などの知見を担当者の収集したデータや画像と組み合わせる総合的・学際的に説明する授業であり、ミクロ・マクロの視点を交差させ、島嶼の多様性に配慮することを心がけている。
- 履修者は61名であったが、毎回の授業に参加する学生は7割弱程度であった。約20名が対面免除を申請したため、実質ハイブリッド形式の授業となったが、全回パワーポイントをもちいた授業であったので、学生にとって受講形式による差異は生じなかったと考えている。
- 数値データおよび自由記述からは、おおむね授業の趣旨が理解されていると受け取れる。自由記述は4件と例年よりすくなかった。「先生の熱心さがとてもよく伝わる授業であった。写真も多くイメージがつかみやすかった。」「わかりやすかった。」「写真を多く使われていたため、理解しやすかったです。」「広く、様々なテーマを扱っていたので、興味を持って参加できた。」以上が全文である。また、体調が悪いので今回だけ自宅でZoomでの受講を認めてほしい、という連絡をしてきた学生もおり、熱心に聴く受講生が（多数ではないが）いたことが心強かった。
- 毎年度少しずつ内容を修正しており、この方針は変わらない。今回気になったのは、熱心に受講する学生と集中力を欠く学生とに分岐しつつあるのではないかという点である。Zoomに慣れ漫然と受講するようになった学生にどう対応するか、これが今後のひとつの課題と認識している。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 美術B2
授業コード 12A06-002
教員名 伊東 留美
教員コード 063834
登録人数 176
回答数 96
回答率 54.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、共通教育科目として全学部・全学年の学生を対象としている。すべての授業はオンラインで行われた。受講生は1年から4年まで全学年にわたるが、1年生が最も多い。

本講義の到達目標は3つあり、学生はおおむね講義内容に関心をもち（設問1：4.21）、到達目標についても理解していた（設問5：4.09）ようである。一方で、授業の到達目標に向けて力がついただけと感じている割合は比較的低かった（設問6：3.99）。

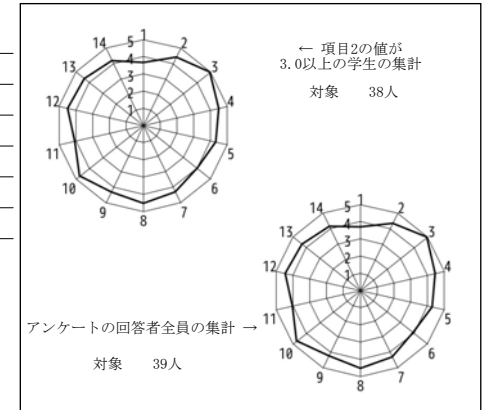
上記の原因については、本講義の構成と進行速度が適切に行われなかったことがあげられるであろう（設問4：3.9）。昨年度に引き続きオンライン授業となり、学生の反応を感じ取りながら授業を進めるということが困難な状況下であった。また、昨年度より受講生の数が増え、課題を全体で鑑賞する時間を設けていたが予想以上に時間がかかってしまった。さらに、オンラインによる授業にも慣れてきたが、音声トラブルやオンラインの誤作動など上手く操作できない時もあった。学生も辛抱強く付き合ってくれていたと感謝する。

一方で、新しい知識の獲得や全体的な満足度については、4.39（設問13）と4.41（設問14）であった。多くの学生が美術の面白さを感じてくれるように工夫したつもりである。また、理解を促進できるようインターネット検索を個人でできるようにURLを紹介するなどし、オンラインの良さを利用したつもりであるが、このことが、自由記述欄においても評価（興味ある美術館や作品の映像資料や展覧会の紹介、動画の利用、作品鑑賞会、など）されていた。

今後の改善点としては、授業内容の構成と進行について再検討し、到達目標にむけて学生に獲得してほしい力がつくように授業内容を十分にとれるようにしていきたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理人間学基礎演習IB
授業コード 23A05-001
教員名 林 雅代
教員コード 018796
登録人数 42
回答数 39
回答率 92.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

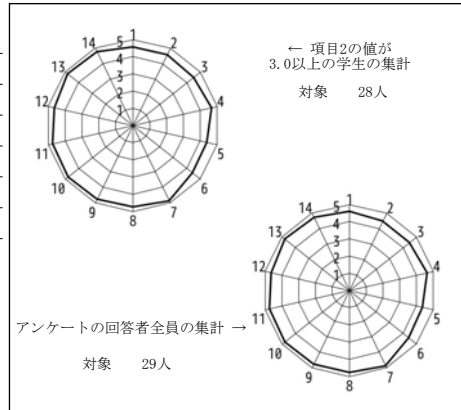


授業評価結果を踏まえた点検・評価

昨年度に続き、今年度も基礎演習IBはオンラインでの実施となった。Q1のIAの時から、学生の授業の理解度に不安を感じており、オンラインになったらどうなることだろうと思ったが、欠席数の多さが深刻であったことを除けば、課題への取り組みはそれなりであり、なんとか効果のある授業となったように思う。学生の授業評価の結果を見ると、学生の授業への取り組み度合いに関する質問項目2で4.33、授業の理解度に関する質問項目13で4.33となっており、一生懸命取り組んで、この授業で扱われた文献の批評の仕方やレジメの書き方について、理解が深まったと考えている学生は多いということが分かった。自由記述の回答を見ても、論文の読み方が分かって良かったといった好意的な回答が多い。ただし、その一方で、質問項目6の到達度に関しては3.95となっており、スキルを獲得したという実感を得るには至っていない学生もいたようである。Q1は対面、Q2はオンライン実施であったが、オンライン授業への不満もほとんどなく、逆に質問の機会が多くあったことを評価する声が多いと感じた。この他、自由記述で多く指摘されたのは、課題の多さであった。質問項目9の評価は4.23とそれほど悪くはないが、課題の負荷については授業実施しながら担当者としても思うところであった。来年度の実施に当たって検討したい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 教育・学校心理学
授業コード 23C66-001
教員名 解良 優基
教員コード 103910
登録人数 67
回答数 29
回答率 43.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

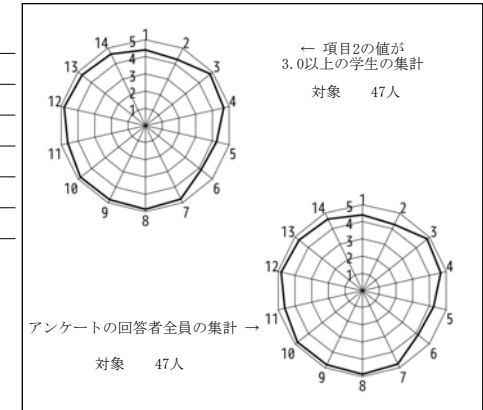


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
学生による「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」という項目への回答については、4.41と高い値が得られた。また、毎週課題が出る点でそれなりに負荷の高い授業であったと思われるが、授業の出席率や課題の提出率は高かった。学生は毎回の授業に真剣に取り組んでいた様子がみてとれ、その結果として本授業の目標は一定程度達成できたものと考えられる。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
数値データからは、全体的に学生は授業に対してポジティブに評価している様子が伺えた。特に、「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか」という質問項目に対しては4.72と高い値が得られた。自由記述では、グループワークや映像教材に対するポジティブなコメントが多くみられた。本授業の受講生は2年生が多かったが、彼（女）らにとっては昨年度の1年生時がオンライン授業中心であったため、対面で行うワークやディスカッションが新鮮だったのかもしれない。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
学生からの改善点に関する自由記述はほとんど得られなかったが、ワークの時間が長い日があったというコメントがみられた。授業で扱う学習内容とワークのバランスについてより精査する必要が考えられた。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本民俗文化論
授業コード 24C15-001
教員名 福本 拓
教員コード 104126
登録人数 104
回答数 47
回答率 45.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

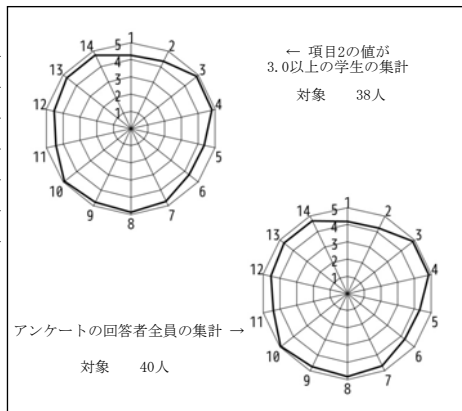


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 開講当初の目標として、非常民あるいは非常時の生活文化の理解と、そこから「日本」の多様性を理解することを掲げていた。個々の回については、リアクションペーパー等で一定の関心・理解を得られたと感じていたが、アンケートでは「この授業の到達目標を理解することができましたか」（設問5）が4.26、「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」（設問6）が4.17と、到達目標についての評価値の低さが目立った。14回授業になったこともあり、まとめを圧縮したが、結果的には良くなかったのかもしれない。講義の最終的な到達点を確認する機会を改めて設けたいと考えている。一方、全体としての満足度は4.60と平均を上回ることができた。自由回答からも、アンケートアプリの活用（Mentimeter）が授業への参加意欲を高めたことが看取でき、その利用を評価する向きが多かった。こうした取り組みを今後も継続していきたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本文学史A
授業コード	24C29-001
教員名	森田 貴之
教員コード	102286
登録人数	62
回答数	40
回答率	64.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

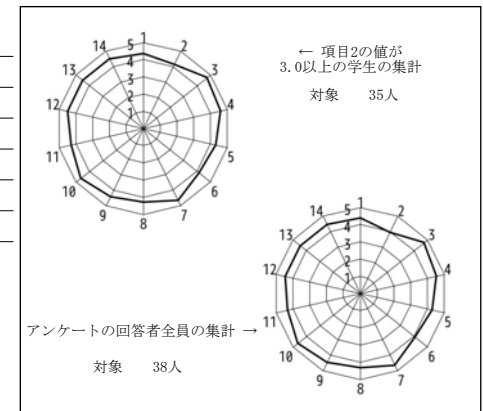
設問1の授業開始前の興味が4.20であるのに対して、設問14の満足度も4.70であり、当初の講義目標は大旨達成されたと考えている。

調査対象科目は、日本文学学科の学科科目の一つであり、日本文学史のうち、学生にはあまりなじみがないものの中世文学史のを扱っており、専門性の高い内容をあつかっている。そのため日本文学や古典文学を扱う経験の乏しい学生にも配慮し、できるかぎり現代の事象や一般論のようなものと結びつけながらできるだけ具体的な関心を高められるように努めた。また他の時代への広がりなど、多角的にとらえることを目指した。その意図はある程度は伝わっていたと感じる。その点においても自由記述欄の回答にも好意的なものが多かったように思う。教室での講義が久しぶりだったので、時々、出席確認を忘れることがあった。気をつけたい。

次学期、次年度へむけさらなる向上をはかりたい。全体の平均値から比べて大きく下回る事項はなかったと思うが、今後も学生の状況に気を配り、授業内での課題の在り方、フィードバックの仕方など、学生への動機付けを含めた授業運営を工夫したい。また本アンケートの回収率が40/53であり、授業時間においてきちんと回答時間を設け、回答を呼びかけたが、それでも回答率は向上しなかった。今後の課題である。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	物語・日記文学研究
授業コード	24C32-001
教員名	辻本 裕成
教員コード	019042
登録人数	114
回答数	38
回答率	33.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスに掲げた到達目標は以下の通りであった。

- 1 いくつかの古典作品をある切り口から並べて読んでみるとどのようなことが見えてくるか、考えることができる。
- 2 現代とはちがった時代に於ける人間の心性を考えることができる。
- 3 古典文学を専門にやろうという人は古典文学研究の入門として授業を受け、今後の専門的研究についての指針を得ている。専門にするつもりがない人は古典文学が面白いものであることをわかっている。

今回はオンライン授業であったので、到達度を測ることは難しいが、リアクションペーパーを読む限り、如上の目標に到達してくれた学生も少なくないものと思われる。

全体として満足したかの評価は4.45で、項目2を除いて4.0を上回ったので、学生からは一定の評価を受けたものと思われる。

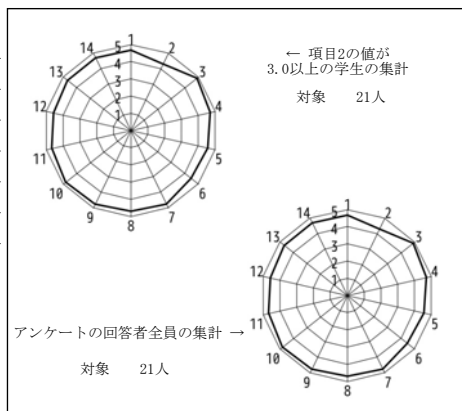
100分授業を二コマ連続、しかもオンラインということで、100分授業を2つに分け、間に小休憩を入れたが、自由記述欄の記載を見る限り、それは概ね好評だったようである。

不満としては、資料の枚数が多いことを挙げていた学生が何人かいた。水曜日の授業で一日に2コマ分をやるので、余計そのように感じられたところがあったかもしれない。

来年度は対面授業に戻るよう願っているが、その際に100分、2コマ連続の授業をどう運営していくか、よく考えておきたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 近現代文学研究
授業コード 24C35-001
教員名 岸川 俊太郎
教員コード 103907
登録人数 62
回答数 21
回答率 33.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2021年度Q2の開講科目「近現代文学研究」について自己点検・評価報告を以下に行う。

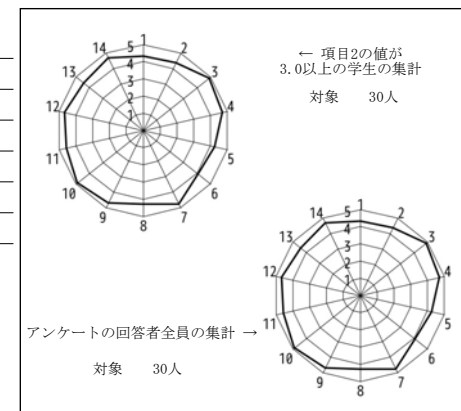
まず、①開講当初に設定していた目標と到達の程度については、概ね達成できたと考える。この点については、「学生による授業評価」の設問5、設問6でそれぞれ、4.57、4.48という評価を得たことから確かめられる。

次に、②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価についてであるが、「学生による授業評価」では、全ての設問項目で全学部（全体）の平均値を上回った。また、全体的な評価となる設問13、14では、ともに4.67という高い評価を得た。以上の数値データから、当該授業の目標並びに学生に求める理解は概ね達成することができたと判断する。

最後に、③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針について述べる。設問2（「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか。」）については、他の項目より評価が低かったため、次クォーター・学期以降に向けて改善したい。予習に関しては適切な事前課題を課し、復習に関してはリアクションペーパー等の内容を次の授業でフィードバックすることで、学生の主体的な学びの充実を図りたい。また、授業で配布するレジュメについても学生の理解がより深まるように内容の改善に努めたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 漢文学
授業コード 24C44-001
教員名 西岡 淳
教員コード 019315
登録人数 36
回答数 30
回答率 83.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

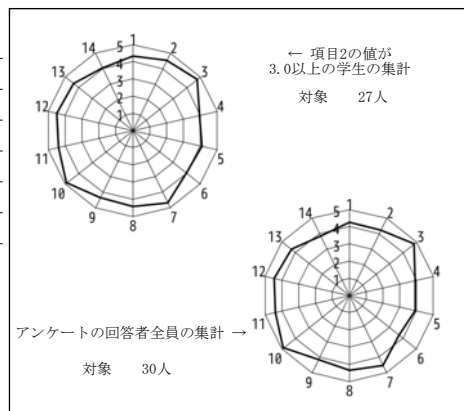


授業評価結果を踏まえた点検・評価

漢和辞典を引いて、返り点を施した漢詩を読めるようになることがこの授業の目標である。受講者は辞書を準備し、漢詩を印刷した教材の日本語訳（余裕があれば書き下し文も）を授業時間内に作成する。授業の後半に担当者が読解・解説し、各受講者が自分で添削した答案を毎回提出、これを担当者が閲覧し必要な部分に修正を加え、次回までに返却する形式である。全評価項目の平均値は4.55で、提出物の出来具合からも、授業目標はほぼ達成されたと考えられる。項目6「この授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」が平均値4.07と目立って低いのは、その意味ではやや理解に苦しむが、おそらく受講生は控えめに回答しているのだろう。担当者の見るところでは、受講生は授業を経て漢詩が着実に読めるようになっている。自由記述には、改善すべき点として「声が小さく、聞き取りにくかった」「早口である」「時折ホワイトボードの字が見えない」（オンライン受講者？）という記述があったことから、改善の必要がある。評価できる点としては、「毎回丁寧なコメントが付されている」「語句の知識の補充や、時代背景の話も必要に応じてなされていた」（いずれも複数）のほか、「解説が丁寧である」「間違っても大丈夫というものであったので安心して取り組めた」等の記述があった。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 第二言語習得研究
授業コード 24C59-001
教員名 岩崎 典子
教員コード 103983
登録人数 47
回答数 30
回答率 63.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

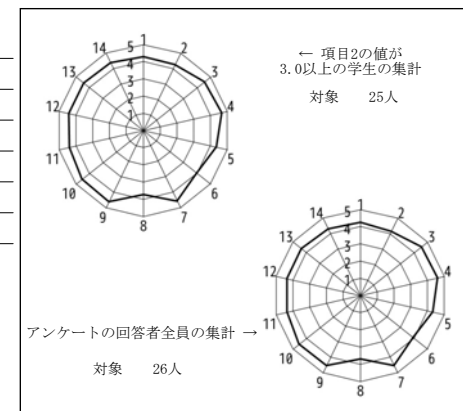


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回は教科書を変更し、私自身も執筆に関わる今年秋に刊行予定の教科書の試行版を使用した。教科書の変更に伴い、シラバスに大きな変更を加えたため手探りの側面が多かった。また、前回までは期末に試験を行っていたが、今回はレポートにし、授業の内容や読み物を踏まえて研究計画を考えてみるというものにした。一方、前回までと同様、アクティブラーニングということで、対面が原則の第3クォーターにおいても全ての学生がグループワークに積極的に参加できるよう全面的にオンラインにすることに承認していただき、かなりアクティブな参加を促せたと考える。今回の到達目標は、知識というより第二言語習得の研究についての理解を重視した。最終レポートを見ると、真面目に授業に参加して毎回のリアクションペーパーでも思慮深いリアクションをしていた学生はこれまでの分野の成果や残された課題を理解した上で研究について考えることができおり目標に到達しており、授業を欠席するか出席していても参加度の低い学生のレポートとは差異化できたようである。しかしながら、新たに試みたことも多く、毎回の授業の時間配分やスケジュールの設定が難しく、授業ではグループワークで時間が十分取れなかったり、早口になってしまったりで、今後の課題も多い。指名が不均等であったなど人数の多いクラスでのアクティブラーニングの難しさも痛感した。次回は定員を設け、時間配分にも配慮したい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文学をめぐって2
授業コード 13A05-002
教員名 山辺 省太
教員コード 103138
登録人数 65
回答数 26
回答率 40.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

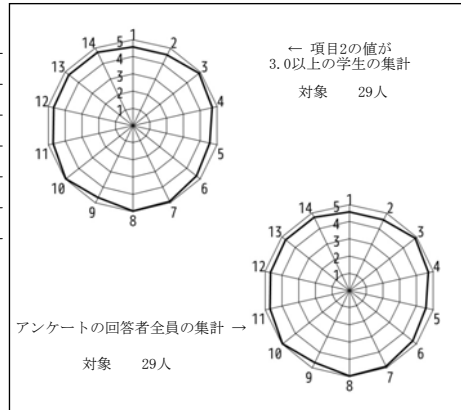


授業評価結果を踏まえた点検・評価

60人前後のオンライン講義だったが、正直なところ授業運営は困難を極めた。そのせいか、すべての授業が終わった後、何ともやりきれない思いが残ったのだが、学生のコメントを読んでとても救われた心地がした。なるべく早く普段通りの対面式授業が再開されることを切に願うが、オンラインの経験を活かし今後の改善に努めていきたい。文学は学生による自由闊達な議論が重要であると、改めて感じた授業であった。ただ、オンラインだと学生の表情が見えず、質問を投げかけたとき、意見を述べる機会が与えられてうれしいのか、あるいは困惑しているのかが分からず、その辺りは授業を進める上で難しい問題であった。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語科指導法D1
授業コード	15B60-001
教員名	浅野 享三
教員コード	070912
登録人数	31
回答数	29
回答率	93.5%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

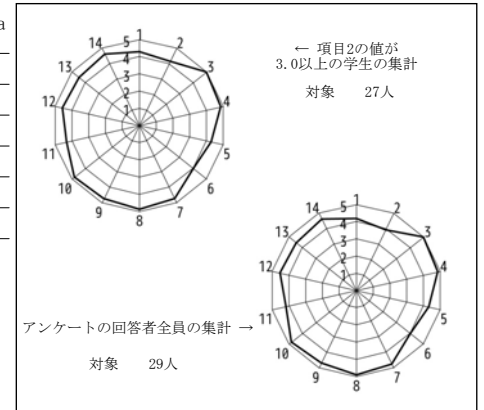


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①報告をするに当たりこの第1点目が、十分に理解されていないのではないかという印象を持った。当初の到達目標はシラバス通り（オンライン授業のために一部修正して実施）で、授業初回でも修正を含めて説明をしている。#4から#14の項目中で最低評価が#5の到達目標に関するもので、4.59だった。また「授業を受講して改善したほうがよいと感じた点や困ったこと」に関する自由記述回答に、1人だけ目標や目的に関する疑問を詳述していた。これらの事実から自己点検をすると、授業開始時に到達目標をいかにして理解させるかが課題であると分かった。しかしその方法については、現時点で妙案はない。学生は初回の説明のあとで変更、または規定の範囲内で履修中止が可能であるが、資格科目の場合にはそれも難しいのかも知れない。現行の英語科指導法は学生の履修上の自由度を高め、「C」「D」を別の先生から履修することが可能である。利点ではあるが、担当者からするとCDを継続履修する学生と、Dだけ履修する学生が混在していることから、予め用意したシラバスをそのまま継続することが陳腐に思えてしまう。同一履修学生であればより充実した授業内容になるのに残念ではある。また2年生から履修可能になったこともあり、学生の未熟度が際立つことも到達目標などが不十分な理解に終わっていると思われる。
- ②学生は過分なほどの評価をしている。
- ③ ①を踏まえ努力する。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: International Studies A1
授業コード	31B04-001
教員名	鈴木 達也
教員コード	017871
登録人数	30
回答数	29
回答率	96.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の目標は、「国際研究に関わる基本的概念の理解」と「国際研究に関わる最近の問題の理解」の二つであった。どちらも英米学科生にとって非常に重要なものである。履修前に授業内容について興味を持っていたかについての評価が4.17であったのに対して、到達目標の理解についての評価は4.31、この授業を通して新しい知識を得たり、理解が深まったかについての評価は4.45を得ていることから、目標到達程度はまずまずであったと考える。全体としての授業の満足度も4.62の評価を得ていることから、授業としては成功していると判断している。評価の中で唯一3点台となっているのは、学生側の授業に対する姿勢を問う設問2「受講に際して、予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとする努力をしましたか」であったが、3.93というほぼ4点に近い評価であったことと、自由記述欄で授業内のディスカッションを高く評価していることを考えると、「主体的な授業への参加」についてはそれほど問題ではなく、おそらく予習が不足していたためにやや低めの評価となったのではないかと考えている。自由記述欄には、授業前にアップロードされたレジュメを使って予習して臨めた点が良かったというコメントもある。今後は、予習して授業に臨む受講生を増やし、授業内でのディスカッションをさらに充実したものにできるように工夫していきたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: International Studies A4<2020生用>
授業コード	31B04-004
教員名	CRIPPS, Anthony
教員コード	102357
登録人数	16
回答数	3
回答率	18.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

All the goals of the course were met - the students did a great job.

Since only a few students responded to the online questionnaire I have no numerical data that I can assess. That being said the feedback I gained from the students' end of course self-reflections was very good. The comments below are a fair representation of the feedback:

生徒の積極的な参加を自然に引き出して、かつ新しい技能を押し付けではなくきちんと教えて下さってありがたかった。

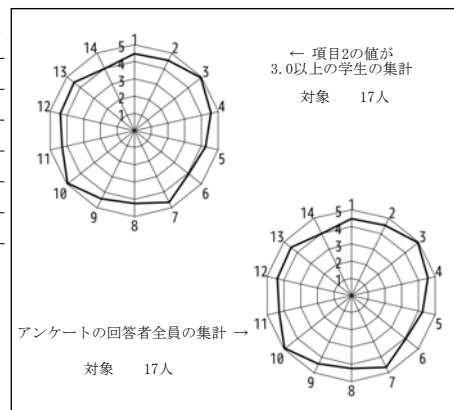
プレゼンで気を付けることが分かった。

グループで行ったプレゼンに対して改善点など明確なアドバイスがあり、より良いプレゼンを作れるようになった。プレゼンを互いに採点し合い、他のグループからのフィードバックもらうことができた。

As usual I will try and improve my course. I intend to make some new online materials to help support my students' learning.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: International Studies A8
授業コード	31B04-008
教員名	金 慧昇
教員コード	104504
登録人数	20
回答数	17
回答率	85.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

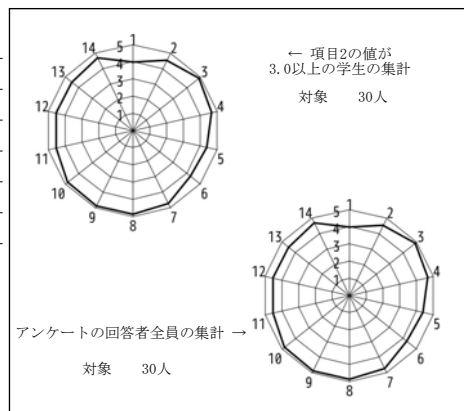


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目的は、ジェンダーの観点からイギリス歴史を学び、女性の社会的地位がどのように変化してきたのかを考えることでした。そのために、毎回の授業の前半ではイギリスのジェンダー史について講義し、後半では講義の内容に基づいて過去と現在のジェンダー問題を討論する時間を設けました。本授業を通じて、多くの学生がジェンダーに関する問題について学び、自ら考える機会が得られたことができたと思われます。また、コロナ禍で海外フィールドワークの機械が得られなかった学生たちにとって、毎回英語でグループ・ディスカッションができたことも成果の一つでした。討論の際に、できるだけ日本語を使わず、英語で発言するように指導したことが、項目10の点数に反映されたかと思われます。ただし、最初のオンライン授業の際に、ネット環境の問題で音声度が度切れてしまう問題が発生した学生もいたことは、今後のために改善しなければならないことです。全体としての授業満足度が他の項目に比べてやや低めでしたことも、改善すべき点であると思われます。今後の授業では、講義の際に学生たちの反応を確認しながら進めていくことや、提供される資料についてより具体的に説明を加えることなど、様々な工夫が必要であると気づきました。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: International Studies B2
授業コード	31B05-002
教員名	PURCELL, William
教員コード	016501
登録人数	49
回答数	30
回答率	61.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

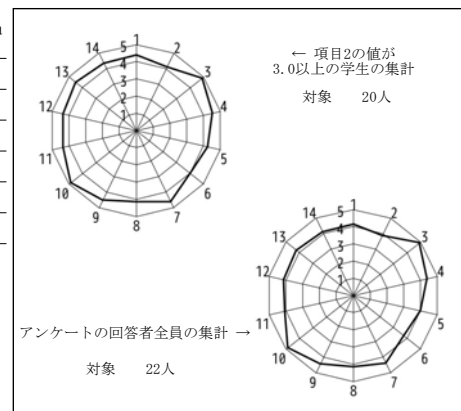


授業評価結果を踏まえた点検・評価

My primary purpose in a class like this is to get the students interested in reading literary texts and appreciating their role in helping students to explore and learn about other times and cultures. Student responses to questions in the evaluation indicate that this purpose was largely accomplished. The overall evaluation for this class seems to have been positive. The numbers in the radar chart points to an overall high level of satisfaction. Looking at the few comments offered it likewise seems that the students were generally satisfied with both the content and the approach taken. One commenter stated a preference for more direct student input, while others seemed to feel there was already a great deal of learner-centered activity. This is always a challenge as Japanese students tend to be on the passive side in a classroom context. Another student pointed to the need in these pandemic conditions to be a bit more conscious of social distancing practices. Given the numbers of students in the room a proper balance is difficult to maintain, so as instructor I need to be more conscious of this point.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: International Studies B3
授業コード	31B05-003
教員名	伊藤 聡子
教員コード	102445
登録人数	50
回答数	22
回答率	44.0%
休講回数	2 回
補講回数	2 回



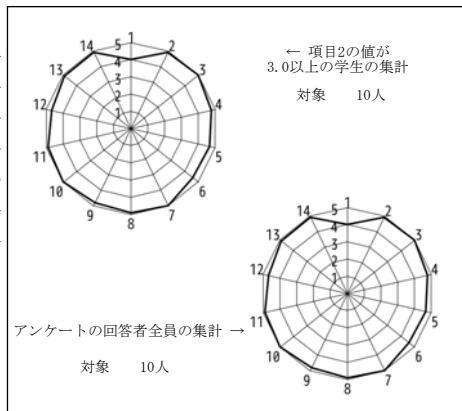
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業ではカリブ系およびアフリカ系黒人文化をベースとするヒップホップ音楽がなぜ比較的短期間に世界音楽市場に影響を与え、貧困層に属するマイノリティの商業的成功を可能にさせたかを、1970年代の都市開発等の影響やMTVの影響などに絡めつつ講義した。授業では100枚以上に及ぶスライドを提供し、授業でとったノートをそれを参照しつつ作成したものを提出する課題を取り入れ、次の授業で再度復習した上で新規内容を学ぶ形をとった。

授業評価は半数程度の受講生からえられたが、数値的には平均を下回るものが多く予想外の結果だった。しかしコメントをみると「映像を用いたわかりやすい授業だった」、「丁寧に説明してくださり、動画の活用など資料も充実していた」、「重要事項は何度も説明していただいた」、「Hip Hop CultureやBlack musicの歴史や発展について、詳しく知ることができると同時に、新しい知識が多く非常に興味深い講義でした」、と肯定的なものが多く、否定的なものは講義形式と演習形式の形式の違いを明らかに誤解したものだ。このため個別回答データを確認したところ、数値的には1名の回答者のみ統計学的に外れ値と呼べそうなものがあり、その影響があったのではないかと推測される。ただし、学生の交流機会の確保と音楽を流すにあたり他教室への配慮から対面でもオンライン授業とほぼ同じ形式だった点は改善していきたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics in English: Interdisciplinary Studies B<国際科目群> 1 (英米学科生用)
授業コード	31C17-901
教員名	DORMAN, Benjamin
教員コード	100695
登録人数	22
回答数	10
回答率	45.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

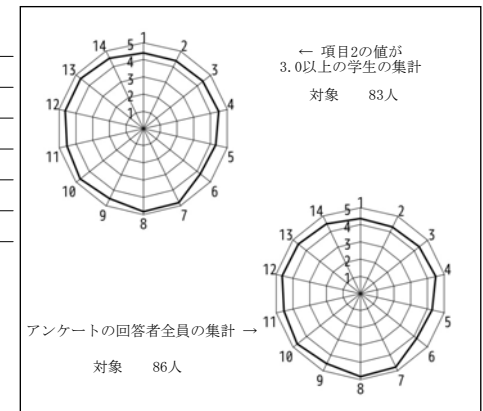
The course focused on aspects of Australian identity, including issues relating to language, literature, Australians' experiences in wartime, relations between Australia and Britain, indigenous Australians, and Australian society in the post-1945 period. We analyzed films and TV programs, all of which deal with identity issues in relation to Australian society in historical and contemporary contexts.

As with previous online courses, I used asynchronous and synchronous instruction (pre-recorded lectures and Zoom). Students pointed out the benefits of having pre-recorded lectures in terms of being able to replay and study the material in depth. During Zoom sessions, I divided the students into different groups in 45-minute time slots (e.g. group 1 from 1:30-2:45, etc.). Students could engage in close discussion for each topic. Although it seems that students were happy with this approach, one survey respondent pointed out that breakout rooms in Zoom might be useful. I will use them in the future.

Most students were highly motivated to learn, and the actively engaged in the activities. I set a total of four written assignments to the students, and responded to each student individually via Loom, an online video messaging service. This seems like a reasonable amount of work to expect of students.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	言語研究の基礎
授業コード	31D01-001
教員名	今井 隆夫
教員コード	104239
登録人数	105
回答数	86
回答率	81.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

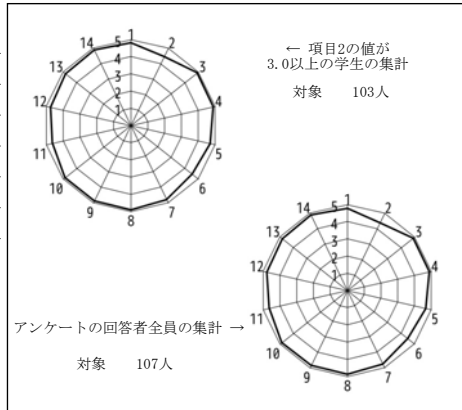


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度については、毎週提出してもらったフィードバックシートと最終レポートから、おおむね達成できたと思われます。②受講生の数値データおよび自由記述から、授業の趣旨が理解され、ほとんど全員の学生が、授業内容に満足し、学びがあったと思われます。数値データは、4.20~4.84の間に収まっており、満足度も前回の同科目の4.44から4.50に少し上がりましたが、ほぼ同様と言えます。記述データでは、「言語学について噛み砕いた説明をしてくださり、とても理解しやすかった。また、頻繁にブレイクアウトルームでの話し合いを設けることで理解が深まった。」「言語研究の基礎である、帰納的・演繹的思考法について体験しながら身につけることができた。言語学の知識を通して、教職に役立つ英語教育に関する内容があり、自分にとって充実した講義になった。」「授業内容が面白かったし興味深かった。ブレイクアウトルームが多くて人と話して考える機会も多かった。」などの好意的なコメントが55件程度あった。前年度同様に105名の受講生を4つのグループに分け、各グループに交代で、カメラオンでZoom授業に参加してもらい、他の3グループは教員と25名程度の学生のやりとりを見て、必要に応じて議論に参加するシステムを継続したが、この点も好評であった。また、ハンドアウトがわかりやすくよいというコメントがある一方で、授業をハンドアウト順に進めないことが多いため、そこを改善してほしいという意見が2件見られた。インタラクションとライブ性を重視しているため、ハンドアウト通りに進まない点は、理解いただくようにガイダンスで意図と伝えることを今後行いたい。③授業のライブ性を重視するためハンドアウト順に進まない点について、学生の理解を得られるようなガイダンスを来年度は行うようにしたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	コミュニケーション研究の基礎
授業コード	31D04-001
教員名	今井 達也
教員コード	102469
登録人数	247
回答数	107
回答率	43.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

目標は、コミュニケーション研究で分かっている知見を理解し、それを実社会に応用する、というものであった。学んだ理論などを積極的に応用している様子を授業内のディスカッションなどで確認できた。特に傾聴などのスキルは身につけていることをブレイクアウトルームでの活動などを見る限り確認できたと思う。

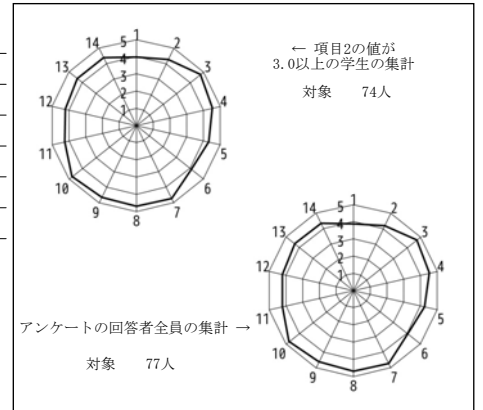
②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。※

数値データで懸念する点は、あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。という項目で4.5と割と低かった点である。自由記述では、参加者の参加度の違いに不満を持つ学生もあり、今後工夫が必要である。ただし、感想は概ね肯定的であり、特にインタラクティブな授業スタイルに満足をしているようである。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
ブレイクアウトルームでは、話す学生とそうでない学生に分かれており、これはある程度ルール設定を行うことで改善可能であると考え。例えば、全く話さなかった人がいればあとで教員に報告をしたり、話す人がいなければ教員に伝え、部屋を変えることも可能である。本学の学生の熱意に応えるため、もっと工夫を続けていきたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治研究の基礎（アメリカ）
授業コード	31D06-001
教員名	平松 彩子
教員コード	103468
登録人数	134
回答数	77
回答率	57.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



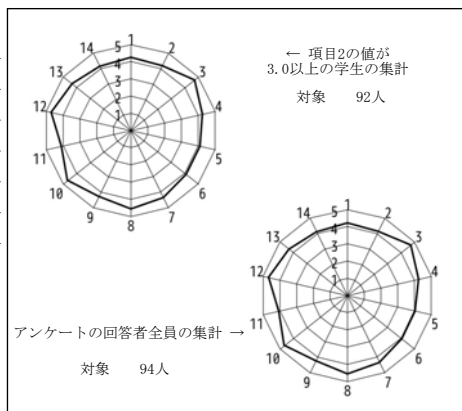
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業の目標は3点あり、1. アメリカの政治学研究で使われてきた概念や分析枠組みについての知識を得る。2. 政治学の議論および分析を学ぶことを通じて、批判的考察力を身につける。3. 日本語文献の読解と要約を通じて、端的かつ明確に議論を整理し表現する力を養う。となっていた。これらの目標はいずれも十分に達成されたと考えて良いだろう。特に例年この授業で行なってきた日本語の新書文献について書評を書かせる課題を、今年の授業では時間の制約により実施できなかったが、最終試験でその内容を問うたことにより、多くの学生がアメリカ政治についての新書を読み文章に表現する力を多少なりとも付けることが出来たのではないかと考える。

この科目のアンケートの数値結果は、多少のばらつきはあるにせよ総じて4点以上を与えられている。また自由記述では概して好評をつけてもらうことができた。オンライン授業であったことにより、一方通行のコミュニケーションにならざるを得なかったが、コメントシートの提出などを通じて学生からのフィードバックは受けることができた。今後もオンライン授業が続くうちは、双方向のコミュニケーションを確保しながら、授業を行いたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 アメリカの歴史
授業コード 31E01-001
教員名 川島 正樹
教員コード 048116
登録人数 138
回答数 94
回答率 68.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

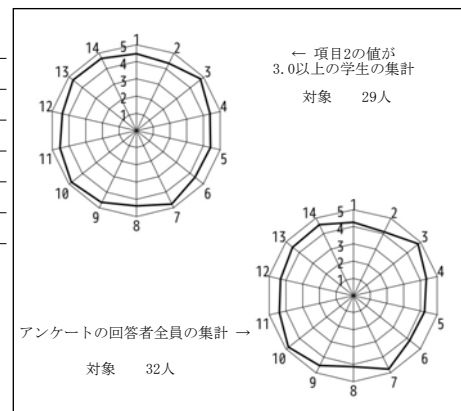


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度：まずこの授業は英語科の教員資格科目の英米学科科目で今年は昨年の約半分の受講生数138名で、回答者は94名あった。項目4（この授業の到達目標を理解することができましたか）の平均点が4.06（昨年は4.08）、項目5（あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか）の平均点が4.05（昨年は4.09）であ、昨年より若干だが低下した。一作年度の同一項目の平均点が4.22と4.27であったことを踏まえれば、評価の低落は顕著のままである。また項目13（この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じますか）の平均点が4.31（昨年は4.32）、項目14（全体として、あなたはこの授業に満足しましたか）の平均点が4.09（昨年は4.12）に留まり、一昨年度の4.53と4.39と比較してこちらも低落が顕著なままであった。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価：上記以外の他の数値も全般的に低落した。ただし、項目7（担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができましたか）が4.32（昨年は4.20）に若干上昇したが、一昨年度（4.55）の高水準にはまだ回復していない。自由記述欄の項目15（この授業の良かった点、評価できることは何ですか）には56名の記述があり、映像資料の利用やブレイクアウトルーム等の活用および質疑応答の時間を十分にとるなどの工夫に対して高評価が目立った。その一方で、項目16（授業を受講して改善したほうがよいと感じた点や困ったことがあればできるだけ具体的に書いてください）にも33名の記述があった。概ね昨年度と同様のオンライン授業に特有の「しゃべり方が問題」という趣旨の批判が目立った。反省点としたい。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など：前項最後にも記載した通り、できるだけ静かに語ることにしたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 アメリカの社会2
授業コード 31E02-002
教員名 大井 由紀
教員コード 101888
登録人数 48
回答数 32
回答率 66.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

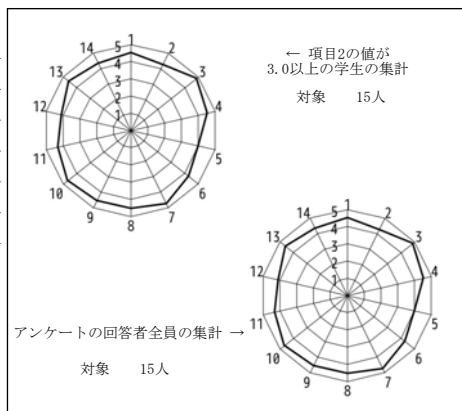


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
授業前に準備をしていた学生さんの満足度が高かったことから、学生さんにとっては達成できたかと思う。
期末課題でも、高評価できるレポートが多かったのも、教員からしても、アメリカ社会にとっての移民の重要性や、移民の視点から国民国家を考えるとといった目標を、多くの学生さんが達成できていたように思える。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
これまで担当してきた授業では、ディスカッションや配布資料が好評で、今回もそのような評価を受けました。
引き続き、続けていきたいと思います。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
ディスカッションがより有意義になるよう、トピックの精査・アップデートをしたいと思います。
また、使用する資料に関しても、移民はオンゴーイングな話題なので、アップデートし、より関心が高まるようにしたいと思います。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 第二言語習得論<国際科目群>
授業コード 31E14-901
教員名 SHILLAW, John
教員コード 100560
登録人数 45
回答数 15
回答率 33.3%
休講回数 1 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

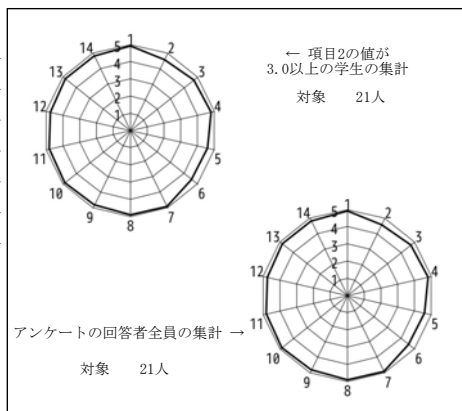
This has always been a popular course for this students who wish to become teachers, with students registering from several different departments. However, this time the initial numbers were 50% of previous years, and of those who registered, only about 50% completed the course. This phenomenon occurs each time I have taught this course, although the number of students was higher than usual. This was surprising since I provided students with more input than previous years because of the situation with COVID. For the first time, I made all my slides available, accompanied by videos of me summarizing the lecture material. It would seem from feedback I received that providing more input it had deterred students because they realized how difficult the content was.

The problems I have outlined in previous reflections on teaching this course still remain.

1. Students do not have the English skills to comprehend the content.
2. Students do not have basic linguistic knowledge and struggle to come to terms with the course content.
3. Many students do not read the textbook: they expect to be 'fed' the information needed to do well on the quizzes and write the final report.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語IV[FS]1
授業コード 11D04-005
教員名 泉水 浩隆
教員コード 102114
登録人数 30
回答数 21
回答率 70.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

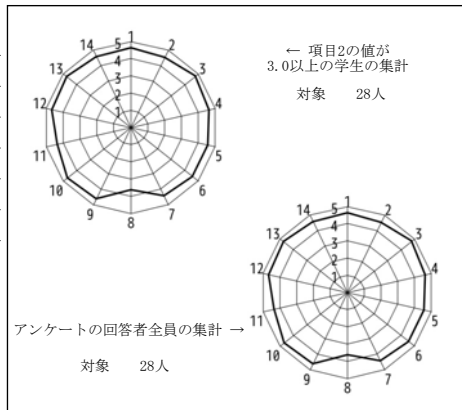
今回の授業評価においては、項目4~18の平均値が4.78、全項目の平均も4.78、項目2, 5, 6を除き、いずれの項目も4.70以上という評価になりました。レーダーグラフもほぼ外周に沿うような形になってるため、この授業の目標はほぼ達成されたと考えてよいと思われれます。授業進度もほぼ予定通りに行うことができました。今後も同様の方針を持続し、スペイン語文法の基礎をしっかりと身につけられるような授業にしていく所存です。

項目2, 5, 6 は予復習、到達目標の理解、到達目標に向けて力がついていると思うか否かなど、受講生自身の額主態度、理解状況による項目で、これらの項目が他より少し評点が低くなっているということは、予復習が必ずしも十分ではなく、その結果、理解・定着状況が予想より低いということではないかと考えられます。予復習をきちんと行い、習熟度を高める指導をさらに徹底させるよう留意したいと考えます。

自由記述欄の記述は例年よりだいぶ多く、いくつか例を挙げると、項目15では「毎回の授業で疑問点がないほどに詳細に発音から文法まで丁寧に授業をしてくださる点」、「先生の体験談も交えていて、受講する前よりスペインに興味を持つことができたし、スペイン語をやる気になった」、項目16では「授業が終わってからでいいから答えと解説を配布して欲しい」、項目17では「オンライン授業の際のホワイトボードがとても見やすかった」などという回答がありました。項目16の要望については、授業中の説明に集中してもらうため、敢えて授業後に解答・解説は配布しないことにしているので、そのようにご理解いただきたいと思います。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語IV[FS]2
授業コード 11D04-006
教員名 千葉 裕太
教員コード 104531
登録人数 29
回答数 28
回答率 96.6%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

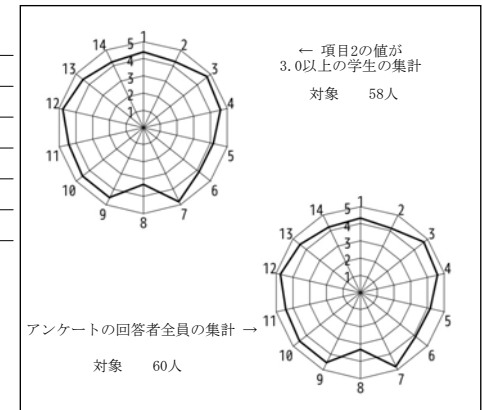


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について、ほぼすべての受講生が直説法現在の基本的用法を理解し、身につけることができた。また、特に目標として設定されている動詞の活用に関しては、規則活用については、学生たちは十分に理解しているように見える。
- ②学生からも平均4.5以上の授業評価を受けており、適切な授業運営ができたとして自己評価する。評価の低かった項目8については、自由記述回答にもある通り、教員の声質および教室外の騒音による声の聞き取りにくさが原因である。学生たちの反応を見て、テキストを用いた授業時間内での説明だけでは理解が不十分と思われる場合には、プリントを作成し補足した（体調不良等によりやむを得ずオンラインで受講する学生には、PDFを配布した）。これについては学生たちからの自由記述回答を見る限り、学生の習熟度に貢献するポイントであったと評価できる。
- ③上記①、②より、次クォーター・学期以降に向けての改善点として、まず、マイクを使用する。また、①に述べた通り動詞の規則活用については、学生たちは十分に理解できているように見えるが、不規則活用に関しては不十分な学生も見受けられる。この点を次クォーターで早期に改善するとともに、学生たちが新しい文法事項を十分に習得できるよう、補足プリント等も使用しながら、学生にとってわかりやすく、また親しみやすい授業を継続する。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 南北アメリカとの出会い2
授業コード 13B05-002
教員名 浅香 幸枝
教員コード 000165
登録人数 150
回答数 60
回答率 40.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

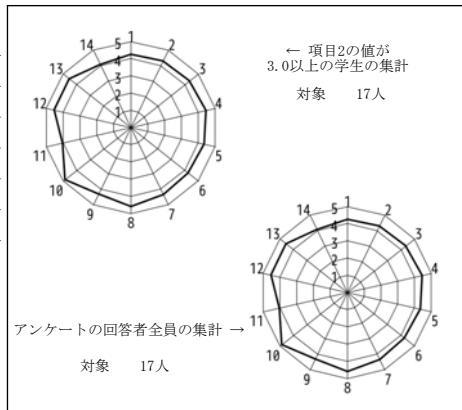


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 項目1～14の平均値は4.37であった。授業目標はおおむね達成できたといえる。4.7以上の設問は、3項目に亘っている。担当教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さを感じることができ、質問や相談の機会が十分に設けられ、課題や実習に対する事前・事後の指導が十分で、オンライン授業においても事前に予告された開始時間が守られていた。4.6以上は、毎回の授業の構成や進行速度は適切だった。4.5以上は2項目あり、教員は学生の理解度に配慮し、教科書、配布資料など効果的に授業を進め、授業の妨げになる行為に対して適切な対処がされていたと回答している。
- オンライン授業中に教員の声や音声機器の音がよく聞き取れたかに対しては、恐らく1年生なのだと思われるが音声が聴きとれなくなった場合があった。同日1時限目に開講している2年生以上が対象の授業ではそのようなことは発生しなかった。しかし、チャット機能を使い、双方行の質問の時間が多くあったので、その機会に確認し、むしろトラブルを解決する中で近くなる感じを受けた。
- オンライン授業に際して、授業を通じて最も気を付けたのは大学での通常の授業の要である学生と教員との双方向のコミュニケーションである。課題に対して、教員だけでなくほかに参加している学生の異なる意見も聞き、多様性を理解しながら自らの意見を主張できることである。学生の自由記述欄には、この点を高く評価する記述が多く、授業を通じて順に課題を仕上げていくという当初の目的に達したことが分かった。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン史A
 授業コード 32C03-001
 教員名 永田 智成
 教員コード 103900
 登録人数 36
 回答数 17
 回答率 47.2%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標と到達の程度については、概ね達成できたと考えている。スペイン史2000年の流れをある程度把握し、異質性や同質性を意識しながら、歴史を検討するという目標は概ね受講者の間で浸透したと考えられる。一部に歴史を現代から古代へさかのぼっていくというやり方に異論があるようだが、歴史の流れを自分で組み立てることができるように促すという意味からも効果があると考えている。しかしながら、「A」という科目の性質を考えて、古代から現代への流れで講義を組み立てても良いのかもしれない。この点については今後の検討課題とする。

1回の授業が100分となり、色々な面で今までの手法が使えなかったところがある。100分14回ということは、総時間数で言えば90分15回より多いはずであるが、実際にやってみるとそのような実感はなかった。1回の講義のスライド枚数を多くして、単元を絞るといったことが必要なようなので、次学期に向けて検討していきたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ラテンアメリカ史B
 授業コード 32C21-001
 教員名 ESCANDON, Arturo
 教員コード 102090
 登録人数 11
 回答数 1
 回答率 9.1%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

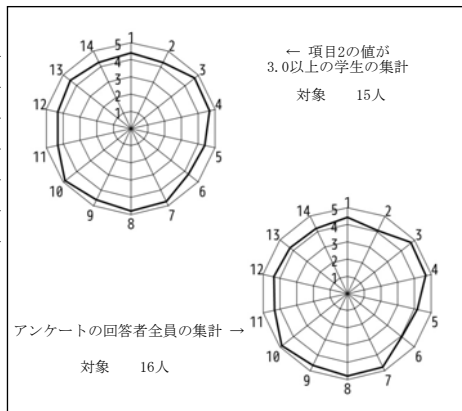
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- (1) Students were introduced to the complexities of Latin American history as a continuation of Spanish civilization but also as a disruption of ancient Mesoamerican and Andean civilizations, covering disciplines such as economy, government and policy, religion, law, etc. I believe the course helped them questioning assumptions about what social formations are and how they change.
- (2) There are not enough participants in the survey to know the overall opinion of the class as a whole. The only participant who responded has a good opinion of the course. I am grateful to this student. In general, I believe the course was intellectually demanding, perhaps too demanding.
- (3) I believe few students did not care about the topics and it was difficult to engage them into the subject matter. The change from face-to-face to hybrid delivery played a part on this as well. Half the number of attendants profited from the course, I believe. The textbook I chose was too harsh on them I believe. Source material tends to be quite demanding and needs to be adapted for students who have little experience reading it.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ラテンアメリカの文化と社会A
授業コード	32C23-001
教員名	牛田 千鶴
教員コード	100657
登録人数	42
回答数	16
回答率	38.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



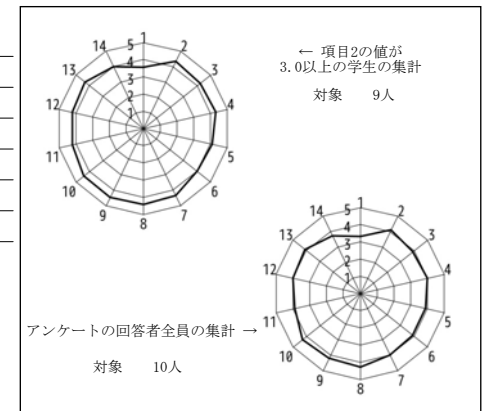
授業評価結果を踏まえた点検・評価

「緊急事態宣言」期間ならびに「まん延防止重点措置」期間と重なったこともあり、本授業については、当初からハイブリッドの授業形態で対応した。毎回、少なからぬ学生たちがオンラインで受講していたため、スクリーンの映像がカメラを通じて鮮明に学生たちのZoom画面上で確認できるかどうか気にしつつ対応せざるを得ず、授業運営は決して容易ではなかった。ともあれ、少なくとも自由記載欄には、オンラインで受講した場合の授業環境（インターネット接続、資料の見やすさなど）に関し、肯定的なコメントが並んでいたのには安堵した。また、「この授業のよかった点、評価できる点」として、「映像資料がとても貴重なもので、現状をよく知ることができた。」「映像や資料が多く使われていたので、分かりやすかった。」と記してくれた学生が多かったことにも、資料準備段階の苦勞が報われたような気がした。

当初は、授業時間内にこのアンケート調査に回答してもらう時間を設ける予定でいたのだが、盛りだくさんの授業内容に学生たちのリアクションペーパーへのフィードバックも加わり、結局その余裕がなくなってしまった。回答数が履修者の半数にも満たない数であったことは、大変残念であり、反省点であるとも考えている。来年度は必ず、授業時間内に回答してもらえるよう、適切な時間配分に努めたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランス語II<S・全>
授業コード	11B02-014
教員名	小倉 康寛
教員コード	104530
登録人数	24
回答数	10
回答率	41.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

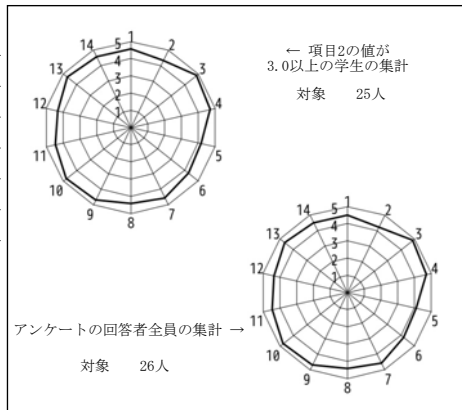


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①当該授業はフランス語の「読む・書く・話す・聞く」の4技能について、コミュニケーションすることを念頭に、総合的に力を身につけていくことを目指す。Q2は現在形の動詞の活用がメインとなった。定期試験の正答率は、選択式で87%、記述式で91%と高い。単位が取得できなかった学生は、定期試験未受験の2名のみである。学習の到達目標は高い水準で達成されている。
- ②授業の問題は、項目1の事前の関心のばらつきにあると考える。平均値ではなく、学生ごとの内訳から点検をしたい。
 - ・関心が5の学生（4人）：当該授業は全体的に高い評価となっている。
 - ・関心が1の学生（2人）：ほとんど項目が低く、授業を通じて知識を身につけたとしても、納得がいけないと察せられる。
 - ・関心が2の学生（2人）：満足度の項目で共に4をつけており、授業を通じて意欲が高まったことが察せられる。
 授業内では、声が過度に小さい、簡単なところをいつまでも間違えるなど、授業の防げになる学生らに対して、注意する場面が多くあった（項目10が4.30）。学生らが学習目標に向けて努力したことは、定期テストの結果と、項目2と項目13の数値（2つともに4.10）を見ても明らかである。
- ③学生ごとの意欲の差が課題である。自由記載にもコメントがあるように、個別対応はしている。しかし限界も浮かび上がった。Q3では履修確定前に、無理に履修せず、取り消しもまた必要な選択肢であることを理解してもらう。また履修の動機について、学生が自らを振り返る時間を取る。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語III[FF]2
授業コード 11B03-005
教員名 平田 周
教員コード 103583
登録人数 28
回答数 26
回答率 92.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

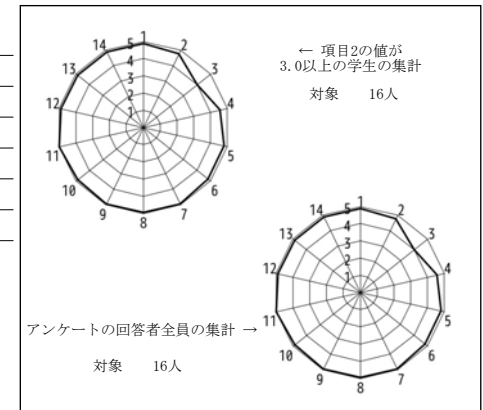
(1) フランス語IIIでは、当初予定されていた文法項目および練習問題に関する解説をすべて無事に終えることができました。新型コロナウイルスの流行に応じて、オンライン授業と対面授業が継起するという形態にもかかわらず、多くの学生が意欲的かつ持続的に取り組み、ほぼ毎回課す小テストや期末テストにおいて優れた理解を示してくれました。

(2) 設問項目のレーダーチャートでは、「この授業の到達目標を理解すること」の項目に関する平均値が若干低く、結果としてこの設問項目に関連する「この授業の到達目標に向けて力がついてきている」の項目もまた平均値が低い結果になっています。それは、講義担当者が1回1回の授業に追われ、全体の目的を示す作業が疎かになっているのかもしれませんが、次回以降、授業で使用する教科書全体の到達目標やフランス語を学ぶ意義などを伝えることのできるようところがけたいです。

(3) 新型コロナウイルスの流行が予断を許さない状況がつづくなかで、オンライン授業と対面授業の切り替えなどで1年生の学生を戸惑わせる状況がつづくのかもしれませんが、学生にはいずれの授業形態においても、フランス語学習は可能であることを伝えながら、1回1回の講義で試行錯誤を繰り返して、より多くの学生にモチベーションをもってもらい、内容理解を促すことができるように励みたいと思います。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語IV[FF]1
授業コード 11B04-004
教員名 COURRON, David
教員コード 019026
登録人数 20
回答数 16
回答率 80.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. Initial course objectives

The aim of this course was to have students practice French through both oral and written exercises, with a particular attention given to acquisition of grammatical patterns in various contexts.

2. Degree of achievement of initial course objectives

This quarter, though the amount of homework may have seemed heavy for some, and despite the many disruptions caused by the pandemic, most of the students committed themselves to meet the challenges mentioned above. Many have valued the fair balance between explanations and practical activities and the frequent chances they were granted to study in-depth through their homework.

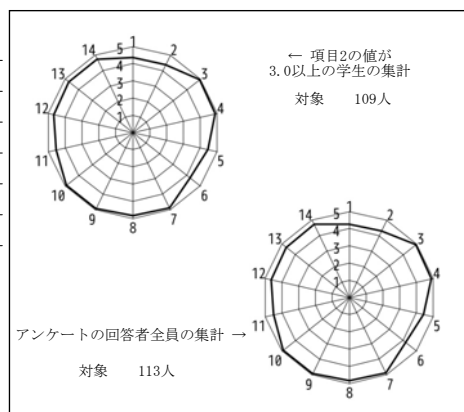
3. Areas requiring improvement and general remarks

According to many students' comments, I managed to create a stimulating atmosphere for studying. A majority seem also to have appreciated my grammatical explanations along with my precise checking of their homework as well as the fact that I gave them extra materials on my home page. However due to my heavy administrative duty

I could not always provide the students with answers to their exercise booklet on due time which caused some anxiety. A situation I will try to work out.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランスの文化
授業コード 33A06-001
教員名 真野 倫平
教員コード 100083
登録人数 204
回答数 113
回答率 55.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

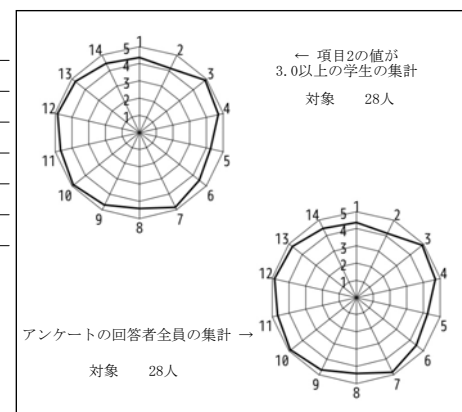


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義はフランス学科1年次生を対象とする学科科目であり、外国語学部
の全学科に開かれた学部共通科目でもある。文学・芸術・音楽・映画・歴史等多
様なジャンルの作品の紹介を通じて、フランス文化に関する基礎知識を身に付
けることを目的とする。オンライン授業となったため、毎回の授業の前に文献
資料をDLサーバで配付し、授業において教員がそれを解説し、授業後に内容
に関する課題を提出させるという形式を取った。成績は毎回の課題の提出と最終
レポートによって評価した。①目標と到達の程度については、提出物から判断
するかぎり、多くの学生がフランスの文化に関心を深めてくれたように思う。
②総合的な自己点検・評価については、設問3～14の平均4.71は大学の全体平
均4.45を大きく上回っており、多くの学生が興味をもって授業に取り組んでく
れたように思う。③今後の改善点については、自由記述欄において視覚資料・
映像資料に対する言及が多かったため、今後はさらに資料を工夫してより興味
深い授業を行うよう心掛けたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ語II<H>1
授業コード 11C02-001
教員名 水守 亜季
教員コード 103678
登録人数 30
回答数 28
回答率 93.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

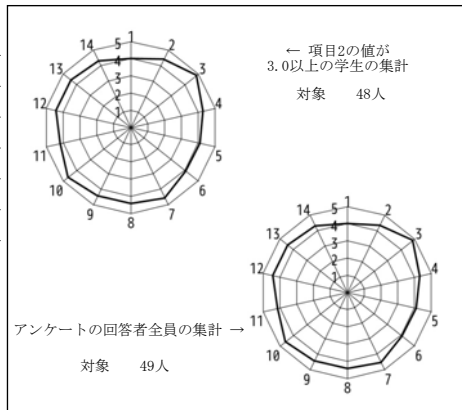


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では、CEFR（ヨーロッパ言語共通参照枠）のA1レベル相当の教科書を用い、ドイツ語を「実際に使える」能力の養成、主体的学習の活性化、学習ストラテジーの向上を図った。Q1にはICTの活用に少々戸惑っていた学生たちも、今期までに様々なICTツールを使いこなすようになり、学生同士で協力しながら楽しそうに課題に取り組んでいた。授業全体の満足度を問う設問(14)の4.46、設問(3)～(14)の平均値4.66、といった学生からの比較的高い評価もその証左と言える。さらに知識の増加や理解の深まりについて問う設問(13)の4.75という高い数値からも、アクティブラーニングの効果を学生が実感したことがうかがえる。自由記述では、グループワークなど、他の学生との協働学習の機会の多さと、自律学習の促進を評価する声が多数あった。さらに自由記述には、授業外学習を助けるための情報提供を評価する声もあった。また不安定な授業環境の中での学生の不安と負担を軽減するために、毎回の授業後にその日に皆で作ったメモを電子データで配布したり、授業後、またはメールやオフィスアワーで学生の相談を随時受け付けたりと、工夫をした効果もあったようで、質問・相談の機会や学習についてのフォローについて問う設問(12)で4.82の値となり、自由記述にも「先生に質問しやすい」、「先生の説明がわかりやすかった」などの肯定的なコメントが複数寄せられた。様々な感染防止対策のためにQ1・Q2とも大変な労力を伴ったが、学生からは「飛沫を気にせずに話せる」など感染対策を評価する声が複数あり、学生の不安を少しでも軽減できたのであれば嬉しい。今後も状況に合わせて学生の学びの環境を整えるために努力を続けていきたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	文献講読（ドイツ語圏の文化）
授業コード	34A23-001
教員名	畑野 小百合
教員コード	104422
登録人数	64
回答数	49
回答率	76.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



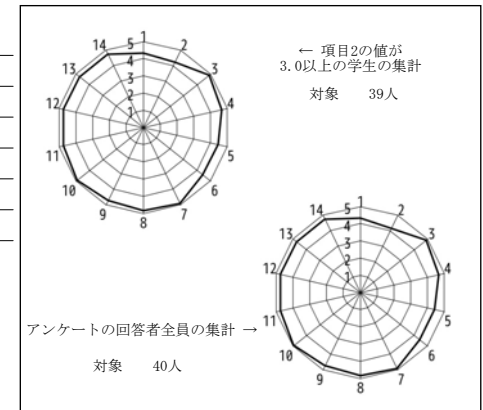
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初の目的として、比較的高度なドイツ語の文章から新しい情報を得ることができること、文脈や含意されていることを的確に捉え理解したことをわかりやすく相手に伝えることができること、文章を批判的に読み、独自の検証へとつなげることができることの3点を設定していました。アンケートの数値データからも、授業内の雰囲気からも、これらの目的が概ね達成されたことが確認できると思います。音楽史に関する文献を用いたため、授業内では言及されている作品を鑑賞し、読んだことを耳や目で捉え直す活動を積極的に取り入れました。また、テーマになっている作曲家について、事前に知識を備える回も設定しました。これらのことも、概ね有意義であったと評価していただいたようです。

この授業には想定以上の受講登録があり、緊急事態宣言が解除された後も最終zoomを活用した形で授業を実施せざるを得ませんでした。新型コロナウイルスの感染拡大の危険がある中で、ある程度の距離を取りながらグループワークを行ったり、さまざまな学生に手際良く発表・発言をしたりしてもらうための妥協策でしたが、教室内にいながらzoomを利用すること、zoomが主体でありながら対面授業の形態を取ることに不満をもつ学生もいたようです。今後の講読授業の受講人数の上限と実施の方法について、学科内でも話し合いたいと思います。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ドイツ語演劇研究
授業コード	34D01-001
教員名	PETERSEN, Esben
教員コード	103814
登録人数	73
回答数	40
回答率	54.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

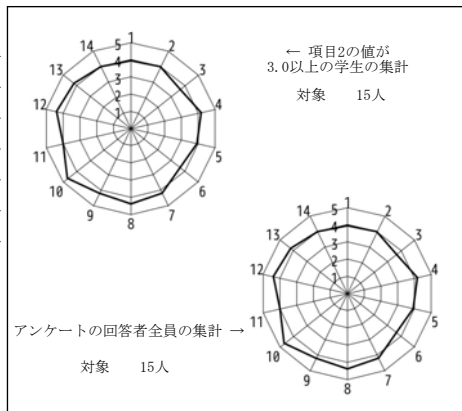
I am grateful for the constructive and positive feedback that my students have provided. I taught the course 「ドイツ語演劇研究」 for the first time and overall, I am pleased with what the students have answered. I am glad to see that the class was happy with me as a teacher. The high average in question 7 「4.93」, 12 「4.75」, 13 「4.75」, and 14 「4.73」 reflect this. Also comments like [演劇ができるだけでなく、ドイツ語の技能を総合的に高められる点。]、[この授業に参加してドイツ語の発音やアクセントが分かってきた] and [先生の指導がやさしく丁寧で、難しい内容でも楽しく学べました。] Shows that the student learned the central points of this course which focus was on reading, pronouncing, and performing a German theater text. The goal of the course therefore seems to have been fulfilled.

Like in many other courses of this year, there was a big transition from online classes to direct classes during the middle of the semester. This transition also meant that some adjustment had to be made to the original syllabus. This transition did not always work well but technically and structurally. This can in particular explain the lower grades in question 5 「4.45」 and 6 「4.40」. The student complains [対面授業の意味を感じなかった。オンライン授業でも良かったと思う]、I think, reflect this problem. I am aware of these points myself and will try to improve this in the future.

Overall, I am very happy with how the course went. I want to thank the students for having shown up online and direct in class every time to participate actively. This has really helped making this a great class to teach.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ドイツ歴史研究
授業コード	34D10-001
教員名	齋藤 敬之
教員コード	104487
登録人数	26
回答数	15
回答率	57.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

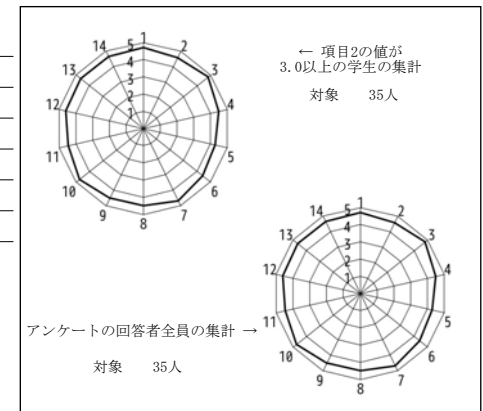
本授業では「ドイツ史の知識の再整理」や「歴史研究の動向やテーマに関する知見を深めること」を目標に掲げていたが、ドイツ史に関する知識が豊富でない履修者も少なからずおり、教員の目標設定や授業中の説明との間に隔たりがあった。この点が到達目標に関する設問項目（設問5・設問6）の評価が伸びなかった一因と考えられる。今後に向けた改善点として、履修者の予備知識を想定してシラバスの到達目標や授業計画を作成すること、ドイツ史に関する知識を再確認・再獲得させるような内容に時間を割くことを考えている。

また、オンラインでの授業運営に関する設問でも評価が伸びなかった。教員による機器の事前準備やZoomのセッティングなどが十分にスムーズではなく、授業の聴講が円滑でない状況が生じたことが一因だと認識している。今後もオンライン授業が実施されることを見込んで、操作方法を再確認することやオンラインでも見やすく利用しやすい資料を作成することを課題とする。

毎回の授業では、WebClassを用いてリアクションペーパーの形で授業内容に関する小課題や質問を課し、その回答内容を次の授業内容に直接的に反映させることで、理解度の向上や履修者同士の意見の比較に役立たせるように試みた。これが設問7・設問9・設問12、そして自由記述欄での評価につながったと思われる。講義科目の中でも双方向性を確保するこのような試みは、今後も積極的に活用する。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中国語II発音・聴力2
授業コード	35A02-002
教員名	蔡 毅
教員コード	100086
登録人数	37
回答数	35
回答率	94.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は初級中国語授業として、全体からみれば、開講当初に設定した授業目標はおおむね達成したと思います。しかし、自己反省の立場から、次の改善すべき点に重点をおいて述べたいと思います。

統計の数値から見れば、(5)の「到達目標を理解する」、(6)の「到達目標に向けて力がついてきている」という点では、評価がわりと低いものです。これについては、学生に対する要求が足りなかったのみならず、自分もそれをあまり重視しなかったのではないかと思います。

なお、(11)の「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促す」という点でも評価は高くなく、やはり学生の積極性を引き出すことには工夫をこらさなかったと思います。

今後の改善策として、

その一は、学生に対して予習や復習などはもっときびしく要求し、勉強の自覚を一段と高くさせることです。

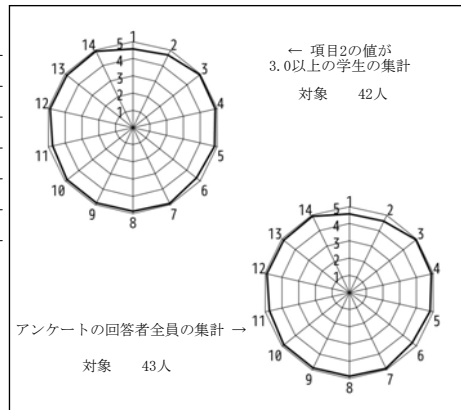
その二は、授業中ではもっと学生に質問できるような機会を与え、授業後ももっと学生の意見や希望を聞き、いかに学生の授業への興味を引き起こすのかについて、さらに真剣に対応することです。

また、学生の自由記述には「中国文化の紹介」や「漢字の成り立ちの説明」などいい評価が多くありますが、授業の内容と方法についてもさらに工夫する必要があると思います。

これからは一層の努力を払い、いい授業を学生に提供できるように、取り組んでいく所存であります。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国近現代史研究
授業コード 35C16-001
教員名 宮原 佳昭
教員コード 102232
登録人数 57
回答数 43
回答率 75.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の到達目標は次の3点である。①近現代の中国における重要事件や人物、各政権のイデオロギーを理解している。②それぞれの事件や数字の表面的な丸暗記ではなく、根底にある「中央と地方」「政府と民衆」それぞれの論理とパワーバランスを理解している。③平素より、中国に関する最新情報を積極的に収集し、その内容を理解している。

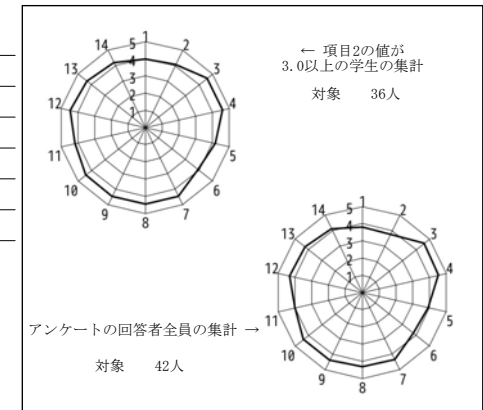
上記の目標を達成するため授業において工夫したことは、次の3点である。

①新型コロナウイルスまん延防止の観点から、当初より対面授業に加え、対面授業に参加できない学生のためZoomによる同時配信を実施した。②授業中の提出課題として、直近の中国関連の新聞記事を1つ挙げて要約させることで、授業内容と時事問題をリンクさせて考える習慣を身につけさせようとした。③同じく授業中の提出課題として、授業内容に関する質問を1つ以上上げさせ、次回の授業でこれらの質問に回答することで、授業内容に対する理解を深めさせようとした。これらは学生の自由記述欄でも好評であり、授業の目標到達にとって有益であったと考えている。

一方で、学生の自由記述欄に、「授業中に放映したビデオがZoomでは見えにくかった」という記述が複数名から、「教員が早口で、ノートが取りにくかった」という記述が1名からあった。これらはいずれも反省すべき点であり、来年度の課題としたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 華人社会研究
授業コード 35C20-001
教員名 張 玉玲
教員コード 101049
登録人数 78
回答数 42
回答率 53.8%
休講回数 1 回
補講回数 1 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

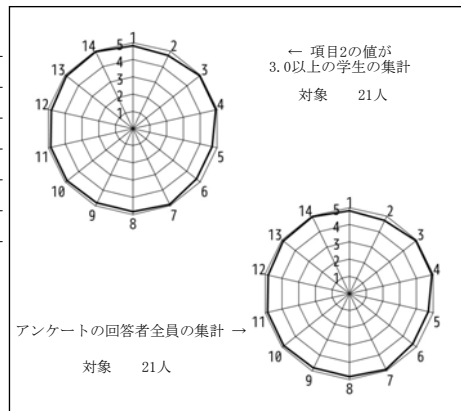
①開講当初に設定されていた三つの目標すなわち、a) 華人の移住要因について、送り出し側と受け入れ側の両方から理解できること、b) 華人社会の形成・構造・変容について、華人を取り巻く国際情勢など多角的に分析できること、c) ある国・地域の華人社会に焦点を当て、問題を発見し、自分の見解を加えながら考察できることは、概ね達成できたように思われる。これは、履修前より履修後の授業への満足度が高くなったことと、期末レポートの高い完成度からも確認できる。

②アジア学科が開講主体であるからか、授業内容は「アジア」の事項に限定されていると思われ履修した学生もいるようだが、世界史や日本史と関連する内容が授業中に出てくると関心も自信も失いかける人も少なくはないようである。これは、すべての設問項目が高い数値か低い数値かのどちらかになっている「学生毎回答結果」にも裏付けられているのではないと思われる。できるだけ様々なレベルの学生のニーズと関心に沿った授業設計が今後の課題となる。

③「マイクをつけても声が聞こえない」は、授業中に確認しても、言ってもらえなかったその理由を探ることと、学生の学習意欲をさらに引き出すような工夫をしていくことを今後の課題としていく。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 上級インドネシア語会話A
授業コード 35D05-001
教員名 MANGGA, Stephanus
教員コード 103578
登録人数 21
回答数 21
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

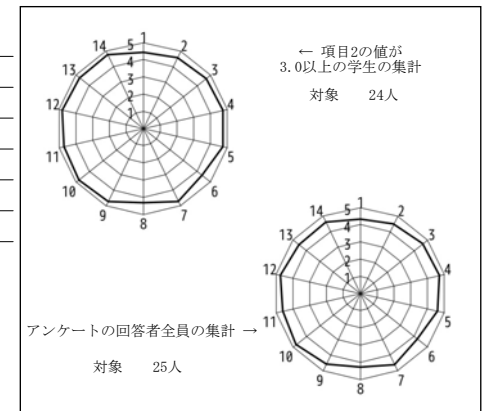


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- (1) この授業は講義および実習形式で行われる。学生は様々な文脈に基づいてインドネシア語を話す訓練を受けることになる。話すことのほか、授業では読む、書く、聞くことについてもあつかう。さらに、インドネシア文化も紹介する。学生の評価を見てみると、この授業の目標は十分に達成されていると思います。
- (2) 「授業を受講して改善したほうがよいと感じた点や困ったことがあればできるだけ具体的に書いてください。」という設問項目に対して、特になしと学生の皆さんが回答してくれました。これはありがたいことでもあり、次回のより良い教えるモチベーションでもあります。この授業の良かった点について、学生の皆さんは次のようにコメントしてくれました。① インドネシア語を実際に使う機会が多かった点。②自分で文章を考える機会が何度かあって力がついたと感じる。③みんなが文を作って発表することで、作文力がついたと思う。④ クラス全員が積極的に参加できるような授業だった。⑤ 間違えることを恐れず話すことができ、とても良かった。⑥ それぞれの単元の内容が単調ではなく、読み物も興味を持てる内容だった。これらの良かった点に基づいて、学生の皆さんはこの授業から自分にとって何が役立つかを見つけたと言えるのではないかと思います。
- (3) 次クォーターに向けて、今回の良かった点を生かして、より良い授業の雰囲気をしていきたいと思っています。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 インドネシア社会研究
授業コード 35D11-001
教員名 間瀬 朋子
教員コード 103607
登録人数 47
回答数 25
回答率 53.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

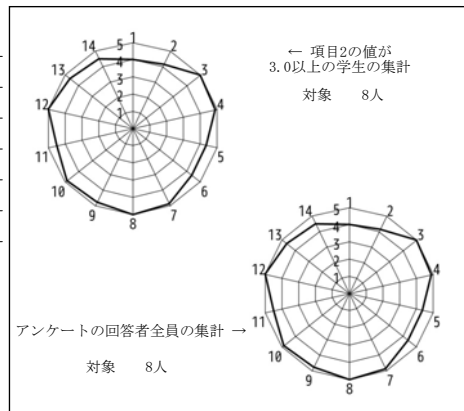


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①オンライン授業（のちにハイブリッド授業）化という止むを得ない事情により、当初予定していた授業の進度や様式にやや変更を迫られた。とはいえ、インドネシアの多様性を具体的に知っている、インドネシアの社会・文化の変容やその背景を理解しているという本科目の目的は、7~8割達成できたと考える。クォーター末のグループ発表は、受講生が各人の切り口で現代インドネシアの社会問題にアプローチし、その多様性について熟考できたことをよく示していた。
- ②受講生がグループ発表のテーマを設定するための理論や情報できるかぎり提供しようとするあまり、講義にスライド（写真）を多用しすぎたかもしれない。受講生にとって、レジュメに掲載されていない講義の内容が「思考を広げる」ヒントにはなりえず、理解を妨げたり不安にさせたりするものだと知り、考えさせられた。グループワークやグループ発表を通してのアクティブラーニングは、受講生の学習意欲を高め、学習内容への理解を促したようだ。
- ③マイク接続の問題で、教室での教員の声やグループ発表のライブ感がオンライン受講生に十分に伝わらないときがあった。テクニカルな面を含めて、オンライン授業への工夫や配慮に行き届きがあった点は反省すべきで、今後改善に努める。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	インドネシア言語研究
授業コード	35D13-001
教員名	稲垣 和也
教員コード	103887
登録人数	12
回答数	8
回答率	66.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

本授業の到達目標は3点ある：（1）インドネシア語を分析できるようになる、（2）インドネシア語を分析するための方法論を身に付ける、（3）インドネシア語に見られる言語現象を問題化できるようになる。このうち、（1）、（2）については、ほぼ全ての受講生に向上が見られ、設定していた目標におおむね到達したと考えてよい。（3）については、少なくとも問題化というプロセスを受動的に学習し、設定していた目標に部分的ではあるが到達した。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

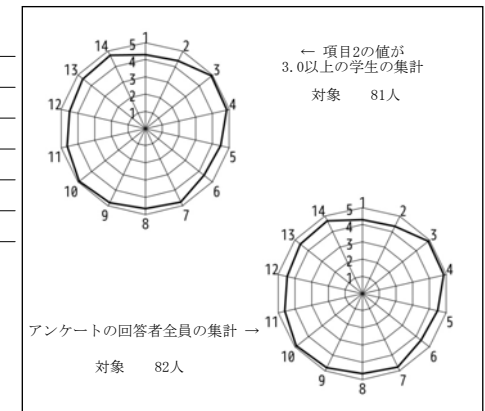
学生による回答数は8件であった。平均スコアが4.00未満の設問は皆無であった（毎回オンライン形式の2020年度は9項目が4.00未満/回答者数6名）。上記①の評価は、第5・6項の到達目標理解のスコア（両項4.38）に反映されている。第5・6項がそれぞれ2.67と3.67であった2020年度終了時、次年度のために設定した「毎回の授業で到達目標を意識させる」という方針はおおむね全うされた。ほか、2021←2020年度スコア変動は、第4項の進行速度（4.88←2.67、自由記述「ちょうど良かった」）、第9項の理解配慮および資料活用（4.75←2.67、自由記述「資料を実際に提示していた」）、第12項の質問・相談機会（5.00←2.83、自由記述「質問しやすい環境」）の改善が見られ、第13・14項等の改善に繋がったと考えられる。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

来年度に改善が求められるのは、到達目標（3）に関して、受講生がより主体的に言語現象を問題化できるよう、さらなる工夫をほどこすことである。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	民族問題と人間の尊厳2
授業コード	10D08-002
教員名	宮脇 千絵
教員コード	152580
登録人数	188
回答数	82
回答率	43.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定した目標と到達の程度について

本授業は、装い（服を着ること）をめぐるポリティクス、経済状況、そこに潜む倫理的問題や不均衡な力関係、格差などを文化人類学的な視点から取り上げることで、私たちが服を着ることに関する問題点を理解し、「人間の尊厳」を考える力を養うことを目標としているが、オンライン授業も2年目であり、おおむねこの目標を達成できたと思う。

②担当科目に関する自己点検・評価

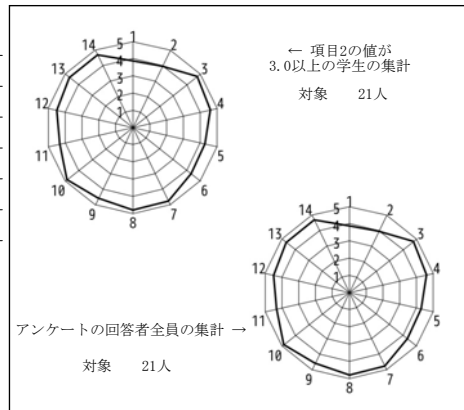
おおむね良い評価であった。オンラインかつ大人数の講義授業なのでどうしても一方向になりがちだが、前日夕方までにDLサーバに配布資料をアップする、適宜映像資料を入れる、リアクションペーパーへのフィードバックを共有する、レポートに関するアナウンスを繰り返し徹底することなどを通じて、学習意欲を損なわないよう心掛けた。自由記述では、「分かりやすい」「テーマへの関心」「視覚資料の多さ」「リアクションペーパーへのフィードバック」などを評価する声が多かった。また学生からの意見を取り入れ、途中で5分休憩を入れたことも良かった。

③改善点、今後の抱負や方針

Zoomでの講義授業のやり方ある程度確立することができたと思う。ただマイクに雑音が入ることもあったようで、オンライン環境にはさらに配慮したい。またリアクションペーパーは、授業内でも執筆時間を確保したうえで提出期限を授業当日の21時としていたが、「他の授業、バイト、サークル等の都合もありもっと遅くしてほしい」という要望も少なからずあった。対面授業に戻ったときに、リアクションペーパーをどう位置づけるかは課題としたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済統計入門3
授業コード 40D05-003
教員名 大鐘 雄太
教員コード 103641
登録人数 40
回答数 21
回答率 52.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について

この授業では、統計学の基礎知識の習得を目標とした。授業の到達目標を理解できているかどうかに関する設問（設問5）は4.29、授業の到達目標に向けて力がついてきていると思うかどうかに関する設問（設問6）は4.33とそれほど高くはなかったが、定期試験の結果が良好であったため、目標は概ね到達できたと考えている。

② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

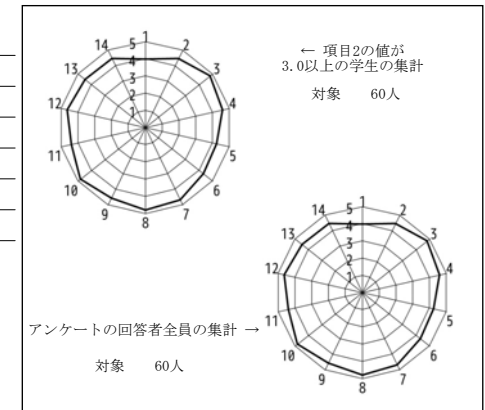
前回と比べて、(1)設問3から設問14までの12項目のうち、設問3以外はすべて上昇したこと、(2)全体の満足度に関する質問項目（設問14）が4.25から4.67に上昇したこと、(3)設問3から設問14の平均が4.40から4.60に上昇したこと、の3点から判断して、総合的にはよくできたと考えている。

③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

上記の12項目のうち、4.50未満であった3項目（履修生の到達目標に関する設問（設問5、6）、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための指導や情報提供に関する設問（設問11））は、改善の余地があると考えられるため、次回開講時には、これらの点を改善することにより、全体的な満足度のさらなる向上を図る予定である。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 理論経済学A
授業コード 40D15-001
教員名 井上 知子
教員コード 019166
登録人数 87
回答数 60
回答率 69.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

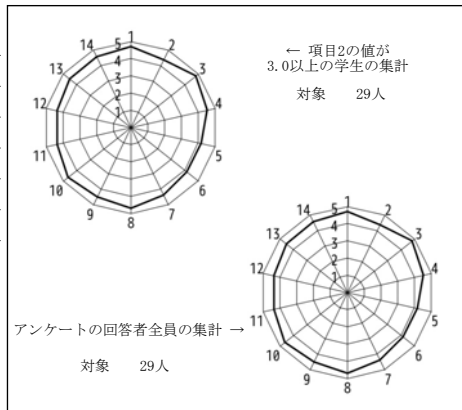
① 授業はオンラインでおこなった。昨年度同じ授業を実施したため、今年度はペース配分がうまくいき、授業計画通りに授業が進んだ。毎回の授業後に確認テストをおこなった。昨年度の反省から、今年度はレポートの形で回収するのは全受講者同一問題にしたが、ウェブクラスのテストについては1問につき複数の問題を用意し、ランダム出題とした。自由記述欄に「確認テストが授業内容の理解に役立った」という意見が複数あったので、今回の方法でよかったのだと思う。

② 各項目の数値はこれまでよりかなり高かった。自由記述欄を見ると「わからないことがあってもチャットで教員にすぐに質問でき、疑問を解決できた」といった意見が複数ある。対面授業だと「わからないまま授業が進んでしまった」、「数式の添え字が見えない」などのコメントがつくことがあるが、今回は「難しかった」が1つ、「課題の提出期限が短い」が2つあったが、好意的な記述がほとんどであった。自由記述欄に、教員が受講生に対して、「寄り添う」、「配慮する」、「気にかける」ことを評価した意見が多かった。オンライン授業で相手が見えなくても、相手を見ようとする姿勢が求められていると思った。

③ Q3が対面になると「チャット」が使えないし、ホワイトボードで数式展開をした場合は「数式の拡大」もできなくなる。Q3では、対面授業でこの2つをどのように改善していくかを模索したい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	データ解析A
授業コード	40D19-001
教員名	吉根 勝美
教員コード	018358
登録人数	49
回答数	29
回答率	59.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

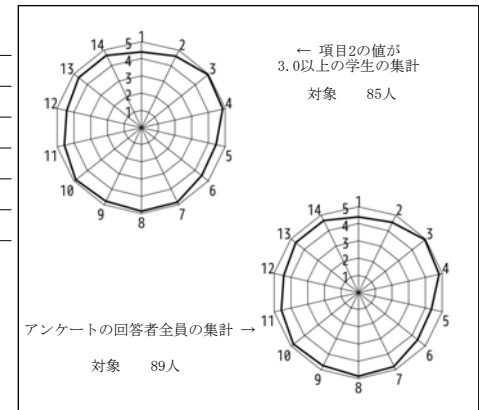
講義とノートPCによる演習で行った本授業は、経済統計データの分析手法とプログラミングの基礎を理解することを目標とし、レポート課題として、対数目盛による折れ線グラフ、ヒストグラム、散布図、移動平均の折れ線グラフによる分析と、月別データをクロス集計表形式または列指向形式の表にまとめるプログラムの作成を出題した。レポートを見る限りでは、ある程度は理解が進んだと思われる。

設問1～14については、すべての平均が4.49であり、選択肢2の回答はわずか(2%)、同1の回答は皆無だったので、大きな問題はなかったと思われる。自習記述では、分かりやすい・丁寧という回答(7名)のほか、プログラミングを取り上げたこと、実際のデータを用いたこと、十分な実習時間と説明を評価する回答があった。また、4回のオンライン授業を含む最初の7回の授業では、冒頭の30分間を簡単な問題に取り組む予習時間としたが、このことを評価する回答もあった。一方、対面授業でスクリーンが見えにくく、教室でZoomにログインして共有画面で確認することが複数回あったという指摘を受けた。

プログラミングについては多くの学生が難しいと感じているようだが、関心を持つ学生も少なからずいるので、今後、授業内容を再考したい。また、対面授業でも同時配信が続くようなら、教室でもオンラインでもわかりやすく教材を提示することを心がけたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	財政学A
授業コード	40D26-001
教員名	西森 晃
教員コード	100624
登録人数	174
回答数	89
回答率	51.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

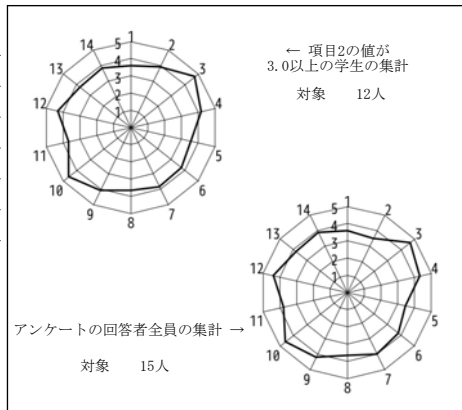
全体の平均点が4.64と、それなりに高く評価してもらえたようである。最初はオンラインで始まり、途中でハイブリッドに変わるなど、受講生の皆さんには負担をかけて申し訳なかったのだが、特に大きな問題はなかったようで安心している。ほとんどの受講生は毎回講義に参加し、課題をしっかりと提出してくれた。その結果が設問2の点数(4.51)に表れている。皆さんの積極的な姿勢に感謝したい。

自由記述欄にも好意的な意見が多く書き込まれていた。書き込み式のハンドアウト・授業の進行スピード・課題の出し方などが評価の高い点であるようである。書き込み式のハンドアウトはオンラインに向けて仕方なく採った措置であったが、思ったより評価が高く、学習効果もあるようなので、秋学期以降にどのような授業形式になるかわからないが、今回の経験を上手に応用したい。

授業の参加率に比べると回答率(89/174=51%)が低いことと、設問5の点数(4.38)が相対的に低いことが残念な点ではある。ただ個人的には、到達目標を理解できたかどうかをこの時点で聞くのは時期尚早だと思っている。授業の内容を理解するには授業を聞いているだけでは不十分で、学生がどのぐらいの時間を復習に費やすかに依存する。このアンケートの時点から期末試験までに時間があるので、そこで皆さんがどのぐらい理解度を深めたか、期末試験の結果を楽しみにしたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	公共経済学B
授業コード	40D33-001
教員名	焼田 覚
教員コード	102065
登録人数	36
回答数	15
回答率	41.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

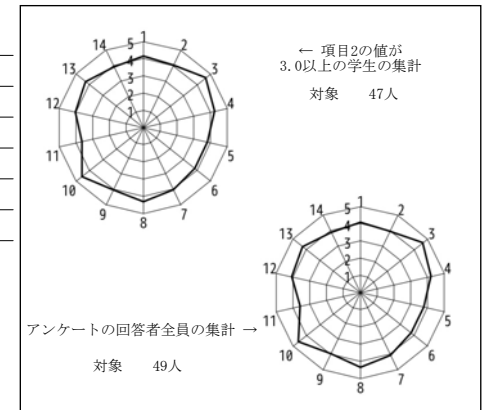


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①授業の到達目標は講義内容としては予定通り進んだと考えているが、目標は「問題解決について、経済学的发展に伴ってさまざまな考え方が出されており、一つではないこと」を理解してもらうことなので、全体をまとめないと理解しがたかったかもしれない。この点では聴講生の関心を十分に引き付けておくことができず、達成度はあまり高くなかったかもしれない。ただ、応用科目であり、基礎的な科目の内容を前提としているので、困難が最初から潜在的にあったと考えられる。②、③個別の話題については、数式も多く使ったので、丁寧に説明することを心がけたことは多少効果があったように受け取れる。聴講学生にもよるが、身近な出来事と日本経済暑い世界全体で起こっていることを関連付けてくれているようなので、この点は今後ともより改善して関心を持ってもらえるようにしたい。最初の時間に「マイクを使わなくても聞こえるか」と尋ねたのに対し、大丈夫との答えであったので、マイクを使わなかったので、聞こえにくかったかもしれない。マスク着用も影響があったかもしれない。しかし、教室の後方に着席している出席学生が多かったこと、コロナ禍で、後方のドアが解放されていて、向かいの教室が見えたことから、マイクは使いにくかった。この点は改善の余地もあるかと考える。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	社会保障論A
授業コード	40D38-001
教員名	神野 真敏
教員コード	103880
登録人数	115
回答数	49
回答率	42.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



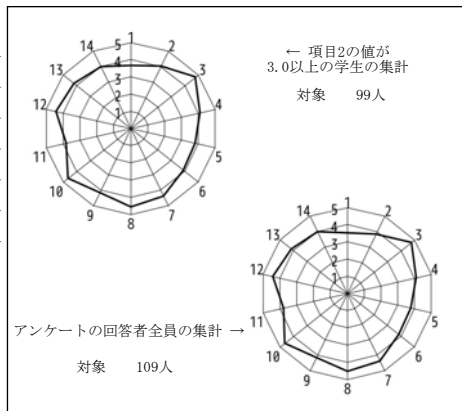
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では、なぜ社会保険制度が必要なのか、実際のデータを用いつつ理論的に社会保障の重要性・問題点などについて講義しました。しかし、到達目標に関する項目に関して、設問5は3.80（学部平均4.03。以下同じ）、設問6は3.78（4.00）と、学部平均を大きく下回りました。社会保障における年金・医療・介護における理論的な説明や問題点だけでなく、制度やその問題点などについても解説したのですが、なかなか学生の評価につながらず、大変残念です。そして、何よりも、設問14が3.86（4.16）と、こちらも大きく下回っている点、私の力不足を痛感しています。ただ自由記述において、良かった点として、「スライドに沿って授業が進められ、内容が理解しやすかった」、「将来的にも使える知識を学べた」とあり、一定の評価はしてもらえたのかなあと考えています。

ただ、その一方で、プリントの穴埋めの形式に関しては不満なことが多く、「穴埋め形式で事前に資料が配布されていたが、どこが穴埋めになっているのかが分かりにくく、知らない間に穴埋めの答えが出ている時もあり書き忘れが多くなってしまったので、穴埋め部分を括弧にするなどしてほしかった」など、場所が特定できない場合、そこがどこかわからず、講義が進んでしまう状況や、さらに、聞きながら書くことになれていないなど、学生にとっては、つらい講義だったようです。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	アジア経済論B
授業コード	40D55-001
教員名	林 尚志
教員コード	017897
登録人数	203
回答数	109
回答率	53.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

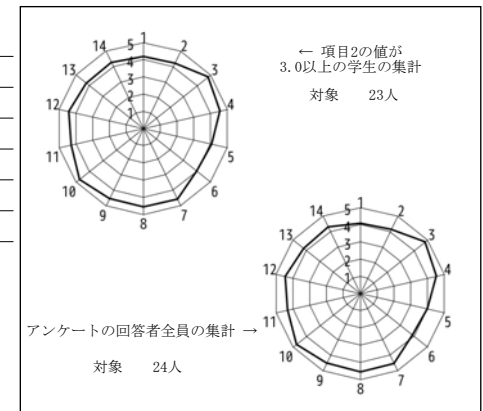
この授業では、「IT分野を中心に急速な技術変化が進む中、“日本企業の従来の強み”はどう変化しつつあるのか」、「台湾や中国の企業は、近年、なぜ&どのようにこれら分野で競争力を高めてきたのか」等の疑問に注目しながら、日本とアジア各国との間の“新たな分業関係”のあり方への理解や関心を深めることを目標とした。また、「さぐるべき一連の疑問」を列挙した“教材プリント”および“関連資料”を事前に配布した上で、授業では“板書レジメ”を作成しながら、これら疑問に対する解答を探った。

この目標の到達度については、「製品の作り方の変化や、中国や日本の成長する様子を学べた」、「数年後の自分とも無関係ではない内容であった」等のコメントがあり、一定の成果があったと考えられる。

その一方、今後の課題としては、設問（9）と関連し、「板書がわかりやすかった」、「ノートを自分で書くため、書きながら（内容が）頭に入るといった」等が指摘される一方、「板書を書くのが大変」、「進行スピードが速く、理解が追いつかない」等の指摘もみられたため、「講義内容を深めつつ前者学生の割合を高める」ことができるよう、内容を精選し、説明にあたってのメリハリを心がけたい。また、設問（11）と関連し、「資料が豊富で理解を深めやすかった」、「様々な文献の資料があったのでよかった」等が指摘されたが、さらに「関連文献や資料等の紹介」で工夫を重ね、学生の学習意欲が高まるよう心がけたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	西洋経済史A
授業コード	40D60-001
教員名	梅垣 宏嗣
教員コード	102397
登録人数	66
回答数	24
回答率	36.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

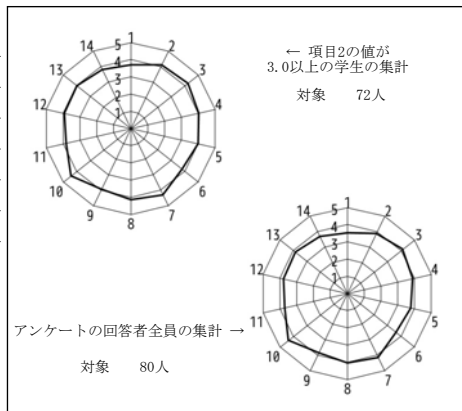


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では、西洋経済史における論争、特定の論点をめぐる諸研究を紹介した上で、現代われわれが直面している課題との関係について議論した。第4回以降は、毎回、練習問題を課し、任意で提出を求め、授業中にコメントをするという形で授業を進めた。基本的に提出してくれる人は毎回ほぼ固定で数人程度であったが、現代社会におけるジェンダー・バイアス、ジェンダー・ギャップの歴史的背景について講義した「ジェンダー」の回だけは、提出してくれた学生が多かった。そのことから、こちらが教えたいことだけを教えるのではなく、学生が興味があることにも留意しなければならないということを、改めて認識した。なお、クォーターの途中でオンライン授業からハイブリッド授業に切り替わったが、その際、ハイブリッド授業が久しぶりだったこともあり、切り替えてから最初の回と次の回で操作に手間取り、受講生に迷惑をかけた。今後はこのようなことがないように、ハイブリッド授業での機器の操作について十分に予習しておきたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経済思想史A
授業コード	40D64-001
教員名	荒井 智行
教員コード	104493
登録人数	114
回答数	80
回答率	70.2%
休講回数	1 回
補講回数	1 回

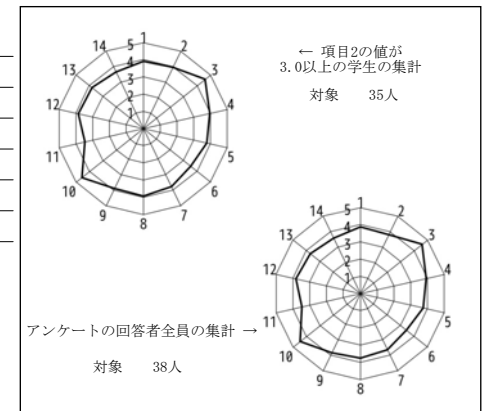


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた目標と到達については、ある程度達成できたと思う。ただし、講義途中からハイブリッド方式に変更したこともあり、ハイブリッド型の授業を初めて行ったことも含めて、授業方法に苦慮した。
- ② 理解が深まり自分のためになったかどうか、アンケート項目の結果から、もう少し検証していきたい。6.において平均値が少し低かったため、今後の課題とさせていただきます。場合によっては、授業時間中に、小テストを設け、この授業の到達目標に向けて力をつけさせることも必要ではないかと考えた。予習・復習については、すでに提示したシラバスによって、いつでも準備できる状況にただけでなく、補足の資料などもアップロードしながら、注意を払ったが、今後は、さらなる工夫に努めたい。
- ③ 授業時間中に反転授業などを行うことも考えたい。ただし、コロナ禍の中、それが可能かどうか分からない状況にある。秋学期においては、わかりやすい具体例なども取り上げながら、アンケート項目の結果を検証し、他授業の担当科目のシラバスなどを多く見ながら、授業の改良に努めていくことにしたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本経済論A
授業コード	40D74-001
教員名	丸山 雅章
教員コード	104492
登録人数	98
回答数	38
回答率	38.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

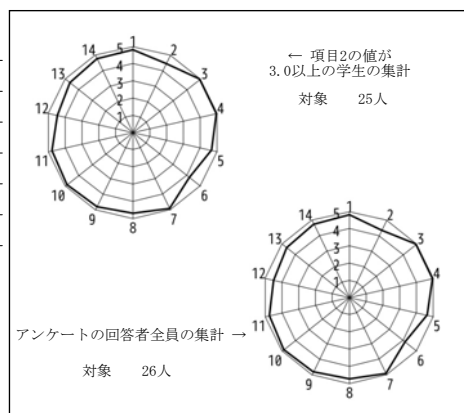


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について
開講当初の目標（日本経済に関する主要なデータ、日本経済の現状・課題について理解できるようになる）については、おおむね半数程度の受講者において達成されているものと推量している。
- ② 数値データ及び自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
日本経済の主要な側面について、できる限り最新のデータを示して説明するように努めたが、データ、事象、制度に関する説明が多いこともあり、ポイントが見え難く全体として単調な説明になりがちであった。受講者のレベルが把握できず、初めて聞く者にとって難しい内容になったり、1回の授業で説明する分量が多すぎる項目もあった。
また、大教室のマイクの操作に不慣れで、音声途切れたり小さくなることがあった。
- ③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
今後の授業では、ポイントを強調する、基本的な事項は繰り返すなどして、メリハリのきいた説明をするようこころがけたい。また、1回の授業で説明する分量を詰め込みすぎないように、調整したい。講義資料についても、こうした点を考慮して作成するようにしたい。
また、教室では音声を聞きやすい、スライドを見やすい環境となるよう工夫したい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ビジネス英語IIオーラル・コミュニケーション1
授業コード	42G03-001
教員名	WOOD, Joseph
教員コード	103072
登録人数	26
回答数	26
回答率	100.0%
休講回数	0回
補講回数	0回

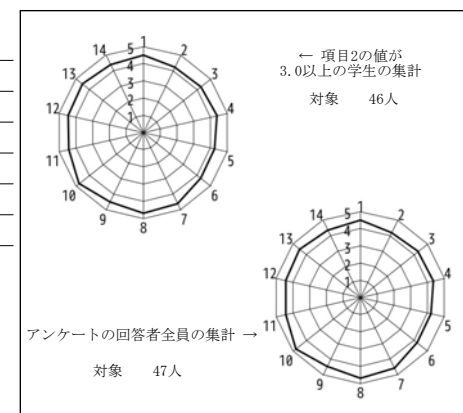


授業評価結果を踏まえた点検・評価

My goals for the course included having students use English as much as possible during the class. I also wanted to motivate students to become more interested in studying English outside of class. I feel that my goals were achieved based on students' active participation each week in the classroom and their enthusiasm to study English. Based on the survey results it appears that students enjoyed my class and approved of the way I taught it. I am happy to receive such positive feedback from my students. Although the majority of students' feedback was positive and it appears overall that students really enjoyed my lessons, one student wrote that I gave answers to listening tasks too quickly. I will take that into consideration and give the answers more slowly in quarters 3 and 4. I will continue to find ways to improve the quality of my classes and to motivate students to improve their English both in class and at home. I will work on getting students to speak more English in class and to help build their confidence in using the language.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治・経済の諸相7
授業コード	13C06-007
教員名	山下 忠康
教員コード	101152
登録人数	125
回答数	47
回答率	37.6%
休講回数	0回
補講回数	0回

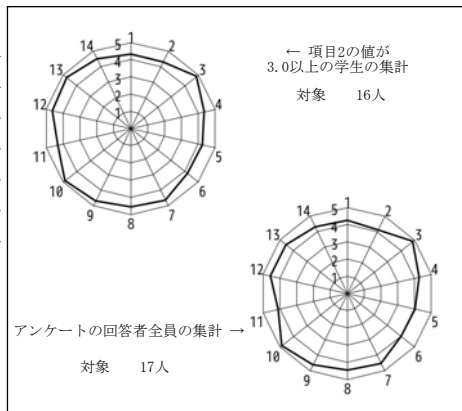


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
「金融・経済の基本的な仕組みを理解している」、「ライフプランニングと資金計画が作成できる」、「リスクマネジメントの基本を理解している」、「金融資産運用の基本を理解している」、「FP3級試験に合格できる」の5つを到達目標として掲げていたが、筆記試験の状況から判断しておおむねその目標をクリアできたと考えている。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
数値データに関しては、ほぼ平均であり、特にコメントはない。自由記述については『終了時刻を守っていない』という指摘があったが、授業冒頭でおこなったスケジュール等についての説明を再度、終了後にレポートしているだけなので、最初から参加している学生は居残って聞く必要もないはずである。当方としても学生にも毎回そのように伝えている。ただし、多くの学生からは前向きな感想を頂けていることに関しては担当教員としても嬉しい限りである。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など。第3クォーターに、同じ内容で行うが、新型コロナウイルスの関係で対面授業になるのか、オンライン授業になるのか、分からないが、学生にとって教育効果が最大になるような形を大学としては選択すべきであると思う。この科目については、いわゆる教員からの知識提供型なので、対面よりもむしろオンライン方式が適合していると、担当教員としては認識している。また、定期試験のあり方について、今後も、入学試験と同様に感染対策をしっかりと行なった上で、対面試験を行うべきだと思う（本科目に限定していえば、レポートで学生の習熟度を計測することは現実的ではないと感じている）。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報を読む3
授業コード	13E07-003
教員名	宮元 忠敏
教員コード	017293
登録人数	48
回答数	17
回答率	35.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



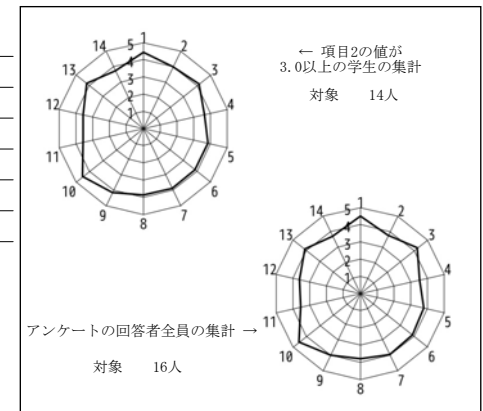
授業評価結果を踏まえた点検・評価

目標と到達：暗号（対称、非対称）と誤り訂正符号の分野で、手計算と計算機出力を通し、その内容を概観すること。概ね、予定どおりにすすめられたが、カラクリの部分の説明の一部を、時間配分の結果、省略した。

自己点検・評価：履修者数は途中、減少したが、履修を継続し続けた学生からは、高い数値の評価をえた。ただ、講義資料のpdf fileの印刷が上手くできなかったこと、100分の授業時間中、休憩の時間が適切にとられていなかったこと、その旨、コメントを受けた。授業形態は、zoom、zoom + 対面、対面と状況に合わせて3様に変化した。講義資料置き場に公開用講義ノートを余裕をもって準備しておき、授業ではそれらの原板となった資料を使って、授業形態の変化に対応した。授業中、手書きに時間が取られない一方、プレゼンにおいて、内容がトンチンカンにならないよう注意した。一般に、重層的に繰り返し、繰り返し、内容のプレゼンを行った。この分野はすそのが広く、また、新旧の入れ替わりが激しい。新たな方法論、新たな視点をどう準備できるかが重要なポイントである。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	マーケティング論B3
授業コード	42C10-003
教員名	南川 和充
教員コード	100478
登録人数	27
回答数	16
回答率	59.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

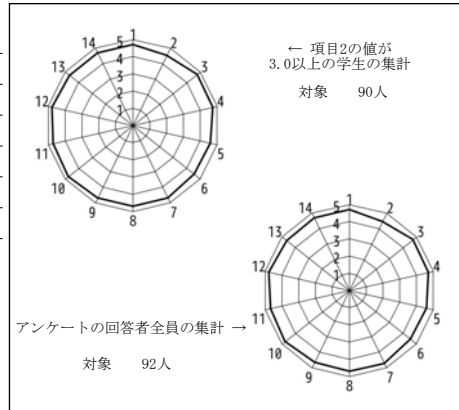


授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目1を除く全項目が経営学科科目での平均点を下回っており、毎回のごとく反省している。しかし、長年低迷していた本科目の授業評価結果は全項目で、前回に引き続き、例年にない改善をみた。これは偏に、受講生が27名と少く対面授業の受講環境がよくなり、受講態度を改善してくれたことによるものと考えている。到達目標は(1)～(4)（シラバスを参照）を設定した。これらを達成するために例年同様に中間試験および数回の課題を課した。目標(1)(2)について肯定的評価の自由記述（マーケティングについて深い知識を付けることが出来た。）があった。目標(3)(4)については期末試験（筆答）の出来が良好であったことから、達成されたと判断できる。項目6に関連して、次年度の方針として昨年に掲げた「中間試験結果の返却」を行ったので、力が身につけていることを受講生に実感させることができたと思う。次学期は課題のフィードバックも実施したい。自由記述欄「改善すべき点」には、少し進むのが遅いと感じた、話が何度も脱線し、説明がたどたどしく遠回しで言うため理解しづらかった、などがあつた。このような記述はここ数年毎回あるが、これは説明中に私が受講生の理解度を正しく把握しあぐねていることが原因で、説明が過剰になってしまうのだと思う。今後の授業では、最初はさらっと説明するだけにどめて、その後に質問の時間を設けるといった取り組みをしたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 マーケティング・コミュニケーション
A
授業コード 42C36-001
教員名 川北 眞紀子
教員コード 102879
登録人数 184
回答数 92
回答率 50.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

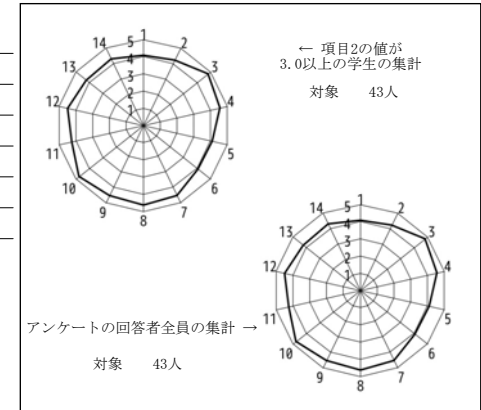


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①広告や広報など企業のマーケティング・コミュニケーションについて体系的な知識を持つ。簡単にコミュニケーション計画が立てられる。が目標であった。小テストや期末テストを見ていると、概ね、用語レベルでの知識はついたと考えられる。体系的に理解してもらえているかまでは測定できていないが、企業のマーケティング・コミュニケーションに興味をもってくれていることが、毎回のコメントで伺える。②すべての項目が4.47以上であり、全体満足は4.68と非常に高く、経営学部の平均4.30、121人～240人の4.27と比較しても高いといえるだろう。③改善点は、効率的に準備をしたいということである。オンラインになってから、なるべく学生たちとの双方向を考慮し非常に時間をかけて準備をし、毎回の質問に回答してきた。しかし、かなり時間がかかってしまい疲弊した。毎回の質問へ回答していたし、サポーターとして声出しする機会も作っているのに、質問タイムがほしいという自由回答があった。また、180名の授業であるため個別対応をしなくてすむように事前ルールを作っていたが、個別に対応をしないことへの批判があった。これだけ準備をしても、足りないという自由回答をもらったのは遺憾である。今後は、時間をかけずに効率的に実施する方法を考えたい。講師への依頼や打ち合わせにもかなり時間を使っているが、これも難しくなるかもしれない。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 原価計算論
授業コード 42C45-001
教員名 窪田 祐一
教員コード 102901
登録人数 105
回答数 43
回答率 41.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初は、次の2点を受講学生の到達目標としていた。

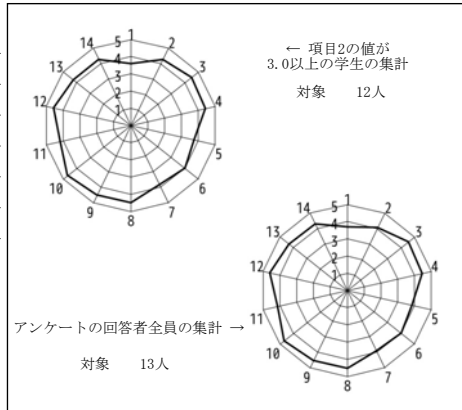
1. 原価計算制度における基本的な原価概念、原価計算制度、ならびに理論を説明できる。
 2. 企業の原価管理の基礎を説明できる。
- 多くの学生は、この目標を到達したと思われる。

アンケート結果を見ると、設問1「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか。」が4.07と経営学科の平均4.15より若干低い。他方、授業運営に関する設問8～設問12は経営学科の平均をすべて上回る結果であった。しかし、全体的な評価に関しては、経営学科の平均より、設問13が若干下回っており、受講学生は他の科目ほど新しい知識の獲得や理解が進んだと評価していないようである。理由として、計算技法の定着が進んでいないことが考えられる。設問14の満足度は経営学科の平均と同じであった。この結果から、当初は興味が低い者もいるが、講義を通じて、満足度を引き上げることはできていると思われる。

次年度以降の改善点としては、シラバスの授業概要の記述を見直すことで、履修前の興味を高めたい。また、宿題を課すなどして、計算技法への理解を深めるように促したい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経営統計学
授業コード	42D05-001
教員名	松井 宗也
教員コード	102275
登録人数	38
回答数	13
回答率	34.2%
休講回数	1 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業では「経営学を学ぶ上で将来必要となるデータ解析方法を身に付ける」ことを授業目標とした。授業内容は「統計学Ⅰ・Ⅱ」で学ぶ理論的知識を前提として、それをシミュレーションないし実データを用いて実践するというものである。無料の統計言語「R」のプログラミングを用いる。教科書はごく標準的なもので、プログラミングが一から学べるようになっている。他大学（南山大学と同程度かやや上の難易度）と比較しても遜色の無く、また生涯にわたり使える内容である。もちろん卒業論文作成にも役立つ。

実際に学生のレポートを採点すると、学生は完全に授業内容を消化しているとは言い難い。しかし、最終レポート（データを見つけ、「R」と「Excel」で解析し、考察する。）から判断すると、学生の多くは実データの解析がきちんとできているようである。両ソフトウェアの結果もきちんと一致していた。それゆえ、授業目標の6割から7割程度は達成できたと判断する。未消化の内容は、経営学を学びつつその都度必要に応じて補ってあげれば良い。

以下に授業評価集計を踏まえた反省点を述べる。今学期はハイブリッド授業であったため、大学に来れない学生用に動画をアップロードした。内容は1年時の統計学の復習も含めたものである。動画は学生には自分のペースで授業に取り組めると好評であった。プログラミングの実習に関しては、大学に来れる学生も限られていたため、一人一人のパソコンを見回ってプログラミングを指導できなかった。しかし、分からないことがあると対面授業に参加して質問をする学生（普段はオンライン）には、直接指導をすることができた。そのためか、評価基準が完全オンラインの前年度を上回っているものも多かった。現在はコロナウィルス感染者が増加傾向にあるため、次年度もハイブリッドになる可能性が十分にある。オンラインでもさらにきめ細やかな指導を行うために、プログラミング上で学生の間違い易い点を文章にするなどして、より一層授業の質を高めたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	意識調査法
授業コード	42D06-001
教員名	安藤 史江
教員コード	019554
登録人数	13
回答数	4
回答率	30.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

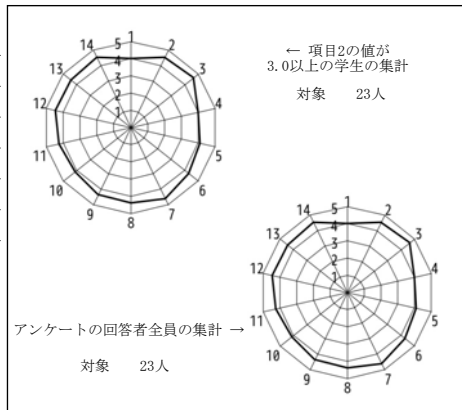
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では、統計フリーウェアRを用いた質問票調査の分析スキルを一通り習得することを目的とした。変則的な開講時間（当初3限から5限へ）となったことから、オンラインで実施し、それ自体は画面が見やすい、具体的な操作方法がわかる、などで問題なかったのではないかとと思うが、内容について難しいと感じた学生も多かったように受け止めている。受講者数がもともと少なかったが、授業評価を提出した受講者が少なかったことから、そう判断している。したがって、次学期に関しては、難度をもう少し下げること検討したい。特に、レポートの作成で苦戦したところも見受けられるため、レポートに関する難度を下げるのがよいのではないかと、現時点では考えている。また、授業形態についても、対面とオンライン、いずれが効果的か一長一短で判断が難しいところがあるが、対面で同じ教室内にしながら、画面はzoomを通じてみられるようにするなど、併用することによって、効果が高まるか試みたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	データ解析B
授業コード	42D10-001
教員名	奥田 隆明
教員コード	102600
登録人数	49
回答数	23
回答率	46.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

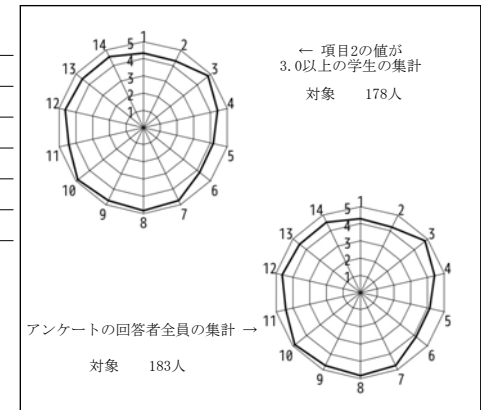


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度は、リニア中央新幹線のインパクト分析を例に取り上げて講義と演習を実施した。数学や統計（Excelの操作を含む）を得意としない受講生にも理解できるように、できる限り復習を行いながら授業を進めた。しかし、当初の目標は概ね達成することができたと考えている。実際、受講生の目標理解（設問6）については平均値4.13（学部平均4.12）、目標到達（設問7）については平均値4.30（学部平均4.09）となった。また、受講生の知識・理解（設問13）については平均値4.43（学部平均4.35）、総合的な満足度（設問14）についても平均値4.52（学部平均4.30）となった。自由回答欄を見ると「分かりやすい」という指摘がある反面、「チャットの意見に気が付かなかった」との指摘も見られる。来年度は、今年度の経験も活かしながら、数学や統計（Excelの操作を含む）を得意としない受講生にさらに理解できる内容にすることを心掛けたいと考えている。また、オンライン授業についても改良を加えたいと考えている。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	企業論A
授業コード	42E01-001
教員名	後藤 剛史
教員コード	100374
登録人数	297
回答数	183
回答率	61.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

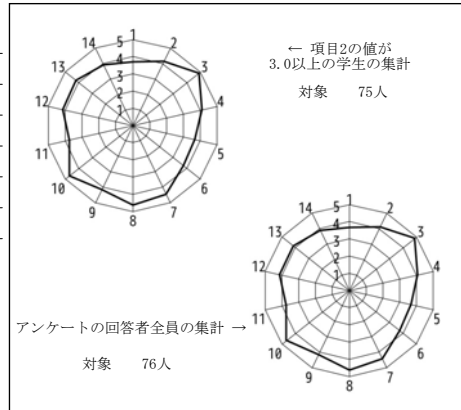


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①シラバスに掲げている「学生の到達目標」は「様々な経営戦略について、そのメリットとデメリット、あるいはそれら戦略の狙いを、経済学的に考えることができるようになること」である。4回の小レポートおよび期末レポートの出来ぐあいから見るに、この目標にある程度到達した者が受講生の大半を占めるように思われる。
- ②設問14（総合的な満足度）の平均値は4.54で、昨年度の本科目の平均値4.67を若干下回ったものの、経営科目や受講者数241名以上科目の平均値を上回っており、まずまずの授業運営ができたものと自己評価する。また、全183件中73件に設問15（良かった点についての自由記述）の回答があり、それらはひと言で言えば本科目の授業運営をいろいろな点から褒めてくれていた。どれもありがたいが、何より「興味を持って勉強できた」という声を引き出したことをうれしく思う。
- ③全183件中43件に設問16（改善してほしい点についての自由記述）の回答があった（そのうち20件は「なし」や「特になし」なので、実質は23件）。それらの内容は「少し難しかった」、「話すスピードが速かった」などである。次年度以降、このように感じてしまう受講生に対する対応をよりきめ細かくしたい。ただ、Zoomのチャット機能を用いた質問タイムは頻繁に設けたし、「この部分をもう一度説明して下さい」という声にも必ず応えたので、これ以上どう対応すべきか悩むところではある。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経営環境論A
授業コード	42E05-001
教員名	薫 祥哲
教員コード	018168
登録人数	173
回答数	76
回答率	43.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

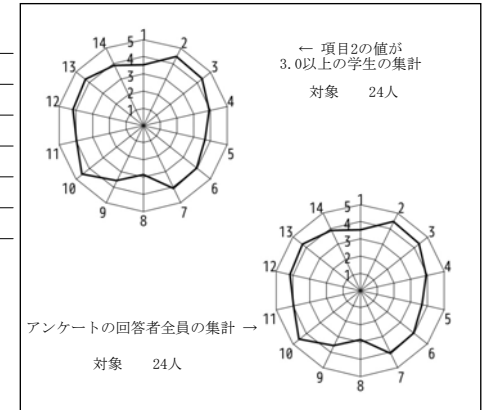
枯渇資源の最適利用、汚染問題、環境資源を公共財や共有資源として捉えた場合の最適な資源利用などについて、ミクロ経済学的なアプローチから講義を行った。また、環境税や排出権取引制度についても、その特徴やメカニズムを説明した。何ごとにも費用とメリットが発生し、これらを比較検討した費用便益分析から最適な環境政策が決定できることの重要性を理解することを目的とした。授業評価項目の設問3～14の全体平均は4.19であり、これらの目的は概ね達成できたと思われる。

14回のZoom授業を行い、学期末の筆記試験以外に、学期中には練習問題課題を3回だして小レポートとして提出させた。DLサーバには、31ページ分の講義レジュメと授業トピックに関連する新聞記事などをアップしておいた。また、講義では「書画カメラ」を用い、紙に図・グラフや数式を書きながらレジュメの内容を解説した。自由記述欄のコメントでは、このようなZoomによる手書きの説明や、講義動画をDLサーバに残しておく事によって、後から解らなかった点を復習できた点に好評価が集中していたので、この講義スタイルを継続したい。

良かった点として、「図やグラフがとても分かりやすかった」「オンデマンドで理解できないところを復習できた」「説明が丁寧でとても分かりやすかった」といったコメントがあった。一方、「少し早口で、まだ書いている途中で先に進んでしまうことがあった」「小休憩なしで早いペースの授業についていくのが大変だった」との指摘もあった。今年から100分の14回授業となり、休憩時間の必要性は感じたが、全体としては例年の講義内容をカバーするには時間が足りなかった印象がある。今後、どのような授業時間配分が最適であるのかを考える必要があると感じた。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	オペレーションズ・リサーチA
授業コード	42E15-001
教員名	姜 秉国
教員コード	019547
登録人数	35
回答数	24
回答率	68.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

評価項目全般にわり良い評価を得ている。出来るだけ数式を使わずに平易な言葉で説明したこと、定型的な問題の解答方法よりORのモノの考え方を理解してもらうよう努力したこと、また身近な応用問題を多く取り入れたことへの評価と受けとめている。今年は特にExcelに不慣れな生徒が多かったため、その基本的な使い方から説明する必要があるあって、できる限り学生の理解度に合わせて進めていった。その結果、授業目標は十分達成されたものと判断している。自由記述式回答（評価できる点）には、以下のような回答があった。

- ・シフトの作成など内容が興味深かった。
- ・ソルバーを使えるようになった。
- ・Excelのソルバーを軸として授業を進めていたが、その有用性を知ることが出来た。
- ・質問をたくさん聞けた点。
- ・わからないことを質問したときに、業後の時間でも理解できるまで教えてもらった。
- ・先生の表はとてもみやすく分かりやすかった。
- ・実践的なケースを用いて、学習出来た事。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Corporate Finance A<国際科目群>
授業コード	42G15-901
教員名	BREMER, Marc
教員コード	017913
登録人数	6
回答数	4
回答率	66.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course is an introduction to the ideas involved in making financial decisions. The goals are to understand how organizations invest in real assets and how they raise money to pay for these investments. The single most important idea is value. The course also considers current issues in Japanese corporate governance.

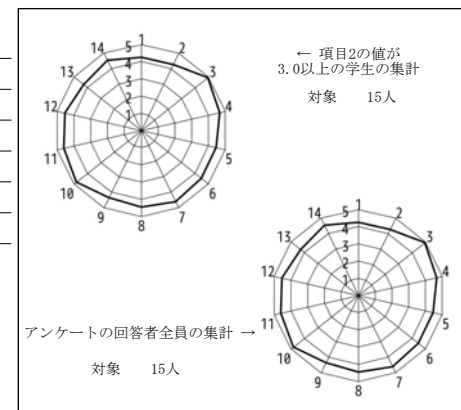
The overall evaluation of the class by students was quite good. The average response in this area was 5.00 which compares favorably to the Nanzan average of 4.35. Similarly, students felt that they gained fresh knowledge from the course as well as found themselves more interested in corporate finance. The goals of the course were achieved.

This particular offering of the course included supplemental discussion of the corporate governance problems being experienced by Toshiba Corporation. Future versions of the class will add discussion of the pandemic's impact on supply chains. Sourcing parts from multiple suppliers can potentially create value by giving companies greater security at the cost of smaller scale economies.

This course welcomes students from outside the department of business administration.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語で学ぶ経営学(マーケティング)
授業コード	42G22-001
教員名	湯本 祐司
教員コード	017533
登録人数	40
回答数	15
回答率	37.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

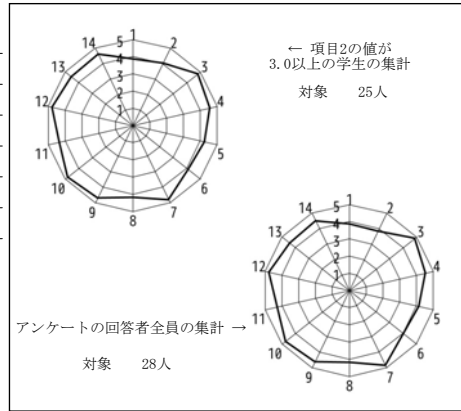


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は英語で価格戦略の基本的な理論や考え方および事例と価格戦略の理論の関連が理解できることを到達目標としている。経営学部の選択科目であり、40名の学生が履修した。昨年度は23名だったのでかなりの増加である。学生の報告、授業毎のワークシートおよび期末レポートをみるかぎり、きちんと出席して課題を提出した学生は目標を達成している。授業評価では履修登録者40名のうち15名が回答し、項目1から14の平均と項目3から14の平均はそれぞれ4.51と4.56であり、昨年度とほぼ同じである。すべての設問の平均値は4.27から4.93の間にある。自由記述欄の回答は、「高校までで習った英語の基礎を活かした」「少し早口で内容が聞き取りづらかったため、もう少しゆっくりと話していただきたいかった」などである。昨年度の改善点として、学生が報告する際にもっと質問や解説をいれて、その他の受講生に単調さを感じさせないような工夫をすることをあげたが、「学生が発表している間に、横槍を入れてるのが不快だった」と言うコメントがあり、次年度はゆっくり話すこととともにその点をさらに改善したい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本国憲法4
授業コード	12C03-004
教員名	沢登 文治
教員コード	017863
登録人数	58
回答数	28
回答率	48.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

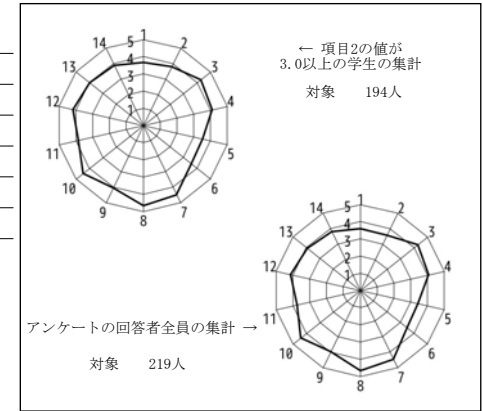
Q2の初期はリモートのみ、続いてハイブリッド、最後は原則対面のハイブリッドと、全種類を経験した学期で、様々な対応に追われることになった。しかし、全体的にはそれほど案ずることはなかったことが分かる結果であった。

(6)「到達目標に向けて力がついてきている」が昨年度は4.24で今回は4.04へと降下したが、今後も目標を意識してもらうことに注意しながら進捗すべきと感じた。(12)「質問や相談の機会」については、これまでに高く高い数値で4.79(前回4.68)で、zoomおよびWebClassチャット機能やWebClass質問箱・メールなど、利用可能な方法のいずれも採用した点によるのかもしれない。今後も継続して受講生とのコミュニケーションに気を配りたい。(14)「全体の満足」は4.61から4.50へと降下したが、授業方式や試験方式の同一学期内での変化の影響があるのではないかとも思うが、さらに検討していきたい。

また、項目17(自由記述)で、「ハイブリッド授業の際に、音声非常に聞き取りにくいことがあった。おそらく話しているマイクとパソコンが連動していなかったのだと思うが、エコーもひどく聞き取ることが困難かつ苦痛であるときがあった。」との指摘があった。他の学生からは「インターネット接続も問題なかったし、資料も見やすかった。」という意見もあり、授業担当者としては判然としないところだが、ハイブリッドの場合には受講生の意見をさらに頻繁に聞くなどして、注意していきたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人権総論
授業コード	44A17-001
教員名	河合 正雄
教員コード	104426
登録人数	326
回答数	219
回答率	67.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①②③を総合した今回の反省点は、以下の通りである。

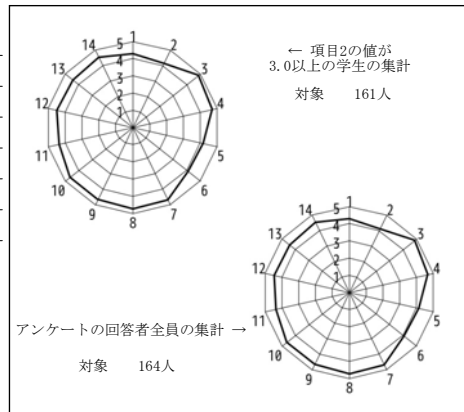
(1) レジュメについて。項目15と16に共通して最も多く、見事に評価が割れた。「非常に詳しく」「充実していた」、「全授業の内容がまとめられて」いた等のコメントがあった反面、「行間が詰まっており書き込みがしづかった」、「情報が多すぎる」、「読みにくい」等の批判があった。高い評価も得られているため、今後は情報量を維持ないし微減させつつ、ある程度余白を意識したレジュメを作成する。

(2) 教科書について。1年前期配当科目としてはやや難解であった可能性が高い。これが①の平均点割れや項目16の一部のコメントにつながった可能性がある。卒業後も使用に耐えうるものとして指定してきたが、私の講義は厳密には教科書の順序通りには進行しないこともふまえると、次年度以降は教科書の変更を検討したい。

(3) オンラインでの受講環境について。私の予想とは異なり、特に問題ないようである。但し、私が「チャットをこまめに見すぎて、説明が断続的になり、生徒側(ママ)の集中力が切れる場面が多々あった」との回答があった。学生の顔が見えない中で可能な限り丁寧に対応しようとする意図があったのだが、その通りだろう。私自身も集中力が切れてしまったので、今後は気を付けたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	刑事訴訟法A
授業コード	44B09-001
教員名	岡田 悦典
教員コード	100621
登録人数	317
回答数	164
回答率	51.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

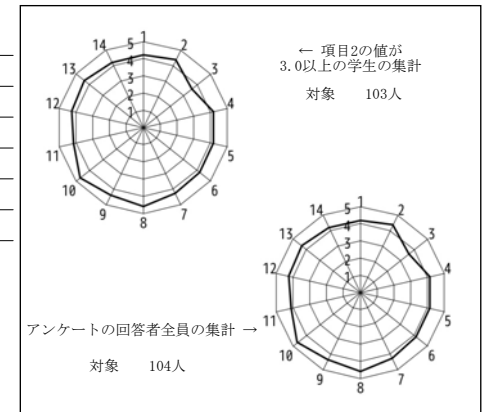


授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業毎の内容・到達度を、今回は明確に意識して、講義をすることができたと思っている。学生にもその点はわかりやすかったのではないかと考える。ポイントは、講義ごとのテーマを明瞭にし、かつ、復習問題を絡ませたことである。それを第2回目の授業のときの初めに解説し、自習と定着度を促した。さらに、講義中間で質問タイムをとったことも有効であったと思われる。それでも、主体的な授業参加、到達目標の理解は、4.1前後なので、大講義としては限界があるようにも感じる。なお、オンラインでの授業だったことと、レジュメで視覚的にわかりやすい図なども今回は導入したので、資料配布、提示についてはまったく問題がなかったようである。今後、対面の大講義になったときに、この形態が維持できるのか、ということが課題である。また、到達目標の共有化が今後の課題である。授業の形態は現状でほぼ問題ないと思われるので、学生が関心を引きそうな内容をさらに充実させるといったコンテンツの強化に比重を置きたいと思っている。問題の解答例が欲しいという意見もわずかではあるものも寄せられたので検討する余地はあるが、そうすると授業を聞かなくてもよいということにもなりかねないので、当面は現状を維持したいと考える。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	民事訴訟法B
授業コード	44B26-001
教員名	渡邊 泰子
教員コード	101553
登録人数	258
回答数	104
回答率	40.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2021年度「民事訴訟法B」の授業は、Q1の「民事訴訟法A」に引き続き、オンラインでの実施であった。授業評価の各設問の平均値は4.24であったが、内容上きりの良いところまで進んだり、終了間際にチャットで質問があった場合は答えている間に終了時間を数分超えてしまうこともあったため、設問3の値が低くなった点については反省したい。

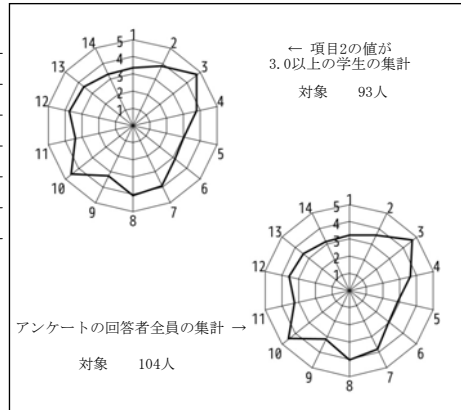
対面授業であれば授業終了後の学生の質問などを踏まえて、次回授業で復習を兼ねて説明するなどの対応ができるが、オンライン授業では学生の理解度を把握することが難しいため、Webclass上で小テストを複数回実施して学生自身が復習しながら自分の理解度を確認できる環境を整え、全体的に正答率が低い問題については後日重点的に解説をおこなうなど、できる範囲での工夫を試みた。

レジュメは毎年わかりやすいと評価されてきたが、オンラインではさらに画面共有を用いて図や説明を補足しながら丁寧な授業を心掛けた。自由記述の回答でも、その点について多くの学生に好意的に受け止められていることがわかった。

オンライン授業が始まった当初は、対面授業と比較してデメリットばかり気になっていたが、チャットで質問が出ればすぐに詳しい説明を付け加えられるメリットにも気づいた。来年度、対面であれオンラインであれ、学生の声を聴きながら、より良い内容の授業を提供したいと考えている。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際私法A
授業コード 44B29-001
教員名 青木 清
教員コード 017855
登録人数 174
回答数 104
回答率 59.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の授業評価結果には、大変戸惑っている。例年、4.3~4.6ぐらいで推移している全体の平均値が、今回は、3.5にとどまっている。約1ポイント、下がっていることになる。オンライン授業による影響かとも思ったが、他科目の評価にそれほどの変化は認められない。自由記述に多く見られる指摘は、レジュメをもっと詳しくして欲しいというものであった。これは、例年見られるもので、担当者としてはノートテイクの練習をしっかりとってもらうため、レジュメは骨格のみにしている。このあたりの趣旨が、今回は必ずしも伝わっていなかったのかもしれない。

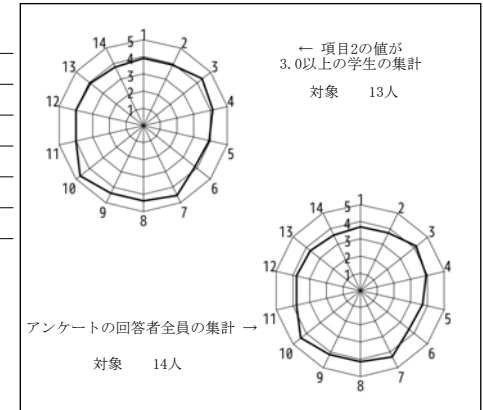
答案についても、例年に比べ、理解が深まっていない印象を受けた。「国境を越えた形で発生する私法上の問題の解決枠組み」を理解するという、本講義の第1の目標に達していない答案が少なくなかった。

講義室での講義と異なり、椅子に座ったままで説明をしていくスタイルでは、私自身も説明が多すぎるとは感じていた。このあたりも不評の原因だと思われる。

次回以降は、オンライン授業であっても、板書をうまく使い、ペースを落ち着かせたいと考えている。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 法哲学A
授業コード 44B31-001
教員名 服部 寛
教員コード 103600
登録人数 65
回答数 14
回答率 21.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

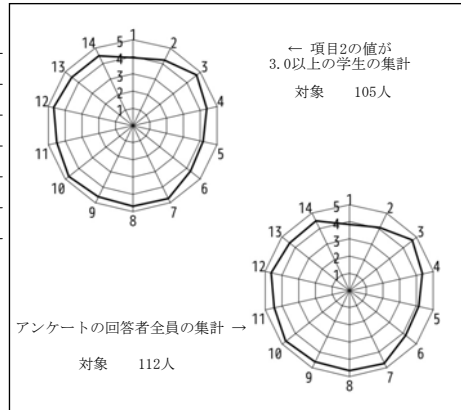


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①本授業は、今年度、対面・ハイブリッドでの実施となり、これまでにない負担の中、おおむね予定していた内容をスケジュールに沿って行うことができた。開講当初に設定していた目標や到達の程度については概ねクリアできたと解している。ただ、2000年以上におよぶ西洋法思想史を扱うこともあり、扱う情報量もだいぶ多くなることは否めず、結果、いくつかの回については、扱うことを断念せざるを得なかった。それでも、本質的なポイントについてはしっかりと講じることができた。②数値データについては、アンケート回答数が少なく内1名が際立って低い評価を付けている（平均値が低下していることはこの点を念頭に置いて分析している）が、総体的に見て、概ね適当な評価となっていると思われる。③授業で扱う情報量が多く、学生の学習にとって難しい点があり得るが、成績を見る限りでは相当によい学生も相応にいることから、授業への積極的コミットメントについては、やはり学生側の関心の持ちよう（とりわけ世界史の背景的知識の有無）が小さからぬファクターとなっている。この点の「敷居の高さ」をどうしていくかについて、次年度以降の講義のあり方の工夫に活かしていきたい。なお、開講形態が対面・ハイブリッドということもあるからか、出席者数（Zoomについても）は目視での確認で受講者数の半分に達しない状況がほとんどであった。資料配付のあり方についても考えさせられるところがあり、今年度の経験やアンケートを活かして、次年度に改良に努めたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	債権法総論
授業コード	44C12-001
教員名	大原 寛史
教員コード	104297
登録人数	308
回答数	112
回答率	36.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問1を除くすべての項目において、平均値4.5以上を目標としていた。もっとも、複数の設問（2、5、6、11、13、14）において、目標に達しなかった。これだけ多いということは、ひとえに担当者の能力不足であったと反省している。

各数値データおよび自由記述欄をふまえると、受講生に評価をいただいた点も若干ある。この点については、今後の講義でも継続していきたいと考えている。

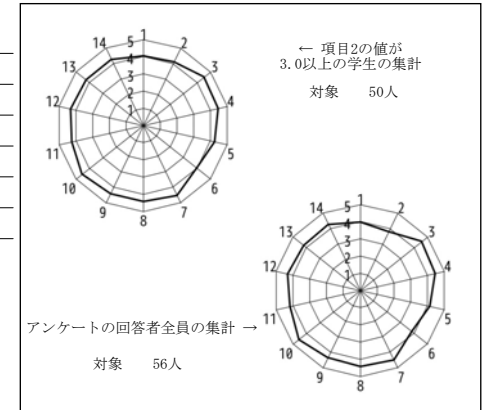
他方で、課題は多い。大きく3点を挙げることができる。すなわち、①進行速度、②配布資料、③難易度である。それぞれ肯定的な評価もみられるところではあるが、少しでも受講生にとってよい講義を提供するため、改善の方向性を検討したい。

①については、理解に苦しむ内容についてはゆっくりと、その他についてはテンポよく進めることを心がけていた。もっとも、その振り分けが適していなかったかもしれない。大きく変更をする必要はないが、ペース配分については再検討する。

②③については、重要なポイントとその理論構造をフォローしながらも、できるだけ分量を少なく、かつ、わかりやすくすることを意識した。過去のアンケートのコメントに比して、分量の多さ、難易度への批判は少なくなっているが、未だ存在している。よりブラッシュアップするかたちでの再検討を要するが、法学部の専門科目としてのレベルを下げるつもりはまったくない。バランスを意識しながらの調整とする。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国際政治学B
授業コード	44B48-001
教員名	POTTER, David M.
教員コード	100098
登録人数	163
回答数	56
回答率	34.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

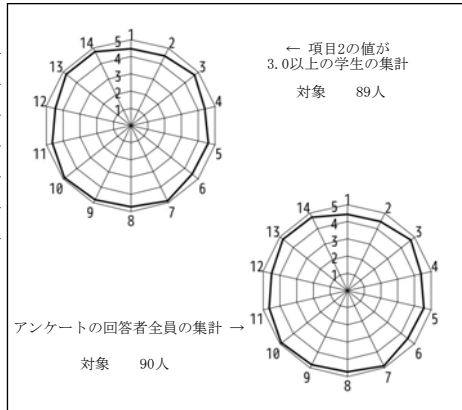
This is the second lecture course of a two-course series that runs from Q1 to Q2. There was a fair change in student enrollments between quarters, so I was a bit concerned about students starting in the middle of the course. This course was taught online due to Covid-19 and resulting university policy designed to prevent infection among students and staff.

The responses were mostly positive. Written comments in particular were positive about the content and presentation of the course. A number of students commented that the course content was easy to understand. There was no real clustering of comments about how to improve the course.

In future I will continue to teach this course in the way I have developed over the last two or three years. In future I expect to try to refine the links between some of my specialized lectures and the content of the textbook I use.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地域と文明B(ヨーロッパ)
 授業コード 46B02-001
 教員名 山田 望
 教員コード 000211
 登録人数 144
 回答数 90
 回答率 62.5%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

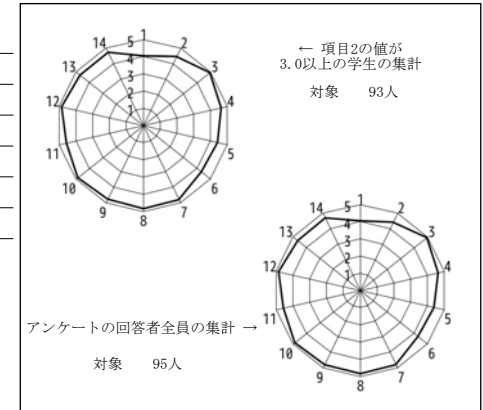


授業評価結果を踏まえた点検・評価

設問5、「この授業の到達目標を理解することができましたか？」について、総合政策学科科目全体の平均値が4.40だったのに対し、本授業の平均値は4.57と0.17上回っており、また、設問6、「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか？」について、総合政策学科科目全体の平均値4.32に対して、本授業平均値は4.51と1.9も上回っていたので、開講当初に設定していた目標と到達の程度については、まず申し分のない結果であったと言える。また、設問13、「この授業を通して、新しい知識を得たり、理解が深まったと感じますか？」については、総合政策学科科目全体の平均値が4.58に対して4.78と0.2上回っており、設問14、「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか？」の総合政策学科科目全体の平均値は4.56に対して4.74で、0.18上回っていたので、概ね、本科目の全体としての満足度は高かったと評価できる。反面、総合政策学科科目平均値を下回ったのは、設問3のオンラインで受講した場合、事前に予告された開始時間は守られていたかと、毎回の授業の構成や進行速度は適切なものだったかどうかを問う設問、さらに設問12の質問や相談の機会が十分に設けられていたか、という設問であった。理由として、毎回の授業内容がヨーロッパ史全体を概観するもので、かなり盛りだくさんだったため、学生によってはついていくのがやっとだった人もいたと考えられる。また、毎回の授業で動画を見せたが、説明に時間を取りすぎたため、終了予定時刻を2-3分すぎってしまったこともあったためであろう。次クォーターに向けて、少し進度を遅くしてゆとりをもって進行させ、また、終了時刻を僅かでもオーバーしないよう心がけたい。また、内容が盛りだくさんという印象を与えたかもしれないが、資料に圧倒されることなく、説明のポイント部分をつかむことに集中するよう指導したい。 以上

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 マクロ経済学
 授業コード 46D02-001
 教員名 水落 正明
 教員コード 102745
 登録人数 211
 回答数 95
 回答率 45.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

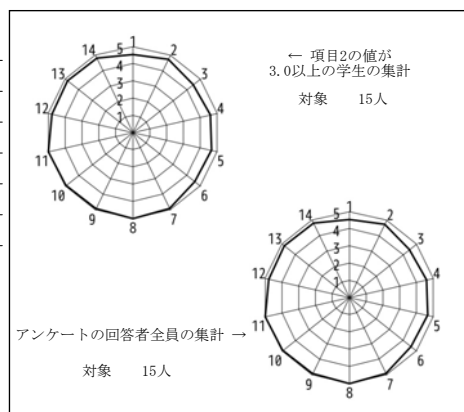


授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業に対する総合的な満足度（設問14）は4.69と、総合政策学科平均4.56をやや上回り、全学の同規模の登録者数121~240名の平均4.27も、比較的大きく上回る結果となっている。マクロ経済学は、数式（連立方程式等）を使いながら経済システムについて勉強する内容であり、数学が不得手の総合政策学部を中心とした学生にとってはかなり難しい講義の一つであるが比較的良い評価となった印象である。今年度のマクロ経済学は初のオンライン授業となったが、例年の対面授業よりも評価は上がっている。その原因としては、例年、数回の実施だった授業時間最後のミニテストを毎回に増やし、次の授業で丁寧に解説したことで、理解度が高まったことが考えられる。また、オンラインの特徴を生かして授業中に随時、質問を受けたことが自由記述からも学生の理解を深めるのに役立ったと考えられる。ミニテストを毎回にし、負荷を強めたことはマイナスの評価に繋がることも想定したが、その逆となったことは、今後の講義の参考になる。各質問項目について見ると、総合政策学科で平均値が公表されている14の設問において、平均値を下回ったのは設問1「この授業を履修する前、あなたは授業の内容について興味を持っていましたか」のみであった。これはシラバスが魅力的に書けていないことによると考えられ、学習動機を高められるよう改訂することを検討する。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 FIELDWORK METHODS<国際科目群>
 授業コード 46E01-901
 教員名 CROKER, Robert
 教員コード 100082
 登録人数 16
 回答数 15
 回答率 93.8%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

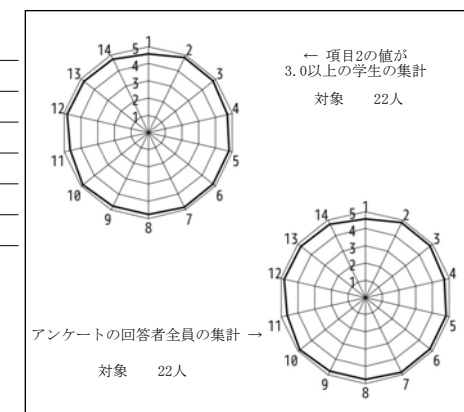


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The purpose of this class was to help students develop their social sciences fieldwork research skills. The main research skills developed were finding academic resources online, creating and conducting interviews, creating and analyzing online questionnaires using Google Forms and Sheets, and making a 10-minute group PowerPoint presentation. The results indicate that students enjoyed the class and found it useful. In their feedback, students wrote that they liked working in small groups - for some of these students, it was their first opportunity to do so - and that they enjoyed discussion with their own group and others. They also wrote that they appreciated instructor matching the class speed to the level and speed of the students, and provided many examples to help students understand. Students also appreciated the instructor spending time checking in with each group in every class to provide support and guidance and answer questions. Suggestions for improvement were that students would have liked more time to prepare for their final presentations, and that somehow the grading system should reflect not just group effort but each student's individual effort.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 総合政策日本語I
 授業コード 46F11-001
 教員名 山口 和代
 教員コード 049726
 登録人数 33
 回答数 22
 回答率 66.7%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

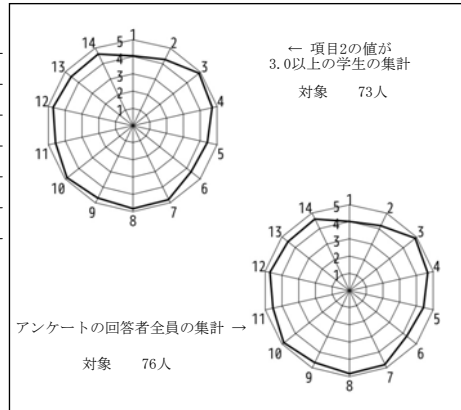


授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業の目標は、現在、世界・社会で起きている問題への理解を深め、具体的課題を取り上げ、問題解決に必要な資料（データ）収集と分析、議論を行い、合理的根拠に基づいた提言が行なえるようになることである。学生による授業評価の設問への回答結果から授業運営および全体的な評価に関する項目を見ると、4.55から4.86という結果であった。授業への興味についての項目が4.67、到達目標への理解についての項目が4.82、授業の到達目標に向けて力がついてきていると思うかという項目が4.82であったことから、学生たちが授業の目標を理解し、積極的に授業に取り組んだことが伺われる。以上から判断する限り、おおむね授業目標は達成できたのではないかと考えている。自由記述欄（授業の評価）への記入はいずれも肯定的なもので、多面的思考を行うためのグループディスカッションの効果をうかがわせる記述が複数あり、ゼミ（プロジェクト研究）の基礎となる知識と技術を学ぶという目標もある程度達成できたのではないかと考える。ただ、授業時間が10分長くなったとはいえ、授業回数が1回少なくなったため、グループ発表への準備時間の少なさについてのコメントもあり、学習項目をいかにバランスよく配置するかについての再考が必要だと感じた。今回はこれまでより人数も多く、オンラインと対面のハイブリッドで行ったため、zoomで参加する学生への配慮と工夫が必要だと感じたが、今後も学生の様子を見ながらモチベーションを下げることなく取り組んでいけるようにしたいと思う。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	財政学
授業コード	46K02-001
教員名	澁谷 英樹
教員コード	151974
登録人数	245
回答数	76
回答率	31.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

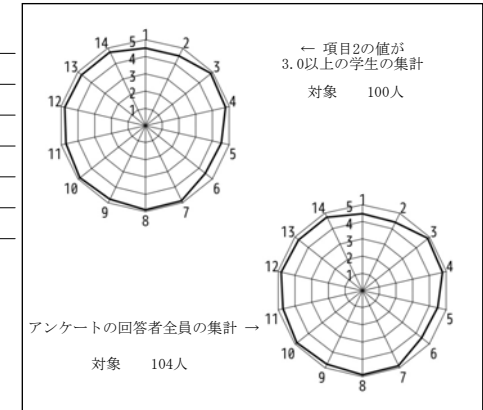
本講義は当初より200人を超える大講座であったうえ、途中でハイブリッド授業に転換したこともあり、学生からの質問に対応しつつ授業を円滑に進めることが課題となった。この点についてはおおむね達成したが、時間的な余裕に乏しく、学生と次の時間の講義担当者（三輪教授）に迷惑をかけた回がある。これについてはお詫びしなければならない。

全体として非常に良い評価を受けたものの、上記の他にも問題は残されている。第1に、コロナ禍の状況を観察しながらの授業であったため、成績評価をどのようにすべきかを迷った。これについては学生からの指摘は無かったが、私としては反省すべき点である。第2に、学生からの指摘もあったように、私の授業は情報量が多い反面、集中力の維持が大変な面がある。そのため、質問時間を設け、より活発な議論を広げても良かった。第3に、ハイブリッドについては引き続きよりよい授業形態を目指して（特に時間配分を）改善しなければならない。

なお、財政学の内容については次の地方財政論に引き続き論じるべき内容も多く、学生から質問のあった項目については地方財政論で掘り下げる予定である。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	組織行動論
授業コード	46K05-001
教員名	久村 恵子
教員コード	100026
登録人数	207
回答数	104
回答率	50.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

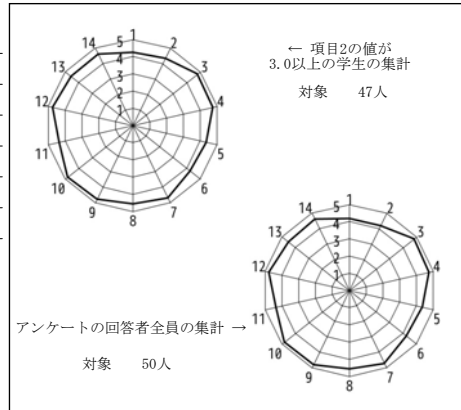
本科目は、組織とそこで働く人々の行動や態度、またその関係に関する理論や知見を理解すると共に、これらの理論や知見を用いて社会問題を考えることを目標にしている。具体的には、モチベーション、ストレス、リーダーシップ、組織開発といった組織行動論の主要トピックスについて、学術的理論や知見を社会問題や日常生活での様々な事象と関連づけながら説明し、組織行動論への理解を深めてもらえるよう努めた。

そして、本科目は昨年度と同様、オンライン授業となったが、設問1～設問14の平均値が4.70（2020年度4.74）、設問3～設問14の平均値は4.75（2020年度4.78）と、例年と変わらず授業運営および全体として肯定的な評価が得られた。自由記述も昨年度以上に多く寄せられ、「資料や説明が分かりやすい」、「課題の内容やタイミングが適切」、「オンラインでも授業が楽しく、対面で参加している気分になった」、「Zoomのチャット機能による質問タイムが良かった」などの肯定的な意見が得られた。

一方、主体的な学習に関する項目（設問2）は今年度も項目全体で最低値（4.40）であるが、ほぼ例年と同様の数値となった。ただ、自由記述にて「書き込み式のレジュメ資料が予習・復習で役になった」、「トピックス単位での課題が授業内容の理解や復習に役立った」とするコメントが多くある反面、少数であるが「課題が多い」とするコメントも寄せられたことから、今後もこの方向性で学生の自主性を促しつつ、課題の内容については検討しつつ、授業内容と構成、運営にさらなる改善を図っていきたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際法概論
授業コード 46L06-001
教員名 山田 哲也
教員コード 100839
登録人数 100
回答数 50
回答率 50.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

例年の進行具合に基づいてシラバスとレジュメを作成している。本年度から100分授業となったため、若干時間に余裕ができた一方、板書に相当するものとして、レジュメ（ワードファイル）に説明内容を補足しながら講義を行うため、授業中の負担は大きい。教科書を買わない学生や日本に（再）入国できない留学生がいることを考えれば、やむを得ないとする。全体を通して当初の目標は到達できたと思う。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

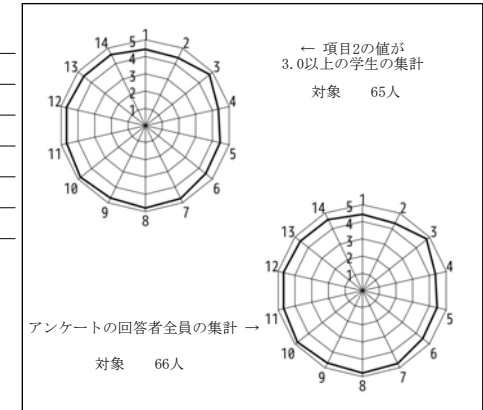
数値データや自由記述から判断する限り、自己評価以上の評価が得られたと考えている。通信環境については講義中にも確認するようにしたが、音が途切れるといったトラブルは、基本的に受講者側の通信環境によるものなので、その点については受講者に理解してもらいたい。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

オンラインであれ、対面授業であれ、配布資料に加えて、写真や地図など、視覚的・直感的な理解を促すような教材の導入を検討したい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済政策論
授業コード 46M04-001
教員名 鶴見 哲也
教員コード 102265
登録人数 178
回答数 66
回答率 37.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

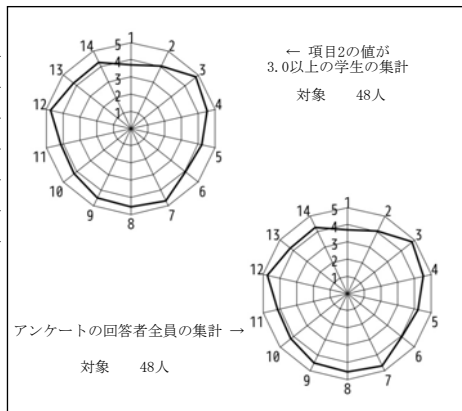


授業評価結果を踏まえた点検・評価

項目3から項目14の平均が4.64であり、同じ受講人数帯の平均が4.40であったのと比較して高い評価を得ることができており、全体として良好な評価を得ることができたと考えている。開講当初に設定していた目標と到達の程度についても、学生の最終レポートの水準から到達できたと考えている。自由記述の回答をみると、ほとんどが好意的な意見であり、特に学生とのチャットを通しての授業理解を深めるためのやり取りについて好意的に受け取る意見が多かった。今後オンラインが続く場合にはチャット機能をより活用して学生の理解度を高める努力を続けていきたい。オンラインが終わる場合にはwebclass等を活用してリアクションペーパーの形で学生の声を授業内容にすぐに反映できるように努力をしていきたい。学生が興味を持った内容を説明をした際にはチャットによる反応が多数あった。この興味を持ってもらった内容を次年度の講義にはより深く説明をすることで授業内容をより充実させていきたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	政治行動論
授業コード	46N08-001
教員名	野口 博史
教員コード	100473
登録人数	145
回答数	48
回答率	33.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の目標は政治体系論にもとづく政治発展論・民主化論といった諸理論の修得であるが、授業履修者145名のうち、単位取得者が134名、このうちおおむね良好な成績をおさめたものが132名であり、レポートの内容からもおおむね例年どおり目標を達成しえたと考えられる。だが、レポート非提出者が11名と、平年の定期試験欠席者より多く、コロナ禍の長期化にともなう影響とも思われるが、若干の懸念を覚える。

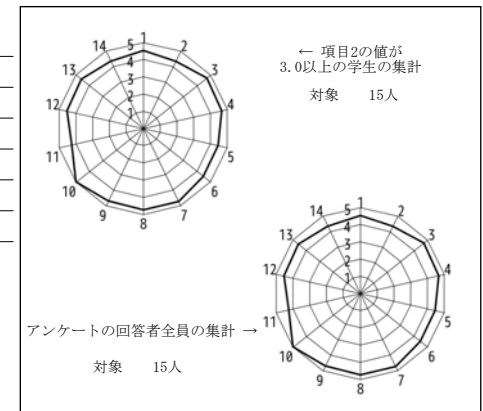
授業評価各設問に対する回答の平均値は、昨年度と類似しているが、3・9と低かった設問5が4.23と向上したが、音声ミュートを忘れる受講生が散見されたため、オンライン講義であったにもかかわらず、昨年4.75であった設問10が、4.19と低下した。

本年度も、昨年度と同様、オンライン講義対策として、従来の授業内容を8割程度に圧縮したためか、対面講義の時代より、やや設問13・14が低くとどまっている。この点につき、来年度どうすべきかについては今後、検討してゆきたい。

自由記述欄における、改善すべき点については、この音声ミュート問題に関する指摘が多く、通信環境にかんする指摘もあったが、Q棟において講義をおこなっていたことから、受講環境によるものとも思われる。講義におけるよかった点についての指摘は、大半が昨年度の指摘を受けて改善した結果であり、本授業においては、昨年以来のオンライン授業に対する習熟が進んだと考えている。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	環境科学
授業コード	46N24-001
教員名	大八木 英夫
教員コード	104123
登録人数	27
回答数	15
回答率	55.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

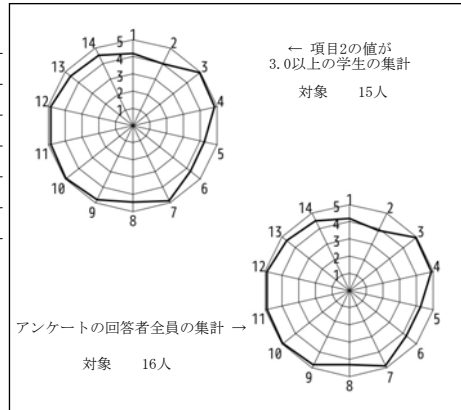


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業では、環境科学に関する各専門分野の知識を横断し、自然環境と人間との関わりを科学的に探究し、現代社会で生じている地球環境問題についての理解を修得させ、多岐にわたる専門分野における情報（数値）がもたらす意味を基礎的事項として授業を展開させた。内容については、常に生じている時事ニュースや科学における最新情報を取り入れて、日本だけでなく世界の各地の情報を提供しながら、学生の意欲を引き出すことに努めた。アンケート結果からは、進行速度や構成については、昨年度までの構成を変更したことにより、一転し評価され、概ね学生からの対応は良好であり、授業への展開については良好であったと考えられる。今後に向けては、特に、時事ニュースは、常に変化していくものであり、今後の授業においても古い知識にならないように気を付けながら、環境科学や地球科学、自然地理学等の複数の学問における様々な観点について授業を展開し、環境科学の基本論理の講義を介して、環境について自分で考える能力を身につけさせることを目標としたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	環境思想論
授業コード	46N28-001
教員名	太田 和彦
教員コード	104469
登録人数	33
回答数	16
回答率	48.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

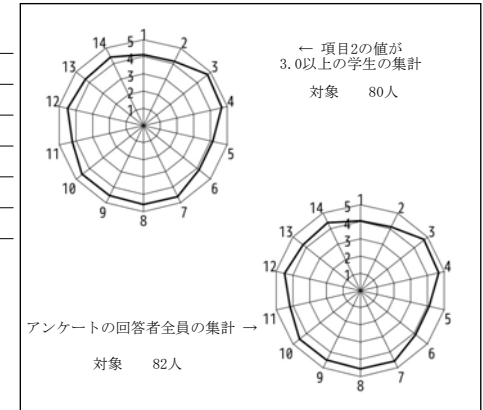


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①本講義は、開講時に「専門知との付き合い方を身につける」ことを目標として設定していた。現代社会は高度な専門知・専門技術に支えられているが、あらゆる分野の専門知・専門技術に通暁することは不可能である。もちろん、ふだんは社会的分業でうまくいくが、環境問題をはじめとする厄介な問題に取り組むときには、馴染みのない専門知とも付き合いが必要が出てくる。この「馴染みのない専門知と付き合い」という目標に対して、一連の講義に対するリアクションペーパーとレポートから、学生がこの目標に対して一定の達成を修めたことと把握している。
- ②-1. 本講義では、以下のような時間配分を実施していた。1. 「前回の講義で寄せられた質問に対する応答」[30分] 2. 「自分の関心のあるテーマについての目次マトリクスの作成」[10分] (…小休憩…) [10分] 3. 「今回の講義の内容」[50分] 自由記述を見ると、「質問に対して長く説明する時間をとって頂いたこと」「毎回休憩を取ってもらえること」「先生が、おすめの本など、知識を広げるための様々な情報提供をして下さった点」「生徒に寄り添ったとてもいい先生でした」と好評を得ているため、次回以降もこの形式を踏襲する予定である。 ②-2. 上述の1. 「質疑応答」では、派生する詳細内容や論文を書くにあたって必要なツールの紹介などを行った。これについても「論文などを書くにあたって必要なツールなどを紹介していただいたこと」、「関連の映像や資料をたくさん紹介してくれて知識が深まるアプローチの仕方をしてくれた」「He gave the students a lot of information. It was very interesting.」と好評を得ているため、次回以降もこの形式を踏襲する予定である。 ②-3. 配布資料は特定のフォーマットで揃えていたが、この点も「授業毎の配布資料が毎度分かりやすく、見やすかった」と好評を得ているため、次回以降もこの形式を踏襲する予定である。
- ③基本的に今回の講義形式を踏襲する予定である。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	アルゴリズムとデータ構造
授業コード	52A01-001
教員名	横森 励士
教員コード	101114
登録人数	230
回答数	82
回答率	35.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

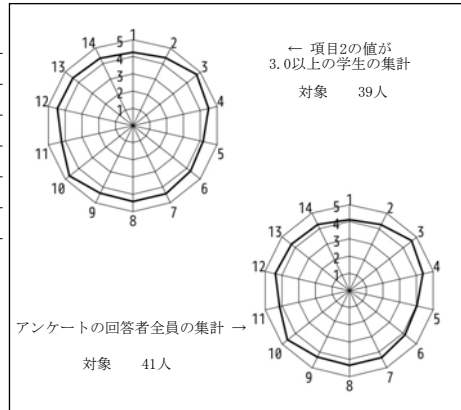


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 今年度の目標について
100分講義になったこともあり、昨年より10分ほど長くなった授業時間をどのように活用するかを試行錯誤するつもりで、シンキングタイムや質問の時間を多めにとるようにした。
- 到達の程度
理解しやすかったとの回答が多く、全体的に評価点も高かった。好評であったようなので、他でも取り入れていきたい。
- 数値データについて
全体的に評価点も高く、評価も高かったので、引き続き向上に励みたい。
・実際の動作原理を、パワーポイント上で実際に図を作成しながら説明していったが、理解しやすかったようだ。
・講義終了後、かならず質問時間を設けてできる限り対応していったが、理解向上にかなり貢献しているかと思われる。
・問題を実際に説いてもらう際には、シンキングタイムをなるべく用意して、考えてから答え合わせを行った。
- 今後に向ける方針など
来年度以降は、レポートになるか試験になるかはまだ未定だが、どちらになるにしても学生に理解を向上してもらう時間を十分に確保したい。時間をある程度余裕を持って、学生の進捗を考慮しながら進めることを心がけていきたいと考えている。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報モデリング
授業コード	52B06-001
教員名	蜂巣 吉成
教員コード	019448
登録人数	159
回答数	41
回答率	25.8%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業は学部3年生を対象とし、全回オンライン授業で行った。基本的に毎回授業の後半に演習問題を出題して、解答および質問の時間を設けた。授業の最初に前回の演習問題の解説を行なった。授業は録画して、後日公開した。毎回の演習問題とレポート3回で成績評価を行なった。開講当初に設定していた目標に、多くの学生は到達していたと考える。

授業中にアンケート回答の時間を設けたが、回答率は25%と高くない。全学共通の設問1~14について平均値は4点を超えている。

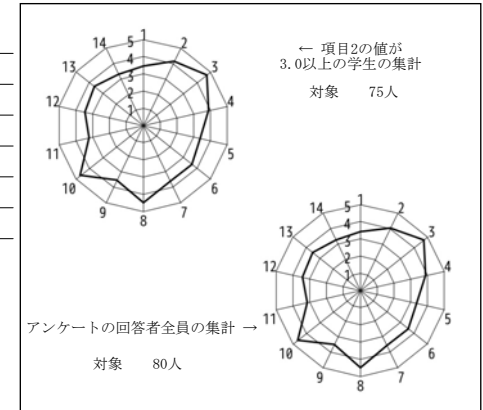
自由記述欄の評価できる点として「授業の録画動画や課題の解答例が随時公開されており、授業の復習を行う際に役に立つ処置がされていた」「分からないところを動画を見て確かめることができた」「レポートの回答をしっかりと教えてくれるところ」「授業の説明が丁寧だった」「質疑応答の時間が多く設けられていた」など、演習問題の解説や動画が好評だったようである。

改善した方が良い点として、「レポート課題が期末に連続で出題された」「今までやったことない内容だけにレポートは全体的に難しかったと感じる」など、レポートに関する意見があった。

去年、今年とオンライン授業で行なった。オンラインの方が画面が見やすかったり、録画で復習できたりと良い点が多数あるように思う。来年度は対面かオンラインか不透明であるが、今年の内容を踏まえて、レポートの出題時期などについて検討したい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	確率・統計2
授業コード	50A12-002
教員名	白石 高章
教員コード	102104
登録人数	124
回答数	80
回答率	64.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

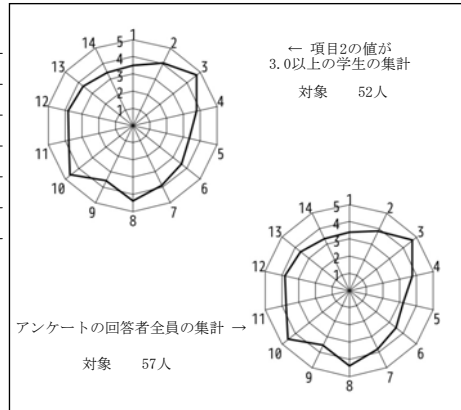


授業評価結果を踏まえた点検・評価

著書『統計科学の基礎』をテキストとし、高校の数学と使われる行列や微積分の内容を復習しながら、テキストの行間を埋めて講義をオンラインで行った。定義や定理の直後に、それに関係したむつかしくない演習問題を配置した。これにより、順を追って円滑に理解できるようにしている。これらの演習を解く時間を与え、解に到達するまでの大まかな解法を論述した。講義のあとの次の日を締切としたレポートを毎回提出させた。これらのレポート以外にそれらの復習としての問題を配点の高いレポートとして4回提出させた。採点した結果は昨年よりも良く解けており、評価がよい学生が多かった。解答をすべて公表してもらうことを要求する学生がいたが、教育上望ましくない。社会に出れば自らが考え問題を解決する必要がある、その能力を身につけさせることが重要なため、易しい問題の解答は公表していない。学問の性質上、学習すればするだけ広い立場で身に着けることが必要と考え、理解が十分でないとする学生が多かったようである。内容の難易度を落として分かった気にさせる授業ではなく、自らが考え解決しなければならぬ深みのある内容であることを認識してもらう授業を今後も行いたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 データベース[S]
授業コード 53B09-001
教員名 河野 浩之
教員コード 048595
登録人数 180
回答数 57
回答率 31.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

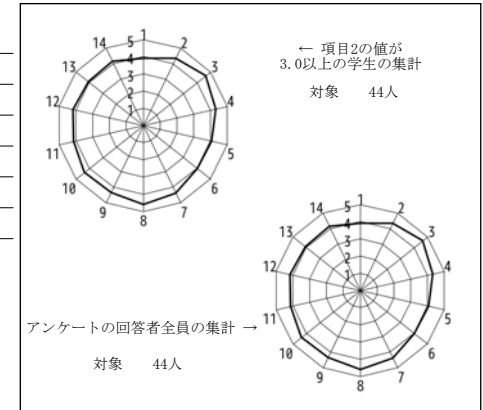


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
受講生数の関係で、全回オンライン実施となった。当初、定期試験実施の可否が不明であるため、毎回WebClassによる「小テスト」を実施することにした。（期間中に実施した二十数問は、通常の授業時には「練習問題」として利用している。）
対面による定期試験実施が可能となったため、シラバスとともに説明していた別案である定期試験（および、レポート）による評価を行うことになった。（SQLのプログラムを手で書く部分については、対面による確認ができなかった点が残念であった。）
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。※
定期試験の多くの問題は、WebClassの小テスト問題の改題であることから、学生によって、授業期間中の解答ができて、定期試験で解答できなかったようである。
これまで通り、教員室からオンライン講義を行っている。自由記述に「聞き取りやすかった」との回答が複数あった。特段、配信環境を変えていないが、以前、音声トラブルを記述した回答があったので、学生側の環境による可能性が高い。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
小テスト、復習時間、過去問配布など、ポジティブな記述が見られるので、継続して実施する予定である。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 微積分学II[TD]
授業コード 55A02-001
教員名 小藤 俊幸
教員コード 101907
登録人数 76
回答数 44
回答率 57.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

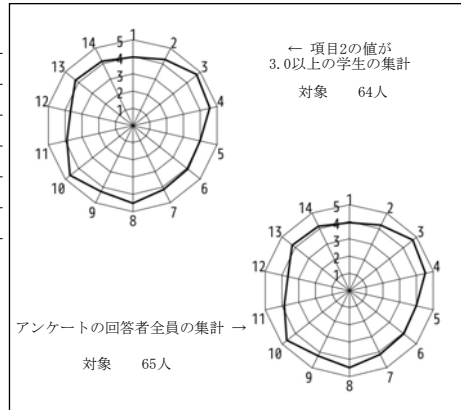


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①第1クォーターの「微積分学Iおよび演習」に引き続き、微積分学の中の積分学を中心に学習する。やはり「考える力をつけるための微積分教科書」（学術図書出版社）を教科書に用いて、講義（オンライン）と演習（対面）を組み合わせる形で行った。微分法に関しては、ニュートン法、逆三角関数、テイラー展開、積分法に関しては、微分方程式、広義積分、確率分布と統計学への応用（特に、正規分布）を学ぶ。「微積分学I」とは異なり、高校では習わない内容が多いことと、定期試験が行われたため、不合格者が、学科によっては1割程度出てしまった。新入生のための導入教育という観点から、もっと不合格者を減らすことを考える必要があるように思われる。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	通信ネットワーク基礎2
授業コード	50A14-002
教員名	奥村 康行
教員コード	101219
登録人数	129
回答数	65
回答率	50.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

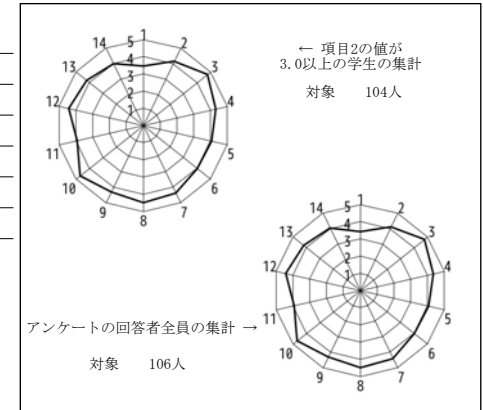


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 開講当初に設定した授業目標： 通信システムの基礎知識を理解し自分の言葉で説明できるようになってもらうこと。
2. 目標達成度： 約90%以上の受講者が目標を達成した。
3. 担当科目についての授業評価： 評定値は学部科目平均より0.1だけ良い値だった。自由記述のうち改善を希望された項目は、レポート量が多い(1)、板書・説明が早い(1)、質問しづらい(2)、ホワイトボードの文字が見にくい(2)であった(カッコ内は指摘した人数)。好意的な意見として、進捗が適切(1)、説明のわかりやすさ(7)、講義ビデオの録画を何度でも見ることができる(12)、物理的なことも学べた(1)などがあり、これらは今後も継続する。
4. 次年度の改善方針： オンライン講義での欠点を少しでも改善するため、講義直後に録画をサーバーにアップした。回を追うごとに出席率は低下し、録画で学習した学生が増えた。質問のために講義中や講義後もチャットは受け付けていたが、質問しづらかったかもしれない。板書が早いとコメントした学生も録画を見返したそうである。これまでも講義内容を30%程度入れ替えてきたが、来年度も最近の技術動向を踏まえて検討する。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	論理と集合
授業コード	50A26-001
教員名	佐々木 克巳
教員コード	018051
登録人数	181
回答数	106
回答率	58.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

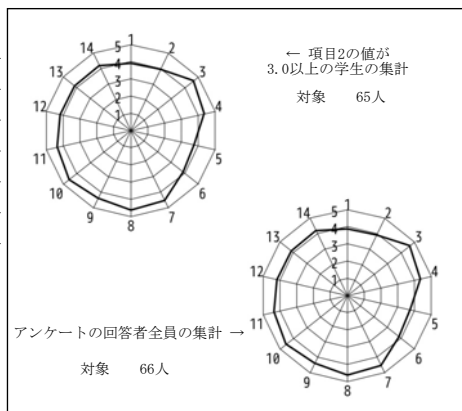


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- [目標] 昨年同様に、運営面に絞って述べる。昨年同様に、オンライン授業、筆答試験である。昨年度の経験から、練習問題の略解を含めた講義資料を事前に配布し、その資料に基づく解説を主とした運営方針、および、画面の切替時の内容の復習、質問時間を設けることを継続した。さらに、教育効果を踏まえ、練習問題を解く時間を適宜設けることにした。昨年度、手書きの文字に対し否定的な意見が13件あり、文字を書き込むpdfの資料にあらかじめスペースを設けておくなどの対応をした。課題は、その復習を効果的に行えるよう、すぐに対応できる3~5問の課題や採点を容易に行える入力式の課題も取り入れた。
- [評価] 自由記述欄への記載は、昨年も多かった(設問15に48件/回答数94)が、今年度はさらに増えた(設問15に62件/回答数106)。設問15には、[目標]で述べた、説明や解説の丁寧さやわかりやすさに対して18件、質問への対応について18件、配布資料について10件などの肯定的なコメントがあり、[目標]で述べたことが反映されたと考える。このうち、質問への対応の18件は、昨年度はみられなかったコメントである。1年生の講義であるが、学生がチャットの利用に慣れており、実際に質問の時間に多くの質問があった。一方、設問16では、手書きの文字については、否定的なコメントが6件あった。昨年の13件よりは減少したが、さらに気をつけたい。他には、課題の締切を遅くしてほしい旨のコメントが5件あった。[目標]で述べたように復習を効果的に行える少数問題の課題や入力式の課題を取り入れたが、そうでない課題も含め、課題に相応な時間は確保したいと思う。
- [今後の計画] 今後、オンライン授業を行うことがあれば、手書き文字はより丁寧にかくことを心がけたい。画面の切替時の内容の復習、練習問題を解く時間と質問の時間を設けることは継続したい。課題の締切については、設問の量の方で調整したい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	機械電子制御工学基礎
授業コード	53A01-001
教員名	藤井 勝之
教員コード	101244
登録人数	116
回答数	66
回答率	56.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

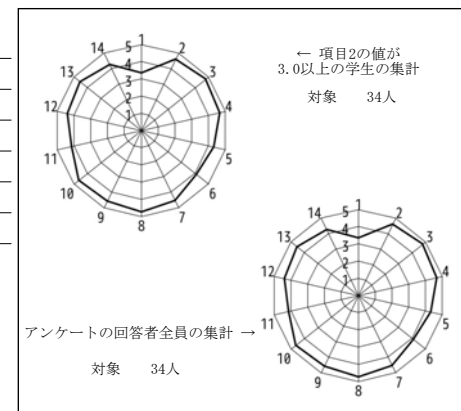


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①電磁気学と回路理論の基礎に絞って、社会に出たときに必要に応じて独学できるだけの素地を作ることに専念した。基礎すらないと何をどう独学したら良いのか分からないからである。難解で抽象的な科目なので、毎回、この内容は実社会のここで使われているという例を挙げて実演したり、実験を見せたりして、「何のためにこんなことやられなきゃならないんだ?」と思わせないよう工夫した。以上の成果はアンケートの自由記述欄の通りである。②設問5, 6の数値が開講主体別平均値より若干低く出ているのは、当科目2単位で電磁気学と回路理論の基礎を教える必要に迫られているためである。伝統的な電気電子系学部では電磁気学と回路理論は必修科目であり、さらに演習もセットになっている。そして多くの電気電子系学生が落単する初学者泣かせの科目である。それだけ重要な理由は、電磁気と回路の基礎がないと設計開発はもとより、技術的な議論が全くできないエンジニアになってしまうためである。③学部改組で来年から当科目はなくなるが、ここで得た経験は他の講義でも応用が利く。何のために学ぶのかという事をきちんと提示すれば学生はついてきてくれる。【項目15】実際の応用例や実験を行いながらの講義で理解が深まった(同様15件) 声が聞き取りやすかった(1件) →接続前に必ず、Zoomの音声チェックを行っている。ノートPCのマイクは感度が悪く、外部接続マイクは必須である。教科書に沿って授業をしてもらったこと(1件) 【項目16】特になし(14件)、演習問題の解説が欲しい(1件)、テスト範囲が提示されていない(1件) →講義でさんざん説明している。授業で使うテキストは学校の書店で購入したい(1件) →電磁気と回路理論に関する自分に合った教科書を各自で用意するよう初回で説明したが、利便性を考えると多少は丸善さんに置いておいてもらうべきだったかもしれない。【項目17】特になし(14件)、資料が見やすかった(2件)

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報倫理[B]2
授業コード	10C01-036
教員名	本田 晋也
教員コード	104254
登録人数	35
回答数	34
回答率	97.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) 目標と到達

本授業では、ネットの社会的ルール、プライバシー、知的財産権に関する理解を目標としている。レポート及び授業評価の結果から、おおむね到達できたと考える。ネットのルールという身近な題材ということもあり、学生の興味を持って学んでいた。

(2) 総合的な自己点検・評価

授業評価の結果から、学生の理解や満足度は高いと評価する。自由記述ではグループワークを実施する能力が身についたという意見が多かった。また、主体的に学習する力がついたという意見もあり授業の目的を達成していると考えている。

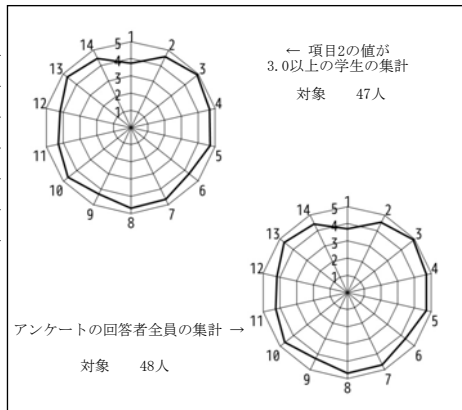
③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

今後の改善点として、毎回の発表においてパワーポイントを使用するケースが多いが、基本的な使い方の指導がなかったため、パワーポイントの使用方の指導を初回に実施することが挙げられる。

最初の数回がオンライン開催であり、チームビルディングに手間取ったグループがあったため、今後、オンラインとなった場合には、グループ毎のケアが必要と思われる。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報倫理[T]2
授業コード 10C01-052
教員名 張 漢明
教員コード 049627
登録人数 50
回答数 48
回答率 96.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

■開講当初に設定していた目標と到達程度について

以下の観点について概ね達成することができた。

- ・通信ネットワークおよびネットワーク上の情報の取り扱いやコミュニケーションに関する知識や特性を理解して、自分の行動に社会的責任が伴うことを理解する。
- ・グループワークを通して、自分の意見を相手に伝えることの大切さと難しさを理解する。

■総合的な自己点検・評価

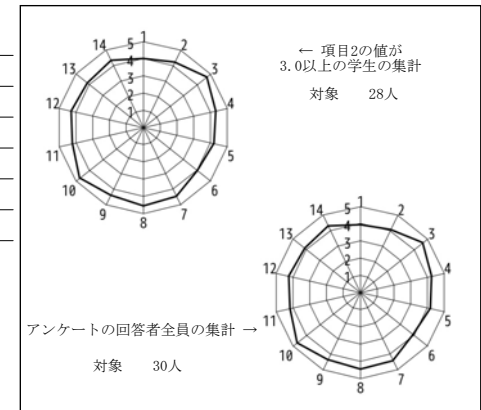
- ・e-learningにより自分のペースで学習ができて、全員の前提知識が共有されていることがグループワークを実施する上で有効であるように思われる。
- ・グループワーク中に、掲示板を用いてコミュニケーションを図ったことが、状況把握と議論の指針を提供することに有用であった。

■改善点、今後の抱負、方針

- ・発表資料が動画作成としたことにより発表時間が一定になったので進行が進めやすくなったが、ビデオ鑑賞会となり対面授業の意義が薄れてしまった。質疑応答を活性化するための工夫が必要である。
- ・発表では「目的」と「方法」が重要であることを伝える工夫をする。グループワーク時に、テーマをなるべく具体化して、何のために、どんな工夫をするかを考えさせることを促すようにする。
- ・発表内容とプレゼンテーション技術が違うことを促す工夫をする。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 機械工学基礎
授業コード 53B06-001
教員名 中島 明
教員コード 103140
登録人数 136
回答数 30
回答率 22.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の目標は、線形代数、微分方程式、力学の知識を基礎として、機械システムの振動解析手法を習得することである。

学生の成績評価は3回の小レポートおよび1回の最終レポートにより行った。レポートから見て取れる習熟度合いは概ね目標を達成していると言える。

授業評価の各項目はほぼ4点以上であり、授業の準備、講義の仕方について一定の満足が得られていると思われる。

自由記載欄では、講義動画を録画して学生がいつでも見ることができるようにアーカイブ化したことを評価するコメントが複数あったことは特筆すべきであろう。

一度聞いただけでは理解しきれない点があることは当たり前であり、復習のために何度も見返すことができる授業体制は予想以上に学生に好評ようである。

コロナ禍により昨年度から始めた試みであるが、対面講義となっても継続していきたい点である。

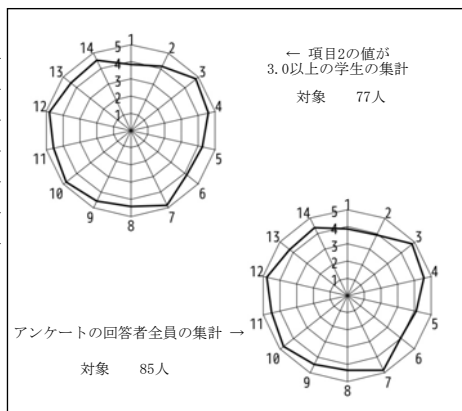
一方で、項目20、21が2点台と低いが、上述したようにレポートから分かる学生の習熟度合いとは合っていないように思われる。

あくまで私見だが、設定された到達目標に比べて、学生が目指すレベルがより高いため低い自己評価になっているのではないだろうか。

本講義の目的は機械システムを取り扱う基礎学力を身につけることであり、より複雑な実際の機械をどのようにモデル化するかについては扱っていない。今後は、基礎と応用の関連性における補足を取り入れていきたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 民族問題と人間の尊厳5
 授業コード 10D08-005
 教員名 MUNSI, Roger Vanzila
 教員コード 101925
 登録人数 187
 回答数 85
 回答率 45.5%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



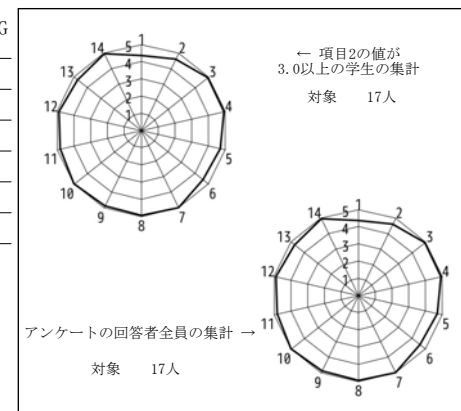
授業評価結果を踏まえた点検・評価

My course on Ethnic Issues and Human Dignity (Quarter 2) mainly covered issues related to Africa, Europe, America, and Middle East Asia. This content was complemented by some general considerations deemed important to the course theme. In order to help students deepen the selected themes and issues I provided some reading materials both in Japanese and English. Given that the students were from different nationalities I tried my best to combine Japanese and English Power Point slides. Students who were regular to lectures showed great interest in learning and enhancing their knowledge on specific topics.

I am very happy that a great number of students have, through their evaluation, appreciated positively the course and could improve their skills. It is quite encouraging. In fact, their interest in the content of the course was reflected not only in their participation and questions, but also in the way they wrote up their final reports. However, I have taken note on some critical observations made by other students. I understand that it is sometimes difficult for some students to follow lectures online. Next time I will try to organize the power point slides without colored sentences and perhaps explain and discuss some crucial issues in detail to really meet the students' demands and hence create a good study environment.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIオールラルコミュニケーション[G]
 授業コード 11A02-036
 教員名 MILES, Richard
 教員コード 101363
 登録人数 18
 回答数 17
 回答率 94.4%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

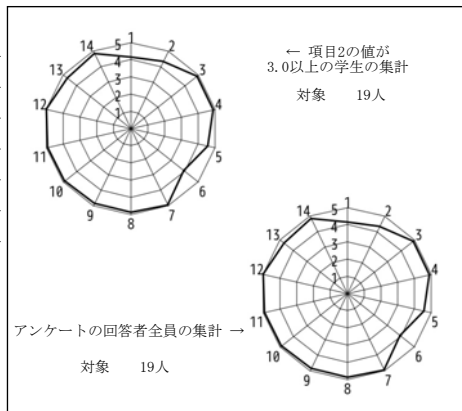


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- Overall, I am very satisfied with the Oral Communication in English II course evaluations. Given that the course had to be taught online for the first few weeks and then became a hybrid class with several students online and out of the country, things went surprisingly smoothly. The students were very positive overall in terms of their comments and the scores they gave the course. The course was designed specifically to help students become more independent English speakers, which was extremely difficult to accomplish given the logistics of a hybrid class. Nevertheless, the students answered with a score of 4.94 to question #14, indicating they were satisfied with the course, felt they had achieved a lot, and that they had improved their English speaking and listening skills.
- The written comments from the students were all positive and reflected particular happiness with the atmosphere in the class (particularly gratifying — given the aforementioned difficulties and logistics) and the interaction between the teacher and students. Students also indicated in their comments that they had gained confidence in speaking out in English. Responses to question #4 indicate that the course had been taught at an appropriate level and pace for all the students. This was especially pleasing, as there was a wide range in the students' abilities and English level.
- For next quarter, I intend to find more opportunities for the students to speak in English. I will also be trying to make sure the goals of the class are more specifically explained to the students at the beginning of the course.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[G]8
授業コード 11A06-039
教員名 鹿野 緑
教員コード 101092
登録人数 21
回答数 19
回答率 90.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

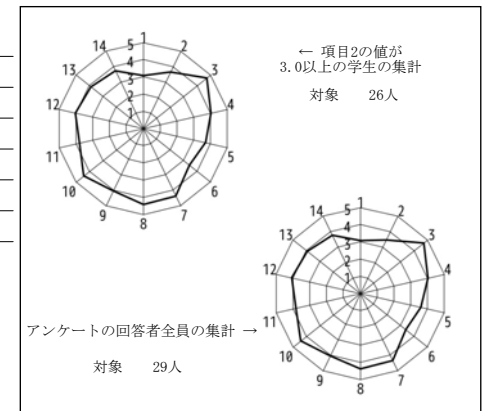
(1) 国際教養学科1年次の英語リテラシーの授業で、学修目標はアカデミックな内容の「読み」、descriptive と narrative な構成の「エッセーライティング」が中心であった。おおむね非常に真面目に取り組んだ学生が多く、目標達成度も高く、質問や相談も活発であったところは学生の姿勢を評価したい。一方で、小テストや課題の完成度不足や期限過ぎなどが重なる学生もあったように思う。内容の深化を必要とするような読みと書きの「学び」が起きていたかについては基礎力のばらつきがあり難しかった。

(2) アンケート平均値はおおむね良い数字であったが、「目標を達成しているか」という問いへの回答に(1)のことが正直に反映されていると思う。教科書のレベルについては難しいと易すぎるの両極のコメントがあり、教員が感じた目標達成度の両極化と一致する。授業独自の「ふりかえり」アンケートでは、基礎的な文法と語彙力の不足を実感している学生が非常に多くあったことがわかった。

(3) 今年度は特にリモートと対面の間で授業運びをうまく定めることが難しかった。また、学生の基礎力と授業目標とのバランスが今後の課題である。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化と情報3
授業コード 13E09-003
教員名 永井 英治
教員コード 018861
登録人数 39
回答数 29
回答率 74.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

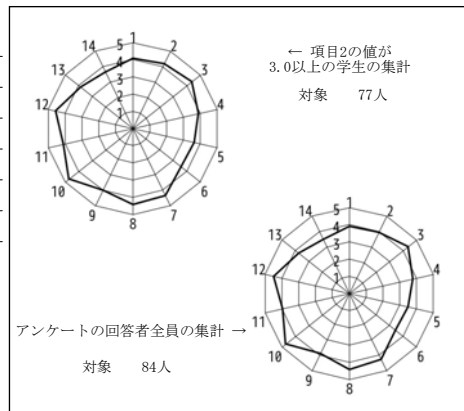
この授業では、アーカイブズについて実践的な知識を教授することを大きな目的とした。したがって知識伝達型の授業となることを自覚的に行なったのであるが、受講生にはこの意図はかなり浸透したようである。自由記述における知識の獲得についての肯定的記述からこの点を窺うことができる。また、定期試験においても知識の獲得度を問う設問に対して十分な解答が見られたことから、その成果があったといえる。

残念ながら、レーダーチャートはやや小さなものになってしまったが、対面授業では配付資料を補う板書での解説を実践したことが、自由記述で複数から評価されたので、この点は今後も継続していきたい。理解を補う写真資料などが求められた点は、今後の検討課題としたい。今回はオンラインの形式が実施されたこともあり、知識の伝達に注意したため、受講生の関心を引く試みに欠けた点は今後の授業形態にもよるが、改善を工夫したい。

授業では、知識の獲得にとどまらない質問が複数回あり、受講生の水準が向上していることが窺えた。この点は知識の獲得にとどまらない設問をも設けた定期試験にも反映されているが、一方で、基本的な事項がほとんど理解できていない受講生もあり、このような受講生に如何に関心を持ってもらうかの課題も明らかとなった。ビジュアル資料を多用することは、この点に対する試みとなる。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 心理言語学1
授業コード 31E18-001
教員名 村杉 恵子
教員コード 019034
登録人数 165
回答数 84
回答率 50.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

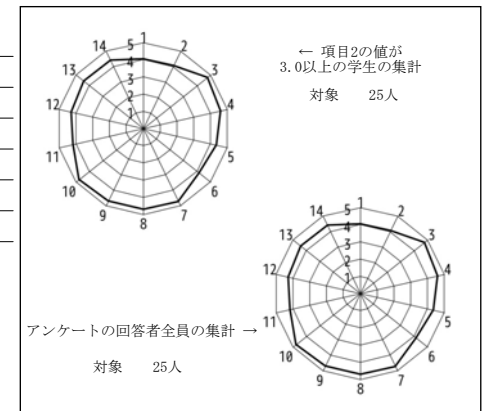


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 授業後の感想やレポート（最終試験）の結果を読む限りは、目標は達成されたと考えている。
- ② 数値分布から今学期の特徴を分析してみると三点の特徴がみとめられる。第一点は、評価の開きの幅が比較的広い。第二点は、その傾向は自由記述からも伺える。第三点は、授業最終週の周辺で、本来であれば出席過多となる受講生から、三分のルール適用のない学期であり、授業内容とは直接関係のない題材に興味があるとしてレポートの書き方や進め方について相談もあった。ほとんど授業に出席をせずにしてレポート提出をした学生が従来よりも多く、自由記述においても、授業では「休憩時間」など一度も設けていないのかかわらず、それについての意見があったり、教科書の章を網羅できていたにもかかわらず教科書を使っていないといったコメントなどもあり、対面授業ではあまりおきないことが散見された学期でもあったようにもふりかえる。
- ③ コメントについて考えつつ、今後の採点基準の見直しが必要であることを省みる。また今学期の期末試験（レポート）についての相談時間の配分について省みている。アポイントメントではなく、授業中に書き方についての質問が多かった。次回は、今学期の半分程度にしたい。（従来どおり、マークシートによる筆記試験としたい。）また、自由記述には指摘されていないが、授業開始時にZOOMにうまく入れないことが一度あった。PGの管理についても注意したい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ドイツ政治研究
授業コード 34D12-001
教員名 大竹 弘二
教員コード 101968
登録人数 49
回答数 25
回答率 51.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

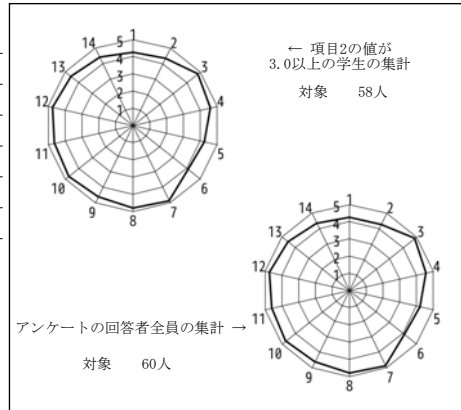


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 本科目はドイツ学科の3、4年次生を対象にした授業であり、私が担当するのは4年ぶりである。ただ今年度は、クォーターの初めからオンライン授業だったということもあり、以前に担当したときとは授業のやり方・内容・評価方法などを変更した。授業のやり方に関しては、以前よりもパワーポイントや映像資料を多く使うようにし、授業内容の面では、なるべくドイツ政治の時事的な話題を多く扱うようにした。評価方法については、定期試験でもっぱら知識だけを問うことは止め、レポート課題を課すことで、ドイツ政治のさまざまなトピックを現代の日本が直面している諸問題と結び付けて考察してもらうようにした。その結果、以前に担当したときよりも多少は学生たちの興味をひく授業にはなったようである。
- とはいえ、やはり幾つかの反省材料はある。特にオンライン授業だとそうであるが、どうしても一方的な講義になりがちで、双方向性をうまく担保できなかった。それゆえ学生の側からすると、受け身で受講するだけの少々単調な授業になってしまったかもしれない。積極的な学習態度をうまく引き出せなかったことにより、学生の出席率や授業参加度の点でなお課題が残ったことは否定できない。また、久々の担当授業で、以前とは内容を大幅に組み替えたこともあり、若干まとまりに欠けた授業内容になった。全体の構成を再考したうえで、より学生たちの興味をひく授業になるよう心掛けたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 経済学B / Economics B
授業コード 48C29-001
教員名 平岩 恵里子
教員コード 100953
登録人数 72
回答数 60
回答率 83.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

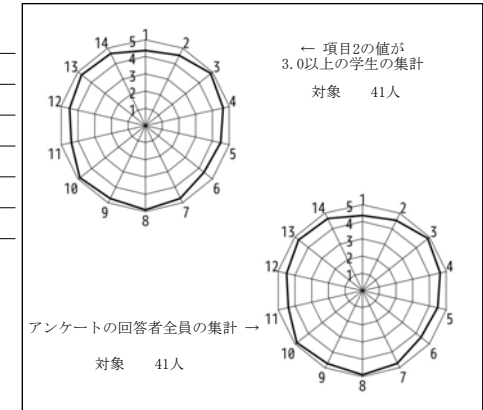


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 目標と到達度についての評価はよくなかった。国際貿易を学ぶことがグローバル社会の何につながるのか。話したりなかった＝語っていなかったでしょう。伝わっていませんでした。反省材料！
- ② 自由記述からは、こちらの意欲や想いが多少なりとも伝わったかな？と思えるものがあり、その点は今後も努力したい。ただ、今回特に難しかったのは、リモートと対面のハイブリッド授業。グラフなど板書をする場面も多く、リモートの学生には気の毒であった。「ディスタンスをとりまばらに座る学生」「広い教室」「リモートの学生」という環境は、かなり神経を使った。でも、学生も自分自身も、出来ることに注力し、努力したと評価したい。
- ③ 今後の抱負は、短期的には、①でも述べた、質問13と14の評価を上げること。中長期的には、熱意を失わず、学生が主体的に学ぶことのできる工夫を重ねていくこと。同時に悩むのは、アクティブラーニングを好む学生と、そうでない学生（話をじっくり聞きたい）に対して、双方が満足するような講義をどうしたらよいのか？という点。どうすればいいのでしょうか。教える力、とは何でしょう。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Introduction to Global Studies B
授業コード 48E01-001
教員名 吉田 信
教員コード 104481
登録人数 50
回答数 41
回答率 82.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

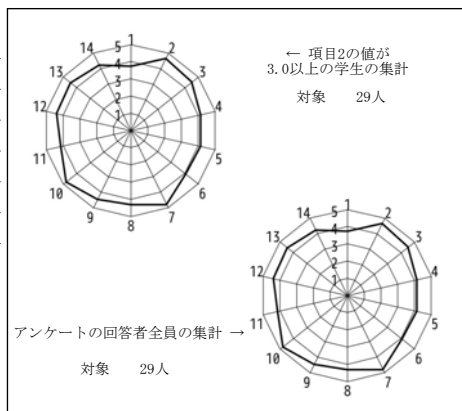


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
日本ではあまり触れられない国際社会の重要な問題についてBBCの英文記事読解により知識を得、グループディスカッションを通して理解を深めることを目的としていた。扱った記事の内容が若干高度なこともあり、受講生としては記事の内容を理解するのが難しいこともあったため、到達目標については概ね良好ではあるものの更に検討が必要である。
- ② 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
総合的な満足度が4.6を超えていることもあり概ね良好であったと判断できる。自由記述からも講義の到達も奥表を踏まえた肯定的な意見を確認できる。オンラインでの講義であったが、テクニカルな項目については4.8や4.9といった高い評価があり、相当な労力を割いてオンライン講義の環境を整えたことが功を奏したものと思われる。
- ③ 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
南山大学での初めての講義ということもあり不慣れな点などあったが、全体としては4.6を超えており総じて良好であったと評価できる。アンケート結果を踏まえて次年度の講義の質向上（より適切な教材の選定等）に努めるとともに受講生からの改善要望点を適切に実現していく。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics: Global Studies B (Cultural Studies)<国際科目群>
授業コード	48E07-901
教員名	森山 幹弘
教員コード	100090
登録人数	41
回答数	29
回答率	70.7%
休講回数	2 回
補講回数	2 回

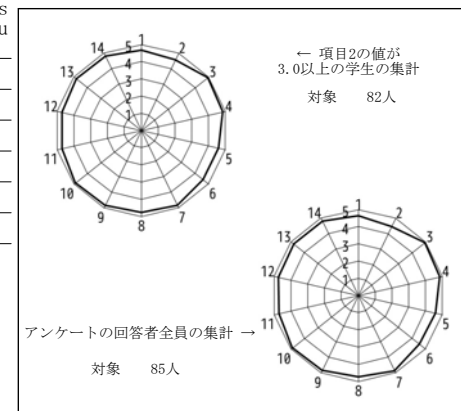


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度については、設問4番の「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」が他の設問項目よりもやや低いことから、学生の中には授業の進行速度と内容に十分についていけないことが窺われる。授業の運営については、難解と考えられる点については十分に復習の時間を設けて説明を補足したが、理解が十分でないと感じている学生がいたことから、次年度にはグループワークの前にも内容が難しい点については説明をするように工夫をしたい。②数値データから予定していた授業の狙いは概ね達成できていたと思われる。自由記述からは、対面とオンラインで参加する学生が混じったために、両方の学生に配慮した運営が十分にできていなかったと感じている学生がいたことが窺える一方、対面となったことによってよりアクティブに学べるようになったことに対する評価もされていた。ハイブリッドの授業運営の難しさを教える側も教えられる側も感じていたことがはっきりした。③アクティブラーニングを取り入れることによって、主体的な授業への参加が促されていること、グループワークによって受講者の理解が深まっていることが確認できたので、この運営を今後も行っていきたい。設問1番で受講する前にこの授業に興味を持っていたかという問いの回答が3.72であったが、設問14の全体としての満足度が4.21であったことは、教える者には嬉しい結果であり、今後も受講者に学ぶことに満足を与える授業を行なっていきたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	サステナビリティと国際問題 / Sustainability and International Issues
授業コード	48G04-001
教員名	塩寺 さとみ
教員コード	104489
登録人数	130
回答数	85
回答率	65.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は国際問題における地球環境問題の理解を目的としており、到達目標は以下の4点である。

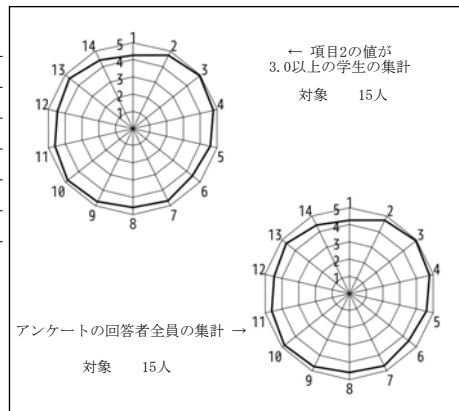
1. 地球環境問題の発生要因とその影響について列挙し、内容を説明することができる。
2. 地球環境問題に関する様々な資料を読解し、整理することができる。
3. 基礎的な知識を用いて地球環境問題の解決策について議論できる。
4. 授業内容について自主学習によって自ら理解を進め、レポートを作成できる。

本授業評価において、到達目標の理解（設問5）については4-5評価の合計が90%台であった。また、期末レポートでは多くの学生が適切な回答を行っていた。これらのことから、本授業の目標はおおむね達成されたと考えている。授業の構成や進行速度（設問4）については4-5評価の合計が90%台であった。特に、授業内での自主学習とオープンチャットでの学習内容の共有、およびブレイクアウトルームを用いたディスカッションについては学生から高評価を得ることができた。一方で、少数ではあるが、専門用語が多い、授業の進行が速い等の意見が寄せられたため、今後改善していきたい。また、ディスカッションに参加していない学生がいるとの報告が見られたため、随時口頭での注意喚起を行っていたが、グループの分け方を工夫するなどより効果的な対策を行う予定である。

次クォーターでは、さらに学生の学習意欲と理解が高まるように努力していきたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	Special Topics: Sustainability Studies B(Environment and Development Studies) <国際科目群>
授業コード	48G08-901
教員名	神崎 宣次
教員コード	103280
登録人数	60
回答数	15
回答率	25.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

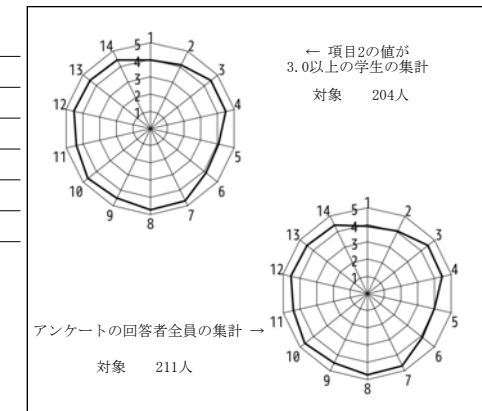
(1) 開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
設定していた目標は達成したと考える。学生の到達の程度については、最終的なレポートがまだ締切前なのでその部分での評価は含められないが、おおむね十分であったと考えている。

(2) 数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価
数値データは特に言及する点のない範囲であると考えている。自由記述の項目16の指摘は、オンラインを前提として設計した授業のやり方（全学生に発表日を割り当てていて、途中で変更することは評価の公平性のため不可能な点を含んでいる）をシラバスの時点で決定していたのに、途中から対面となり、かつこの授業のやり方に適しているとは言えない教室が割り当てられたことに対する疑問と考えられる。

(3) 次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
昨年度と今年度はオンライン対応を前提とした授業設計であり、来年度以降は対面を前提とした改善が必要と考える。具体的には、現在のチャット形式でのディスカッションによる貢献の定量的評価と、口頭でのディスカッションを組み合わせることによって、より高い到達段階を目指せるようにする予定である。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	契約法（総論）
授業コード	44A22-001
教員名	平林 美紀
教員コード	100773
登録人数	338
回答数	211
回答率	62.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

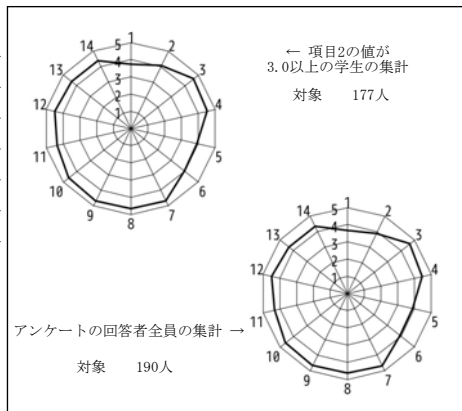
オンライン授業に関しては、初めて取り組んだ昨年よりも、格段にスムーズに運営できるようになった。他方、対面授業再開後は、二つの教室を中継するという新たな取り組みで四苦八苦することが多かった。自由記載欄にも、その点のまずさを指摘する意見があり、反省している。

アンケート結果の数値は、例年よりも良かったように感じている。1年生が半ば強制的に履修登録する科目であるので、経験上、評価が低めに出るものと思っていたが、設問2（主体的な参加や努力）、設問6（力がついていると感じるか）に関しても、同じ学科の科目より良い数値が出たことに手応えを感じた。復習のためにWebClassで択一問題を出题し、しかもそれを、成績評価に加味するよう変更したことや、掲示板を利用しやすいよう、匿名での質問を認めるようにしたことが、こうした良い評価につながっているのではないかと、自由記載欄のコメントから感じている。

Q3には、同じ1年生に、続いて受講してもらおう「契約法（各論）」の授業を担当する予定であるので、これらの取り組みを継続していきたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	担保法
授業コード	44B92-001
教員名	深川 裕佳
教員コード	104089
登録人数	316
回答数	190
回答率	60.1%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

本講義では、講学上、担保物権としてまとめられる分野について、判例・学説を踏まえながら、その基礎理論および制度内容を理解し、具体的な事例問題を解決できるようになることを講義目的として設定し、これに沿った授業を展開した。学生から提出された講義回ごとの復習問題の解答等を見ると、受講生は、熱心に、講義に参加して学習しており、おおむね、授業内容を理解することができていたものと思われる。また、受講生自身も、この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じたようである（質問項目13について4.31ポイント）。そこで、受講生は、おおむね、上記学習目標を達成することができたものと思われる。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

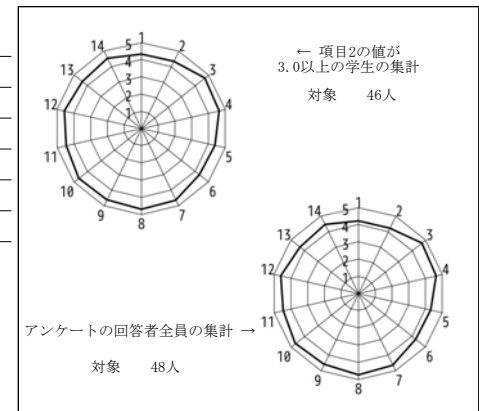
学生のアンケート結果をみると、パワーポイントによる図示が学習の助けになったようであり、また、出題された復習問題を解くことによって受講生には自己の学習を振り返る契機となったようである。しかし、説明が早口になってしまうこと、ZOOMのミュートを解除し忘れると、等の指摘を受けた。これらの点を総合的にみると、受講生の多くにとって満足のできる授業になったようであるが（質問項目14〔全体的満足度〕について4.32ポイント）、つぎの③に述べるように、今後、さらに改善していく余地があるものと考えられる。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

上記に述べた学生の指摘を受けて、説明のスピードを落としたり、参考書としてより初学者に親しみやすいものを示したりするなどして、受講生の理解をさらに深めるための工夫をしていく予定である。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	行政法各論
授業コード	44C04-001
教員名	豊島 明子
教員コード	101192
登録人数	139
回答数	48
回答率	34.5%
休講回数	1 回
補講回数	1 回



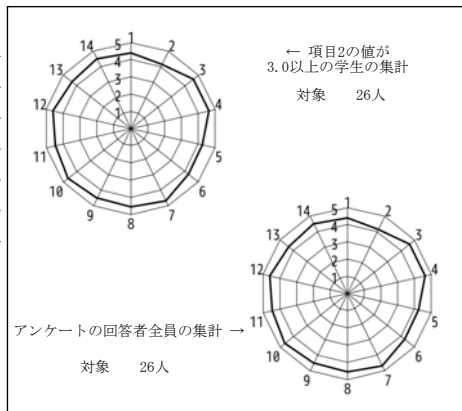
授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回、例年と決定的に異なったのは、この授業を初めてオンラインで開講したことである。昨年度、私は別の科目をオンライン開講したが、あいにくこの授業は担当していなかった。そこでまず、授業開始前に、どのようなオンライン授業とするかを思案した。その結果、例年は毎回レジュメを配って講義するところ、今回は、レジュメを資料DLサーバーで公開するとともに、これとは別に授業の進行用のパワーポイント（PPT）を用意し、毎回の授業はPPTを画面共有しつつ進めることにした。火・金2限の開講で、1コマ授業が終わる毎に次のPPTを作るという、まさに自転車操業で、率直に言ってこのためにQ2の期間中、かなりきつかった。加えて、昨年の授業評価においてチャットを用いた双方向性の導入が学生の満足度を上げる傾向が見られたことも勘案し、毎回の授業は、講義中のチャットでの質問に随時回答しつつ進めるようにした。

授業評価の結果を見ると、設問項目14の平均値が4.46である等、総じて高評価を得ることができ、努力が報われた思いである。また、自由記述でも、「リアルタイムで質問に回答してもらえるのが良かった」「PPTが見やすくわかりやすかった」「地方自治法を好きになることができ、この科目をとって良かった」「学生のことを考えている分かりやすい授業だった」などの好意的なコメントを得た。ただし、私は日頃PPTを使い慣れていないこともあって、「PPTに書かれた情報のどれかが重要なのが分かりにくかった」旨の指摘も受けた。この点は、今後の課題としたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	環境法
授業コード	44C07-001
教員名	洞澤 秀雄
教員コード	102443
登録人数	101
回答数	26
回答率	25.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

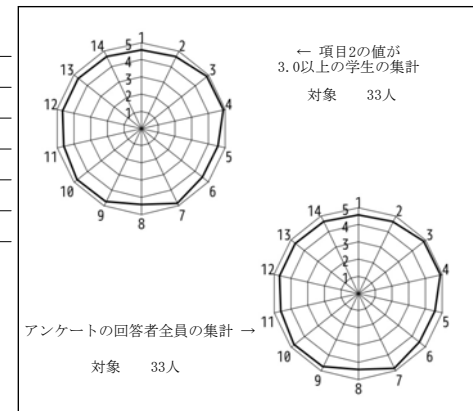
全てオンラインでの授業となったが、開講当初の目標である環境法全般の理解と現代的課題についての応用的考察という点については、おおむね達成できたと考えられる。環境法の理解としては、最後の環境民事訴訟について時間の都合上少し端折った部分があるが、それ以外は適切に講義を行った。また、応用的考察として、プラスチック対策の法、カーボンプライシングなど現在進行中の問題を扱い、応用的考察を深めた。

次に、数値データとしては、4.5を超える項目が多く、おおむね評価をいただいた。（自由記述でも評価していただいたように）ZOOMのチャットを通じた双方向での質問と解答などの取組みが評価されたと考えられる。他方で、到達目標をあまり明示しなかったため、到達目標についての評価項目（5, 6）が相対的に低い評価となっている。また、自由記述欄において、私の専門分野から遠い領域について自信なさげの説明であった点などの指摘があった。授業内容についてメリハリをつける必要性を感じた。

こうした評価を踏まえ、今後もZOOMのチャットなどの利用による双方向性を確保した授業を継続してゆこうと考えている。他方で、到達目標を授業においても明示しながら進める必要性、メリハリをつけた授業内容への改善といった点が、今後の改善点であると考えられる。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	学校教育心理学1
授業コード	15A05-001
教員名	宇田 光
教員コード	100494
登録人数	43
回答数	33
回答率	76.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



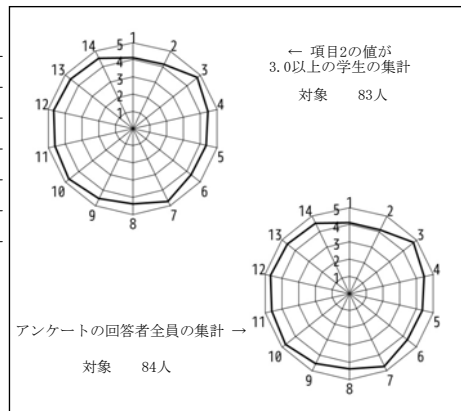
授業評価結果を踏まえた点検・評価

教職課程の必修科目で、セメスター科目である。主に3年生対象の科目だが今回は4年生も多い。BRD（当日ブリーフレポート方式）を多用している。項目3から14の平均値は4.68、全体としての満足度を示す設問14の平均値は4.64、レーダーチャートでも大きな落ち込み部分はなく、まずまず満足であるという回答を得た。

設問15（良かった点）としては、「解説だけでなく、DVDで分かりやすく授業がされていた」「授業毎の目標が明確で次の授業でも復習してくれるので理解しているかが把握しやすかった」「他者との交流がたくさんあった」「BRDという独自のレポート方式で理解も深まりスムーズに授業が進行していったと思う」などがあつた。一方、設問16（改善すべき点）は、「構想段階でレポートを書くのは難しいと思いました。また、効果的な予習のためにも、レポートのテーマを事前にもっと具体的に知らせてほしいです。」「たまにマイクが入っていなくて聞こえないときがあつた」の2件。今後、これらの点は改善していきたい。設問17（オンラインでの受講環境）は、「オンラインでも対面と同じようでありやすかつた」の1件のみだつた。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 教育行政論
授業コード 15A17-001
教員名 米津 直希
教員コード 104277
登録人数 163
回答数 84
回答率 51.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

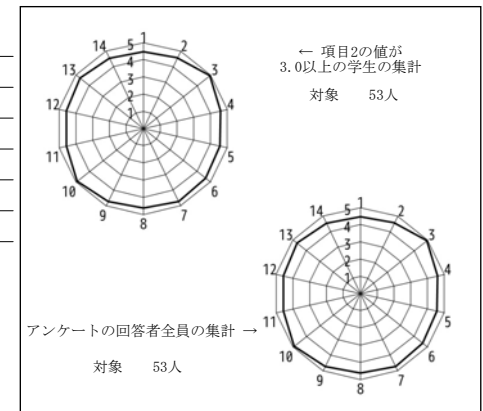


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①現代的課題を盛り込むことを優先してシラバスの予定を変更したため、初回の授業において説明はしたものの、十分に授業の目標や狙いが伝わらなかったおそれがある。関連する設問5は、全体平均を超えているが資格科目としては平均を下回っている。結果的に授業内容についての理解は得られたと考えるが、到達目標の説明等をより丁寧に行うべきである。
- ②本授業は、教職課程（資格科目）及び心理人間学科を主な対象として開講している。開講主体別の数値平均と比較して、本授業は授業時間の管理（設問3）及び学生の授業参加（設問11）、質問の機会や課題等に関する事前事後指導（設問12）については高い点数を得ている。自由記述においても、これらに関する言及が多かった。本授業では、学生の通信環境に配慮してブレイクアウトルームは多様せず、WebClassのチャット機能を使用した交流をほぼ毎回実施した。また、zoomのチャット機能で質問やコメントがしやすくなるよう書き込みの練習なども行った。そうした結果が数値に現れたと考えられる。ただし、ネット環境の不調（設問8）、学生の理解度への配慮や資料の充実（設問9）については他と平均して点数が低い。今後は受講環境に配慮しつつも、授業内容をより充実させていく必要がある。
- ③授業の到達目標等の丁寧な説明と内容の充実、対面授業に戻った場合のコミュニケーション方法・ツール等の用意が今後の課題である。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 学校教育概論2
授業コード 15A18-002
教員名 五島 敦子
教員コード 101282
登録人数 60
回答数 53
回答率 88.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

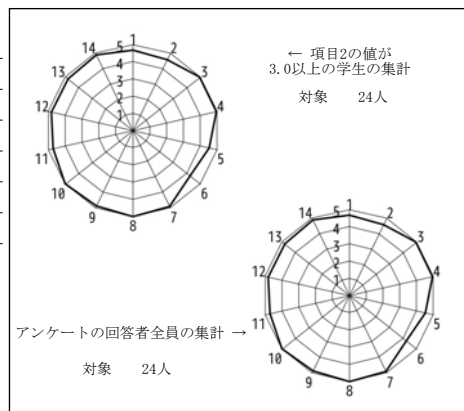


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 授業目標の達成度・点検・評価
すべての項目で4.45以上、設問13「全体としてあなたはこの授業に満足しましたか」4.70、設問3「開始・終了時間」4.94、設問7「取り組み姿勢」4.74、設問9「理解度に配慮」4.62であった。新型コロナウイルスの影響下で、当初はオンラインのみ、途中からハイブリットに切り替わる先の読めない状況にもかかわらず、教員の熱意と工夫が伝わり、目標を十分に達成したと考えられる。自由記述でも、「教師になる心構えとして、授業の中に学生同士で評価する機会があり非常に良い訓練になった。毎授業で配布される資料が分かりやすく、小論文課題があり自然と授業の復習が確実にでき、知識が定着したと感じる。」「チャットなどで意見を交流しながらでき、他の人の意見と自分の意見を比較したりして、学びを深めることができた。」「グループワークが非常に多く、考えを深める機会に恵まれていた。オンラインの時期も、オンラインの弊害を感じない学びの機会が提供されていた。」「テストを何回か行うことでフィードバックができ、理解が深まった。」など肯定的意見が多数寄せられた。ウェブクラスを活用した小テスト、小論文課題、チャットなど、多様な教育方法を織り交ぜたことが高評価の要因であったと思われる。
2. 今後の改善点・抱負・方針
学生の受講形態が一定しない状況で、授業運営に困難を感じた。自由記述に「教室でプロジェクターに投影される資料の文字が少し小さく、見づらいように感じました。」「オンライン上で出た質問をこまめにチェックしてもらえない」「このご時世では難しいですが、ディスカッションするグループを固定してやると、より議論が深まりやすいのではないかとあったように、対面とオンラインでは、資料の見え方やグループワークの進め方が異なるため、同時に様々な要望に応える必要に迫られたからである。今後も予測不可能な状況を想定して、より見やすい資料の作成を心掛け、学生の理解度の把握に努めたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[F B]1
授業コード	11A02-001
教員名	ELLIOTT, Darren
教員コード	101579
登録人数	25
回答数	24
回答率	96.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



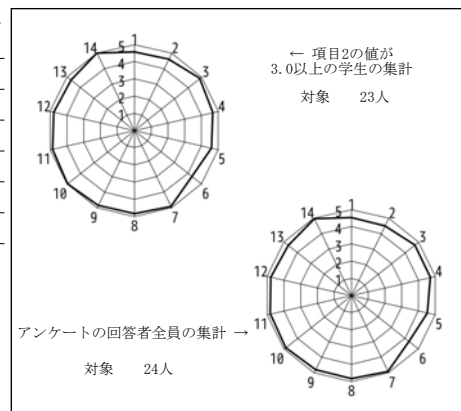
授業評価結果を踏まえた点検・評価

It seems that these students were very satisfied with the class, and it is gratifying to see that students recognised the effort put into planning the course, and appreciated that I was flexible. This wasn't mentioned clearly in any of the evaluations, but the thing I am dissatisfied with myself is the level of feedback I was able to provide. Working electronically is a far heavier burden than in regular classes, and I got overwhelmed with student work at times. I am working on ways to streamline this for Q3 & Q4, so I can provide feedback which is both timely and useful.

All but one of these students attended class face-to-face after the state of emergency was lifted, but this was not the case for my other classes. I understand the need to be flexible, but I believe that the university administration made a challenging situation worse by allowing students to request online classes at any time, and for any reason. If the rules had been clear, and equal for teachers and students (documented exemptions only, received by a deadline), I think classes would have been manageable. I was getting new PORTA exemption messages daily at one point. Frankly, it was a mess.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[F B]2
授業コード	11A02-002
教員名	HOWREY, John
教員コード	100371
登録人数	27
回答数	24
回答率	88.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course is designed to give students more fluency and confidence in speaking in English over a variety of topics. Students did vocabulary building, conversation, and discussion practice, and three 4-minute presentations. Students also met online as a part of a COIL project with students from UNG in the US.

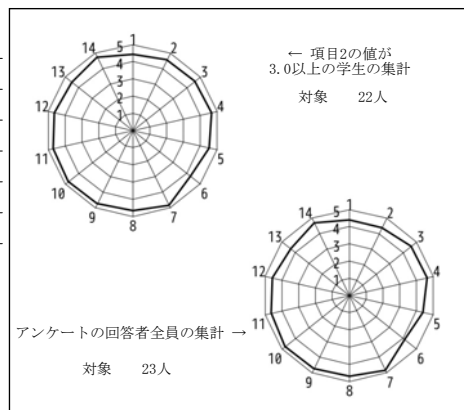
I was pleased with the way the class responded to the in-class work, WebClass activities, and COIL project. The textbook matched their level, but the online pronunciation activities might have been too easy. Students were able to adjust to taking the course online and then in-person without difficulty.

Students commented that the class was easy to understand and that there was a lot of time for practicing speaking skills in class. They liked that exercises were mostly done online and practice time was done in class. They particularly enjoyed the COIL project and interacting with their peers overseas. Students did say they want more peer discussion and to talk with more classmates. This last point was limited by the coronavirus restrictions in class.

Q3, I will give students more time to discuss and debate controversial issues and build on the work in Q1 and Q2.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオールラルコミュニケーション[F B]4
授業コード	11A02-004
教員名	FLORES, Ana Maria
教員コード	102899
登録人数	26
回答数	23
回答率	88.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



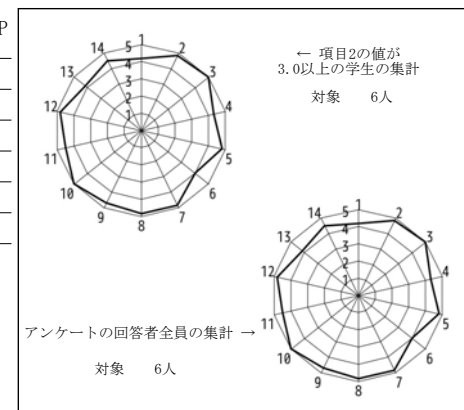
授業評価結果を踏まえた点検・評価

This course aims to improve the communication skills of the students in English. To achieve this end, the students were given class works (with approximately 5~7 speaking presentations), classroom and video recorded speaking reports, and home works (intensive and extensive listening tasks). Each lesson was in line with the syllabus, although there were a few instances that adjustments had to be made to address the students' learning needs manifested during the class, and as observed in the submitted reports. Based on the students' performances and outputs, the objectives of this course have been essentially achieved.

As regards the execution of my duties and responsibilities, the numerical data on the Student Course Evaluation proved the effectiveness and appropriateness of the instructions I have utilized to deliver the lessons. I would like to continue creating and developing lesson plans that are academically beneficial and cognitively engaging and, at the same time, more meaningful to their everyday life outside the classroom.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオールラルコミュニケーション[P]1
授業コード	11A02-020
教員名	GAGNON, Greg
教員コード	103474
登録人数	13
回答数	6
回答率	46.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

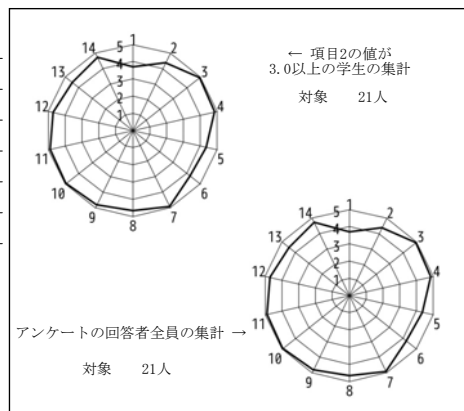


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This was a communication course, and the goals included: Give opinions on general topics or ones related to their major and support them in this course; and giving a 2-minute self-introduction. These goals were achieved by teaching the principles of structured debate, and having the students debate various topics, at times student generated; and by assessing students wherein they gave a 2-3 minute talk about topics of their choice. The students were active and engaged in the class activities, and showed initiative in their assignments outside of class. Based on the survey and answers, students were satisfied with the scope and delivery of the class, with an average of 4.83 on Question 8, and a 4.50 on Question 11. Students did feel they had gained knowledge, responding with a 4.17 on Question 13, and 4.50 for Question 14. There were many positive comments, with students feeling that they had equal opportunities to speak, and use English to communicate. In order to improve this class, I will endeavor to find better ways to use group discussion, as has been suggested by the students, and also to find new ways to spark student interest with questions about the topics raised in class.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIオーラルコミュニケーション[P]
]8
授業コード 11A02-027
教員名 LEAR, Christopher Adam
教員コード 104290
登録人数 22
回答数 21
回答率 95.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

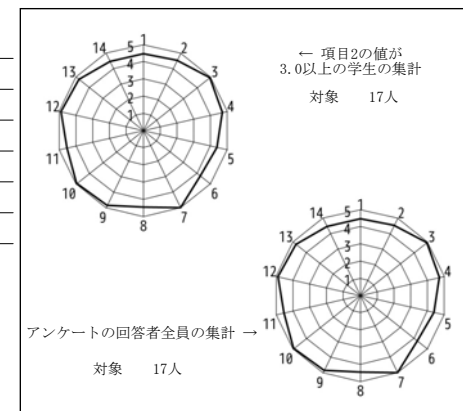
(1) The goals for this course are determined by the program. Since the course focuses on oral communication and the necessary skills, my aim was to introduce and facilitate the practice of those skills. Although end of Q1/start of Q2 had some difficulty due to switching to temporary online classes, students could have a better experience this semester compared to last year since they had a chance to do face-to-face classes. Because of this, students seemed to be more motivated and could enjoy communicating in English more. Additionally, when not using Zoom, I could better monitor student participation and performance when tasked with speaking activities.

(2) One student mentioned that they had difficulty at first with understanding and submitting Webclass materials, so I will aim to better prepare before giving them graded tasks on Webclass.

(3) Next quarter I will continue to use my current assessment system while maintaining a safe and encouraging atmosphere for the students. I do feel I need to allow more in-class time for extensive reading as I want to show my students the importance of reading as a way to acquire language.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[FB]3
授業コード 11A06-003
教員名 BAILDON, MARTIN
教員コード 102326
登録人数 23
回答数 17
回答率 73.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

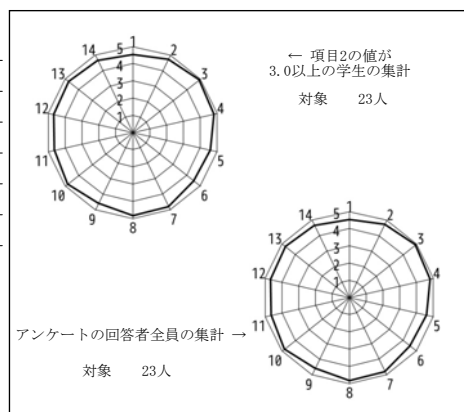


授業評価結果を踏まえた点検・評価

I am satisfied that all students recognise my sincerity (Q7) and, that I can focus students on appropriate tasks without allowing distractions (Q10). I feel that most students are trying their best to improve and are reaching a higher level of English as reflected in the written comments. Students also commented that I provide enough feedback and individual care fairly. However, feedback from the questionnaire shows that most, but not all the students are clear about the goals of the class (Q5). I am somewhat surprised this was the second lowest score as grading and goals were explained in lesson 1 with opportunities for review on Webclass including a comprehension test on evaluation and goals. It is unclear why several students are not fully understanding these goals. Several students requested more information about classes to be written on the whiteboard, including each lesson's outline, when submissions are due, and advice for improving essays. I believe these comments were justified and will endeavour to make more extensive use of the whiteboard. I also agree with comments referring to requests for more time in class to complete certain activities which I will include in future. I appreciated the students being candid in comments Q15-17. I am satisfied with the results of this questionnaire. Scores for all questions 3-14 are higher than averages for British and American Studies except Q8, which may be due to weak Wi-fi problems in the classroom.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[FB]6
 授業コード 11A06-006
 教員名 ELMETAHER, Hosam
 教員コード 104289
 登録人数 23
 回答数 23
 回答率 100.0%
 休講回数 0回
 補講回数 0回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Overall

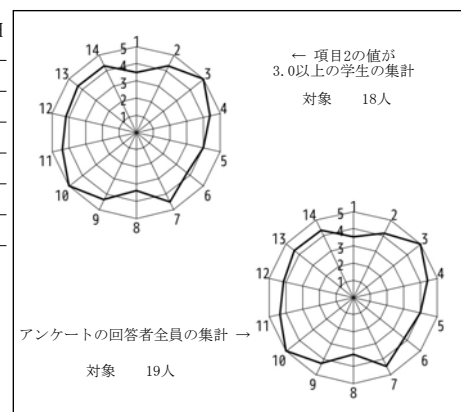
I have taught 7 subjects (14 classes per week), each with different specific teaching goals. Overall, the main goal was to develop students' academic and communicative English skills. I have developed and used my own teaching materials (e.g., Active English, Fast Track: Reading, and TOEIC textbooks). Students were always well-informed of their academic progress through feedback on their weekly homework, quizzes, tasks, and final projects. My classes were always within the designed course syllabus and planned objectives. Students were encouraged to provide feedback in the evaluation of my classes. My teaching materials worked well and the students enjoyed the classes while demonstrating an overall improvement in their English language skills.

For this specific class evaluation

This class was designed to develop students' reading and writing skills. The students have worked on different reading and writing assignments. Assignments include vocabulary quizzes, reading tests, M-Reader, academic research, and essay writing. Group and individual feedback were provided through individual conferences, Webclass, and Zoom. Based on the class evaluation, students very much enjoyed the class and have confirmed their reading and writing skills development. For the next academic term, I aim to implement more integrated-skills activities in all my classes.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIコミュニケーションスキルズ[H
A, HP, HJ]6
 授業コード 11A10-006
 教員名 TIDMARSH, Andrew
 教員コード 104101
 登録人数 26
 回答数 19
 回答率 73.1%
 休講回数 1回
 補講回数 1回

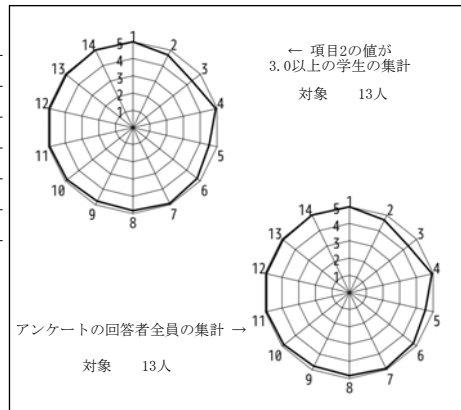


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The main goal of this class was to integrate reading and speaking targets using similar source material. Student accountability was increased by adding a groupwork element. The two final products were group-produced discussions and individual reports. This approach achieved the main goal. The secondary goal was to increase student attainment in both areas by increasing the challenge and the level of accountability. Students who took this class seriously improved a great deal.
2. Based on the restrictions that severely inhibited language teaching, I think it's hard to expect anything.
3. I hope that restrictions will disappear in the future, allowing teaching to be inhibited no longer.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語III[FS]2
授業コード 11D03-006
教員名 LANDEROS NERI, Sergio Gustavo
教員コード 103688
登録人数 15
回答数 13
回答率 86.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

Evaluation report for class 11D03 006 (FS)2, Q2

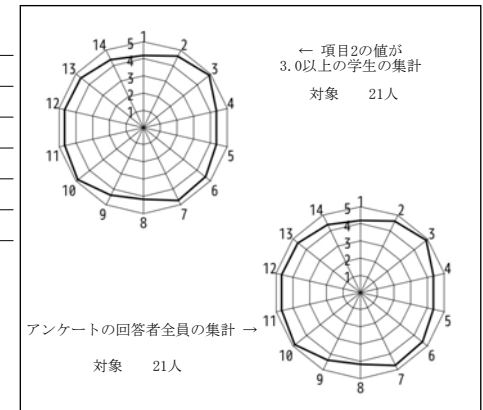
We worked on developing a communicative competence in Spanish that allows students to be able to do some shopping, to describe their daily habits related to health, and to ask for advice about them. In order to achieve that, students learned to:

- describe and evaluate merchandise.
- ask and tell prices.
- use the numbers.
- express obligation or need.
- use indeterminate articles, pronouns of direct and indirect objects, demonstrative adjectives and pronouns.

As for the results of the survey, as it can be interpreted from the graph, the answers of the students were positive compared to the media. Still there is more work to do in the next two quarters of this academic year.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語II<J・P>6
授業コード 11F02-024
教員名 虞 萍
教員コード 101432
登録人数 30
回答数 21
回答率 70.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

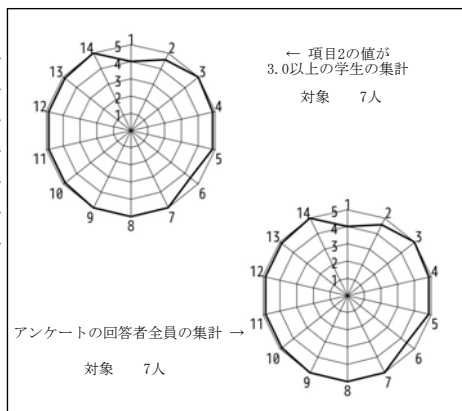
口述小テストを導入して以来、学生は日頃から教材の録音を頻繁に聴くようになり、中国語で話そうとする意識が高まった。開講当初に設定していた到達目標は概ね達成できた。実際に中国語検定準4級の資格を取ろうと思うと、やはり授業以外、各自検定対策を行わなければならない。

設問15「この授業の良かった点、評価できることは何ですか。」に関して、学生から、「中国事情も話していて地誌に興味のある自分としてはかなり面白く感じる事ができた。」「いっぱい発音させられたので毎回しっかり予習して臨めるようになった。」「主体性」「先生が教科書の作者ということもあり、教科書の使い方が上手く、わかりやすかった。」「中国語の発音テストが多く、実際に話せるくらいになること。」「アウトプットできるどころ」「先生が熱心なところ」「中国語だけではなくて、中国の文化についても教えてくださったので、中国についてより知ることができました。」「応用をたくさんしてくれるので力がついたと感じた。」「授業では教科書の応用をしなかったらなかったので、必然的に自分で基礎を予習・復習をしなければならなかった。Q1のときよりも積極的に受講できたし、力が付いた。」などのコメントをいただいた。適切な教育方法が導入したことは学生に認めてもらったと言える。

引き続き学生にとって有効的なオンライン授業教育方法を模索したい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語I(読解)1
授業コード 11L17-001
教員名 山口 薫
教員コード 019406
登録人数 7
回答数 7
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

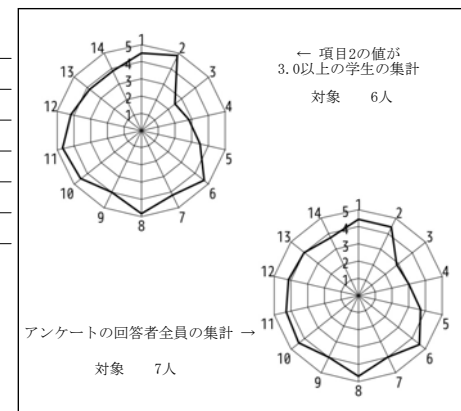


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業の目標は、留学生が、多くの情報の中から必要なものだけを抜き出した
り、まとまった文章を読んで内容を正確に理解し、自分自身の意見を持てるよ
うになることである。授業評価の集計結果と実際の到達度を同等に考えること
はできないが、項目3から14の平均値の高さ(4.88)から、本授業の目標は概
ね達成されたものと考えられる。特に、設問7(担当教員の授業に取り組む姿
勢)、設問9(学生の理解度への配慮、教材の適切さ)、設問14(全体的な満
足度)などの項目でポイントが「5.00」であったのは、担当教員として嬉しい
限りである。自由記述のコメントを読んでも、「質問に対し親切に詳しく答え
てくださり、よく理解できた」「PPTの絵や写真などの資料が豊富で、とても
わかりやすかった」「読んだ文章でも、作文のテーマでも、いろいろなことを
学んだ」などの評価が多く、受講した学生たちの満足度の高かったことがう
かがえる。ただ、設問6(到達目標に向けて力がついてきていると思うか)が「
4.43」とやや低めなのが気になる場所である。本授業を通して日本語の読解
力がついたことは客観的にみて間違いないと思われるが、自分ではなかなか実
感しづらいのかもしれない。従って来学期以降は、受講生が自身の運用力の向
上を実感できるよう、学期開始当初や中盤に読んだ文章に、学期末にもう一度
目を通させ、読んで理解するスピードが上がったことを実感させるような活動
も取り入れたいと思っている。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語I(作文)1
授業コード 11L18-001
教員名 佐々木 陽子
教員コード 019695
登録人数 7
回答数 7
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

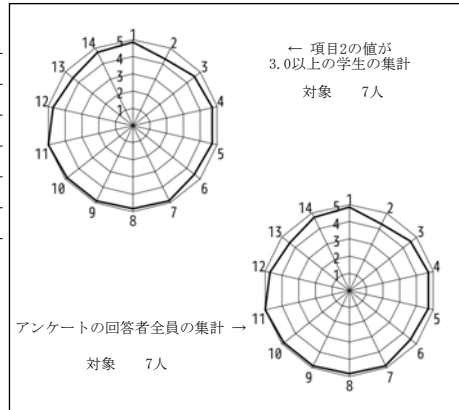


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①おおむね期待を超える到達点に達した。
- ②今学期は、レベル混在にもかかわらず一斉授業をするしかない環境であった
ことにより(教室を二つに分けられない)、レベル依拠進度をやめ、言語使用
状況依拠(situation based)の教授法を採択したが、第15項目の回答にその
成果が見て取れたうえ、実際に対話練習のあとは学生はコロナの制約も忘れて
国際環境を楽しんだことがうかがえる笑顔であふれていた。初修でかつ遠隔で
も柔軟性の高いテーマ学習が成功したことは大きい。
ただ項目3, 4は意外であった。この授業は金曜一限で、教員側ログインは早
い時で30分前、遅くとも10分前に日本のテレビニュースを流して日本にいる環
境を体験させるようにしていたうえ、全体の時間が崩れたことはなく次授業へ
の引継ぎも毎回順調であった。ただ一度休講したことがあり、その際、全学生
が連絡に気付かず半日も教員を待ったと後で聞いている。(教務告知システ
ムの把握における学生側問題があったと考えられる。しかも休講は別の授業で
あり、この授業ではない。ちなみにこのアンケートで高く評価されてる対話練習
やビデオ視聴も別の授業のものであり、作文指導ではない。学生はどれも教員
単位で回答していると思われ、システムを十分に理解していない点がかがえる。)
- ③遠隔授業のみでまだ来日していない海外留学生に向け、授業枠内で扱う事項
以外を含む、広義の「留学生指導」をいかに集約的に行うかが目下の課題であ
る。それにより学生は、アカデミックライフとともに、留学生特有の「パー
ソナルライフ」を補佐指導されていく。例年のことだがN4N3N2までの既修者が未
修者クラスに混入する問題も継続して発生しているが、学生側の単位取得戦略
の可能性もあり、発見早々に配置換えの可能性を話し合う必要があるだろう。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スポーツ実技(生涯スポーツ)テニス2
授業コード 14E05-003
教員名 金 興烈
教員コード 102721
登録人数 9
回答数 7
回答率 77.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

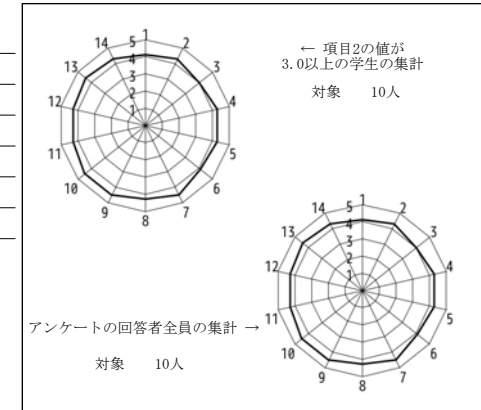


授業評価結果を踏まえた点検・評価

学生による授業評価が、全体平均の4.7点以上を達成していることは、それなりに評価してよいのではないと思う。今回は、開講当初に「①テニスに関する理論的背景(歴史と道具の進化によるプレースタイルの変化)を理解すること、②テニスを通じた生涯スポーツに向けた基礎体力の獲得と他人との対話能力や協調性などの社会的適応の基礎を獲得すること」という目標を一人一人に設定させた。今回のような高い授業評価の結果には、とりわけ受講者らのモチベーションも一因であったと思われる。今回の受講者らは学習意欲が非常に高く、毎回の授業にも積極的に取り組んでいた。それによって、様々な知識がストレートに受け止められ、テニスの機能面でも高い目標に向かって自ら取り組んでいく姿勢が見受けられた。これは授業内容だけではなく、授業運営に関する取組も評価された結果であると判断される。一方、開講クォーターにおいては、7月から平年より猛暑が続く中、熱中症対策による授業時間(練習や試合)を十分取れなかったことは、今後の改善すべき点である。次年度の授業においては、開講クォーター(Q1またはQ3)を変更するなど熱中症の対策について考えていきたい。これからもテニスの学習意欲が高まるような授業展開と指導法を工夫し、学生が満足できる授業展開に心がけていきたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地誌概論1
授業コード 12B11-001
教員名 岡本 耕平
教員コード 049502
登録人数 32
回答数 10
回答率 31.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

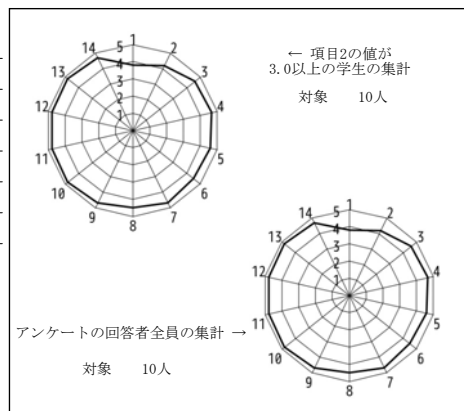


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①項目5「この授業の到達目標を理解することができましたか。」の学生評価平均値は全体の平均値を上まわっていたが、項目6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」はほぼ全体の平均値であった。授業の到達目標への達成度はさほど高くはない。
②今回の授業は受講者数が少なかったにもかかわらず、授業評価は良くなく、項目14「全体として、あなたはこの授業に満足しましたか」は、受講者数が同程度の授業の平均値をかなり下回った。原因の一つとして考えられるのは、対面とオンラインのハイブリッド形式であったことである。ハイブリッドの場合、対面の学生の表情などから理解状況を把握することになるが、意識が対面の学生に集中し、オンラインの学生への配慮がおろそかになりがちである。ハイブリッドの授業は今回初めてであったが、今後はなるべく避けたい。項目14の満足度の平均値は高くなかったが、項目15の自由意見には「先生の話し方に親しみやすさを感じた」「内容の説明が分かりやすかった」「自分の地元について詳しく学べて役に立った」「動画やさまざまな資料を用いていてわかりやすかった」「名古屋出身ではないので難しく感じる場所もあったが楽しく授業を受けることができた」という肯定的な意見があり、勇気づけられた。
③逆に項目16「授業を受講して改善したほうがよいと感じた点」の自由意見に「オンライン授業の際の手際が少し悪かった」という意見があった。今回は補助スタッフにずいぶん助けられたが、それでもオンラインの開始に手間取り、授業開始が遅れた回が複数あった。そのため項目3の「オンラインで受講した場合、事前に予告された開始時間は守られていましたか」の評価が特に低かった。次回は改善したい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 現代の文化人類学
授業コード 22C10-002
教員名 加藤 英明
教員コード 151456
登録人数 53
回答数 10
回答率 18.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

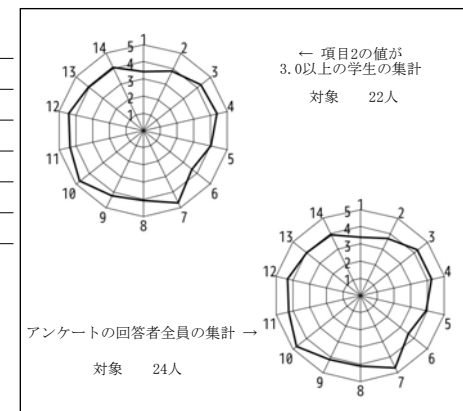


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
本講義の到達目標は、(1)(2)現代社会のモノづくりの特徴と問題を文化人類学の観点から説明できること、(3)現代的な現象が、なぜ文化人類学のテーマとなるのか理解しているかの3つであった。(1)(2)については授業に多くの時間を割き、リアクションペーパーと期末レポート、上記の数値から判断しても、おおむね目標を達成することができたと思う。ただ、③については、授業での説明が少なくなってしまい、学生に対して関心を向けさせることができなかったと感じている。この点は、目標設定も含めて、見直しを図りたい。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
講義においては、具体的な事例や映像を活用しながら、概念や専門領域を分かりやすく説明し、理解を深めてもらうという点を心がけたが、この点については、一定程度の成果があったと思う。また、平均値の①がやや低い点については、機械や工場が、人類学を学ぶ学生にとってなじみの薄い対象である可能性が理由の1つにあるかもしれないため、学生の興味関心をもたせる魅力的なシラバスを提示する必要があると感じた。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
ハイブリット形式でありZoom・機器の操作等に戸惑い学生に迷惑をかけることがたびたびあったが、システム担当者のバックアップが手厚かったため、授業内のスケジュールを変更することなく進めることができた。ただ、次回はよりスムーズに授業が運べるように気を付けたい。また、リアクションペーパーやレポートをみると、地元である愛知の自動車関連の話題に、とくに関心をもつ傾向が確認できたので、この点の話題をより多く提供できるようにしたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 東アジア考古学C
授業コード 22C40-001
教員名 伊藤 正人
教員コード 104262
登録人数 66
回答数 24
回答率 36.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

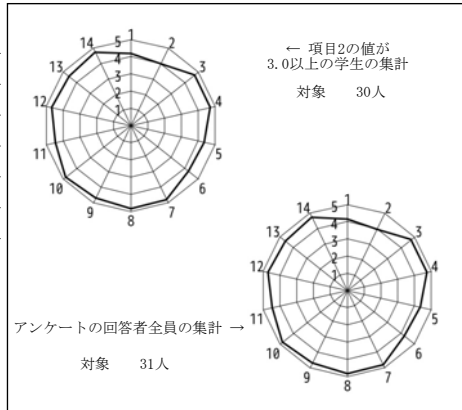


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①縄文時代・縄文文化に関する基礎的な知識を確認し、各自が興味を深めてほしいと考えたが、前提となる考古学の基礎知識についての確認が不十分であった。内容が専門領域に及ぶものの、一律な達成度・具体的目標を設定していないので、各自の問題意識のあり方を最終課題の記述意識・内容によって評価した。
- ②アンケートの回答者が受講者の半数に満たない状況は、批判的・否定的評価が相当数を占めることを予測させる。構成や進行速度に大きな不満が示されなかったことも、未回答者より総じて肯定的であろうが、大きく見直す必要はないものとする。ただし、考古学の基礎知識を踏まえての理解が必要となる部分については、補足や繰り返しの確認・説明を心がけるようにする。
- ③講義目的や各回の内容が受講者とどのように関わりのか、接点を意識できるように進行させたい。配布資料は講義の補足として準備するが、復習に耐える内容整理をおこないたい。受講生に負荷をかけずに、疑問点を明確にさせる(質問を受ける)ことで理解度を高める機会を意識したい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	地域の文化と歴史(アフリカ)
授業コード	22C47-001
教員名	坂井 信三
教員コード	034264
登録人数	66
回答数	31
回答率	47.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回の講義は、緊急事態宣言のため途中までオンラインだったが、宣言解除後も、私自身の健康上の不安から、全回をオンラインとした。その結果、私の大学での授業は今回が最後だったが、学生との直接のコンタクトが少なかったのは残念だった。

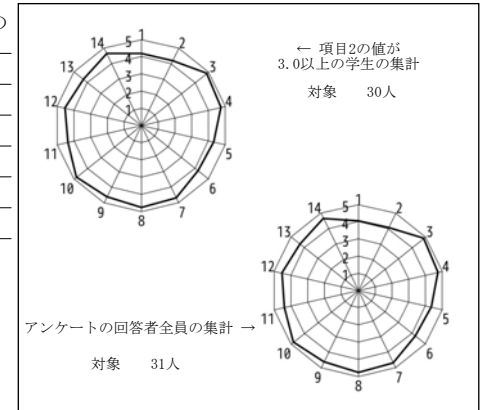
毎回、質問、意見があればメールで送るよう指示したが、反応はほとんどなかった。したがって、講義に対する学生の反応をつかみにくかった。また、今年度から授業時間が100分に延長されたため、時間配分になれるまで少し時間がかかり、学生の集中力が落ちないように、毎回、5～10分の休憩を入れるようにした。

とは言え、アンケートの結果を見ると、設問7以降のすべての質問で、評価の平均が4.5を超えており、授業の進め方は学生にとって有効だったことが伺える。

個別評価を見ると、資料がわかりやすく充実していたこと、休憩があったことが評価された。その他に、今回は学生の関心を引き出すつもりで、西アフリカの伝統的な語り部の音楽や現代のアフリカン・ポップスなどを、意識的に休憩時間に流すようにした。学生がそれを楽しんでくれたようで、よかったと思う。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人類文化学特殊講義 (アジア・日本の人類学)
授業コード	22C76-002
教員名	菅沼 文乃
教員コード	150333
登録人数	97
回答数	31
回答率	32.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について

開講当初に設定していた到達目標は、(1)沖縄という地域に関する文化人類学的理解、(2)日本・アジア・世界との関係性からみた沖縄の現代的様相について受講生の関心を深めさせること、であった。この2点について、スライド資料の使用および配布、動画・音声資料の使用、沖縄に関する知識・情報、世間的に関心が集まっている事例を多く盛り込むことにより、ほぼ達成することができた。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価

予習・復習や課題設定などの学生の主体的な取り組みを促す指導について不十分であったことが感じられる(アンケート設問項目(2)(11))。また受講生の履修をとおした理解・知識の習得、および授業全体の満足度について改善の余地がある(アンケート設問項目(13))。

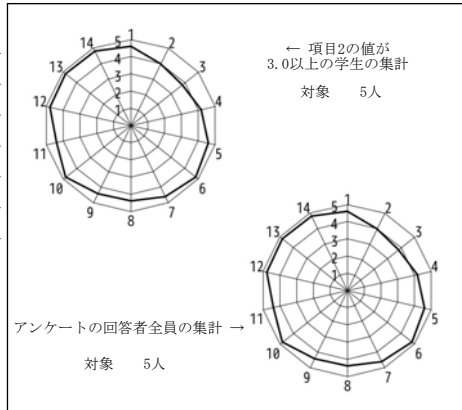
一方、オンライン形式での授業の実施にあたり、受講生の授業への集中を促すことに留意した資料の作成・使用や時間配分については、一定の評価を得ることができた(アンケート設問項目(15))。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

講義での質問内容、リアクションペーパーの反応等をふまえて、学生が関心を持つ話題を積極的に取り入れることで講義への興味心を高める。講義全体の到達目標を具体的に示したうえで、学生それぞれが関心をもって積極的に講義に取り組むことができる課題を設ける。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地域開発と人間関係I
 授業コード 23C64-001
 教員名 井坂 泰成
 教員コード 104429
 登録人数 30
 回答数 5
 回答率 16.7%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

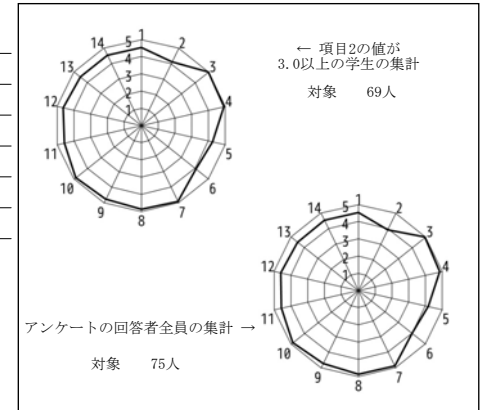


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①シラバスの目標は95%程度達成できたと考えます。目標1.は、授業後のふりかえりレポートから、学生が様々な社会課題を知り、調べたことによる気づきが確認できました。目標2.は、特に、国際協力の現場での援助のあり方の問題から、人を支援する際の関わり方を学んだという声が多くありました。また、日本国内での身近な外国人に対する効果的で参加しやすい支援の取り組みの事例から多くのことを学んだ声が多く聞かれました。目標3.は、授業中のグループディスカッションと最後のプレゼンテーションの機会を通して、自分なりの解決策を考え、提案することができていました。不足の5%としては、グループディスカッションの方法と問題解決策を思考・提案するプロセスの教示が授業の後半にってしまったため、深く掘り下げるのが十分ではなかったという点があります。②授業評価のアンケートは、私が伝達していなかったこともあり5件と限られていますが、授業の毎回のふりかえりレポート、及び最終回の感想を見ていただければ、学生が授業内容（リアルな地域課題に触れることと対話の方法の両面）と、授業の実施方法（参加型、外部講師の登用）の両方に大変満足していることが伺えます。特に、講師の体験談を交えた社会の生の課題についての講義、及び、対話を通じた学習に対する反応はよかったと思っています。③上記の通り、授業を通して行うワークと、最後の目標であるプレゼンテーションの方法について最初に説明し、途中でも繰り返したいと思います。それによって、何をすべきかがよく理解され、考えをより深めていくことができると考えます。また、授業終了時間を守ること（2度ほど延びてしまいました）、後ろの席に座っている学生にも声が聞こえるように対処したいと思います。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 臨床心理学(臨床心理学概論)
 授業コード 23C67-001
 教員名 谷口 まち子
 教員コード 104476
 登録人数 126
 回答数 75
 回答率 59.5%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

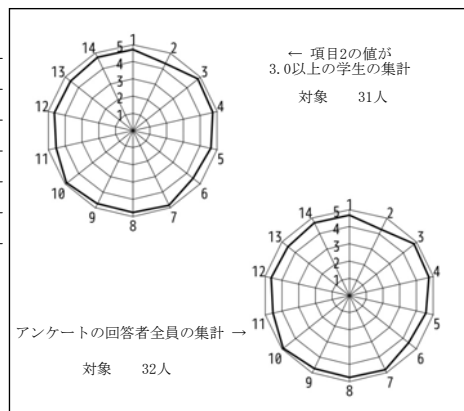


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①初めての大学での授業かつオンラインということで、開講当初は全体の授業評価の平均程度が目標であった。全体の平均よりも上が14項目中11項目、学科の平均より上が10項目であったことで、目標は概ね達成されていると思われる。
 ②自由記述で、私の現場での経験を例としてあげた説明がわかりやすかったという意見が多かったことは、臨床経験者の枠での雇用であるため、役目を果たせたと感じた。評価が学科の平均より下回った項目は2, 5, 6, 13であった。2, 13に関しては、学生の主体性にまかせていたため、予習・復習や授業に主体的に参加するようにあえて言葉で強く勧めてはいなかったことや、オンライン特有の事情で、毅然とした指導が難しかった点も関連していると思われる。5, 6は、達成目標と達成度合いに関するものである。初年度で様子がわからず、前年度の先生の設定していた目標をほぼ引き継いだため、自身でたてた授業内容と目標との兼ね合いがやや不明確であったことが関連していたと想定される。
 ③好評だった経験を含めた学生にわかりやすい説明、グループワークは来年度も継続していきたい。学習目標はより具体的で内容に沿ったものに変更し、授業内で折にふれて提示していきたい。学生が力がついてきていると感じられるような予習復習に関する課題を準備し、配布資料については見え辛さも指摘されていたため、一部別の形で作成する予定である。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 障害者・障害児心理学
授業コード 23C70-001
教員名 榎本 拓哉
教員コード 104430
登録人数 121
回答数 32
回答率 26.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



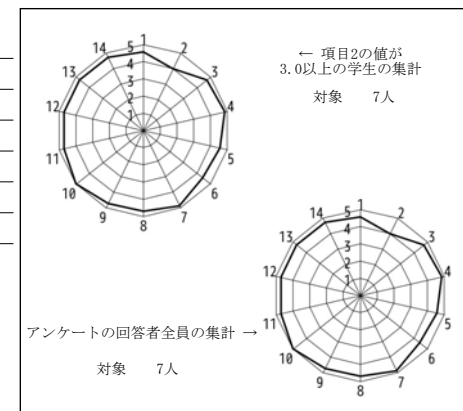
授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義の目標は、①身体障害、知的障害および精神障害の概要を生理、機能、心理の3側面より説明できるようになる、②障害者・障害児の心理社会的課題および望まれる支援方略を理解している、③共生社会を実現する意義、達成するための要因についての視座を持つことができるようになる、以上の3点であった。各講義の小レポート、期末レポートの内容を踏まえると、学生の大半が概ね目標を達成できたと考えられる。

講義アンケート結果は回答率が低い（31名）こともあり、参考程度の数値であるが、すべての項目において学科平均点を超えており、満足度の高い講義を提供できたのではないかと考える。小項目では、項目3、項目7、項目10などの点数が高く、スムーズな講義展開が評価されたと考える。反面、項目2や項目6などが相対的に低いため、講義に向けて自学・自習を進めるための仕組みを整える必要があるだろう。具体的には、1) 次回講義内容とキーワードについて具体的に告知する、2) 講義のはじめに扱う内容についての感想をアンケート形式で聞くなどに取り組みたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 公認心理師関係行政論(関係行政論)
授業コード 23C80-001
教員名 相馬 信子
教員コード 104432
登録人数 7
回答数 7
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

① 資格試験の受験要件科目であり、試験内容となることから、資格試験の合格水準に達することが最終的な講義目標となる。

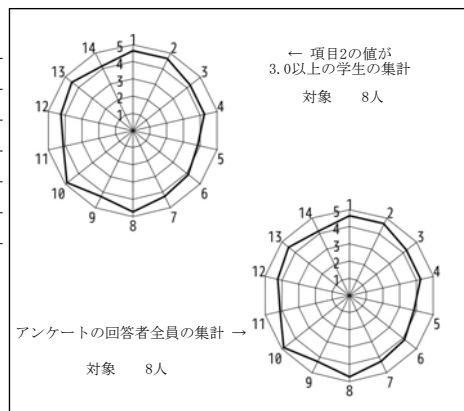
講義中の発言や小テスト、期末テストの結果等を総合的に考えると、シラバスにおいて設定した到達目標についてかなりの水準で達成できたように思う。しかし、幅広い知識が要求される講義であることを踏まえると、より高い精度での学習が必要となる。

② アンケート結果から、予習・復習等の自学が若干不足しているように理解する。受験に向け、今後も学習の継続が必要となることにも鑑みると、少なくとも復習について、講義中に方法や問題を提示するなど、各自の学習を促す工夫が必要であると考えられる。

③ 小テスト以外にも、講義内容の理解度を確認するような設問を毎講義用意して、復習に生かすような指導を行うようにすることを検討中である。講義内容が学生がこれまで触れてこなかった分野になっているので、学生が理解しやすいよう具体的制度や身近な例示を示していきたいと考えている。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 からだとことばII
授業コード 24C07-001
教員名 土谷 薫
教員コード 064352
登録人数 25
回答数 8
回答率 32.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

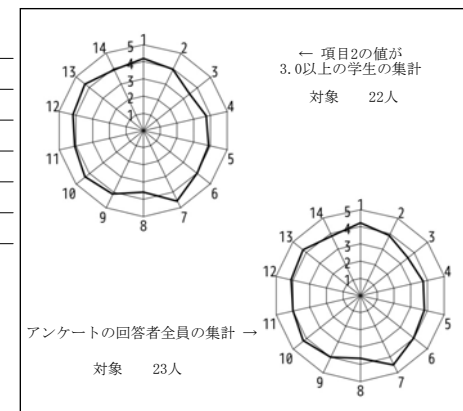


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①最終の授業で行った上演では、どの学生も「からだ」と「ことば」の集大成としての『表現』に挑み、手ごたえを感じられていたように思う。最終レポートにおいても、学生一人一人が授業の体験により新しい知見を得たことが感じられた。その意味では、ほぼ目標を達成したといつてよいであろう。
- ②体験中心であること、目的や内容の理解のしにくさもあり、学生の授業へのモチベーションをどう作りだすかが毎回の課題であった。今年度、特に丁寧に取り組んだこととしては、授業の体験だけではなく、授業後に書く「ふりかえり」を紹介することで、体験について感じたことや考えたことを全員でシェアしたこと、そして授業に向かう上での資料の提供をより丁寧に行ったことなどであった。
- ③毎回の授業について例えると、まずは船を漕ぎ出してみて、波の大きさや天候に合わせ漕ぎ方を変えていくようなイメージである。手探りをしながらも目的に向かっていくためには、まず私自身が日々、自身の「からだ」「ことば」に意識を向け、人との関わりや様々な体験などから思索を深めていくこと。そして、学生の学びを深めるための（情報や資料、書籍の紹介も含め）様々な体験を提供・共有し、共に学んでいきたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本美術史
授業コード 24C27-001
教員名 四辻 秀紀
教員コード 100351
登録人数 61
回答数 23
回答率 37.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

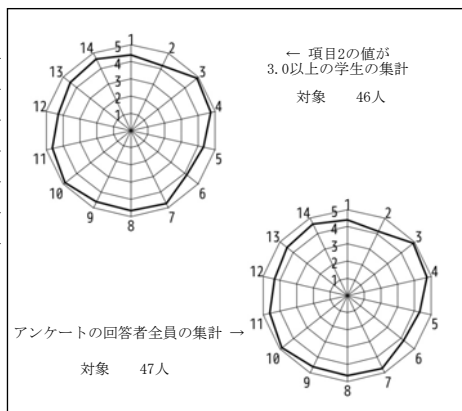


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 開講当初に計画していた目標はおおよそ達成できたと思う。当初はzoomによるオンライン授業で始めたが、途中から対面（通学困難者はオンライン）に切り替わり授業を行ったが、2時間続けての講義で、進行上内容的に区切りの良いところで、受講生の了解の上休憩をはさんだが、一部の受講生にとって休憩時間が守られていないとの意見があり、今後検討したい。またオンラインでの授業では、聴きとりにくい場合があるとの事で、こちらも、十分な配慮を心掛けたい。数多くの画像を見ることができ良かったとする意見がある一方、画像などのパワポの資料ををサーバーにあげてほしい等の意見もあったが、これは授業の最初に受講生に伝えておいたが、他に流出しては困る画像が多く含まれるため、お断りしている。また単に知識を詰め込むためではなく、さまざまな情報を図版等にはあまり掲載されていない画像を提示することにより、受講生の皆さんの興味を深め、独自の発想を促すための授業と考えている。
- 受講生の皆さんから寄せられた意見を参考にして、来学期以降の授業運営を行っていきたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	女性と近現代文学
授業コード	24C38-001
教員名	酒井 敏
教員コード	101869
登録人数	51
回答数	47
回答率	92.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

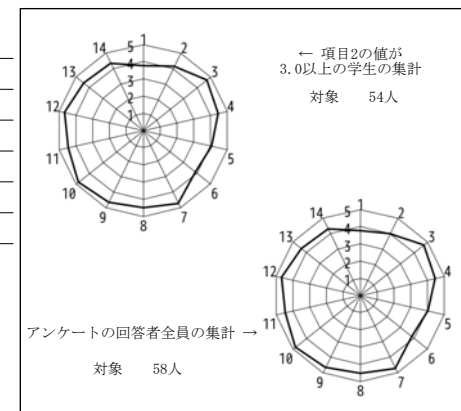
オンライン授業に慣れていないので、どこまで円滑に授業を行えるか不安があった（決して巧みにこなせたわけではないことは自由記述欄のコメントでも分かる）が、何とか所期の目標を達成できたと思う。

全体に高い評価が得られて一安心。中でも、設問8と設問11で良い評価（平均値との差がプラス方向で大きい）が得られたことが、ありがたい。8は上記のように不慣れという自覚があったので。11は自分が授業で常に心掛けている点であるため。自由記述でも全体に好意的なコメントが多く、「分かりやすい」「面白い」「詳しく丁寧な説明があった」「教材が適切で新しい見方を知った・興味が湧いた」など、意識して工夫したことが受け入れられていると理解できて、安堵もし新たな意欲も湧いた。一方、設問12の評価は逆に目立って低く、対応を考える必要があるだろう。ウェブクラスなどでは質問に対応できたが、授業中のチャットなどでは対応できなかった。

新鮮でもあり、刺激にもなって、好印象で受け入れられている授業内容をさらに充実させるとともに、自由記述で「もっと量を増やして欲しい」「予めポイントを示した上で挿入する書き方を」など不満が寄せられた板書（特にオンラインでのホワイトボード）について、改善してゆきたいと思う。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本語史I
授業コード	24C47-001
教員名	宮内 佐夜香
教員コード	104443
登録人数	80
回答数	58
回答率	72.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

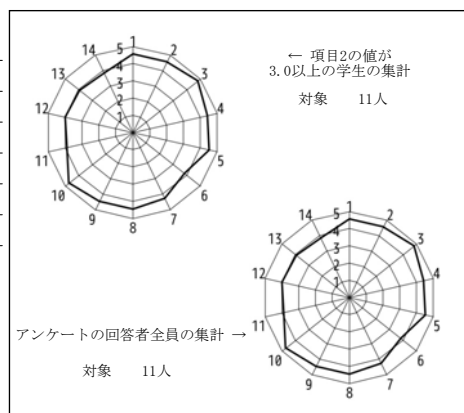
文法に関する理論的解説に関して難解な内容を含む。学生が理解しやすく、難解さを噛み砕きすぎずということに留意した。毎回のリアクションペーパーの様子やレポートの状況からは、概ね学修目標は達成されていると考えるが、学生自身の認識としては「授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか。」が3.84と低い。單元ごとの確認テストの実施等、学生自身が自分の理解度を把握するための方法を考えたい。

質問対応や課題、教材の工夫については概ね好評価であるようで、今後も継続したい。工夫の一つとしてデータベースを利用した作業課題を取り入れた。もっと作業課題を増やしてほしいという要望もあったが、講義を省くの難しく、悩ましい。検討したい。また教室からのZoom同時配信について、遠隔参加者に不利益のないよう方法を工夫すればするほどに、通常の対面授業ではあり得ない負担がどうしても増加する。鋭意努めたいが、今後の時勢を注視しながら考えたい。

毎回の授業の構成や進行速度について、アンケートでは4.48とおおむね適切であるという回答を得たが、今回初めて構成した講義であるため、時間配分、内容のバランスなどに改善すべき点がある。構成を見直し、より適切なバランスに改めたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[G]4
授業コード 11A06-035
教員名 HANNAH Nicola
教員コード 104295
登録人数 20
回答数 11
回答率 55.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

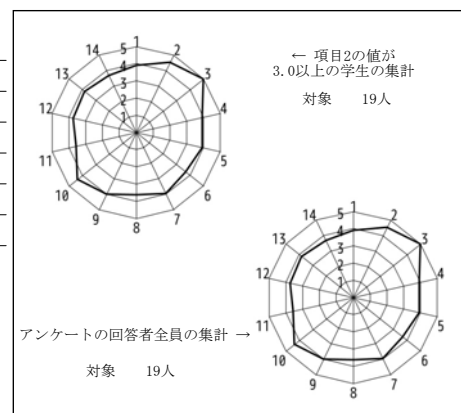
(1) Goals at the start of Q2 included writing practice culminating in two written essays, the first descriptive and the second narrative. There was a marked improvement in the students' second essay compared with their first. For the second essay we studied more detailed formatting and structure and the students followed these guidelines resulting in improved essay submissions. Reading focused on various genre: short stories, novels, news articles, cultural topics.

(2) I did not conduct a survey to find out the opinion or comments of the students in this class. Nor am I aware of the results of any questionnaire that students may have completed. Therefore, I will give my evaluation. The students followed class instructions well, generally participated in all activities to the best of their abilities and with a great attitude. When we resumed face-to-face classes after some weeks on Zoom, the class atmosphere felt more stressful and tired. Eleven students had been authorized to continue taking classes by Zoom, but ten students chose to come to class. Some of them said that they wanted to be with their friends. This shows they had formed friendships, and that the camaraderie of class was more important to them than the relative ease of turning on their computers from home to participate in a Zoom class.

(3) I think the students should continue to develop their research ability for essays, and participate further in discussions on reading topics with various partners to progress their social and critical thinking skills.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[G]6
授業コード 11A06-037
教員名 クマイ 恭子
教員コード 101131
登録人数 19
回答数 19
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

当科目は必修科目であるので、コーディネーター作成によるシラバスを基に授業計画を立て、授業を展開した。一年生対象の授業であり、英語エッセイライティングは初めてのこともあり、まずはエッセイの構成を学ぶことからスタートした。できる限りリーディングとライティングのテーマが合うように設定したつもりである。授業内課題および宿題でエッセイを多く課し、できるだけ英語エッセイの構成に馴染む機会を多くとった。今期は対面とオンラインの両方での授業だったので、課題変更など状況に応じた対応が必要であった。教員学生ともに協力が必要なクォーターだった。

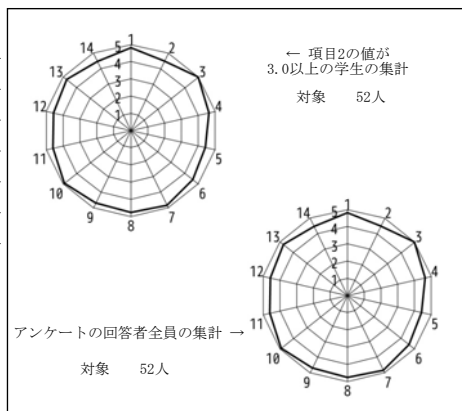
授業内課題ではグループワークを主に展開し、学生同士がコミュニケーションをとれるよう配慮した。これは学生にも好評であった。

学生からは課題が毎回同じなので少し飽きたという意見もあった。これは担当者も感じていたことであり、クリエイティブライティングを少し増やすなどしてみたい。だがなんと言ってもエッセイライティング能力向上が重要課題なので、バランスが難しいところである。

教室に設置されているマイクの音量があまり上がらず、口をかなり近づけないと音を拾わないので、学生からももっと音量が大きいほうが良いとの要望があった。教室の規模も大きく、ドアも放置する状態なので、口許に手を持ち上げなくても音声を拾うマイクにしていただけるとありがたいです。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語音声学
 授業コード 31E17-001
 教員名 中郷 慶
 教員コード 104472
 登録人数 58
 回答数 52
 回答率 89.7%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



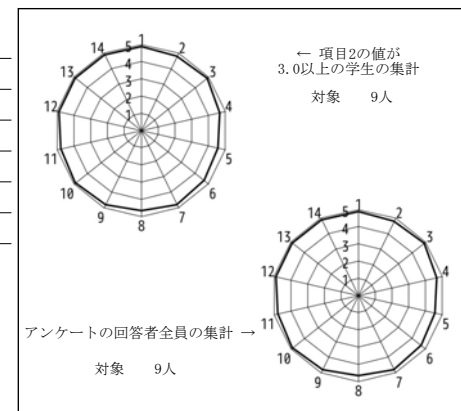
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定した目標は、いずれも到達されたと判断しています。
 授業評価の設問1から14までの平均は4.68、設問3から14の平均は4.69で、特に大きな問題はなかったと考えています。項目15についても、多くの受講生から肯定的な意見が寄せられました。問題は項目16です。わたしの言い方が「強い」「きつい」「怖い」などの回答が目立ちました。この授業では、「これだけは理解してください」と伝えたことが受講生のみなさんに知識として定着しているかを確認するために、何度も振り返りを行いました。残念ながら、もっとも基本的な事項でさえも答えられないということが何度もありました。受講生の一人は、「何回も繰り返しピックアップされていることを答えられないということが多々あった。このように、正直教員の熱量と生徒の熱量にギャップを感じる時があった。もっと少人数規模にした方が各々満足いくまで発音の練習・修正を行うことができ、より有意義な授業ができるのではないかと感じた」と書いてくださっています。この学生のおっしゃるとおりだと思います。

新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言の発出のため、Q2の最初の2週間はZoomでのリアルタイムオンライン授業となりました。みなさんの理解を確認しながら授業を進めたいと思い、顔を出してくださいとお願いしても、58名の履修学生のうち、顔を出してくれた学生が1名のみだったのは非常に残念でした。また、第3週以降に対面授業が始まっても、G25（定員：206名）という大教室での授業でしたので、学生との距離感がなかなか取りにくいと感じました。新型コロナウイルスがある程度収束し、従来に近い形で授業できるようになり、もし、来年度以降も南山大学でこの授業を担当させていただくことがあれば、学生の理解をいっそう丁寧に確認しながら授業を進めていきたいと考えています。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 スペイン語III[FS]1
 授業コード 11D03-005
 教員名 HOPKINS Mariella
 教員コード 103653
 登録人数 15
 回答数 9
 回答率 60.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

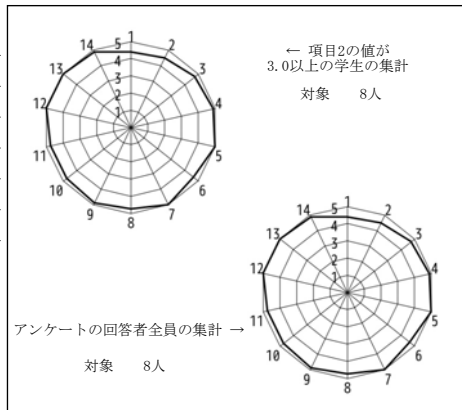
Número 1. Los objetivos planteados para este trimestre fueron cumplidos de forma adecuada, según los tenía estructurado en el syllabus correspondiente. Hemos tenido que reemplazar las clases porque estas se han llevado de manera híbrida, comenzamos el trimestre de manera presencial y on line en las Salas para los alumnos que no podían asistir por el motivo de estar enfermas o con familiares enfermos de Corina Virus. Luego de acuerdo a las disposiciones del gobierno se decretó el estado de emergencia en nuestra prefectura AICHI y volvimos a nuestras casas por lo que las clases se llevaron 2 semanas aproximadamente de forma virtual y volvimos justo para finalizar el trimestre a clases presenciales. Los exámenes se desarrollan de forma presencial. Sin embargo podemos descartar que el ánimo y la participación de los alumnos no ha decaído por el contrario hemos grandes mejoras a pesar de estar en casa.

Número 2. En relación a este punto constantemente estamos evaluando que los alumnos tengan certezas que lo aprendido está dentro del programa de actividades que se tiene que desarrollar para que ellos puedan acceder a los diferentes grados de aprendizaje de acuerdo a los niveles requeridos.

Número 3. Continuaremos desarrollando las actividades necesarias para que nuestros alumnos alcance los resultados necesarios para desarrollar y valorar el idioma español.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ポルトガル語圏文化・社会特殊研究B
 授業コード 32C34-001
 教員名 西脇 靖洋
 教員コード 104557
 登録人数 13
 回答数 8
 回答率 61.5%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

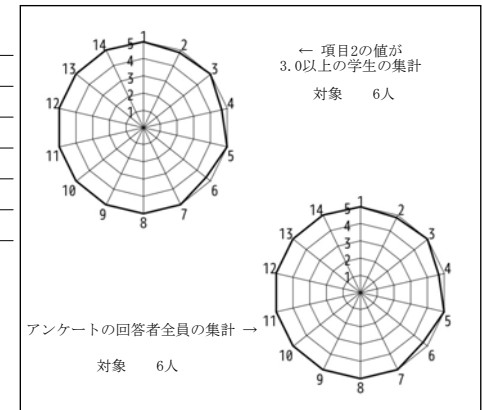


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講時期途中よりオンライン形式から対面（ハイブリッド）形式へと移行したため、運営に少々困難を伴ったが、最終的には対応することができた。②その甲斐あってか、学生の授業理解度も高いものとなったと推測される。③新型コロナウイルスをめぐる状況の変化により、今後も急な変更を求められることがあるかもしれないが、その際にはこの授業で得た経験を活かしたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 フランス語実践演習B
 授業コード 33C06-001
 教員名 清水 ベアトリックス
 教員コード 047845
 登録人数 7
 回答数 6
 回答率 85.7%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

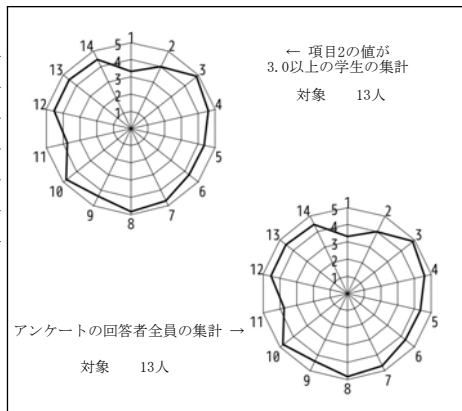


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goal of this course was to deepen students' mastery of the written French language.
 Each week students went through 4 types of practice:
 -studying specific grammar points and doing drills,
 -reading and studying a written document in French, the topic of which was carefully chosen so as to trigger students' interest and learn about French society,
 -writing an essay on the theme of the document studied in class,
 -doing a dictation using vocabulary learned in class.
 Part of the Q2 classes were held online and the rest on campus. However, homework was submitted online, marked and returned with detailed comments each week. The instructor was also available at any time for questions sent by mail. All documents, as well as answers/explanations to the various written tasks, were uploaded on WebClass so as to be available in case of a student being unable to attend classes. Students seemed to have been grateful for such unfailing personal support as shown in the comments.
 It seems that the organization of the course and its contents met the students' expectations, especially in allowing them to prepare efficiently for language assessment exams taken outside university.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	データ処理入門5
授業コード	40B03-005
教員名	西 一夫
教員コード	103655
登録人数	40
回答数	13
回答率	32.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

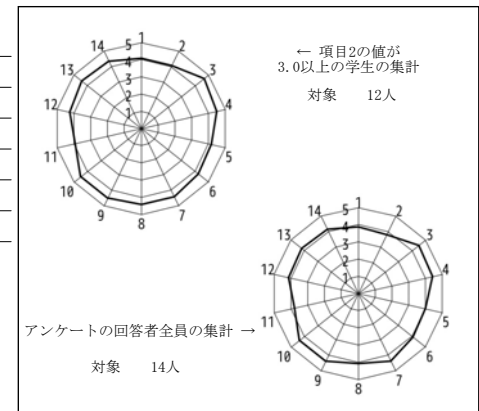


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回も回答学生の人数が少ないため、参考データとして評価報告を行う。
データ処理入門の到達目標として下記の点を掲げた。
『ワードとエクセルの基礎を習得し、データを分析することにより、何かを発見する力とそれをプレゼンテーションする力をつける。』
この目標に対しては、授業評価項目番号11（学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか。）においては3.77と、これまでの平均値よりかなり低い値となった。これについては用語に関する具体的な説明や、具体例を用いた演習問題を提示し、実際に学生に解いてもらう問題が少なかったためと思われる。
今後は学生が興味を持てる具体的な演習問題をさらに増やし、興味を持てる講義としたい。
また、自由記述において「授業を受講して改善したほうが良いと感じた点」について「講義資料に操作方法などがもう少し詳しく書かれているといいと思った」とあるが、これも講義時の説明不足であるため、今後詳細な説明を心掛けたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	農業経済論A
授業コード	40D52-001
教員名	園田 正
教員コード	102233
登録人数	24
回答数	14
回答率	58.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

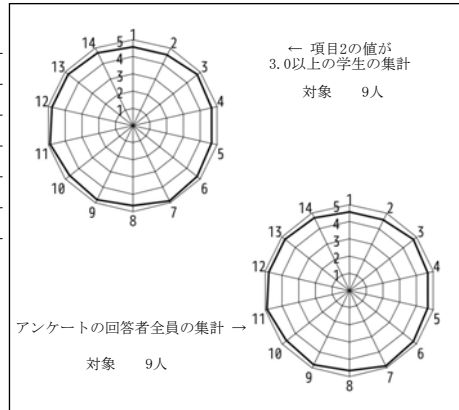


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、経済発展とともに、日本の農業を取り巻く問題がどのように変化してきたか、それらに農家がどのように対応し、政府がどのような政策をとってきたのかを経済学的観点から学び、1) 日本の農業を取り巻く問題の変遷を、経済発展と関連づけて理解できるようにする、2) これまでに採用されてきた農業政策を経済学的観点から理解できるようにすることを目標とした。1)と2)に関しては、期末試験の受験者の84%が単位を修得でき、単位修得者のうち70%近くがB以上の成績を残したことから、適度の理解が得られたものと考えている。3)については、講義の最終回でテキストの著者の日本農業の将来に対する意見を紹介し、学生自らが自分の意見をもつように促した。また、授業アンケートの結果によれば、経済学科の平均値と比べると、だいたいの質問項目については平均に近い評価であったといえ、特に大きな問題があったとは思われないため、今後もこれまでの講義内容を基礎としつつ、講義を改善をしていきたいと思う。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ビジネス英語A2
授業コード 40E04-002
教員名 MOORE, Jonathan
教員コード 101410
登録人数 29
回答数 9
回答率 31.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

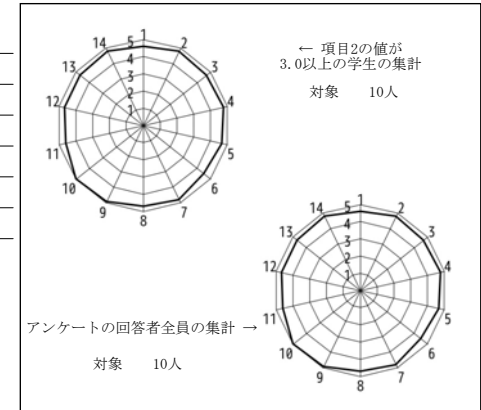


授業評価結果を踏まえた点検・評価

This quarter was taught online and in-class because of the COVID-19 pandemic. The overall scoring of the set of questions was very positive. Students put a lot of effort in the lessons. Students were self-motivated to prepare for classes and projects, do assignments and review. They showed interest in English and realized the importance of English in the workplace. A syllabus was uploaded along with other materials for students. PowerPoint lectures were given for students. The class was adjusted to the student's needs and level. The research and preparation of the projects and assignments outside of class was especially useful for independent and developmental learning. Effort was made to give each student individual consultation and instruction. Students seemed very interested in acquiring communication skills for the workplace and knowledge of the business world. Students felt that they were able to acquire new knowledge, techniques and skills. Overall, students were very satisfied with the class.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 時事英語A2
授業コード 40E06-002
教員名 森川 信子
教員コード 100136
登録人数 12
回答数 10
回答率 83.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

第2クォーターは、ほとんど(3週目以降)対面で授業をし、定期試験も実施することができました。広い教室で互いの距離を取りながらではあっても、やはり一つの場で顔を見ながら時間を共有できるということは大きいと感じましたし、受講者からもそうした感想が聞きました。設定していた目標はおおむね達成できたと思います。授業については、少人数であったため毎回一度はあたりますし、予習と復習にあたる課題の提出を毎回課していたので受講はなかなか大変だったと思いますが、受講生は皆よく頑張ってくれ、うれしく思いました。授業内容の補完としてYouTubeを利用する試みを初めてしましたが、効果的だと感じました。今後の課題として感じているのは、授業で学んだ内容の理解・定着度を上げるにはどうしたらよいかということです。復習課題を課していましたが、取り組み方の深さに個人差が大きいと感じています。最後に、学期の前半はハイブリッド授業でしたが、教室にPCやカメラ等が設置され、サポートも受けられたので、スムーズに授業に入ることができ、大変ありがたく御礼を申し上げます。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	経営学総論B
授業コード	40F02-001
教員名	太田 幸治
教員コード	103267
登録人数	12
回答数	4
回答率	33.3%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

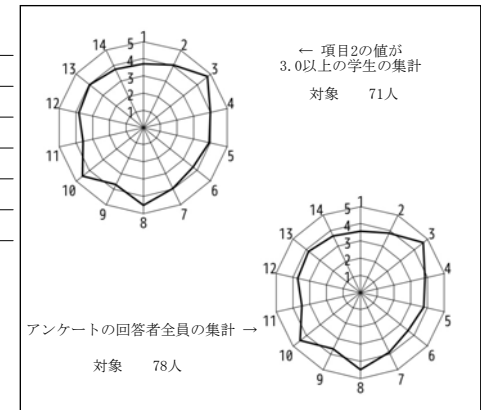
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。
当初設定していた目標の達成程度は、60%程度であった。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
履修者が多くなかったため数値データの開示はないが、自由記述をみるにつけ学生の満足度は高かったようである。
学生との対話を重視した講義にしたゆえ、学生の理解度を確認しながら講義することができた。
ただ、100分2コマ連続の対面講義は体力的にかなりしんどかった。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
小生の南山大学の講義における問題点は、履修生がとにかく少ないことである。水曜日の1,2時間目の連続の講義であること、学生とのコミュニケーションを重視した講義であることが起因していると思われる。
少ない履修生のほとんどは、南山で開講している小生の他講義を履修してくれるゆえ、履修した学生の満足度はそれなりであると思われる。
しかし、そもそも履修してもらえないのである。開講曜日は本務校の都合で変えられない、履修生との対話をやめてまで履修生を増やすのは、小生の教育理念を根本から覆すことになるゆえ、これらを変えるわけには行かない。
来年は、より魅力的なシラバスを作成して履修者を増やしたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	会計原理I2
授業コード	42C03-002
教員名	斎藤 孝一
教員コード	018259
登録人数	131
回答数	78
回答率	59.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

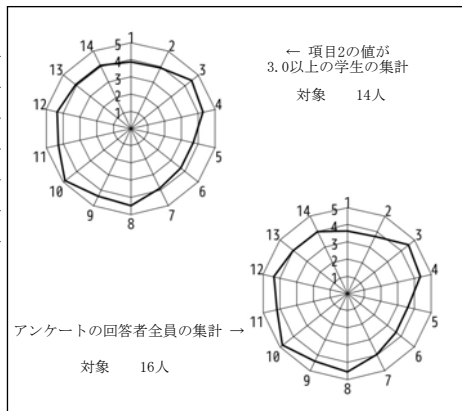


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 授業評価結果を踏まえた点検・評価
- 本科目は、企業会計の特質と複式簿記の原理について、仕訳と転記、試算表、決算、精算表、貸借対照表、損益計算書等を取り扱ったものである。アンケートの結果は、設問1~14の平均値は3.89、設問3~14の平均値は3.92であった。設問6の「授業の目標達成度」については、平均値が3.56で、5と4を付けた学生が61.53%であったので、目標達成は不十分であった。設問4「授業の構成や進行速度は適切であったか」は平均値3.88で、5と4を付けた学生が66.67%であった。設問14「全体として授業に満足したか」は平均で3.64、5と4を付けた学生が61.54%であった。設問12「質問や相談の機会が十分に設けられていたか」は平均値3.73で、5と4を付けた学生が61.54%であった。設問8「教員の声や音声機器の音は良く聞き取れたか」は平均値4.50で、5と4を付けた学生が88.46%であった。設問3「開始時間は守られていたか」は平均値4.67で、5と4を付けた学生が93.59%であった。設問10「授業の妨げになる行為に対して適切な対処がなされていたか」は平均値4.47で、5と4を付けた学生が85.9%であった。
- ZOOMによる授業であったが、WebClassのメッセージ機能やZOOMのチャットはうまく機能していたと思われる。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	内部監査論
授業コード	42C38-001
教員名	岡田 昌也
教員コード	101623
登録人数	40
回答数	16
回答率	40.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

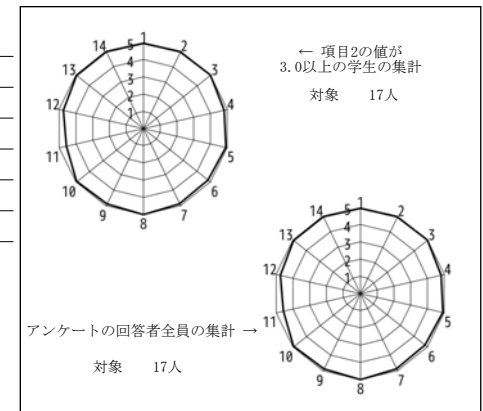


授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業目標は、現在の内部統制の標準モデルであるCOSOモデルの理解とそれを利用した内部監査制度の理解である。もともと内部監査というのは一般的には馴染みがないため、「監査」の意味を理解し、監査の手法について説明した。授業は、前半は緊急事態宣言下であったためオンライン授業で実施し、宣言解除後は対面授業を実施した。オンライン授業のときは若干は質問があったが、対面になると全く発言や反応がないのは相変わらずであった。授業評価としては項目1から14までの平均が4.13、項目3から14までの平均が4.20であり、内部監査という全く馴染みのない科目としては、十分な結果かと思っている。今後の改善点としては、学生からの発言が出やすい環境を作りたいと思う。特に内部監査は、明確な回答があるものではないため、理解を深めるためにもディスカッション形式が適していると思われるが、コロナ禍でありディスカッション自体憚られることもあり、難題である。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	情報基礎2
授業コード	42D01-002
教員名	小澤 和弘
教員コード	103586
登録人数	50
回答数	17
回答率	34.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

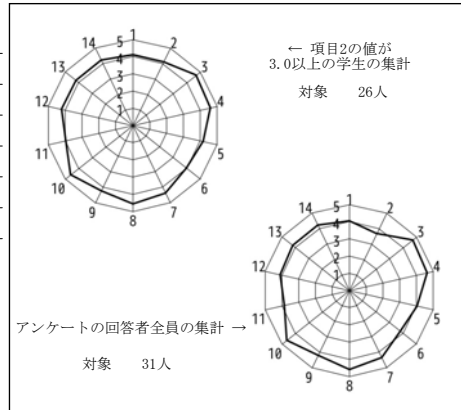


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本授業は、情報処理機器の基本的な操作方法、文書作成、表計算処理の基本技術の習得を主な目標とし、コンピュータによるMicrosoft WordやExcelの演習を中心に授業を実施した。学生による授業評価は、概ね高評価であり、授業目標もほぼ達成できたようである。自由記述には、「非常に説明が丁寧でわかりやすかった」「学生一人一人の進行速度に合わせて授業されていた」「やり方を見せてくださり、それに合わせて自分も進めていくため、非常に理解がしやすかった」等のコメントがみられ、授業の進行も概ね良好だったようである。次年度においても、本年度の授業内容を踏襲しつつ、主体的にコンピュータ操作の特徴や利点をより深く理解し、実用的な技術が身につけられる授業を展開できるよう努力していきたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 法律学概論
授業コード 44A13-001
教員名 三上 佳佑
教員コード 103637
登録人数 144
回答数 31
回答率 21.5%
休講回数 2 回
補講回数 0 回



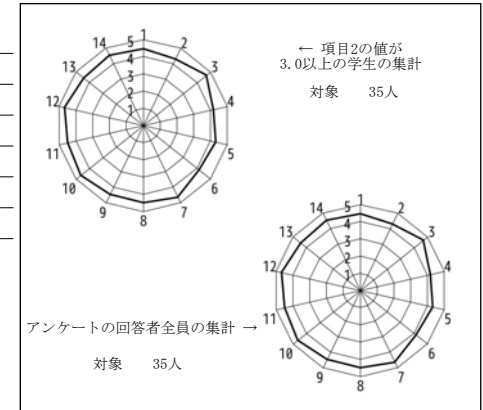
授業評価結果を踏まえた点検・評価

期末審査において示された学生の理解度を見る限り、教員として、本講義を以て伝えたいことは概ね伝えられたと考えており、その点で、本講義は所期の目標を概ね到達したものと考えている。また、学生による授業評価アンケートの具体的数値を見る限り、学生の満足度は高く、問題は見受けられない。授業内容の質的レベルに関しては相応に高く設定したつもりであるが、学生からの不満や不安は示されなかった。学際的な問題関心に特化した授業構成が、学生の知的好奇心を刺激することとなったとすれば、大変有意義な教学実践を構成したものと考えている。量的な面で過剰としなかったこと、また知識事項の単純な羅列のような退屈な内容を避けたことも、良い取り組みであったのではないかと考えている。

今回は遠隔講義の方式を選択したが、音声の聞き取り易さに関して学生からの非常に高い評価を得られたのは何よりであった。今後の感染症の状況が大学の教学活動にどのような影響を及ぼすかはいまだ不明であるが、今期の教学実践から得られた感触は、次クォーター以降においても、ほぼそのまま踏襲することが出来るものと考えている。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 刑事政策
授業コード 44B12-001
教員名 萩野 貴史
教員コード 104269
登録人数 154
回答数 35
回答率 22.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義では、①現在の刑事政策の基本的な知識を修得すること、②刑事政策にかかわる人々について知ること、③解釈学とは異なる政策学的な思考法ができるようになること、④刑事政策上の問題について自らの意見をもつことができるようになることを到達目標として掲げた。

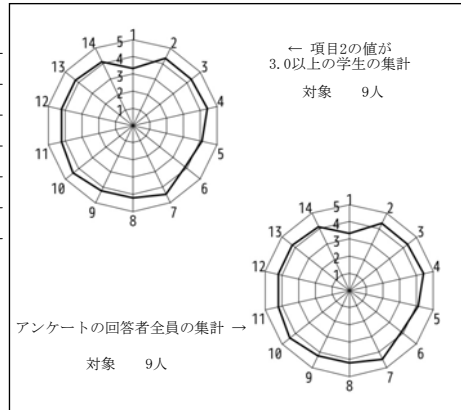
多くの人にとって身近な問題ではない「犯罪者の処遇」、「犯罪原因」といったものについて、いかに興味をもってもらえるかという点に注意を払った。アンケートのデータを見る限り、(もちろん課題は多く存在するものの、)一定の効果もあったのではないかと考える。

前述の「課題」について詳述しておきたい。疑問を残さないよう、授業中のほか、掲示板を設けてそちらでも質問を随時受け付けた。第2Q開始前に想定していたよりも、多様かつ多数の質問が寄せられ、これへの回答が授業を圧迫した面があったのは間違いない。この点は反省するとともに、今後の改善点としたい。また、1回100分授業、全14回という新たな構成も上手くいかなかった部分がある。皆さんの優しさゆえに指摘を受けていないが、終盤になって残り授業回数を勘違いしており、最後はかなり飛ばした部分があった点はいへん申し訳なく感じている。

授業が学生と教員がともに作り上げていくものだとする、今回好意的な評価を得た部分は、学生の皆さんの多大なるご協力によるところが大きい。この点を最後に感謝申し上げたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 法社会学
授業コード 44B33-001
教員名 藤本 亮
教員コード 047829
登録人数 31
回答数 9
回答率 29.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

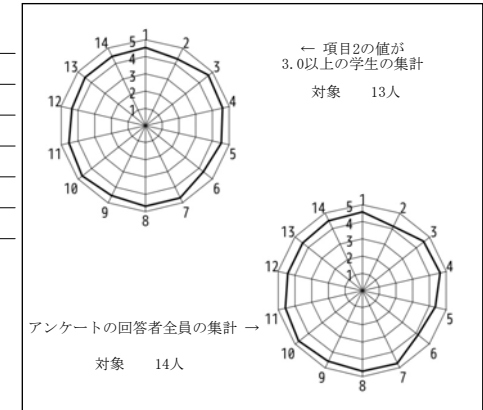


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①法現象につき、経験的・批判的・説得的に考察する点については、講義を聞いた上での毎週のオンラインディスカッションでかなりの程度到達できたといえる。しかし、オープンブック方式で実施した客観的小テストの成績がふるわなかった者が一定程度おり、知識の定着に課題が残った。
- ②受講生31人のうち、段階を追って中間評価を受けつつ作成する課題レポートまで提出し単位を取得したものが26人であったことは昨年度より改善した。丁寧に指導することに努めたせいかと考えられる。学生による授業評価は各項目とも概ね学部平均を上回っており、この点でも前年より改善した。
- ③当初登録者が81人から初回授業以後に31人にまで減少したのは、一見課題が多くみえるためと考えられる。課題レポートでは感想文や丸写し（に近い）レポートではなくアカデミック・ライティングの作法に則ったレポート作成を指導するという点をさらに明確に説明するようにしたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 国際法各論B
授業コード 44C10-001
教員名 尋木 真也
教員コード 104091
登録人数 66
回答数 14
回答率 21.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



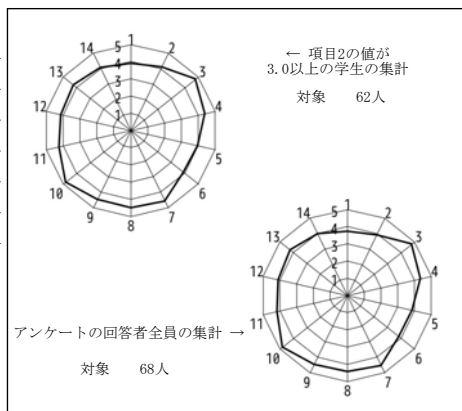
授業評価結果を踏まえた点検・評価

授業アンケートにご協力いただいた受講生のみなさん、ありがとうございます。2以下の評価はなく、おおむね肯定的なご回答をいただき、安堵しています。自由記述欄では、興味をひくパワーポイントであったことや、SDGsのような最近のトレンドを授業で取り上げたことなどに対して評価をいただきました。これらは、いずれも私自身が意識的に注力していたところであったため、その効果が認められうれしく思います。特に否定的なコメントはいただきませんでした。現在進行形の素材を多く取り入れていたため、解説が不十分な点も少なくなかったと思っています。そうした点は、しっかりと勉強しなおし、来年度以降の授業では改善された講義を展開できるよう準備していきます。

韓国徴用工問題やテロ資金規制などに関しては、授業期間中に大きな展開があったため、講義内容の細部は当初の予定と大きく変わっています。他方で、取り上げるべきテーマは基本的に当初の予定通りであり、国際法に基づく日本の対外・対内政策の理解という到達目標は、一定程度実現できたのではないかと考えています。歴史上あるいは現在進行形の社会問題について、国際法の観点から評価する能力を涵養できたのであれば幸いです。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 公共政策と倫理
授業コード 46J01-001
教員名 中島 靖次
教員コード 000246
登録人数 142
回答数 68
回答率 47.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

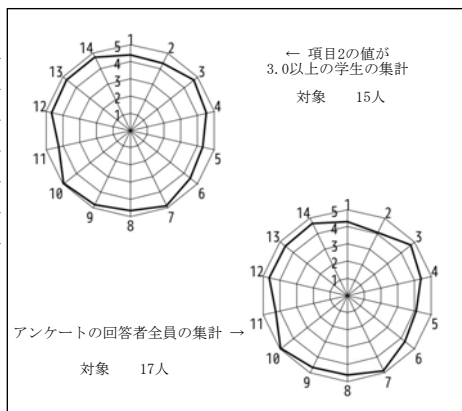


授業評価結果を踏まえた点検・評価

昨年に引き続いてのオンライン授業ということもあり、授業をする側としては昨年に比して問題が少なく展開できたと感じている。しかし、その感触がかえって学生にとっては、かなり一方的な授業という印象になってしまっていたようだった。特に、質問⑪⑫の評価が低く表れて、自由記述にも学生の理解度を確認すべきだとか、質問時間を設けてほしいなどという指摘もされていた。質問については、適宜呼びかけるようにしているつもりであったが、反応が得られなかったということもあり、随時、チャットを利用することを呼び掛けていたが、他の授業に比してもその利用がほとんどなかった。理解度についても、適宜毎回授業の冒頭で前回の復習から入ることで、そのつど理解相互確認確認をしているつもりではあったが、十分ではなかったようだ。この質問と理解度という点については、対面でないことの弊害が如実に表れたということで、もっと呼びかけの機会を設けて確認する必要性を痛感している。自由記述の中に、1コマで収まる内容にしてほしいという指摘あって、それについては、改善する必要性をこちらも感じている。100分授業への移行ということも少しばかり増加した分が大きすぎたようではあった。理解度や質問時間のことも考慮して、その点は今後大いに改善するべきと考えている。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 組織神学(三位一体論)
授業コード 21C38-001
教員名 鳥巢 義文
教員コード 017848
登録人数 27
回答数 17
回答率 63.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

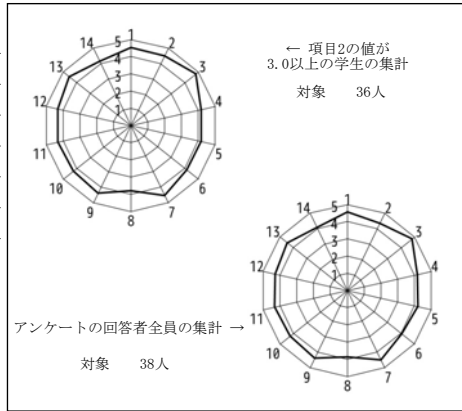


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 目標と達成の程度
目標は、旧・新約両聖書における神理解の特徴をつかむこと、教理史における三位一体の神理解の成立と内容を理解すること、「父と子と聖霊」に関する類比的な説明また現代の試論を紹介できることにおいた。附論で、イスラームの理解との比較も紹介した。受講者の授業への興味（設問1）は当初4.29であり、授業評価時点で、目標到達度（設問5）は4.29と変化なしであったが、理解の深まり（設問13）で4.59、満足度（設問14）は4.65と評価が高くなった。当初設定していた3つの目標が高すぎたようだ。
- ② 総合的な自己点検・評価
学習意欲の引き出し（設問11）は4.24であるが、学生の理解度への配慮、配布教材の利用（設問9）は4.65、質問や相談の機会、事前事後の指導（設問12）も4.65であった。また、自由記述に、「新しいこと」「生きた情報を教えてもらった」「資料量が多いので、家で復習するのに助かった」「質問したことに対し答えてもらった」「わかりやすかった」などとあり、これは、全体としての満足度（設問14）の4.65に呼応した。
- ③ 改善点・抱負・方針
自由記述に「レジュメの分量が多いので、パワーポイントはもう少し情報量が少ないと見やすい」とあったので、もっとすっきりとしたスライド作りを心掛けたい。また、配布教材については、自らの研究成果の紹介も含め、引き続き分かりやすいものに改訂して行きたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランス語II<G2021生・2019生以前 再履修者用>
授業コード	11B02-015
教員名	遠藤 美加
教員コード	101551
登録人数	40
回答数	38
回答率	95.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目では、基本的な文法を学習し、発音の基礎、平易なフランス語を用いた読解・会話・作文の能力の習得を目標としている。全体的に履修生はモチベーションが高く、受講態度も真面目であるので、Q2の段階では着実に目標を達成できていると思われる。

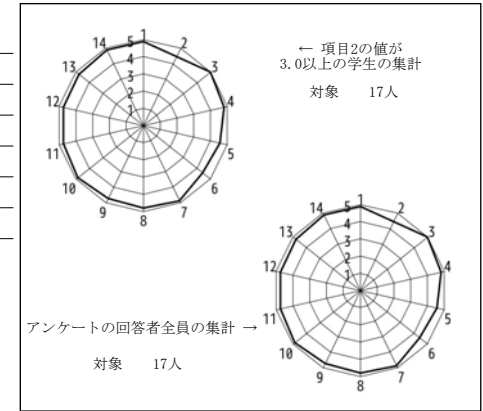
数値データでは、質問4、5、6、14で評価が4に近く、比較的低い数字となっている。授業の進行速度や授業毎のテーマ提示には配慮してきているが、引き続き履修生の理解に資するように調整していく。

自由記述では、課題の量が適切であったという回答が多く見られた。映像資料などの利用を評価する声もあったが、その他のエンターテインメントの活用を望む声もあった。遠隔と対面の混合という、授業方式（学生の受講方法も同様）の不安定さもあって、例年計画するような文化的資料の鑑賞やアクティビティを安定的に実施するのが難しい状況である。それでも部分的にはフランス語への関心を高める活動はできたように思う。引き続き工夫していく考えである。

改善点としては特に、課題の提出場所の迅速な作成である。授業後の作業や他の授業の準備に追われて遅くなるのが数回あったので、忘れぬよう気をつけていきたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	フランス語IV[FF]3
授業コード	11B04-006
教員名	NISHINO, Aurelie
教員コード	103640
登録人数	18
回答数	17
回答率	94.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

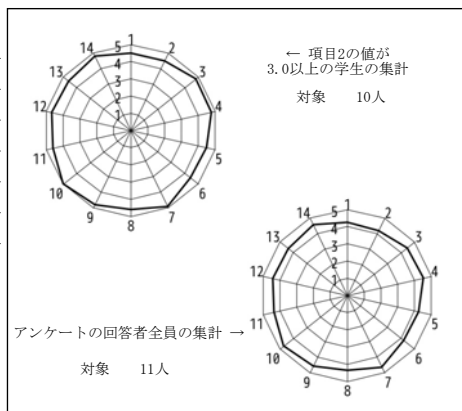
1. The goals at the beginning of the quarter were to bring the students at a level A1 in French through the method and our active lessons. The method was not easy but the students were really involved in the lesson and did their best to achieve the different goals of each lessons. They were also very serious in all the activities that I proposed and did the preparations required for every activities. Even in this particular situation, they were really active and it was lovely to teach them. They didn't get the situation bother their studies and we managed to reach the level expected in French.

2. Following the results of the enquête, I will try next quarter to emphasize more the objectives of the lessons. This year too was special and with the situation, I think that the class did very well.

1. For the next quarter, I will try my best in order to motivate the students on their journey on learning French. I will use this past 6 month experience and re-use it to make it beneficial for the students and myself.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語II<S・全>
授業コード 11F02-028
教員名 李 香善
教員コード 103871
登録人数 38
回答数 11
回答率 28.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

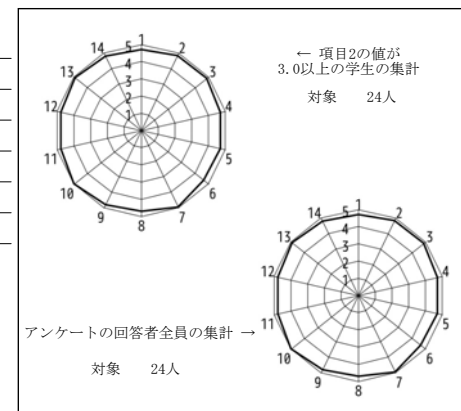


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Q1. Q2において、設定していた開講目標に到達したと評価したいです。文法の理解を定着させるため、例文を沢山挙げて学習を繰り返し、特に発音練習においては一人ひとりの発音チェックを各課欠かせずに行い、受講生のほとんどが割りと正確な発音ができるようになりました。毎回授業開始時に、前回の学習内容を一通り復習する事で、学習済みの内容を再度確認後、新しい内容に入ったのは良かったと思います。全体的に受講生の受講姿勢は真面目で、出席率もよく、授業終了後いつも質問する学生がいたり、中には中国語が好きになったという学生も数人いて、毎回楽しく授業ができました。今後の改善点といえば、もっと学生に話す機会を増やして、学生が自信を持って中国語を発音するよう工夫したいと思います。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 中国語II<G2021生・2019生以前再履修者用>
授業コード 11F02-031
教員名 中野 麻里子
教員コード 102125
登録人数 41
回答数 24
回答率 58.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

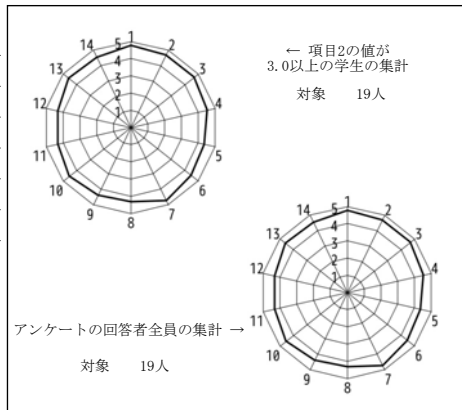


授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初の学習目標はおおむね達成できた。学生の学習意欲が高いため、基礎からしっかり積み上げていくことができた。第1クオーターの授業の一部がオンラインであったために、「単語や文法を記憶して定着させる」ということが足りなかったが、第2クオーターでそれを補うこともできた。積極的に質問に来てくれる学生が多く、教える側としてもとてもありがたかった。自分の学習方法への相談や興味のあることに対する質問、さまざまな質問があり、とても考えさせられたし、授業を工夫し改善していくヒントになる。コロナ禍ということで、普段の対面授業よりも制限がある中での授業運営はなかなか難しい。感染予防という点から見て授業がうまくできていたかは少し悩ましいところだ。もう少し気をつけていきたいとは思っている。授業のスピード、板書の文字が小さいという点はよく学生から指摘されているので、気をつけたい。距離をとって座らなければならない教室で適切な文字の大きさにまだ慣れていないので、もう少し、通常の授業ではないという意識を以って、文字を大きめに書くようにしようと思う。オンライン授業のスピードが速いという点は、オンラインの方が1回の授業で学ぶ内容は減るので、気づいていなかった。オンライン授業だと、対面授業のように板書に文字が残ったままになっていないということもあるのかもしれない。第3クオーター以降気をつけたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	中国語II発音・聴力1
授業コード	35A02-001
教員名	高 文軍
教員コード	100767
登録人数	37
回答数	19
回答率	51.4%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



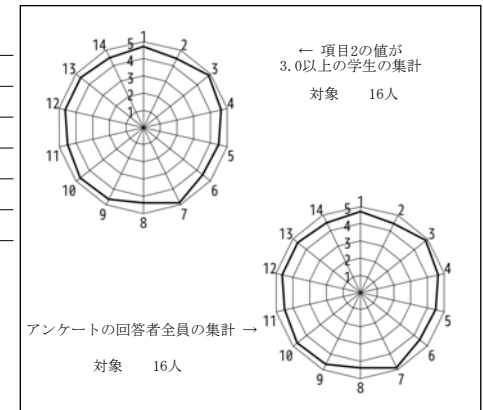
授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標はほぼ達成していると思えます。Q2は、対面授業とオンライン授業の二形式混用し、いつもより複雑な局面に臨まなければならない。去年の経験を今年にも生かし、お主に対面授業と課題提出を平行して進んでいました。授業時間にはテキスト理解を中心にしながら、学生の参加、練習を促します。それと同時に、ほぼ毎回課題提出させ、練習と発音の内容を課し、教員はそれをチェックし、次の授業時に課題点検入れます。こうして語学力アップにつながっている。総じて、今回は学生の満足度の高い授業をやり遂げたと思います。学生の自由記述をみると、「生徒に発音させることで、一人一人の発音の改善と理解度の調査をしっかりと行っていたこと。」「課題の間違いが多かったところの解説をしてくださること」「毎回の課題で自分の発音を評価してもらえること」などあります。改善点としては、学生の負担を考えると、課題の量が多すぎるかもしれません。「資料共有」は原因不明でできず、学生に御不便になることを避けるべきです。

次の授業には、学生の意見を参考に、良いやり方の継続と、改善すべきことの改善を心に、満足のいく授業を目指して行きたいです。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	日本語II(読解)1
授業コード	11L09-001
教員名	鈴木 照
教員コード	103293
登録人数	19
回答数	16
回答率	84.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

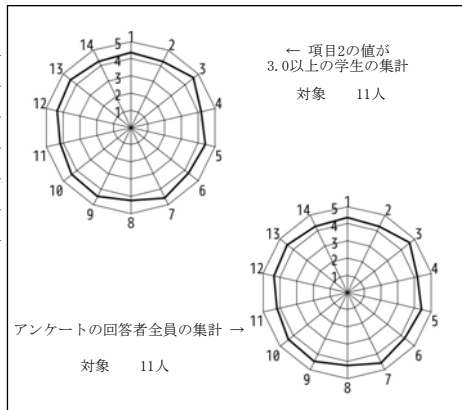
この授業では、アカデミックリテラシーとしての文章や図表などの正確な内容把握の方法を習得すること、またそのために必要な中級レベルの語句や表現の意味・用法、文法知識など習得することを目標とし、読解教材や新聞、グラフなどを用いて、語彙や表現、文法の学習をするとともに、それらの内容の読み取りや文章の要約を行った。

コース開始時には、初級とは異なる日本語学習の授業形態への対応に苦慮する様子が見られた。しかし、コース終了時には、学習した文法や語句、表現を概ね正確に使用し、読解文等を理解した上で、理解した内容を自分の言葉でまとめ直すこと、文章を適切に要約することができるまでになった。自身の日本語が上達したことや理解が深まったことを実感している学生も多かった。(設問6平均値4.44、設問13同4.63)ただ、今回はオンラインの履修者と対面の履修者が約半数ずつで、オンライン授業を受けた学生からは、教員の声が聞こえない、途中でZOOMが切れてしまう等の自宅のインターネット環境の悪さや、教室にいる学生の発言が聞こえない等の教室の機材や授業運営上の問題点に関する記述もあった。日本語学習以外の面でのストレスも相当あったと思われる。

次学期は、オンライン、対面の学生が交流しやすい授業運営を心掛け、一人一人の理解度やインターネット環境等に配慮しつつ、学生がより興味を持って学習に取り組めるよう授業を運営していきたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語II(表現技術B)1
授業コード 11L11-001
教員名 三輪 志保
教員コード 103665
登録人数 20
回答数 11
回答率 55.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

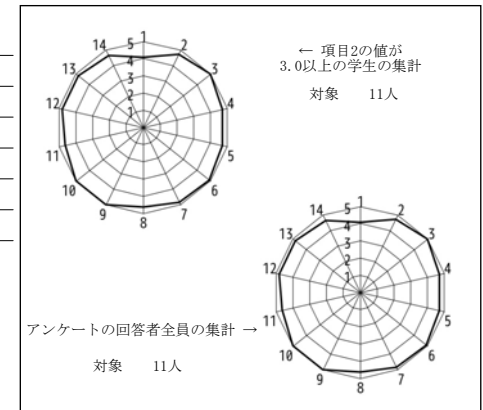


授業評価結果を踏まえた点検・評価

①この科目では、作文・レポートの基礎知識を理解し、表現したいことを正しい文で書くこと、研究計画書の作成に必要な表現や形式を身につけることを目標としていた。最終到達目標は、既習表現を使用した研究計画書の作成だった。受講したほとんどの学生が作文・レポートの基礎知識を理解し、書きことば表現で文章が書けるようになった。また、最終課題である研究計画書の作成においても課題に対して努力する姿勢が見られ、当初の目標がほぼ達成できたように思われる。但し、研究計画書作成に必要な表現の実質的な運用や内容に関しては、個人差が顕著に表れた。②学生からの授業評価平均値が全て4ポイント台であり、授業に関しては概ね評価できると考えられる。ブレイクアウト・セッションを多用し、毎回学生同士で話し合う時間が設けられたことにより理解が助けられ、教員が頻繁に巡回することで質問しやすかったなどのコメントもあった。しかし、わずかだが2ポイントという回答も見られ、授業の進度が遅かったというコメントもあった。レベル差によるものであると考えられるが、レベル差にも対応可能であるように授業内容を工夫したい。③今学期はハイブリッド型授業であり、対面の学生とオンラインの学生との距離感の差に苦慮した。また、教室内でも教員の行動範囲が制限されたからか、学生全体の活発さも減少傾向にあったため、来学期は活発な教室活動への改善にも努めたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語III(表現技術A)1
授業コード 11L14-001
教員名 蒔田 雅子
教員コード 102042
登録人数 12
回答数 11
回答率 91.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

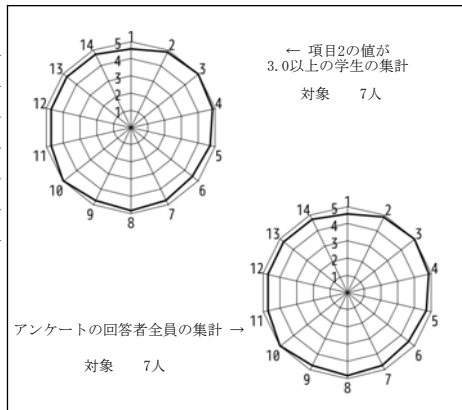


授業評価結果を踏まえた点検・評価

本科目は留学生の口頭表現の講義演習科目である。研究発表の構成を持つCDを聞いて①メモを取り1回で内容を理解する、②理解した内容を自分の言葉で説明する、③開始の宣言、背景説明、分類、比較、複数の図表の提示・説明・解釈、まとめ、成果、課題、終了の宣言といった発表で使用される表現を学ぶ、④発表原稿を作成したり、さらにそれを基に発表をすることを通して、聴解力、発表力の向上を目指している。開講当初、聴解に関しては、理解が前半部分に偏っていたり、細かい部分に囚われて重要な部分を意識した聞き取りができていなかったりした。発表に関しては、CDの通りに発表しようとしたり、文法のチェックが十分でなかったりした。しかし、授業で「何が話されるのか、何を聞き取ればいいのか」を意識することによって、CD音声の重要性を取捨選択できるようになったり、CDを再現するのではなく、構成やつながりの表現を意識したりすることによって発表にも変化が見られた。「力がついてきている(4.91)」「授業の進め方は適切であった(5.00)」「新しい知識を得たり、理解が深まった(4.82)」「質問や相談の機会、課題に対する事前・事後指導が十分であった(4.82)」といった聴解力・発表力の向上への肯定的な意見が聞かれたのは良かった。一方で、CDの音声かオンラインの音声かは不明だが、問題があったと報告された(4.64)ことは、口頭表現の授業を担当する以上、十分な配慮がされているべきであった。今後活かしたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 日本語III(表現技術B)1
授業コード 11L15-001
教員名 牧野 由美
教員コード 100727
登録人数 8
回答数 7
回答率 87.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

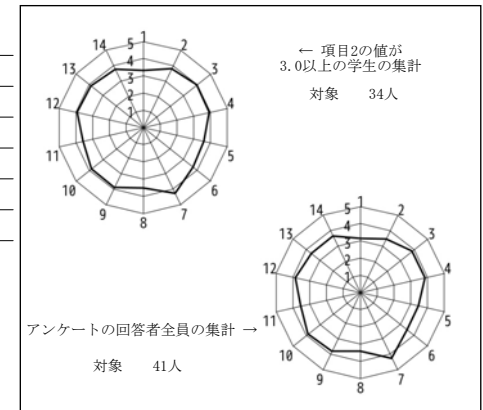


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① 授業の目標は、レポート・論文にふさわしい文章表現の習得および、文法的に正しい文で的確に述べたい内容を表現できる文章力の習得であった。コロナによる一斉休講で授業回数が減ったことにより、最終課題に向けての指導が幾分不足していたように感じていたが、実際に文法・構成の面で合格点に至らない最終課題が提出されたのは残念なことであった。しかし、授業中の課題や宿題、および複数回の文法・表現クイズを通して、受講生の多くが日本語の表現力を高め、アカデミックな文章の書き方を学ぶことができたと考えられる。
- ② 学生の評価は概ね良く、自由記述でも、学生自身が日本語表現力の向上を感じていることが見て取れた。授業を通して、文法・表現の適切さに注意しながら書くことと、書いた文章の不適切さに気づいて直すことを学生自身が行えることを目指して指導してきたが、その効果があったと考えられる。学生が提出した課題を相互学習に生かせるようにすることについて、改善する余地があると考えられる。
- ③ ハイブリッド授業の難しさを感じた学期であった。オンラインの学生にも教室にいる学生と同じ量・質のフィードバック・相談がおこなえるような授業の進め方を工夫していきたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 宗教に見る人間の尊厳4
授業コード 10D01-004
教員名 浅野 幸治
教員コード 100779
登録人数 137
回答数 41
回答率 29.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

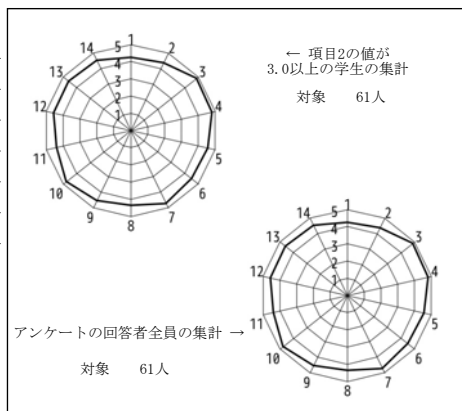


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 解説当初に設定していた目標と到達の程度については、あまりよく分からない。期末の読書課題では、最低限の基準に達していたと思う。けれどもそれ以上の感触がつかめなかった。例えば、授業をしていても、学生がそこにいるのかどうかさえあまり分からなかったし、そこにいても学生の側の反応が分からなかった。
- 数値データは全般的に低かったと思う。自由記述には良い意見も悪い意見もたくさんあった。悪いほうの意見を取りあげる。
- 1、「発言を求める際にもなんらかの利点、いわゆる授業参加度を上げる等の積極的に参加する人と消極的な人で差別化を図った方がいいかと。」
これは、発言した人には点数をあげる、発言しなかったひとには点数をあげないというようなことだと思います。もっともな意見だと思います。
 - 2、「発言者を指名するときに多くの時間がかかってしまっていたように思いました。声でのやりとりも良いですが、チャット機能を利用して意見を募った方が多くの意見を素早く集めることができると思いました。」
これももっともな意見だと思います。第4学期には試してみようと思います。
 - 3、「個人を指名する制度は、オンライン授業という環境を踏まえてとてもよろしくないため廃止すべき。」
学生も教師もお互いに固有名で呼び合うべきだと思います。この点では、南山大学の学生はZoomで授業に参加するとき、自分の氏名を明かしてないので、非常にやりにくい、不便だと感じた。自分が誰かを名乗って授業に参加すべきだと思います。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 性と生命における人間の尊厳4
授業コード 10D06-004
教員名 三谷 竜彦
教員コード 102441
登録人数 136
回答数 61
回答率 44.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

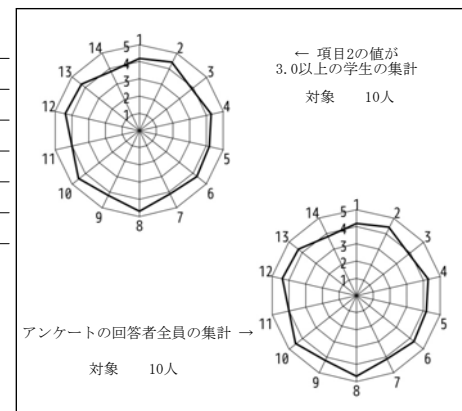


授業評価結果を踏まえた点検・評価

②受講生数は136名で、回答者数は61名（回答率45%）でした。設問3～14の平均値は4.61で、「人間の尊厳」科目全体の平均（4.45）を上回りました。いつも個人的に最も重要視している設問13（「…新しい知識…」）および設問14（「全体として…」）の数字は、4.61および4.54で、やはり「人間の尊厳」科目全体の平均（4.35および4.40）を上回りました。これらのことから、①開講当初の目標はおおむね達成されており、したがって③今後も大枠的には（基本的な路線としては）今の授業の内容・方法を継続していいのだろうと思っています。学生からの改善要望として、動画の音声の聞き取りにくさという点が、多く指摘されていました。このオンライン授業方式になってから毎度指摘されている点ですが、私のDVDディスクが南山大学のパソコンの動画プレイヤーと対応していないため（稀にディスクによっては対応している場合もあるのですが）、現状では、パソコンから直接的に動画を流すことができません。どうかご理解・ご了承いただければと思います。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 哲学B2
授業コード 12A02-002
教員名 星 揚一郎
教員コード 100986
登録人数 31
回答数 10
回答率 32.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

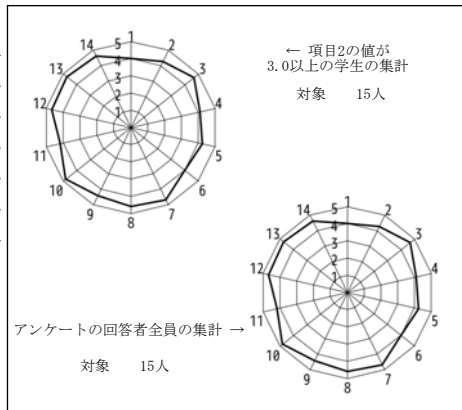


授業評価結果を踏まえた点検・評価

シラバスのとおり、20世紀以降の哲学者の言説をヒントに、現代の身近な問題を具体的に考えました。その結果、最終的にはレポートで受講者一人ひとりに、自ら哲学してもらうことができました。つまり、学術的なレポートの書き方のルールに則ってレポートを作成してもらい、提出されたものは、どれも十分に思索の跡のあるレポートでした。各回の授業では、毎回、全員に授業レポートを提出してもらうことで、対面、Zoom、オンデマンド、いずれかで受講している、すべての受講生に対応しました。とくに、困難ななか、対面授業に参加してくださった方々に感謝申し上げます。「慈善は義務か」といった具体的な応用哲学的問題に対して、ひとりひとりのご意見を伺うことができました。「対面の授業はとても楽しかったです。大学に入ってから、大人数での授業が多く、自分の意見を聞かれることがあまりなかったので、新鮮でした」と、好意的に受け取っていただけた方もいました。次期以降も、闊達な意見交換ができる哲学の授業を継続してまいります。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 美術B1
授業コード 12A06-001
教員名 池田 洋子
教員コード 044362
登録人数 37
回答数 15
回答率 40.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

当初に設定していた目標と到達

絵画の見方を学習し、個々の作品を理解すると同時に、日本の美術の史的展開を認識できるようにする。

当初、授業の内容について興味を持っている学生さんが少なかったが、

「水墨画についてあらゆる作品を取り上げていてわかりやすかった」とか、「モチーフを探すのが毎回楽しかった」と絵画の見方を理解されている。

「時代の変容と資料との関連を常に説明してもらえた」と水墨画の変容を理解できてきている

総合的な自己点検・評価

この授業を通して、新しい知識（あるいは、技術や能力）を得たり、理解が深まったと感じる学生さんが多くなった。

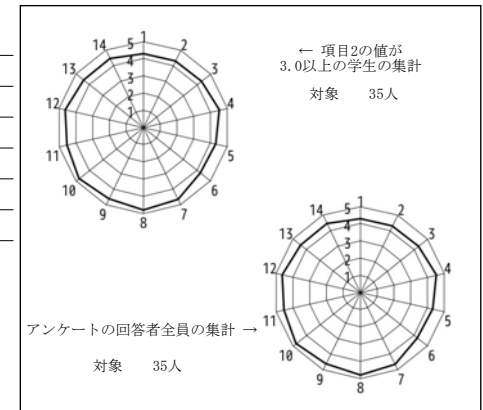
改善点、今後の抱負、方針

毎回の授業の構成や進行速度に問題がある様で、今後改善したい。

実際の作品を見に行きたいという学生さんが多くいて、よかった。講義で作品について話しても実物を見ることが重要であり、今後もこういう学生さんが増えることを期待したい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地誌概論2
授業コード 12B11-002
教員名 佐藤 久美
教員コード 102924
登録人数 135
回答数 35
回答率 25.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



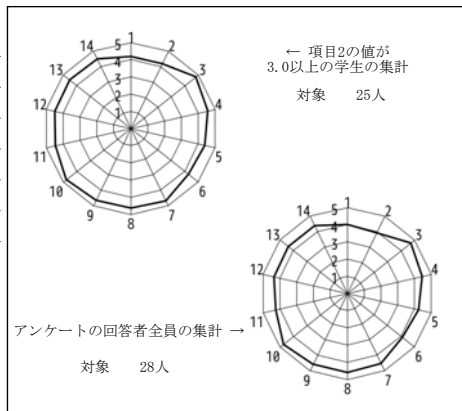
授業評価結果を踏まえた点検・評価

「地域と世界各国との関係性を理解し、情報発信のあり方を考える」という目標に関しては、アンケートの回答結果から達成できたと思う。

一方で、シラバスには、外国人監督が愛知県内で撮影した映像を何本か見るといふ授業内容を示してあったが、オンラインでの授業になったことにより、30分程度の映画の上映が不可能になった。特に昨年度のQ3に行った「地誌概説」の授業を受けた学生は、映像の視聴を楽しみにしていたようで、シラバスとの違いを指摘した回答があった。第一回目の授業で昨年度の私の授業を受けた学生がいるか質問をしたが、一名であったため、他の学生たちの関心の高いテーマを選んで授業を行った。自由回答のなかで「毎回、少し文字数の多めの課題が出されましたが、指定の文字数が多い分より丁寧に調べてレポートを作成することができ、力になったと思います。」との記述があり、新しい学びに対して前向きに捉える学生が多かったこと、しっかりレポートを書いてあることが、対面授業ではなかったにも関わらず、私自身のモチベーションともなった。Q3に行う「地誌概説」の授業でも、受講生にとって学びの多い講義を行いたい。出欠席の取り方についてもさらなる工夫を行いたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 地球科学B2
授業コード 12D07-002
教員名 金森 大成
教員コード 103294
登録人数 83
回答数 28
回答率 33.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

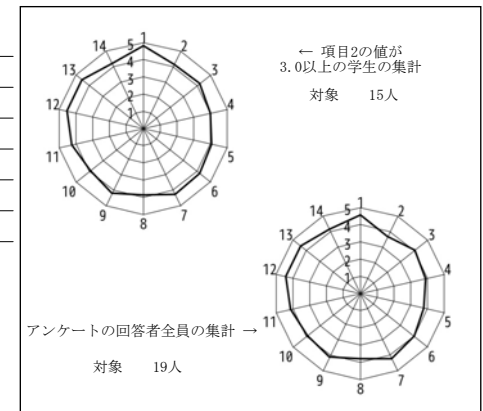


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今年度の講義については、講義形式が3回目までは完全オンライン、4回目以降は対面とオンラインを併用したハイブリッド形式で講義を行った。途中で講義形式が変更になったが、講義中に適宜連絡をしたこともあり、スムーズに移行できたと考えている。また、当初設定していた講義内容をすべて終えることができ、設定した講義目標を達成できたと考えている。また、学生による講義評価を見ると、概ね高評価を受けていると考えられる。特に、配布した講義資料や講義中に使用した資料がわかりやすいとの評価を受けており、学生の内容理解につながっていると考えている。また、講義評価の自由記述欄を見ると、講義内容の説明がわかりやすかったとの記述があり、適切な難易度の講義ができたと考えられる。一方で、改善点として、講義時間が守られていないとの記述があり、講義中に収まるように内容を変更したり、説明を工夫する必要があると考えられる。さらに、質問がしやすいといった記述もあり、講義内容の疑問点等を質問しやすい環境を作り出すことに成功していたと考えている。来年度以降、引き続き開講する場合は評価を得た点を引き続き行えるよう努力するとともに、講義時間内に予定していた内容を適切に説明できるような講義資料の変更などを行っていききたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 生物学A1
授業コード 12D12-001
教員名 成田 靖子
教員コード 100250
登録人数 48
回答数 19
回答率 39.6%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

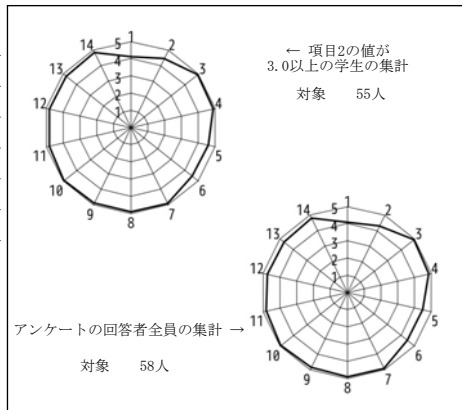
地球上の生命の由来には宇宙飛来説と地球誕生説がある。この2説を地球生命体構成主要元素の観点から説いた。授業全体に対する評価(質問3~14)は4.08だが、レーダーチャートは丸に近いことから、授業の進行や内容に大きな偏りや問題はなく、自分に科す評価目安である4を一応クリアしたと考えている。

個別質問から考察する。質問13(新しい知識を得、理解が深まった)が4.42、質問14(授業への満足)に対しての数字は4.16であった。授業内容の区切りのつくところで休憩を挟み、その都度質問がないかと問いかけた。それに対しての質問12の回答は4.42であったが、実際は授業中の質問は少なく、授業後に個別に質問のほうが多かった。質問9(学生の理解度への配慮、教科書、配布資料、視聴覚教材などの効果的使用)の回答は4.11。教科書を軸にし、記述を理解しやすくするためにカラー図が多い配付資料を作成するとともに、視聴覚資料を多く用いた。自由記述ではこれらに対して好意的意見があった。

今クォーターは対面とオンラインという2通りの進め方を経験したが、やはり、学生の反応が直にわかる対面授業は手応えがあったと考えた。資料サーバーに情報の多い資料を提示できることは、よりよい授業に結びつくと思う。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 文化の比較1
授業コード 13A01-001
教員名 山田 幸代
教員コード 101367
登録人数 124
回答数 58
回答率 46.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

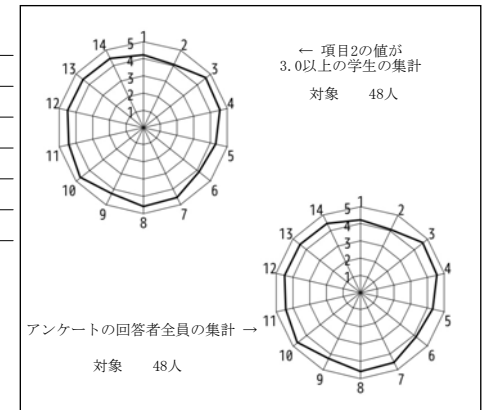
「ケルトの文化圏について、基礎的な知識を得る」「アイルランドの歴史について、紀元前から現代まで概観できるようになる」「具体的な知識を身につけることで、今まで気づかなかった身近なアイルランド文化を再発見する」という授業目標は、おおむね達成できたと思われる。自由記述欄には「あまり馴染みのないアイルランドのことにに関して映画から入ることが出来たので興味を持ち、学習が出来ました」などのコメントがあった。

今クォーターもZoomによるオンライン授業であったが、映画・ドキュメンタリ映像・音楽などのオーディオ・ビジュアル教材を使用することには「視覚教材が多くてよかったです」「たくさんの写真や映像を用意してくださったので、アイルランドの文化を理解しやすかった」といった好意的な感想が寄せられた。

「改善すべき点」について資料や映像、音声については特にコメントが無かったが、授業内でのクイズと感想をメールで提出する点について「感想、質問はメールよりもウェブクラスからの方が確実性があり、安心できると思った」という貴重なコメントをいただいたので、次クォーターでは前向きに検討したいと思う。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 芸術をめぐって3
授業コード 13A04-003
教員名 小沢 優子
教員コード 101168
登録人数 135
回答数 48
回答率 35.6%
休講回数 2 回
補講回数 2 回

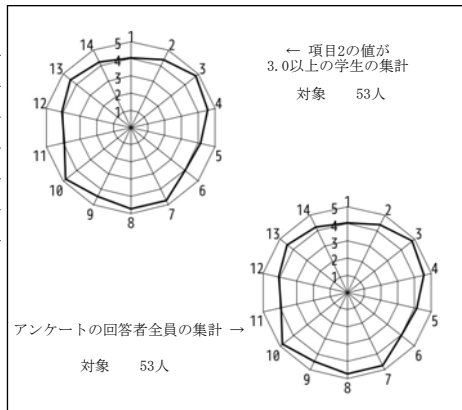


授業評価結果を踏まえた点検・評価

今回もzoomによるオンライン授業。パソコンにレジユメを掲げて話し続けるという授業なので単調になりがちではあったが、「レジユメが見やすい」「説明がわかりやすかった」のほか、「各時代の音楽の特徴について理解することができた」という記述もあり、西洋の芸術音楽の歴史の流れを追いながら各々の時代の音楽の特徴を把握する、というこの授業の目的はおおむね達成されていたのではないと思う。また、授業の途中で5分間休憩を設けたことについては、「休憩時間があり集中力が続いた」、とその効用が述べられていた。アンケートの平均値が項目1~14で4.42、項目3~14で4.47であることを考え合わせると、学生にとってある程度は満足が得られた授業だったのではないと思う。一方で、音楽を実際に聴いてもらうことは最初から断念し、曲の説明にとどめていたので、「音楽が聴けなかったのは残念」「オンラインでもオペラやオーケストラの音楽を流してほしかった」「口頭では曲のイメージがわきにくかった」といった意見が多くあり、パソコンの扱いに不得手であることを改めておわびしたい。来期もオンラインならば、この点について何とか改善をしなければならない。ところで、アンケートのお知らせが遅くなってしまったためなのか、回答者が48人と受講者全体の4割にも満たなかった。このことも反省点である。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 ヨーロッパとの出会い3
授業コード 13B04-003
教員名 山田 亮子
教員コード 104283
登録人数 100
回答数 53
回答率 53.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

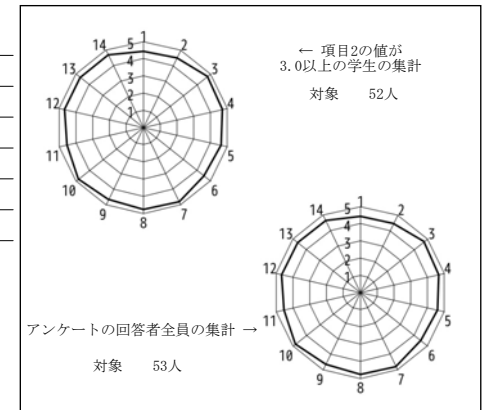


授業評価結果を踏まえた点検・評価

当授業は前半で現在のEUが直面する諸問題を扱い、後半では欧州統合の理念・歴史・諸制度を解説する。到達目標は①EUが直面する諸問題はなぜ起きたか自ら考える力を身につけ②欧州統合の意義（2度と戦争を起こさないために経済を共有し平和と繁栄に協力）を理解している。昨年度の期末レポートでは英のEU離脱や難民等EUが直面する諸問題に関心が集中し、統合の意義に関する記述が少なかった。今年度は後半授業への関心を高めるべく「後半で得た統合の理念等の知識は、現在のEUの諸問題にどう繋がっているか」肯定的、否定的の両面について考える時間を設けた。それが奏効し今回の期末レポートでは同様にEUが直面する諸問題への関心は高かったものの、殆どのレポートで統合の意義に関する記述がみられ、後半の授業内容が取り入れられた。期末レポートの内容をみると、理解力のレベルの差はあるものの、全体的に到達目標の①と②への理解が読み取れた。よって目標は到達できたと考える。項目5・6が低く到達目標を認識していない学生が存在したので、今後は到達目標について積極的にアナウンスしたい。毎回授業開始1分前にカメラをオンにして開始したので、項目3で2が付いたのは正しい評価とは言えない。自由記述に「授業が単調で退屈だった」とあり、当初は受け止めきれなかった。充分に関心を引く内容にしたつもりだったから。しかし同じ学生が「出された問題が内容理解に役立った」とも書いており、本当は理解したかったのに授業解説に理解が追いつかなかつたのかもしれない。チャットの質問で、なぜ自分で判断できないのかと思うものが多かった。「字数2千字～3千字とは2千字から何字多ければよいか」等正直あきれた。後でわかったことだが稚拙な質問はA+, Aを付けた優秀な学生からが多かった。総合すると、彼らは自分で判断したことが正しいかの確認を得たい、何をどう理解したらよいか助言やヒントが欲しいのかもしれない。学生は過剰な配慮や説明を嫌うと考え、自主的な判断に任せる傾向にあったが考えが変わった。変えたことで項目11の低値が改善できるかもしれない。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 異文化の理解2
授業コード 13C01-002
教員名 堀江 未央
教員コード 104284
登録人数 155
回答数 53
回答率 34.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

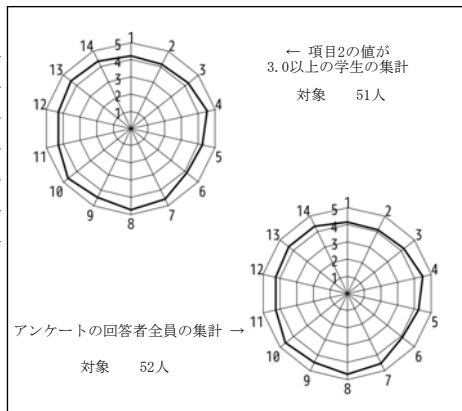


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について
オンライン授業だったため、異文化理解に向けた基本的態度を養うという当初の目標のために、学生たち自身が異文化理解を試みる機会を十全に与えられるか懸念もあったが、幸いミニフィールドワークを行う最終レポート課題は力作が多く、かなりの程度到達できた。今後この形式の課題を、講義内容とさらに有機的につなげながら実施する余地があると感じた。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。
今期から一コマあたり100分となり、授業の初期には時間配分が十全でない部分もあったが、チャット機能やコメントペーパーとそれへの応答を積極的にを行い、学生とのコミュニケーションを通じて休憩時間の調整をしつつ、集中力を維持しながら講義を受講できるよう工夫した。それについては高い評価を得られたと感じている。一方、講義内容の性質から、予習を行うことが難しく、講義資料をもっと事前に共有して質問を考えてこさせるなどさらなる工夫の余地があると感じた。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など
オンラインとはなったが、徐々に講義資料の作成方法やオンライン講義のやり方にも慣れ、学生たちの協力もあってつつがなく進行することができた。今後は講義内容と期末レポートとの連関をもっと強めたり、予習のために講義資料の共有時期を早めるなどして、学生たちの学習意欲をさらに高めていきたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 社会の諸相2
授業コード 13C04-002
教員名 山口 佐和子
教員コード 103067
登録人数 139
回答数 52
回答率 37.4%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

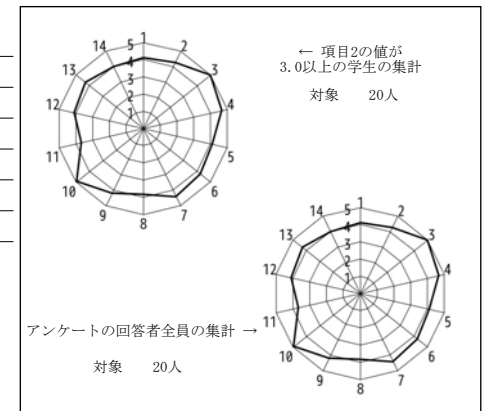


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①について：設問5「この授業の到達目標を理解することができましたか」の設問に対し、全体および科目登録者数別集計の値を上回るポイントを獲得し、設問6「あなたはこの授業の到達目標に向けて力がついてきていると思いますか」の設問に対し、科目登録者数別集計の値を上回るポイントを獲得した。提出された学生のレポートを見る限り、大方の学生が開講当初に設定していた目標に到達できたものと考えられる。
- ②について：今回最もポイントが高かったのは「教員の声が聞き取りやすかった」で4.71ポイントであった。次に高かったのは「授業の妨げに対して適切に対処していた」で4.60ポイント、三番目に高かったのは「教員の授業に取り組む姿勢に誠実さ、真剣さがある」で4.54ポイントであった。自由記述では「教科書を用いることで一層理解が深まった」、「説得力があり、興味深い内容だった」、「ニュースを取り上げることで身近に社会問題を感じた」などが見られた。
- ③について：今期は例年に比べてポイントが落ちたように思う。少人数のオンライン講義は有効であるが、多数のオンライン講義は学生に緩みが生じ、効果的とはいえない。また1か月あまりでジェンダーセオリーを理解させるのも困難であった。来期以降、このような点を克服できる工夫を何とか試みていきたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 生命観と環境観の変遷1
授業コード 13D05-001
教員名 横山 輝雄
教員コード 015149
登録人数 44
回答数 20
回答率 45.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

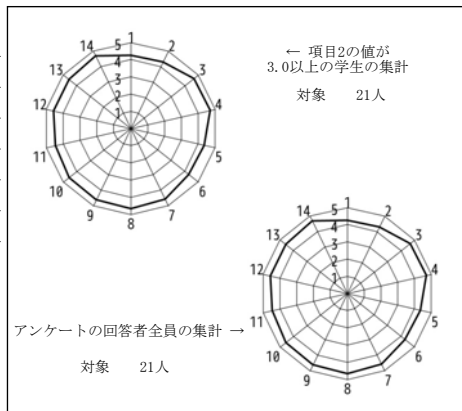


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. 設定していた目標と到達点の程度
到達目標の理解が4.70（設問4）であり目標は理解されているようである。それに対して、到達目標に向けて力がついてきているかは4.26（設問6）であり、若干点数が低い4点以上ではあった。
2. 数値データと自由記述を踏まえての総合的な自己点検・評価
数値データでは、設問3（開始時間）は5.00であり、最も高かった。設問10（授業の妨げへの対応）が4.95で次に高かった。それに対して、設問11（学習意欲の引き出し）が3.70で最も低かった。自由記述中に、緊急事態宣言解除後に授業形式が対面に変更になったことについて、演習ではない講義形式の授業でわざわざ感染リスクを増やす必要はないのではないかとの指摘があった。
3. 次クォーター以降にむけて
上記2の自由記述とも関連するが、現在コロナ感染防止のためにオンライン授業が全国的に行われている。もちろん、大学において対面授業が必須であり意義があるのは当然であるが、同時にオンライン授業は感染防止といった点でだけ必要というわけではなく、いろいろな利点もあり、コロナ後も何らかの形で生かしていくことを将来的に検討してみるとよいのではないかとと思われる。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	ことばとは2
授業コード	13E02-002
教員名	成瀬 翔
教員コード	103262
登録人数	41
回答数	21
回答率	51.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

①開講当初に設定していた目標と到達の程度について。

開校当初、下記の目標を設定いたしました。

- (1) 19世紀末から現代にいたる哲学者たちが議論してきた言語についての哲学的議論の内容を理解することができる。
- (2) 人間の言語活動の多様性に対する興味関心を深めることができる。

(1) についてはフレーゲ、ウィトゲンシュタインなどの哲学者の議論を紹介・検討することによって概ね達成できたと思われます。
また、(2) については、言語哲学のみならず、認知心理学などの近接領域との関連を含めた議論を通じて、受講者の興味関心に沿った授業運営ができたと考えています。

②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価。

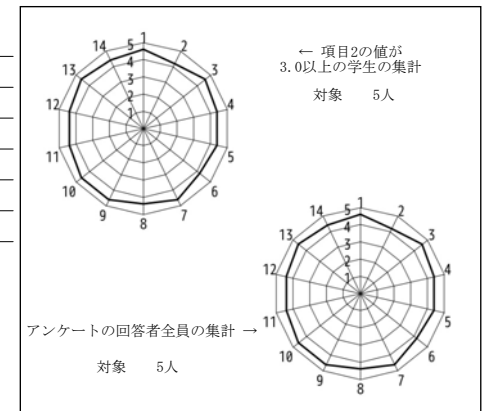
数値データを鑑みると、授業運営等において大きな支障や問題点はなかったと認識しています。今後も受講者にとって実りの大きい授業運営を心がけていきたいと考えています。

③次クォーター・学期以降に向けての改善点、今後の抱負、方針など

今後はオンライン・対面にも柔軟に対応できるような授業準備・運営を心がけていきたいと考えています。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	人間と機械4
授業コード	13E04-004
教員名	久保田 進一
教員コード	104075
登録人数	20
回答数	5
回答率	25.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

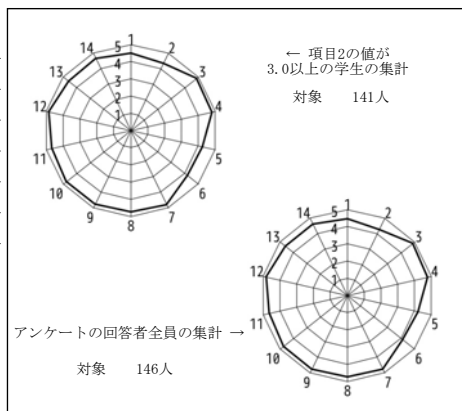


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度については、試験の採点の結果から判断して、概ね達成できたのではないと思われる。この授業では人間と機械を対比させることによって、「人間とは何か」という問いを深めることを目標としており、その目標は達成されたと思われる。また、これからのAIやロボットとの共生社会に理解を深めたと思われる。
- ②今回は新型コロナウイルスの影響で、最初zoomを使っのオンライン授業であったが、途中からは対面授業の併用であった。昨年は授業が全てオンラインであったが、今回は途中から対面になったので、学生との対話のある授業ができた。回答してくれた学生が少なかったが、概ねいい評価を得たと思う。自由記述については回答がなかったため、なんとも言えない。
- ③今後の授業の改善点としては、映像資料について適切に使っていきたいと思う。それから、昨年度までは90分授業であったが、今年度から100分授業になったということで、学生もかなりしんどいと感じ、しばし集中力が切れたりしたため、適宜休憩を入れた方が良かったと思った。しかし、しばしば、休憩を取することを忘れてしまったこともあったので、学生の様子を見ながら、進めていけたらと思う。また、今後もより一層、学生とのコミュニケーションを通して、学生に自ら考えてもらう授業を行っていききたいと思う。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 情報社会の構造1
授業コード 13E06-001
教員名 井上 寛雄
教員コード 102683
登録人数 355
回答数 146
回答率 41.1%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

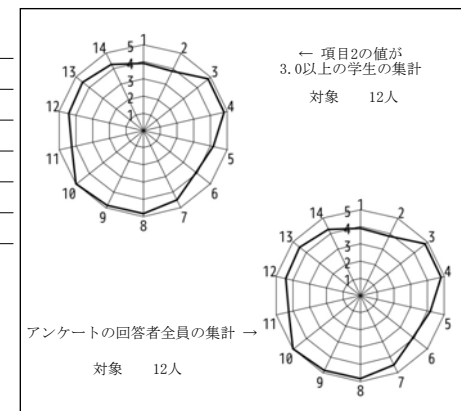


授業評価結果を踏まえた点検・評価

昨年度に続いてのオンライン講義であり、先の経験のおかげで、講義の進行やスライドの作成を円滑に進めることができた。受講生の多いクラスにおいてはかえって、zoomを通してのやりとりの方が学生とのコミュニケーションが取りやすかったように思う。システム上のトラブルもなく、おおむね順調に進めることができたが、若干の通信障害や音量調節に問題があったとの報告がこの評価アンケートであったので、講義の最中に確認を取るようにしたい。総じて学生からの講義の満足度は高く、内容や進め方についての不満はなかったのであるが、到達目標の達成や理解度といった肝心な項目での評価が伸び悩んだ。これについて、毎回学生からの質問や感想をレポートで受けつけ、それに答えていたのだが、レポートに対するこちらからの評価というものをあまりしていなかったため、学生自身に具体的な達成感を産むことができなかつたと考えられる。質問や感想だけでなく、こちらから具体的な設問を提示し、それに答えられているという経験を増やす必要がある。来年度以降も、オンラインのメリットを引き継ぎ、対面講義の新たな方法を試していきたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 科学の諸相2
授業コード 13E08-002
教員名 大野 波矢登
教員コード 100625
登録人数 39
回答数 12
回答率 30.8%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

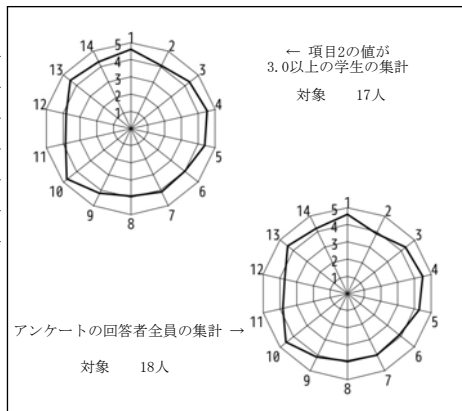


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①この授業の目標は、西欧科学革命期の世界観・人間観、科学と宗教の関係、科学知識と科学者の活動の特徴、科学技術が社会に及ぼす影響等を知り、近代科学の成立とその思想的背景について理解を深めることであった。目標達成度は、2回の小テストおよび定期試験の合計の平均が75.7点であったことから、75%程度であると思われる。
- ②アンケート結果については、項目番号1、2、5、6、7、10、11、14の設問の値が学際科目の平均値と比較して低く、多くの部分で改善が必要であることが分かる。特に、設問1が3.92、設問2が3.83、設問6が3.92となっており、授業の到達目標の説明、予習や復習を含めた主体的な学習を促すための指示、授業内容に対する興味の喚起といった点で説明や指示が不十分であったことが分かる。また自由記述には、改善した方がよいと感じた点として「流れが単調で飽きやすくなってしまふこと」という指摘があった。
- ③今後の改善点として、授業の到達目標、授業時間内および時間外に行うべきことを明確に示し、適切な指導と情報提供を行うことによって、学生が学習意欲を持ち、自主的に学習できるようにすることを心がけていきたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 博物館学B
授業コード 15M02-001
教員名 鯨井 秀伸
教員コード 103690
登録人数 41
回答数 18
回答率 43.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

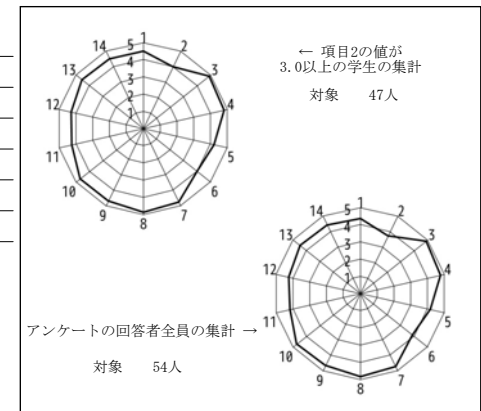


授業評価結果を踏まえた点検・評価

開講当初に設定していた目標については十分に達成できている。
数値データに関して、ほぼ全体的に平均以上の評価を得ているが、一部学生への直接的対応において不十分はところがあったことに対して対応方法に適切に配慮することが必要であった。
今後の教育方法について改善を試みていきたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 典礼音楽II
授業コード 21C81-001
教員名 吉田 文
教員コード 102447
登録人数 82
回答数 54
回答率 65.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

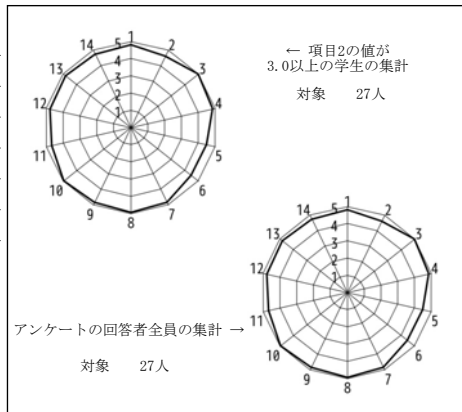


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①
期末のレポートからは、個々の学生がそれぞれの視点ないし専門的立場からキリスト教典礼音楽の理解を深め、新たな知見を教務深いものとして位置付けていることが読み取れた。
設問5と6ではやや低めの平均値の結果が出たが、設問13、14に於いては比較的良好な結果となっていることから考察すると、学生による評価の結果は、おおむね授業に対して肯定的なものであると思われる。
授業ごとに行っている振り返り用紙の記入事項からも、学生の授業への理解度と経験値は深まっていると考える。
- ②
評価の中で比較的低い2の項目に関しては、シラバスに記載されているように、常に講義の内容は各自で予習復習し、また演習する作品とその他の作品も積極的に親しむようにすることとしている。今後は授業内でもさらに意識的に積極性を促していきたい。
- ③
典礼音楽I、典礼音楽II、音楽2の授業を連続して受講する学生と、単発で受講する学生の間に基礎知識の差が見いだされてくることに対しての授業内容の構築が今後の課題となる。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	韓国朝鮮語II<E・B>2
授業コード	11G02-008
教員名	白 明学
教員コード	103287
登録人数	30
回答数	27
回答率	90.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

2021年度Q2の授業目標はおおむね達成でき、満足度も高いと言える。最初の授業の時にQ2の授業の目標値をきっちり示し、設定したスケジュールに合わせ、初級会話の土台となる名詞文、存在文、疑問文の作り方および助詞の使い方をマスターした。授業全体と授業運営に関する設問の平均値が4.78で、学生の満足度も高いと言える。

Q2はQ1同様、学生参加型授業を一貫して実施し、授業時間内に学生を授業に集中させ、ある程度の緊張感を持たせる方法を取ったが、この点が効果を発揮したのではないと思われる。自由記述で「積極的に声に出させて読ませることが非常に役に立った」「周りの人と韓国語で会話する時間を多く取ってくださって、とても楽しく勉強できました」等と評価を得たところは、素直に嬉しかった。ただし、韓国語の場合は、文法構造が日本語と近似しており、学生の修得度も早い。何人もの学生に韓国語がもっと勉強したい、資格試験のための韓国語はないのかと聞かれたが、学生の要求に答えられる授業システムが整っていないのは残念である。

一方、授業資料のアップロードが遅れて印刷が間に合わなかったとの意見があったので、資料のアップロードにはもっと時間に余裕を持たせるよう改善する必要がある。また、授業運営の評価で比較的評価の低かった、「予習や復習を含め、主体的に授業に参加し、内容を理解しようとして工夫しましたか」の設問についても、改善していきたいと思う。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	宗教科指導法C
授業コード	15B43-001
教員名	DASION Yoseph B.
教員コード	100671
登録人数	7
回答数	2
回答率	28.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

この講義（授業）15B43-001は予定通り行わせていただきました。コロナ感染対応もありましたが、対面とオンライン授業（ズーム参加は1名のみ）ですすめることができました。授業全体に関する評価は80パーセントといたします。というのは、予定していた受講生同士の話し合い等の共同作業が十分にできなかったからです。しかし、受講生の授業に参加率が100パーセントです。特に、個人作業、感想文、レポート、質問に対する答えなどは積極的に参加し、取り組むことがとても誇らしく思います。

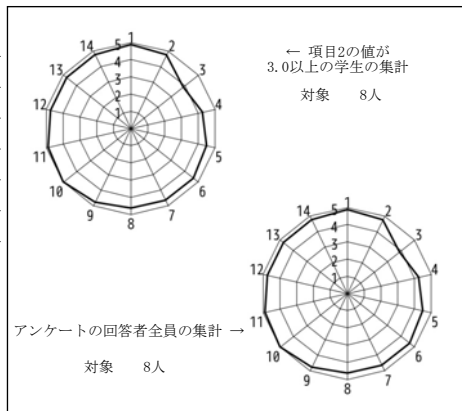
この授業を担当する者として、とても満足しております。この授業の参加者数が少ないため、受講生とのコミュニケーションや授業中の雰囲気はとてもファミリー的なものがあります。また、受講生一人一人の話や相談を聞く時間もとれることが、このような少人数授業のメリットの一つです。

今回の授業の体験をもとに、Q4の授業に授業の内容や受講生とのコミュニケーションをより高めていけたらと思います。

Q4にも、講義がありますが、その時に、対面授業ができれば、上記言った受講生同士の共同作業などがより多くできれば、幸いです。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	社会・地歴科指導法A2
授業コード	15B45-002
教員名	成田 健之介
教員コード	101555
登録人数	9
回答数	8
回答率	88.9%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

本講義は、中学校社会科公民科の分野と高等学校公民科の授業に必要な授業実践力の基礎を養うことを目的としている。前半は、新学習指導要領を中心にして、その教育的背景や「主体的・対話的で深い学び」を促す授業作りについての理解を中心に進めた。後半は、模擬授業を通して実践的指導力の育成をめざした。Q2の本講義では、一部の学生がオンラインLiveで参加し、ほとんどの学生は対面で受講した。結果的に、オンラインと対面でのハイブリッド型の授業になったが、オンラインで受講した学生は中継映像を見ることが中心になってしまった。

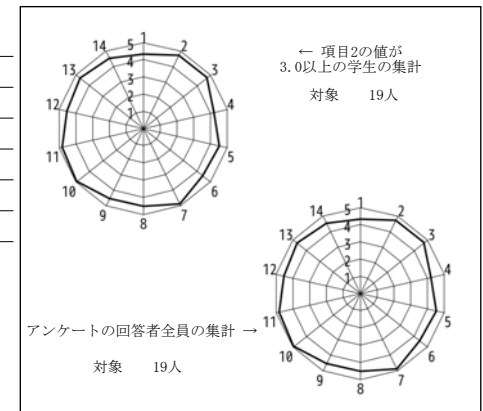
数値データからは、項目1から項目14の平均が4.64、項目14「全体としての満足度」は4.75であり、概ね目的は達成することができた。項目10「授業の妨げになる行為に対して、適切な対処がされていきましたか」が5.00、項目11「学生の学習意欲を引き出し、積極的な授業参加や自主的な学習を促すための、適切な指導や情報提供はありましたか」が4.88であり、少人数の受講生であったことが反映されている。項目10ではそもそも「授業の妨げになる行為」が無かったことを受講生も教員の自覚していたことが表れている。

一方で、項目3「オンラインで受講した場合、事前に予告された開始時間は守られていましたか。対面で受講した場合、授業の開始と終了の時間は守られていましたか。」が3.88で、今回数値データ中で低い数値であることは、模擬授業等で対面で受講する学生の準備でPCやディスプレイを使ったために、オンラインでのスタートが遅れたり、模擬授業後の感想などのWebclassでの提出に時間を取られて、終了が遅れたと感じた受講生がいたのではないかと推察される。

Q3以降も、オンラインや対面とのハイブリッド型の授業となる可能性がある。オンラインでの受講生に対する配慮やハイブリッド型の授業の効果的な運営をさらに工夫したい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	国語科指導法B
授業コード	15B54-001
教員名	上野 裕章
教員コード	103859
登録人数	29
回答数	19
回答率	65.5%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

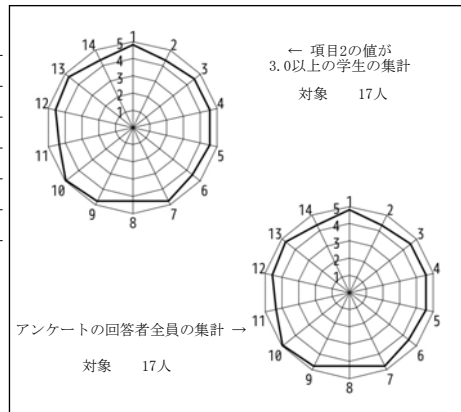


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①「高等学校国語科授業の学習指導案の作成、模擬授業の実施とその相互評価を通して授業の工夫改善を行い、授業設計の向上に取り組む」ことを本講座の目標にした。受講生全員がそれぞれ工夫を凝らし模擬授業を行い、相互評価を通して高め合うことができた。本講座の目標は達成できたと考える。
- ②授業評価の平均値が4.61であった。高い順に10「授業の妨げに対する対処」4.95、7「教員の誠実さ、真剣さ」4.89、11「学習意欲を引き出す適切な指導や情報提供」4.84であった。10については、本学の学生は真面目であり、どの講座も同様の評価であろう。7と11については、これからも、真摯な姿勢で学生に接していきたい。反面、4「授業の構成や進行速度」の評価は4.21と最低であった。学生の模擬授業の補足説明の時間が足りず急いで進めたり、授業に熱中するあまり、「振り返りシート」に記入する時間が足りなくなったことがあり、反省している。
- ③国語科指導法C・Dについては、新教育課程の目標でもある「主体的、対話的で深い学び」を実践していきたい。学生同士で、また学生と指導者の対話を通して「深い学び」を行い、学生の意欲を高め、自信をもって教員を目指すことのできるよう心掛けて授業を行っていきたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語科指導法A
授業コード	15B57-001
教員名	松永 隆
教員コード	015081
登録人数	30
回答数	17
回答率	56.7%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

講義概要

教職関連科目としての英語科指導法である。第二言語としての、あるいは外国語としての英語の習得理論と教育の実践的なスキルを習得することを目的とした。実践面では、グループによる教案のディスカッション、ビデオによる授業観察を講義に導入した。レポート1回、教案2回、模擬授業2回を課題として課した。教材収集・教材研究・教材準備にとってコンピューターリテラシーが重要であることも考慮し、提出物はすべてコンピューター利用を義務づけた。

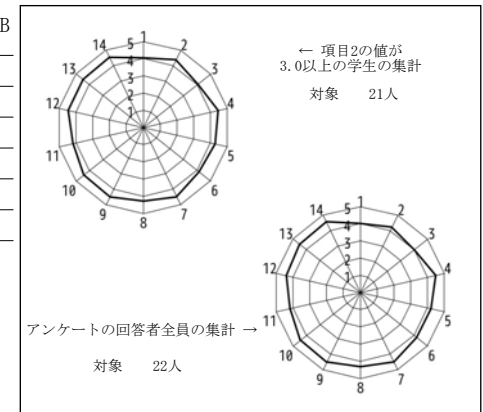
高く評価できる点

設問3～14の平均値が4.57、設問1～18の平均値が4.58で、ほとんどの項目で4ポイントの後半であり、まずまずの評価といえる。

「実践的だった」、「様々な授業の作り方や、英語を学ぶためのリソースが知れた」、「英語の教員志望者と一緒に受講できた」、「ビデオがとても勉強になった」、「理論と実践のバランスが良かった」などのコメントがあった。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[B]]8
授業コード	11A02-015
教員名	LENIHAN John
教員コード	045070
登録人数	28
回答数	22
回答率	78.6%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

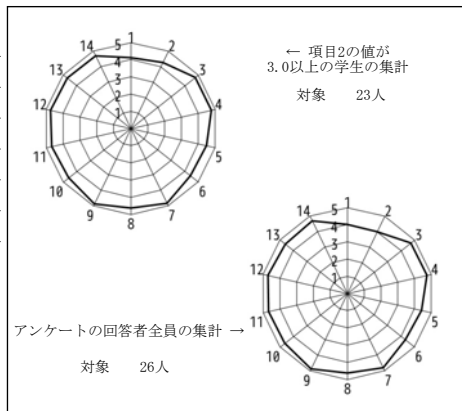
I think that this class performed and behaved very well considering the difficult circumstances for everyone involved. Attendance was very good when we had the opportunity to do face to face classes. At the end of the quarter when the students had to remain at home for the good of all they participated actively and completed all the assignments they were given.

The goals of this class were the basically the same as those of the first quarter: engage in extensive speaking, improve speaking strategies, develop basic vocabulary, everyday idioms and similes and to improve basic oral communication skills. Short play dialogues were enjoyed by all, especially when they had to design their own and read them for other groups in class. These were supplemented with many other materials, listening comprehension activities and group listening practice. I believe the students would agree that the objectives were met, according to their motivation and participation levels. And once again, the students who participated the most and appreciated the variety of activities showed the most progress as they did during the first quarter. We will continue with the same objectives and new materials in the coming 3rd quarter.

Though we will start the third quarter online again, I am quite certain that the students will arrive with the same good attitude they showed during the first two quarters of this trying year.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[B]
授業コード	11A02-017
教員名	大竹 万里
教員コード	047084
登録人数	26
回答数	26
回答率	100.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



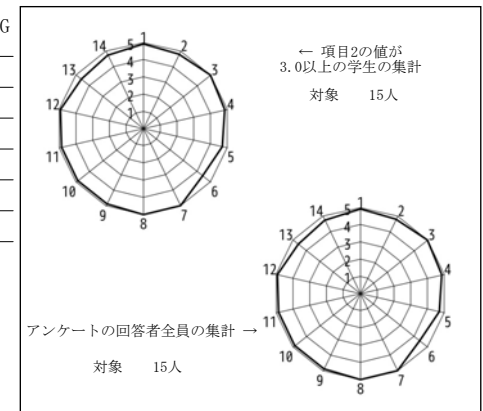
授業評価結果を踏まえた点検・評価

この授業はリスニング力及びスピーキング力を高めることを目標としている。具体的には会話やインタビュー、モノログやビデオ教材など様々な教材を視聴して、内容を把握し、要約できるようになること、また、スピーキングについては、トピックについて2分程度話すことができるようになることを目標にした。授業では、会話のストラテジーを学習し、ペア、またはグループで発話練習をする。学生は3回のオーラルプレゼンテーションを通して成果を発表する。

授業評価の設問3から14の平均数値データが4.66、学生の授業に対する全体的な満足度については4.69であった。教員や授業内容についての満足感はある程度得られたように思う。今期は特に学生とのコミュニケーションを取るよう努めたが、そのことは、「生徒一人一人との会話を大切にしている点」として評価された。また、「WebClassの教材や資料は授業内容とリンクしていて予習復習がしやすかった」との指摘があった。対面授業免除学生の対応用に用意したものであるが、対面授業参加学生にとっても教材資料や練習問題が役立ったと思われる。「リスニング力がついた」「発音から日常表現など高校では深く学べなかったことを学習できた」との記述から、分かりやすく実用的な授業であったとも評価された。第3クォーターでは、スピーキング練習の更なる工夫と学生の自律学習を促すことのできる授業を心がけたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIオーラルコミュニケーション[G]
授業コード	11A02-033
教員名	MILLER, Adam Lee
教員コード	104449
登録人数	22
回答数	15
回答率	68.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

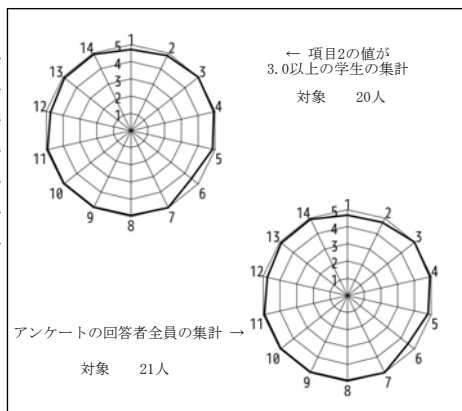
As a communication course, the main aim was to help the students become more comfortable speaking to each other in English. This was sometimes difficult to achieve, as restrictions meant students couldn't walk around during class time, and for a short while, we also moved online. But, I think the students still had lots of opportunities to speak to each other, ask lots of questions and share their opinions. During class-time, as I wasn't supposed to walk around, it was difficult to observe all of the students closely, but luckily I had several opportunities to hear each of them during their presentations. I also put the students in small groups and asked them to sit in the same chairs each week, this allowed for us to have some kind of group discussion every lesson.

The textbook seemed a little challenging for some students, and the reading activities were very long, but overall I think the students liked the topics covered in the book and enjoyed discussing their opinions with the class.

It was a very fun class to teach and the students were extremely hardworking and enthusiastic.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIオーラルコミュニケーション[G
]7
 授業コード 11A02-038
 教員名 GONZALEZ DIAZ, Alejandra Maria
 教員コード 103652
 登録人数 21
 回答数 21
 回答率 100.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

The goals set at the start of the course were fully covered. We studied all the lessons and activities programmed for Q2. Students' expected outputs were also fully satisfied. This could be shown in the final presentations where everyone had speak clear English without reading notes. The aims of this class is for students to express their opinions, arguments, and counterarguments in English, and this was fully achieved.

The assessment numeric data and comments reflects that students showed satisfaction with the dynamics of the class, as they could do work in groups and in pairs. Sometimes they spoke in Japanese, but a reminder that only English had to be used made them come back to the English discussions. Some students were shy at first, or hesitant to speak in loud and clear English, so an atmosphere in which it was ok to make mistakes was created. This created stronger bonds between students.

In the future, I will introduce challenging tasks and start raising the difficulty levels gradually to see up to where students will be able to handle.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIオーラルコミュニケーション[G
]8
 授業コード 11A02-039
 教員名 木下 薫
 教員コード 104328
 登録人数 20
 回答数 4
 回答率 20.0%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

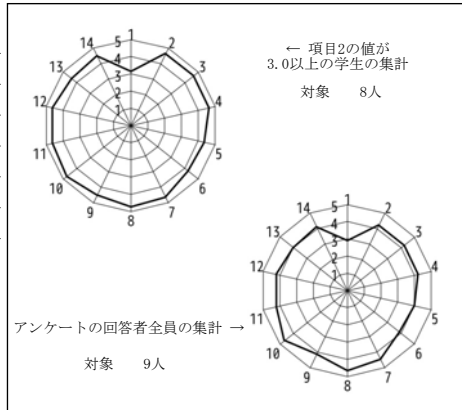
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ① In Oral Communication I and II, students strove to (1) gain oral proficiency, (2) explore and analyze social issues critically, (3) express views coherently and appropriately, (4) learn and practice the basics of presentations, and (5) become familiar with TOEFL or IELTS test-taking. By the end of Q2, each student developed self-confidence in speaking English through practicing in group discussions and presentations. In addition, they explored various aspects of social issues and exposed themselves to multiple perspectives around them. They also became familiar with a presentation template that helped them logically organize their thoughts.
- ② Generally, the class content, delivery, and engagement were effective for student's learning. Students commented positively on group activities, stories, videos, and songs that I used in class. I will continue to explore various ideas and materials that can connect the course content with real-world examples.
- ③ As part of class improvement, I will explore how I can integrate test-taking skills in my class more robustly.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIオールラルコミュニケーション<再>1
 授業コード 11A02-040
 教員名 JONES William M.
 教員コード 100263
 登録人数 14
 回答数 9
 回答率 64.3%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

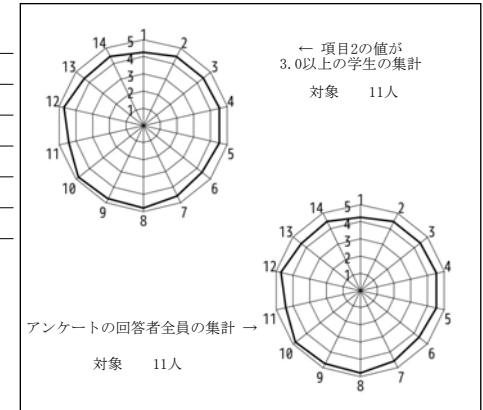


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Instructor was not all disappointed with the results. This is Instructor's first repeaters' class to be evaluated. Intuitively, Ss who have failed a course before, are generally not very excited to take it again, which is why Q1: Were you interested in the content of this class before you took it? resulted in a 2.83 and this is beyond the control of any teacher as it's pre-course criteria. Although this was a repeaters' class, it was a very enjoyable class to have, one of the most enjoyable in fact. As with all repeaters' classes Instructor teaches, one of the first things done is to ascertain why the Ss are in the course, i.e., why did they fail previously and to try to prevent that from happening again. Instructor realizes that repeaters need special motivation/direction to successfully pass and Instructor designs the lessons around this, even though the syllabi might have to be modified slightly. It's analogous to a basketball coach modifying the playbook so that the team can win, but here, so that the Ss can pass. Q. 14 - resulted in a 4.11 regarding the overall satisfaction of the course so Instructor is indeed pleased with these results.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[B]1
 授業コード 11A06-008
 教員名 SIMMONDS Brent
 教員コード 103050
 登録人数 18
 回答数 11
 回答率 61.1%
 休講回数 0 回
 補講回数 0 回

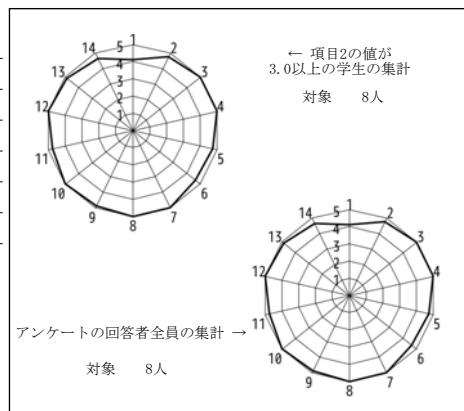


授業評価結果を踏まえた点検・評価

Due to the uncertainty about COVID, The first semester was difficult for the students, however, they adapted to the challenges that the situation offered. We spent four weeks in the classroom followed by four weeks online, then back to the classroom. I was quite pleased with the students comments, however there are a number of areas that I could improve upon in the final two quarters of the academic year. I probably set too many tasks to be submitted via web class and will adjust accordingly to allow greater time for communicative activities in the classroom. the students enjoyed learning about the Sustainable Development Goals and they will continue to integrated them into classroom activities. The Tokyo 2020 games were another area that provided useful material as did the Rugby World Cup. They both align with Japan's desire to be a more diverse and inclusive society in the future. in the past, I have make the mistake of forgetting that English is not their major subject and therefore needs to be enjoyable and realistic in terms of input from the students as commitments to their main subject take precedence.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[B]2
授業コード 11A06-009
教員名 BLOWER, Luke
教員コード 104287
登録人数 23
回答数 8
回答率 34.8%
休講回数 2 回
補講回数 2 回

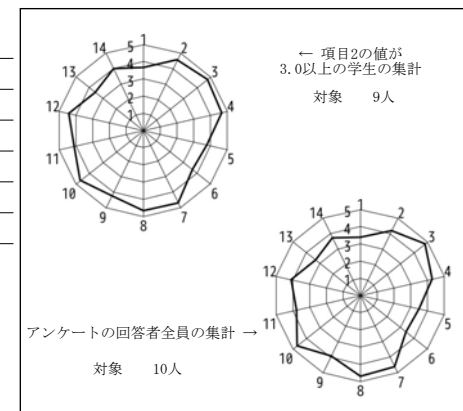


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goals of this course were to help the students improve their reading skills and to expose students to 'real life' writing skills. I feel these were largely achieved though the balance of work that students did was probably tipped too much in the favour of material they could do easily. The crux of this is that the students should have more steps but smaller. This will make it easier for them to see their own progress and evaluate it. There was also a reluctance from some students to adopt the first/second/final draft system of writing that is needed to produce really high quality writing.
2. I was happy that the students were largely satisfied with the course. It may be that extra effort from myself to mould the students' needs and demands will give even greater levels of satisfaction.
3. Though I was able to break the reading skills into manageable chunks, the writing element of the course needs to be modified slightly so that each stage is smaller and more quickly achievable. The above points that have been mentioned will be interwoven into the Q3/Q4 course.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[B]7
授業コード 11A06-014
教員名 NIXON, Richard Mark
教員コード 103559
登録人数 23
回答数 10
回答率 43.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

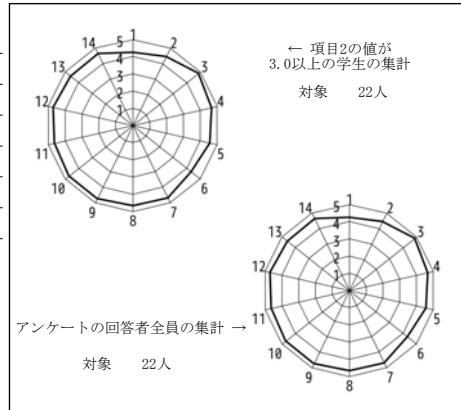


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- My intention initially was to increase student writing competence in terms of linguistic accuracy, linguistic appropriateness, and fluency and improve knowledge of vocabulary and increased reading fluency through our reading activities. I think these goals are gradually being met as we progress as a class through the quarters. This is a slow process that can be achieved by allowing students to write in a variety of topics and genres. I hope to move closer to the class goals by having students write more and longer completed pieces in Q3 & Q4 and less attention will be given to linguistic accuracy at the micro level.
- Students seem to feel that the teacher is doing a satisfactory job at classroom management but may be a little uncertain about what the goals of the course are so I will attempt to make it more clear why we are studying specific writing and reading skills.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[B]10
授業コード 11A06-017
教員名 山田 秀子
教員コード 103595
登録人数 23
回答数 22
回答率 95.7%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

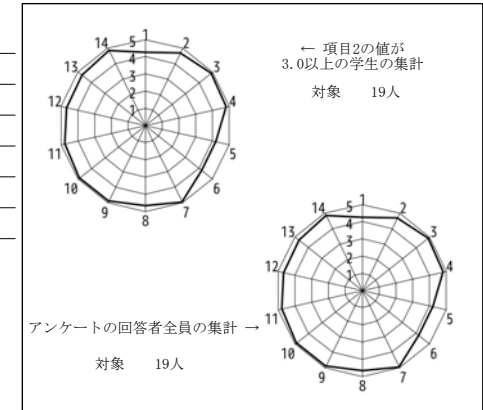


授業評価結果を踏まえた点検・評価

第4講までオンライン授業となったが特に問題なく進めることができ、開講当初に設定していた目標は概ね達成できた。講義計画に提示した学習内容・範囲の9割以上を扱い、全員が必須課題をすべて終えることができた。数値データは平均値が4.5を上回る項目が多く、全般的に良好な結果と考える。4.5を下回った項目は3つで、履修前の興味を問う項目1(4.27)、主体的な授業参加を問う項目2(4.45)、自分に力がついてきていると思うかを問う項目6(4.32)であった。項目2について、授業時間内は個別の活動でもグループでの協同学習でもほとんどの学生が積極的に参加していた。ただ、授業時間外の課題とした多読については取り組みに差があり、学期を振り返って反省点として挙げる学生が数名いた。授業の中で多読の効果を繰り返し説明したり、学生間で活動状況を共有する機会を増やしたりして改善を図りたい。項目6については、教材や課題の難易度が徐々に上がっていることも考慮に入れる必要があると考える。自由記述の回答からは、新たな知識や能力の習得を実感している学生がいることが確認できた。語学は一朝一夕で習得できるものではないが、この講義は4期連続の科目であるため長期的な到達目標を常に意識させて進めていくことを心掛ける。また、自由記述の回答から学生が学習環境を好意時に受け止めていることが分かり、これは今後も継続していきたい。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[P]2
授業コード 11A06-021
教員名 NICKSICK, Thomas
教員コード 102113
登録人数 20
回答数 19
回答率 95.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

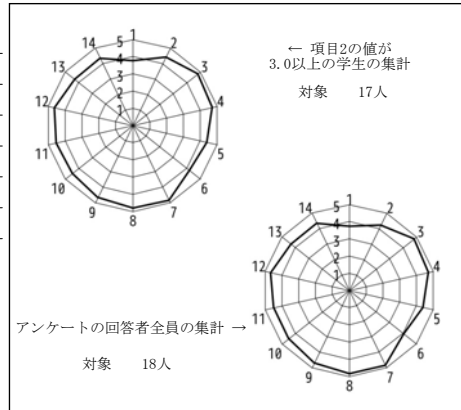


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The purpose of this class is to improve students' reading and writing skills. Students will learn various reading strategies to improve reading proficiency. Activities include extensive and intensive reading tasks. Students will also learn how to write clearly and effectively. To accomplish this, students will develop skills in planning, organizing, and developing ideas. The instructor was relatively successful in some areas. When asked if the classes were structured in an appropriate manner and delivered at an appropriate pace, the rating was 4.84. When asked if the instructor displayed sincerity and determination in teaching the course, the rating was 4.95. When asked if the instructor took into account the degree of understanding of the students, the rating was 4.89. Regarding the students' overall satisfaction with the course, the rating was 4.84. However, the instructor must improve other aspects of the class. Regarding students making solid progress towards achieving the course attainment target, the rating was 4.21. Also, when asked if the students acquired new knowledge and deepened their understanding through the course, the rating was 4.68.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[P]10
授業コード 11A06-029
教員名 鈴木 愛
教員コード 103596
登録人数 18
回答数 18
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

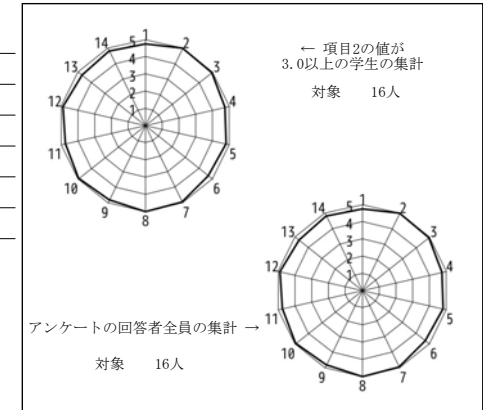
I have set a couple of goals for the course in Q1. Some of the goals for reading skills are previewing and predicting, understanding the topic, scanning, and skimming. Students seemed to understand and get the idea of them, however, they needed more practice to be able to identify them. As for writing, the goals were to be able to write different types of letters; informal and formal. They seemed to get the idea and was able to produce it as well.

Reflecting on the student evaluation, it seemed that they did learn and be able to produce most of the learning goals. One point I would like to continue is doing a lot of pair and group work activities. Students seemed to enjoy and feel relaxed to discuss the content with their classmates which helped me have an active discussion as a whole class.

There are couple of points that I would like to change for Q2. I had them do many peer reviews, however, not all of them were successful. It seemed that students did not know what a good peer review is and to what extent they are supposed to be reviewing. For the next semester, I am planning to do a sample peer review with the students so that they know what they should be reviewing for.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[G]2
授業コード 11A06-033
教員名 MEJIA, Justin
教員コード 104498
登録人数 21
回答数 16
回答率 76.2%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

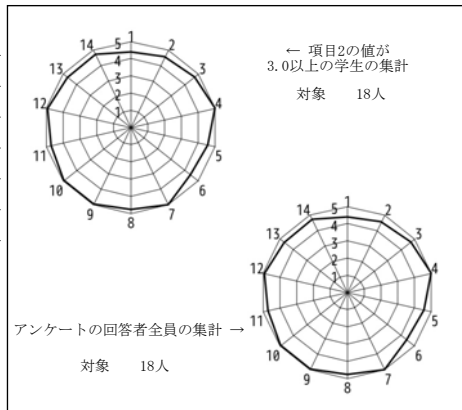
(1) My personal goals at the start of the course were quite basic: teach the course according to the syllabus, become comfortable and confident using the supplemental ideas and materials provided by the department, and once comfortable with those, make adjustments to suit my own teaching style. In the first two areas I think I was very successful, and in the last goal I think I was moderately successful.

(2) I was pleasantly surprised by how positive the student feedback I received was, and based on this feedback, I would also give myself a very positive evaluation. For the classes that students did not complete surveys, I believe it was still evident from the class atmosphere and the students' general interactions with me that I am justified in evaluating myself highly.

(3) For Q3 and Q4, I plan to make adjustments to the activities that didn't work so well in an effort to streamline them. In addition, I'd like to focus on the activities that did work well and try to incorporate the successful elements of those activities into new or struggling activities. Also, I'd like to improve on my time-management skills in order to have a more even semester workload-wise.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[G]3
授業コード 11A06-034
教員名 水野 眞紀
教員コード 101981
登録人数 18
回答数 18
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

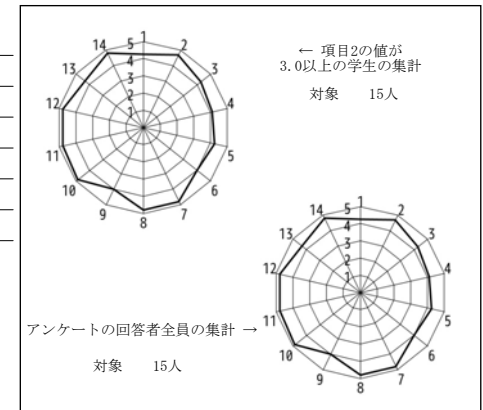


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- (1) ライティングの目標は概ね達成できた。昨年の経験を踏まえ、いつオンラインに切り変わっても困らないようにメールの書き方、WebClassでの提出方法、フォーマット、パラグラフ・エッセイの構成等の基本事項に時間をかけて指導した。その分リーディングの多読や補助教材を減らし十分ではなかった。
- (2) Q1、Q2、Q5、Q6の数値が比較的低いのは、モチベーションが高い学生が多かったため、習得すべきライティングの基本事項や課題提出が多く、難しさを感じたからだと思われる。しかし、Q13とQ14の数値から、新しい知識を身につけ、理解が深まり、満足していることも伺える。自由記述でも、教員による丁寧な添削とコメント、見やすい資料、効果的な辞書の使い方により、自分の弱点を認識、改善することができ、言語スキルがあがったとある。ペアワークや話し合いの効果についても書かれており、オンライン授業と差別化することに留意したことが評価された。
- (3) コロナ禍の対面授業は不安が大きかったが、今後も注意しながら対面ならではの授業を進めていきたい。長文を読むことに慣れていない学生も多いため、質量ともに上げる必要がある。教室では距離をとって着席したため、スクリーンが見づらいとのコメントがあった。資料を配布する、PCを持ち込ませるなどして対応する。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリテラシー[G]7
授業コード 11A06-038
教員名 石田 理可
教員コード 104495
登録人数 20
回答数 15
回答率 75.0%
休講回数 2 回
補講回数 2 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

- 「英語の4技能（リーディング、リスニング、ライティング、スピーキング）の運用能力のうち、特にリーディングとライティング能力を養成する。」という『英語リテラシー』という科目の基本にそって、「リーディングとライティングの能力をさらにクリティカル、かつ、アクティブなリーディング能力を身につけ、他者とのインタラクションにライティングで表現できるように」を目標に、いろいろな資料を参考使用してヒントを与え、結果複数パラグラフのエッセイを書けるように指導した。
- テキストは掲載された設問の解答に重きを置かず、文章を読んで内容をしっかり理解し、その内容に関しての感想や意見をクラスメイトとのディスカッションしてもらい、エッセイを書くための材料として収集し、あらためて自分自身の意見や考えを確立してもらったうえで文字を使用して表現する、つまりエッセイを書いてもらうように運んだ。テキストの文章を読まないで自分の意見は持てない。また、他人のそれを聞いてあらためて考えを深めてもらう。そうすることで書くための材料がしっかりと準備されエッセイを書くことに臨んでもらえた。結果いいものを書いてもらえたと思う。
- 今後は、なぜそれを行うかという理由を具体的に明白に伝えて指導してみようと思う。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIリテラシー<再>1
授業コード	11A06-042
教員名	SWEETLOVE, Douglas
教員コード	102522
登録人数	20
回答数	3
回答率	15.0%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

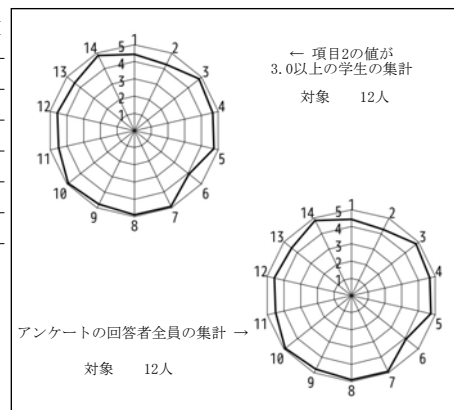
レーダーチャートなし
(回答数4件以下のため集計しない)

授業評価結果を踏まえた点検・評価

- (1) The goals of the course were largely achieved. However, there are obvious limitations due to the current situation. I am looking forward to getting back into the classroom!
- (2) I was not able to see the results because the class is very small. However, generally speaking we have to take into account a couple of factors when considering this kind of survey. First of all, I believe that students are given the same survey for every course. If so, this makes it difficult to get any valid information from the results. Students who see the same survey for all classes will not consider their answers very carefully. I suggest that each department give their own survey, based on criteria that are important to that department.
- (3) Given the current health pandemic, there isn't really much we can do differently. I worry that the students will become tired and maybe a bit depressed by having to stay home for so long. I will try to maintain closer contact with the students and make them feel like they are getting personal attention. This is a stressful situation for them and I want to help them in any way I can.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名	英語IIコミュニケーションスキルズ[H A, HP, HJ]5
授業コード	11A10-005
教員名	FOX, Aaron
教員コード	103869
登録人数	26
回答数	12
回答率	46.2%
休講回数	0 回
補講回数	0 回

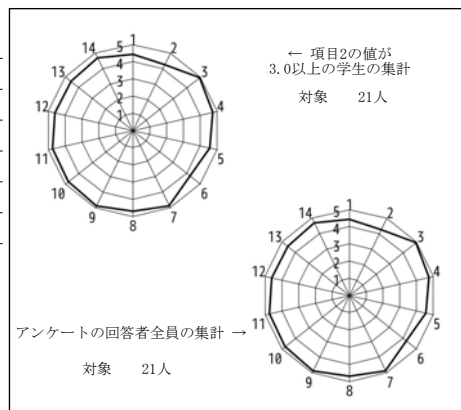


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- The goals of the class were achieved. The students worked hard to produce improvements in speaking and listening skills. Nearly every student delivered very well done end of quarter presentations. This work did well to showcase their understanding and implementation of the language and examples studied in the text. This was very impressive given the slightly elevated level of the text relative to the classes overall capability and the disruptions prior to the start of the second quarter, which set the pace back a bit.
- In future classes, as always, I hope to impart a solid, working foundation in delivering presentations in English that students will improve upon and carry forward in their studies later on.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIコミュニケーションスキルズ[J]
]4
授業コード 11A10-040
教員名 LANGER Daniel
教員コード 101438
登録人数 24
回答数 21
回答率 87.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

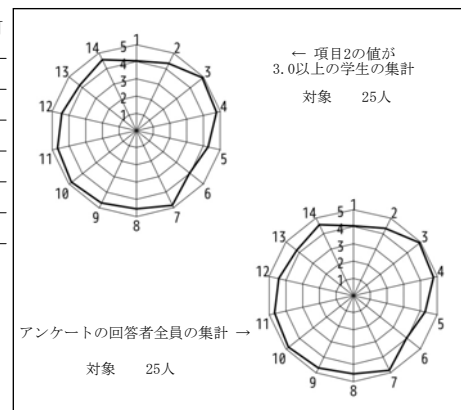
I think we did a good job of meeting the class objectives, especially considering the health-related obstacles that had to be dealt with. The textbooks have been easy to use, and most students seemed to have little trouble understanding the assignments. Student involvement was encouraged with the variety of activities provided by the materials and the relaxed environment, and I am glad that the pupils seemed to be comfortable with the class structure.

A quick look at the scoring chart leads me to believe that nobody had any serious political grudges. The comments were very positive in tone, with the general consensus being that the class was easy to follow. I was also glad that the students felt I was sincere in my teaching, and believed that I effectively managed the classroom. I try not to leave anyone behind, and I will continue to do my best to help all students.

In the fall quarters, I would like to have more students in the classroom. Monitoring progress and encouraging student involvement is much easier in a classroom setting. I would also like to have students do more reading outside the classroom, but while there is uncertainty and stress over health concerns, I will keep my homework expectations to a minimum.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIコミュニケーションスキルズ[J]
]5
授業コード 11A10-041
教員名 VIADO Cora
教員コード 100553
登録人数 25
回答数 25
回答率 100.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

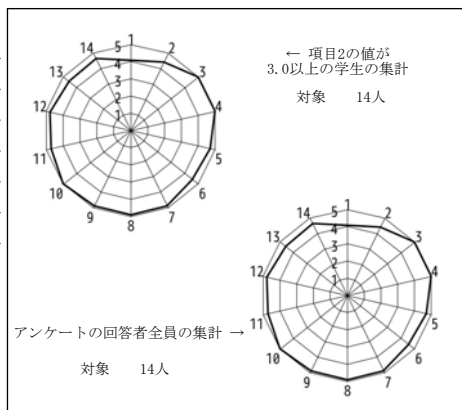
The main objective of course is to help students improve their overall ability to use spoken English. Classes include a variety of topics and activities to assist students in becoming more confident and proficient English communicators. Students develop their vocabulary and learn useful phrases to speak naturally and more fluently about a wide variety of topics. Students learn a variety of reading strategies to improve reading proficiency through both extensive and intensive reading tasks. Listening tasks challenge students to develop active listening skills and strategies for understanding.

The first five sessions of this course were conducted via Zoom. This allowed for more chances to work in pairs and groups, and to communicate with different classmates. The overall significantly positive evaluation (4.56) indicate students' general satisfaction with the content covered, the instructional methods and dynamics used, and how the class was conducted mainly in English. It should be noted that the items that had a lower value (between 3.96-4.28) pertained to students' self-evaluation.

More effort will be made to check on students' understanding of the course objectives and attainment target.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIコミュニケーションスキルズ[J]
6
授業コード 11A10-042
教員名 LANGLEY, Patrick
教員コード 104288
登録人数 24
回答数 14
回答率 58.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

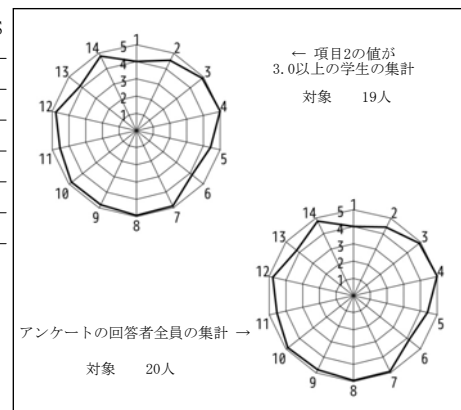


授業評価結果を踏まえた点検・評価

I believe that I have accomplished the goals I set for this class in Q2. They accomplished many speaking goals and I could focus on key communication strategies. They did well with their presentations, group recorded conversations and book reports. I am happy with the feedback from the students and hope to continue working well with them in the next quarter.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語VIコミュニケーションスキルズ[S]
17
授業コード 11A14-015
教員名 酒井 美納江
教員コード 046060
登録人数 22
回答数 20
回答率 90.9%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

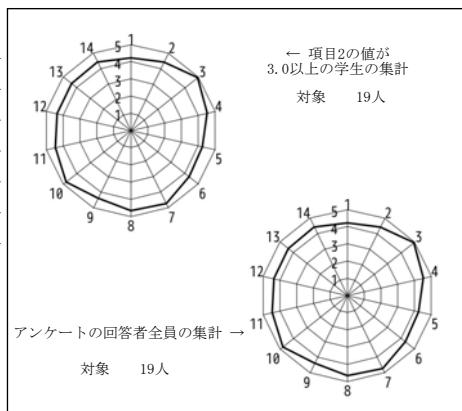


授業評価結果を踏まえた点検・評価

前年の授業の大半をオンラインで受講した学生のクラスなので、まずはクラスメートと知り合い、気兼ねなく学習に集中できるような環境づくりをQuarter 1で行った。Quarter 2では、それを発展させ2回のグループワークを中心にレッスンを進めた。本来ならばグループワークの話し合いも英語で行わせるべきなのだろうが、時間と学生たちの英語運用能力を配慮し、話し合いは日本語で、課題(Google Slidesを用いたプレゼンテーション)は英語で完成させる、という形をとった。基本的なコミュニケーションの練習については、ベーシックレベルの総合テキストを用いた。リーディングの教材も、内容は話し合いなど他のアクティビティーに発展させられるが、英語自体は比較的易しいものを中心に取り上げた。このような工夫により、英語学習をより身近で取り掛かりやすい、と感じてくれたコメントが自由記述に複数見ることができたので安心した。その一方で、よりレベルが高い学習内容を求めているコメントもあったので、Quarter 3, 4については、もともと計画していたが、よりChallengingな教材を用い、学生のやる気を少しでも高められるようなレッスンにしていくつもりだ。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIライティング<全・T>2
授業コード 11A18-008
教員名 HAYES, Mary
教員コード 103625
登録人数 24
回答数 19
回答率 79.2%
休講回数 0回
補講回数 0回

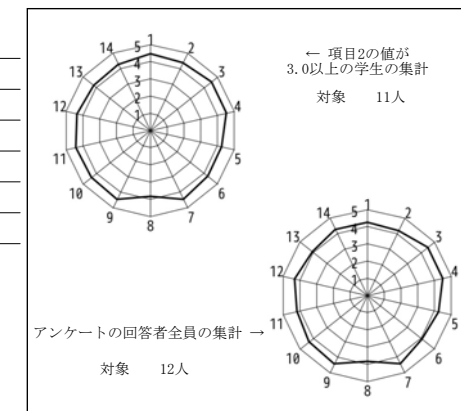


授業評価結果を踏まえた点検・評価

1. The goals of this English Writing course were for students to develop fluency and confidence in their written expression, to learn how to construct paragraphs and a formal academic essay, to format a paper properly and in addition, to write effective emails for both formal and informal purposes. These goals were achieved by all class members despite the gap in their level of English at the start of the course. Most students were able to increase their written fluency through ten minute timed writings without the use of a dictionary using the English that they already knew. They made satisfactory progress in formal academic writing by planning, writing, and rewriting their own original paragraphs and essays.
2. According to the data, there seemed to be a certain level of satisfaction within the class, as the students were able to succeed in improving their writing and making good progress in developing their skills. I am satisfied that my own efforts to support students was appreciated and that the course outcome was a positive one on the whole.
3. Thinking ahead, I will continue to make a sincere effort to motivate students and to offer individual advice on their work.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリスニング<J>3
授業コード 11A26-011
教員名 KHONDAKER, Taslima
教員コード 103598
登録人数 22
回答数 12
回答率 54.5%
休講回数 0回
補講回数 0回

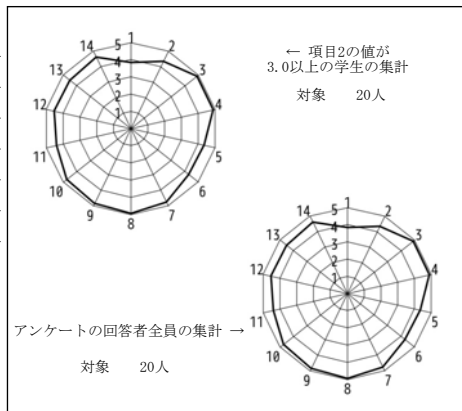


授業評価結果を踏まえた点検・評価

The purpose of this course was to help students actively comprehend spoken messages, work out implied meanings, and develop organized points of view. As planned, I took fourteen classes without any make-up. I finished the full syllabus in time. I tried to fulfil the objective of this course. I want to address to the following aspects in the course evaluation materials. Regarding Participation in the Class (Q1 to Q2) compared with the scores of 4.33 and 4.47 the scores of this course was 4.25 and 4.17. Regarding Evaluation of the Course in General (Q3 to Q7), compared with scores of 4.77, 4.65, 4.44, 4.31, and 4.75 the scores for this course was 4.50, 4.50, 4.25, 4.08, and 4.42. Regarding Evaluation of the Class Management (Q8 to Q12), compared with scores of 4.59, 4.66, 4.78, 4.58, and 4.63 the scores of this course was 3.83, 4.42, 4.33, 4.17, and 4.33. Regarding Overall Evaluation (Q13 to Q14), compared with scores 4.55 and 4.58 for all courses, the scores of this course were 4.08 and 4.25. As to Overall Impression of the Course (Q15 to Q17), to Q15 the students were satisfied with group work however, Q16, students were displeased with how I conducted the class because my explanations were not satisfactory even though I tried to explain in Japanese and gave examples. I plan to improve my teaching materials and method of instruction to get better feedback.

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語IIリスニング<全・T>5
授業コード 11A26-018
教員名 松見 誌野
教員コード 104166
登録人数 24
回答数 20
回答率 83.3%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

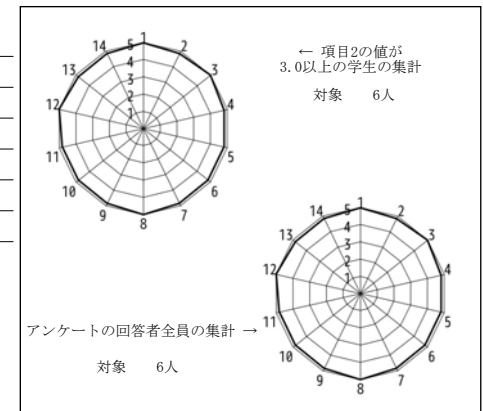


授業評価結果を踏まえた点検・評価

- ①開講当初に設定していた目標と到達の程度について：開講当初に設定していた目標についての理解度も高く、概ねほとんどの受講生が目標に到達することができた。
- ②数値データおよび自由記述等を踏まえての担当科目に関する総合的な自己点検・評価：数値も非常に高く、自由記述回答には「オンデマンド授業も、対面授業も良かったです。」「授業の雰囲気がとても好きでした。」「効率よく授業が進んでいた」「教材のテキストだけではなく、音楽や動画を通してリスニングの力を身につけることができた」といったポジティブな感想があった。総合的に受講生の満足度の高い授業ができたと思う。
- ③次クォーター・学期以降に向けての改善点・今後の抱負、方針など：オンライン授業にも随分慣れてきた部分もあるので、オンライン授業のメリットと対面授業のメリットを生かして、次クォーター以降も両方のメリットを生かした授業を行っていきたいと思う。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 英語II翻訳<全>1
授業コード 14A06-001
教員名 加藤 普由子
教員コード 101654
登録人数 16
回答数 6
回答率 37.5%
休講回数 0 回
補講回数 0 回

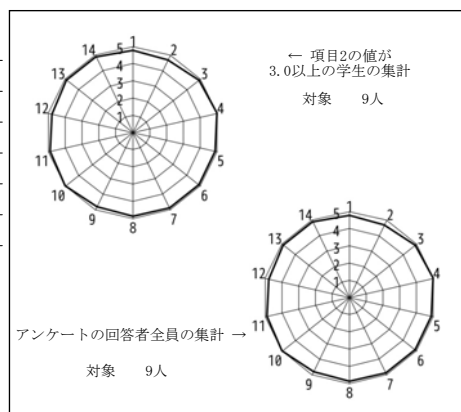


授業評価結果を踏まえた点検・評価

対象学生数16名のうち回答者数は6名であるため、4割弱の評価であることを前提とする。全員が授業開始前から内容に対する興味を持っており（評価5、100%）、ほぼ全員が主体的に授業に取り組んだと自身を評価している（評価5が83.33%。1名が評価4）。同様の割合で、到達目標に向けて力がついてきており、授業を通して、新しい知識、技術、能力を獲得し、理解が深まったと認識している。他方で、教員の授業への取り組み方、姿勢、真剣さ、理解度への配慮、適切な指導や情報提供についても、4.83の平均値（割合は学生の自己評価と同じ）であり、総して、授業に満足してもらえたようだ。よかった点として「生徒の質問への真摯な対応」「ペアワーク」「習得目標が明確、授業ごとの目標が具体的。故に取り組みやすい」などのコメントが寄せられた。加えて、学生が述べてくれたように、学生自身が考えて今後の課題に応用できるように、質問への解答を心がけたつもりである。最後に、教科書の「実践編」はほとんど実施していない。当初からの予定とはいえ、もう少しできるとよかった。

2021年度Q2 「学生による授業評価」自己点検・評価報告書

科目名 Special Topics in English: Contemporary Japan C2
授業コード 31C23-002
教員名 IWASKOW, Roman
教員コード 104145
登録人数 25
回答数 9
回答率 36.0%
休講回数 0 回
補講回数 0 回



授業評価結果を踏まえた点検・評価

(1) The goals set at the beginning of the course were to teach students in an interesting way using video and worksheets, aspects of their own culture which they have little or limited awareness of, with the set purpose to enable them to answer with confidence questions about Japan when studying abroad. The topics of Japanese culture covered were geography, especially regions and cities, food, drink, and other unique aspects such as festivals, hot springs and Japanese traditional hotels. As an intensive syllabus covering many topics, it proved a challenging course for the students. Based on the evaluations submitted by the students, they completed the course with a greater awareness, knowledge and appreciation of their own culture.

(2) This year was particularly difficult because of the Covid epidemic as I had to cater for one student staying online while the rest attended class. The hybrid class was successful although had its restrictions for the student online. It did however require me to post videos and worksheets for the student online using webclass. Considering the obstacles to holding the regular class, the students showed enthusiasm for the topics covered. In particular they appeared to enjoy the two poster presentations which gave them the opportunity to present topics they had to research.

(3) I intend to continue the course in a similar format with some adjustments to the worksheets provided.